

岩手県文化財調査報告書 第112集

岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成12年度)

平成13年3月

岩手県教育委員会

序 文

埋蔵文化財は、私たちの祖先により築かれた貴重な歴史的財産であります。私達はそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は近年の増大する大規模な開発等により厳しい状況におかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整を図るために、遺跡の性格、所在地、範囲等を正確に示すことが必要であることはいうまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところですが、現在確認されている遺跡数は1万ヶ所余りにも上ります。これらの遺跡の周知徹底を図る必要があるとともに、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成12年度に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位から御指導・御協力を賜りましたことに対し、心より感謝申し上げます。

平成13年3月

岩手県教育委員会
教育長 合田 武

例　　言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成12年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000の地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業者より入手した地形図あるいは工事平面図を原図として掲載した。
- 4 発掘調査については、概略を記した。
- 5 試掘調査に係る遺跡の指定範囲についてはアミで示し、試掘溝は実線で示した。
- 6 遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名の付けられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。
- 7 本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会事務局文化課の中村英俊主任文化財主査、神敏明文化財専門員、鎌田 勉文化財専門員、金子俊二文化財調査員、日下和寿専門学芸員、戸根貴之文化財調査員、星 雅之文化財行政研究員が担当した。
- 8 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局文化課が保管している。

目 次

序文

例言

I 発掘調査

1 国営いさわ南部農地整備事業（下中沢Ⅱ遺跡）	3
2 東北横断自動車道釜石秋田線建設事業（遊子Ⅱ遺跡）	6
3 花巻空港整備事業（大西遺跡）	7
4 県営ほ場整備事業原体地区（東館遺跡）	8
5 県営土地改良総合整備事業（上幅遺跡）	12
6 県営ほ場整備事業猫川左岸地区（深沢遺跡）	15
7 家畜保健衛生所施設整備事業（砂込Ⅲ遺跡）	17
8 ふるさと農道緊急整備事業要害地区（鳥喰Ⅲ遺跡）	18
9 宮古測候所ウインドプロファイラ設置事業（鉢ヶ崎館山貝塚）	21
10 農地開発事業普代地区（下村・下村Ⅰ遺跡）	23
11 盛岡東警察署等庁舎新築事業（盛岡城跡）	25

II 試掘調査

1 一関遊水地管理用道路建設事業（猪岡館跡）	29
2 一般国道4号水沢東バイパス建設事業（北田Ⅱ遺跡）	30
3 国営いさわ南部農地整備事業（台Ⅱ遺跡）	31
4 国営いさわ南部農地整備事業（稔橋遺跡）	32
5 国営いさわ南部農地整備事業（小田切遺跡）	33
6 国営いさわ南部農地整備事業（五反町遺跡）	34
7 一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業（仁昌寺遺跡）	35
8 一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業（仁昌寺Ⅲ遺跡）	36
9 一般国道45号普代バイパス建設事業（力持遺跡）	37
10 一般国道340号道路改築事業（永田Ⅲ遺跡）	38
11 胆沢ダム建設事業（市野々遺跡）	39
12 東北新幹線建設事業（秋浦Ⅰ遺跡）	40
13 北上川上流改修砂鉄川直轄床上浸水対策特別緊急事業（河崎の柵擬定地）	41
14 主要地方道盛岡和賀線道路改築事業（飯岡林崎Ⅱ遺跡）	42
15 主要地方道盛岡和賀線道路改築事業（新井田Ⅱ遺跡）	43
16 地方特定道路整備事業（L E42-2052）	44
17 地方特定道路整備事業（早坂平遺跡）	45
18 緊急地方道路整備事業（浅石遺跡）	46
19 緊急地方道路整備事業（交付金A）（黒岩宿遺跡）	47
20 緊急地方道路整備事業（交付金A）（L F77-0265）	48
21 一般県道東和花巻温泉線西宮野目地区（遊子Ⅱ遺跡）	49
22 二級河川雪谷川災害復旧事業（尾田(2)遺跡）	50
23 山本川山本地区通常砂防事業（MF91-1028）	51
24 県営ほ場整備事業一関第2地区（竜ヶ坂遺跡）	52

25	県営ほ場整備事業一関第2地区（佐藤屋敷遺跡）	53
26	県営ほ場整備事業一関第2地区（矢崎I遺跡）	54
27	県営ほ場整備事業一関第2地区（畠中遺跡）	55
28	県営ほ場整備事業一関第2地区（本町II遺跡）	56
29	県営ほ場整備事業一関第2地区（NE76-1226）	57
30	県営ほ場整備事業八幡東部地区（島岡II遺跡）	58
31	県営ほ場整備事業八幡東部地区（島岡III遺跡）	59
32	県営ほ場整備事業八幡東部地区（番屋遺跡）	60
33	県営ほ場整備事業姉体地区（水ノ口前東遺跡）	61
34	県営ほ場整備事業姉体地区（寺ヶ前I遺跡）	62
35	県営ほ場整備事業姉体地区（寺ヶ前II遺跡）	63
36	県営ほ場整備事業姉体地区（寺ヶ前III遺跡）	64
37	県営ほ場整備事業奥玉地区（宿下遺跡）	65
38	県営ほ場整備事業八重畠地区（稻荷遺跡）	66
39	県営ほ場整備事業猫川左岸地区（林崎I遺跡）	67
40	県営ほ場整備事業姥沢上野地区（明後沢遺跡群）	68
41	土地改良総合整備事業（一般）（久田遺跡）	70
42	新交流ネットワーク道路整備事業（館遺跡）	71
43	中山間地域総合整備事業（平清水I遺跡）	72
44	中山間地域総合整備事業黒岩地区（四十九里遺跡）	73
45	ふるさと農道緊急整備事業（黒内Ⅷ遺跡）	74
46	ふるさと農道緊急整備事業季ヶ平地区（野黒沢Ⅷ遺跡隣接地）	75
47	ふるさと農道緊急整備事業（平清水II遺跡）	76
48	ふるさと農道緊急整備事業根岸地区（宝性寺跡）	77
49	ふるさと農道緊急整備事業黒川乙部地区（沢川目遺跡）	78
50	一般農道整備事業日向川西部地区（NE65-1163）	79
51	広域農道整備事業盛岡西部地区（田の沢D遺跡）	80
52	広域農道整備事業東磐井地区興田地区（奈良崎II遺跡）	81
53	広域農道整備事業東磐井地区興田地区（鳥海II遺跡）	82
54	森林保全整備事業（中ノ館跡）	83
55	遠野第二ダム建設事業（九重沢遺跡）	84
56	遠野第二ダム建設事業（柄洞II遺跡）	85
57	築川ダム建設事務所造成工事（沢田遺跡）	86
58	特定環境保全公共下水道（代行）事業（和野I遺跡）	87
59	一級河川伊手川伊手地区河川局部改良事業（新田遺跡）	88
60	荒廃砂防事業（梅の木沢遺跡）	89
61	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業徳田第一地区（岡村遺跡）	90
62	試掘調査一覧	95
63	分布調査一覧	102
III	写真図版	111

I 発掘調査

1 国営いさわ南部整備事業関連調査

下中沢Ⅱ遺跡 (N E 34-2134)

所在地；胆沢郡胆沢町小山地内

事業者；東北農政局胆沢猿ヶ石土地改良建設事業所

いさわ南部農地整備事業建設所

調査期日；平成12年7月24日～28日

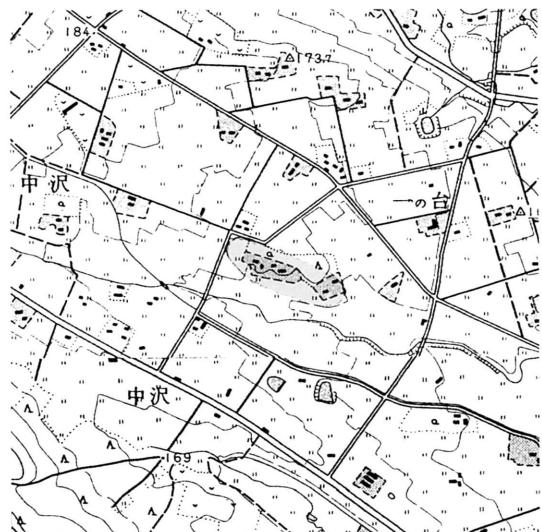
遺跡は、胆沢扇状地南西部に位置する南向き緩斜面地に立地する。現況は水田で、標高は約172mを測る。

基本層序は、第1層：表土（水田土）層厚40～55cm、第2層：暗褐色土層厚0～10cm、第3層：黄褐色土（地山遺構検出面）層厚不明である。

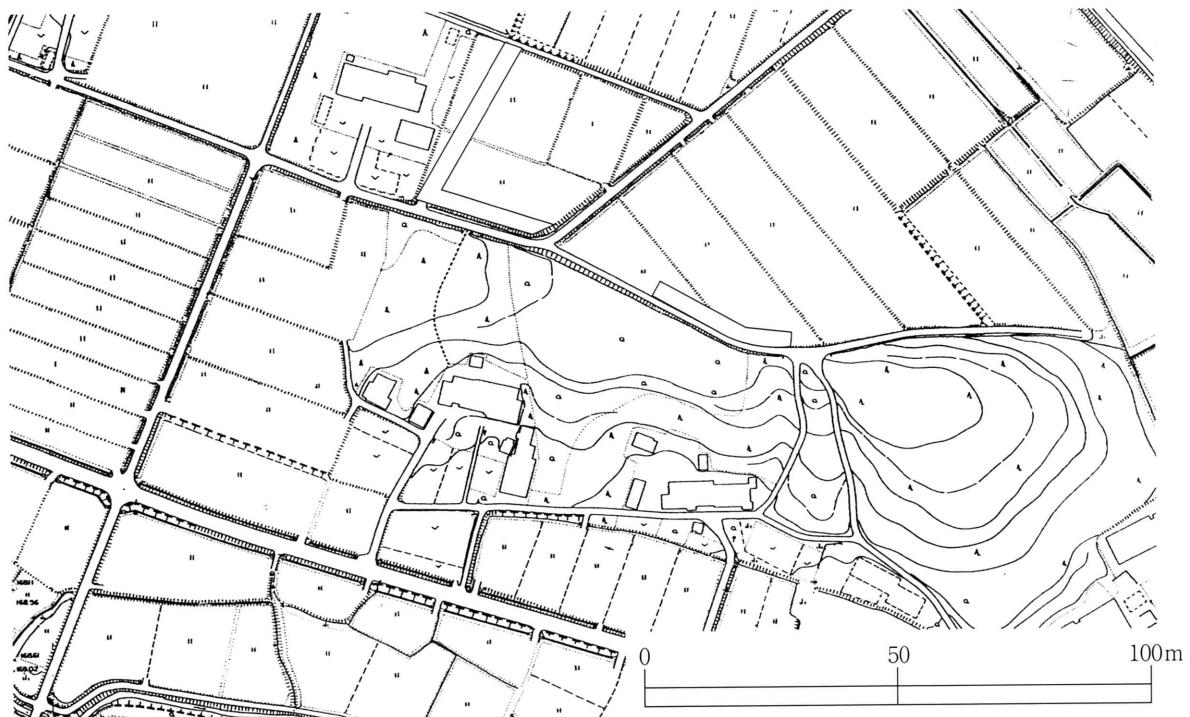
検出された遺構は、縄文時代中期の竪穴住居跡2棟、土坑5基、陥し穴状遺構1基である。

竪穴住居跡1号は、第1層を除去した段階で検出された。竪穴自体は削平を受けており、壁は残存しない。平面形や規模は明確には不明であるが、北西側で確認された壁溝と複式炉前庭部の位置（竪穴南壁際に相当すると推定）などから、直径約4.5mで六角形状を呈すると推定される。床面は全般に凹凸があり、一部貼り床が施されている。炉は石囲部と前庭部から構成される複式炉で、石囲部内及びその周辺に焼土の広がりが見られる。付属施設としては、柱穴5基と壁溝の一部及び南側で偏平な川原石を検出した。出入り口に關係する可能性がある。また、複式炉の北西に位置する柱穴は、柱穴同士で新旧関係を持ち、古い柱穴は壁側面が焼土化されており、なんらかの要因で火を受けているなど、作り替えられていることから、本住居跡は建て替えが行われた可能性が高い。

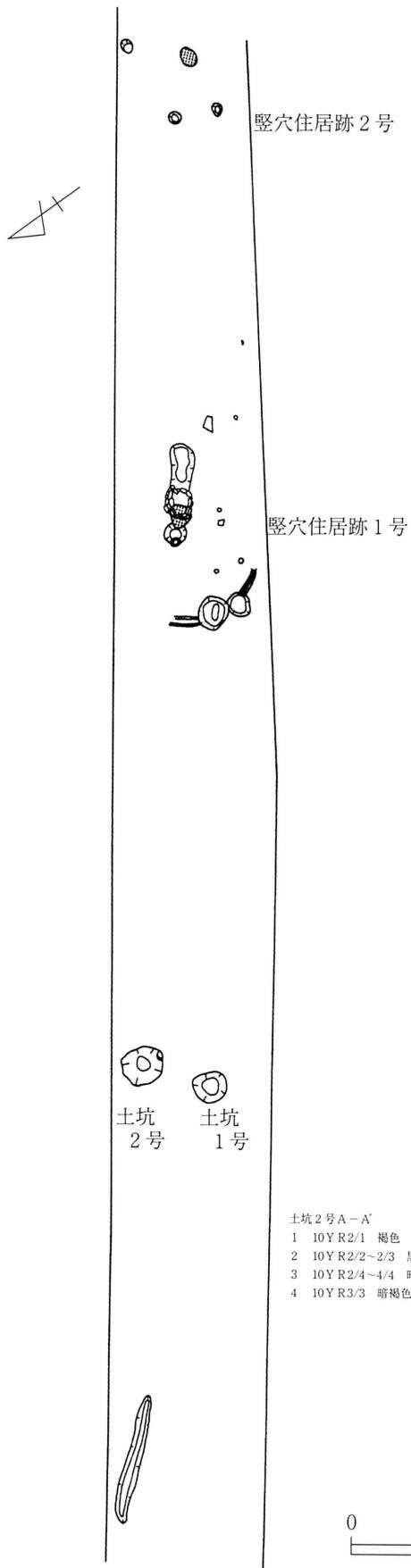
竪穴住居跡2号は残存状態が悪く、地床炉の可能性がある現地性の焼土と柱穴3基を検出したのみである。



第1図 下中沢Ⅱ遺跡位置図



第2図 下中沢Ⅱ遺跡調査区位置図

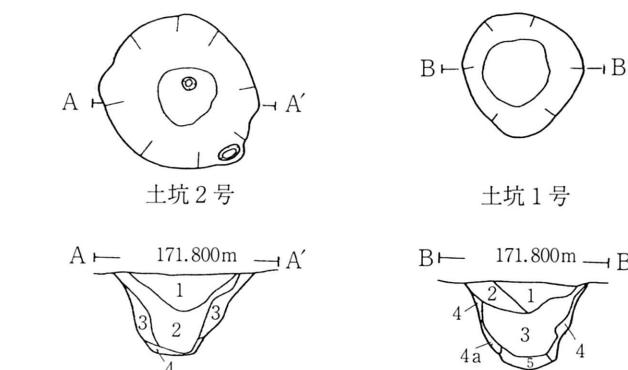


土坑は、調査区西側で検出された2基は規模や深さから推定して、貯蔵穴あるいは円形の陥し穴状遺構である可能性がある。調査区中央で検出された2基は、竪穴住居跡1号の壁溝を截って構築されており、墓壙あるいは竪穴住居跡1号の付属施設と推定される。

陥し穴状遺構は調査区の西側端で1基検出された。長軸約3.8m、短軸0.6~1.1m、深さ約0.6mである。埋土は黒褐色土と褐色土で構成され、自然堆積の様相を呈する。

出土遺物は、竪穴住居跡1・2号の床面付近と柱穴から縄文時代中期後葉の土器片が、3号土坑（竪穴住居跡1号壁溝と重複する土坑）より黒曜石のフレークが出土した。出土した土器片は、地文のみを施す粗製深鉢の破片が主体で、精製土器の破片は数点である。

以上のことから、今回の調査区は、縄文時代の集落跡及び狩場であることが明らかとなった。遺構の形態や出土土器から、集落として存立していたのは縄文時代中期後葉であると推定されるが、狩場として機能していた時期については不明である。

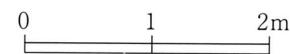


土坑 2号 A-A'

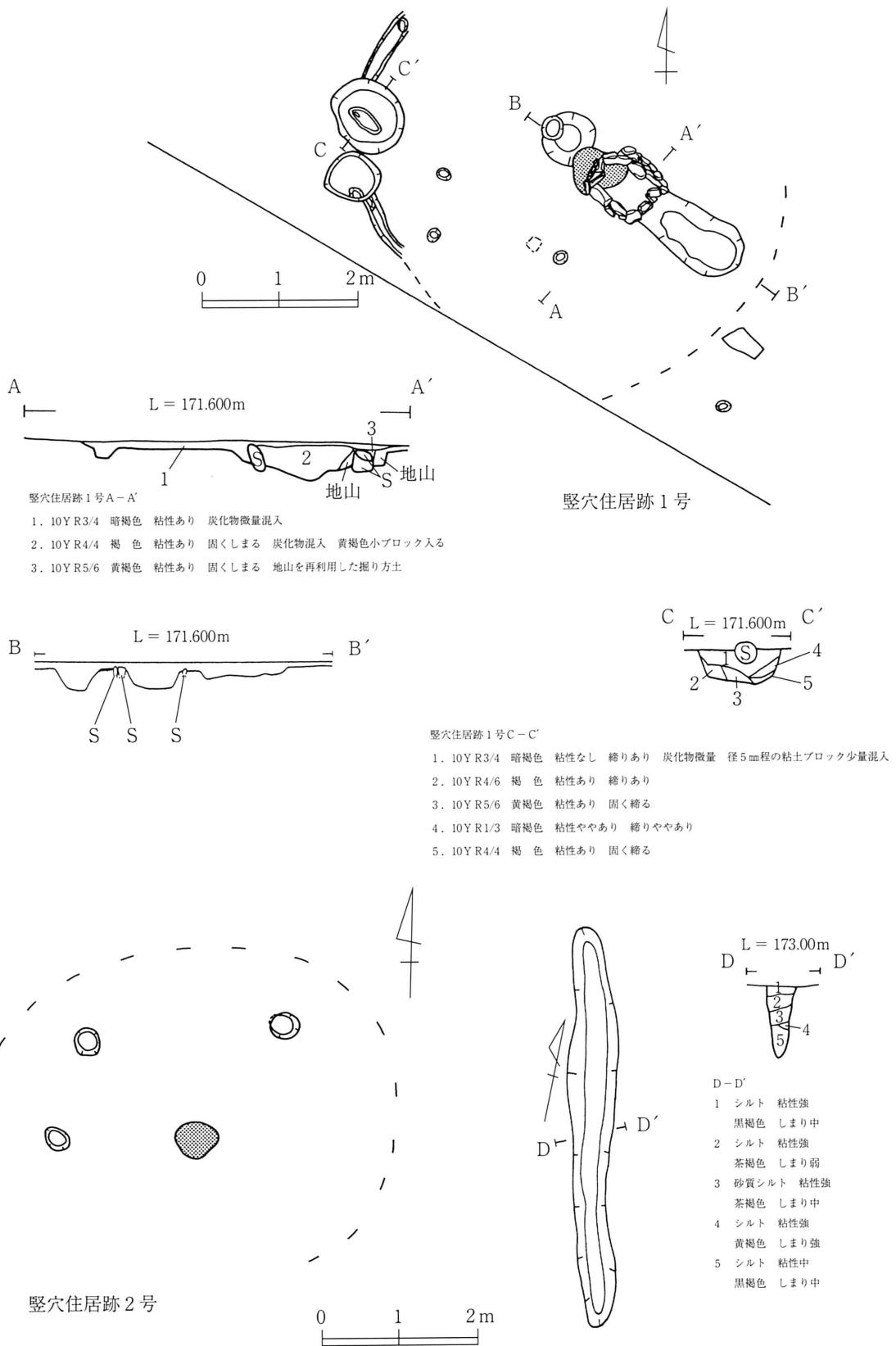
- 1 10YR2/1 暗褐色 シルト 粘性中 繊り中
- 2 10YR2/2~2/3 黒褐色シルト 粘性やや強 粘りやや強
- 3 10YR2/4~4/4 暗褐色~褐色 粘土質土 粘性やや強 繊りやや密
- 4 10YR3/3 暗褐色 シルト質 粘土質土 粘性やや強 粘りやや密

土坑 1号 B-B'

- 1 10YR1.7/1 黑色 シルト 粘性やや強 繊り中
- 2 10YR1/2 黑褐色 シルト 粘性やや強 繊り中
- 3 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性やや強 繊り中
- 4 10YR4/6 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 繊りやや密
- 4 a 10YR3/4~4/6 暗褐色~褐色 粘土質土 粘性強 繊りやや密
- 5 10YR4/6 暗褐色 粘土質土 粘性強 繊りやや密



第3図 下中沢II遺跡遺構図



第4図 下中沢II遺跡遺構図

2 東北横断自動車道釜石秋田線建設事業関連調査

遊子Ⅱ遺跡 (ME 15-1368)

所在地；花巻市西宮野目地内

事業者；日本道路公団東北支社北上工事事務所

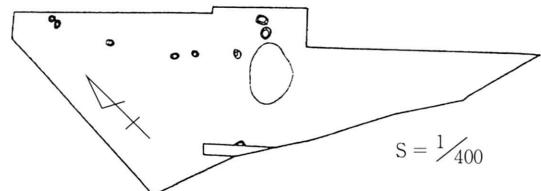
調査期日；平成12年6月28日、

7月6日～7月7日（3日間）

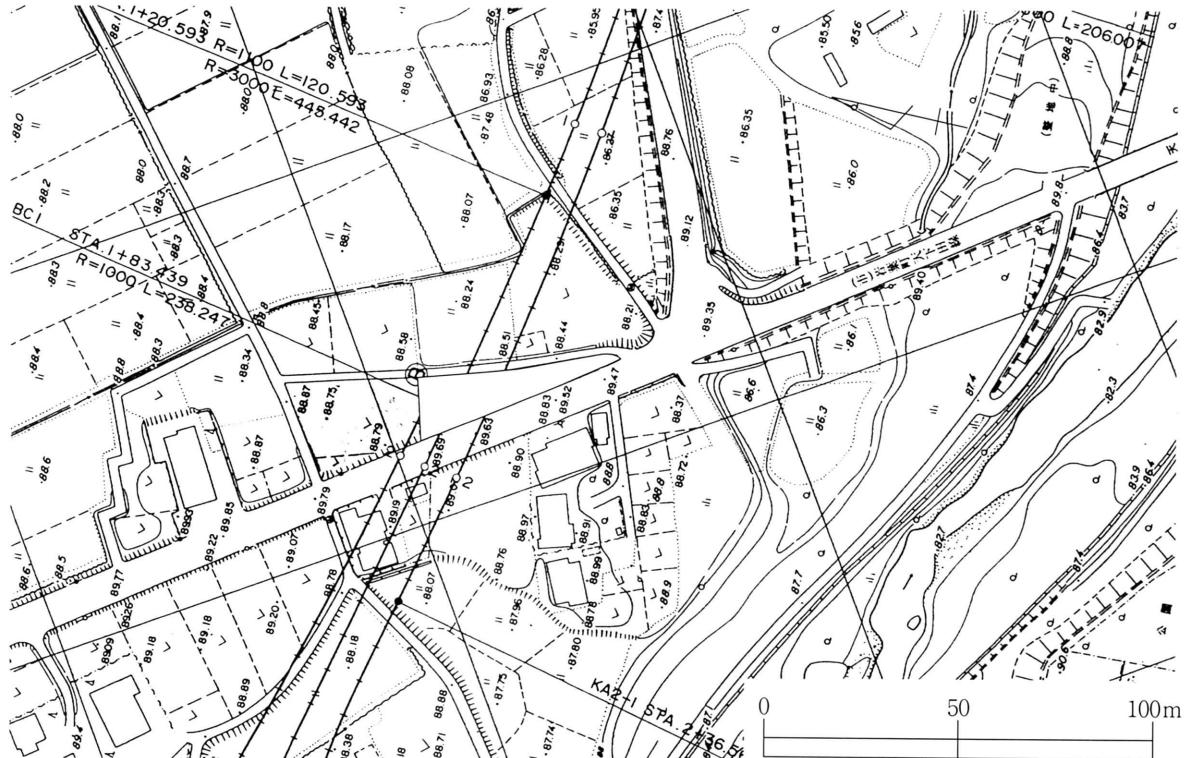
今回の発掘調査は、東北横断自動車道建設に伴う仮設道路建設及び水道管切替え等による緊急調査として実施した。遺跡は、東流する瀬川左岸の沖積平野上の微高地に立地しており、標高は87～88mを測り、遺跡の現況は主に水田・宅地である。20cm程の表土の下層が黄褐色ローム層となっており、この面が遺構検出面となった。検出された遺構は、小規模な柱穴状の土坑9基である。土坑は、いずれも平面形が円形または楕円形を呈しており、開口部の径は30～50cm程である。深さは10～25cmで遺構によりやや開きがあるが、埋土はいずれも褐色砂混シルトの单層であった。埋土には炭化物粒を少量含むものの柱痕及び掘方の状況は明確ではなかった。柱穴状土坑は部分的に規則的に並ぶようにみえるが、限られた調査区のため建物を構成するものかどうかは不明である。遺物は表土及び遺構内から一切出土しなかったが、東側試掘調査地の平安時代の遺構との関連も考えられる。



第5図 遊子Ⅱ遺跡位置図



第6図 遊子Ⅱ遺跡遺構配置図



第7図 遊子Ⅱ遺跡調査区位置図

3 花巻空港整備事業

大西遺跡（ME 06-2345）

所在地；石鳥谷町八重畠地内

事業者；花巻空港建設事務所

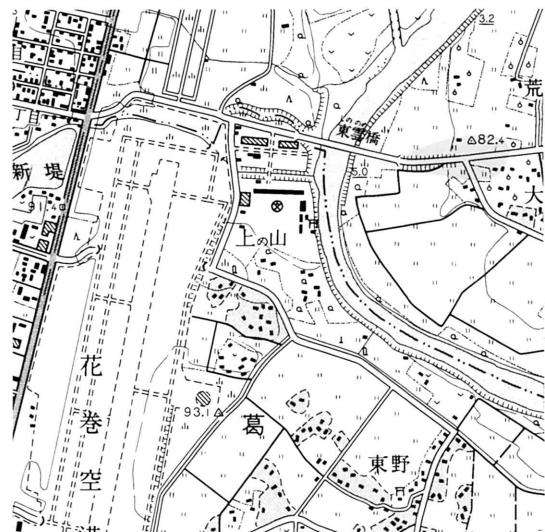
調査期日；平成12年5月8日～12日（5日間）

遺跡は、北上川左岸の河岸段丘及び沖積地に立地する。標高は80mほどである。

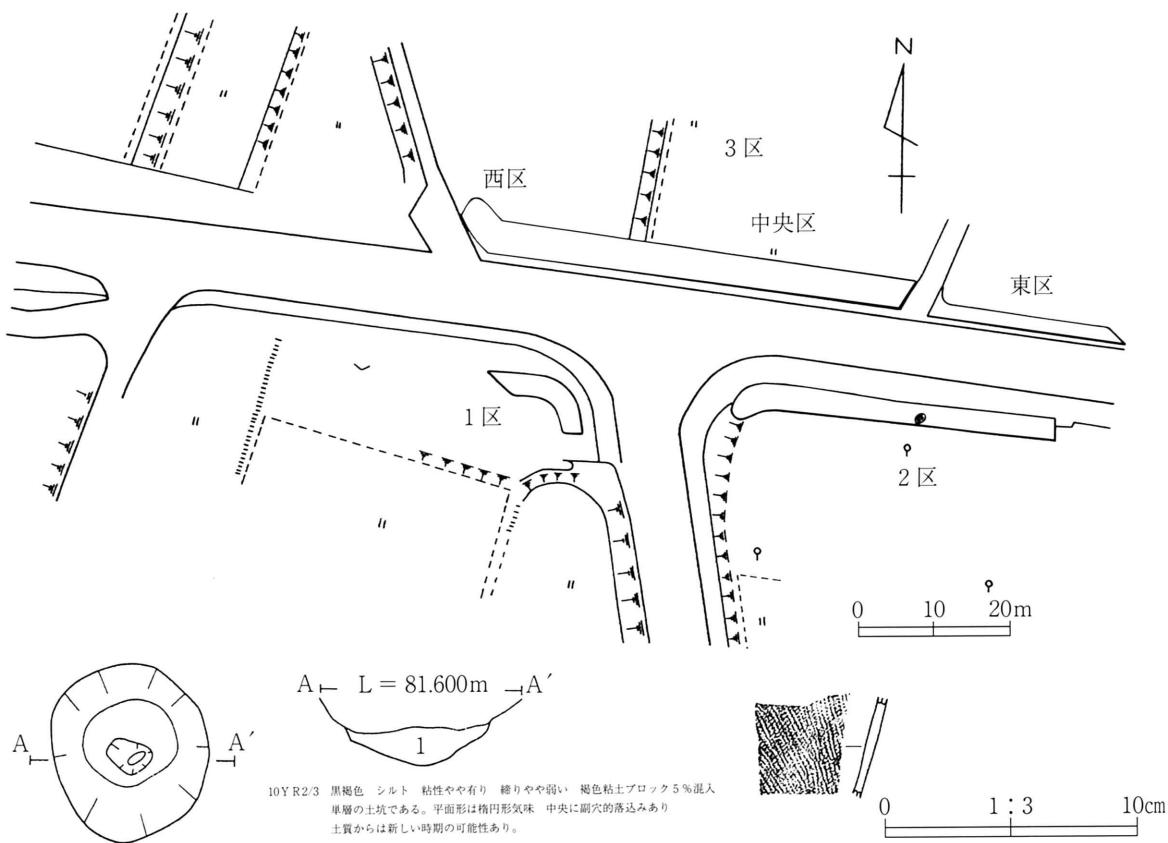
調査区は1. 2. 3区とした。1区では遺構は発見されず、3層中から口クロ土師器が出土したのみである。基本層序は、1層、耕作土、黒色土層で厚さは40cmである。2層は茶褐色土層で厚さは25cm、3層は砂層で厚さは25cm以上で、湧水がみられた。

2区では、直径1.1mで深さ0.3mの円形の土杭が1基発見された。検出面は3層上面で、遺物は出土しなかつ

た。基本層位は1層、耕作土、黒褐色土層、シルト、厚さは20～30cmである。2層は黒褐色土層、シルト、3層は褐色土層、粘土である。付近で石篋1点、土器1点が表採できた。3区は東西に長い調査区で、水田区画を利用して、西から、西区、中央区、東区とに分け調査区を設定した。西区で遺構は発見できなかった。基本層位：1層は耕作土、2層は黒褐色土層、3層は暗褐色土層、4層は黒褐色土層、5層は褐色土層、粘土層である。2層から土師器、4層から縄文晩期の土器が出土した。中央区は、4つのトレーニングを設定した。トレーニング1では5層から縄文土器が出土した。これ以外のトレーニングからは遺構、遺物は発見されなかった。東区では遺構、遺物とも発見されなかった。



第8図 大西遺跡位置図



第9図 大西遺跡調査区位置図

4 県営ほ場整備事業原体地区

東館遺跡 (N E 08-1172)

所在地；江刺市田原字原体地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成12年4月13日～27日（11日間）

遺跡は伊手川が形成した小規模な沖積地盆地の中央に立地する。標高は49m前後である。地元に伝えられた話ではこの遺跡に甲冑出土伝承もあるという。

今回は水路工事により削平を受ける部分の発掘調査を実施した。

調査で検出された遺構は堀跡1条である。調査区に直交する形で幅5m、深さは1.3m程である。

堀跡はA区、B区とした。A、B区は、A-A' B-B'壁に対応する。

A区では、第2、3、6層で十和田a火山灰が確認された。

B区の堆積土は8層に分けられる。堆積土は黒色土を中心に構成され、遺物は第4、7層を中心に出土した。第1層は耕作土で層厚20～40cm、第2層、暗褐色粘土層、層厚20～30cm、第3層、黒色泥質粘土層、層厚15cm、第4層、黒褐色泥質粘土層、層厚40cm、第5層、黒色泥質粘土質土層、層厚20cm、第6層、灰褐色粘土層、層厚20cm、第7層、黒褐色泥質土層、層厚60～70cm、第8層、黒褐色泥質土層、層厚10～80cmとなっている。

出土土器は土師器が圧倒的に多く、須恵器が若干含まれている。7層からは、灰釉陶器（稜椀）が出土した。土師器の年代は9世紀後半～10世紀前半と考えられる。壺、高台付壺、蓋等の器種が確認されているが、壺が圧倒的に多い。7層の灰釉陶器は15世紀末から16世紀初めのものと推定される。

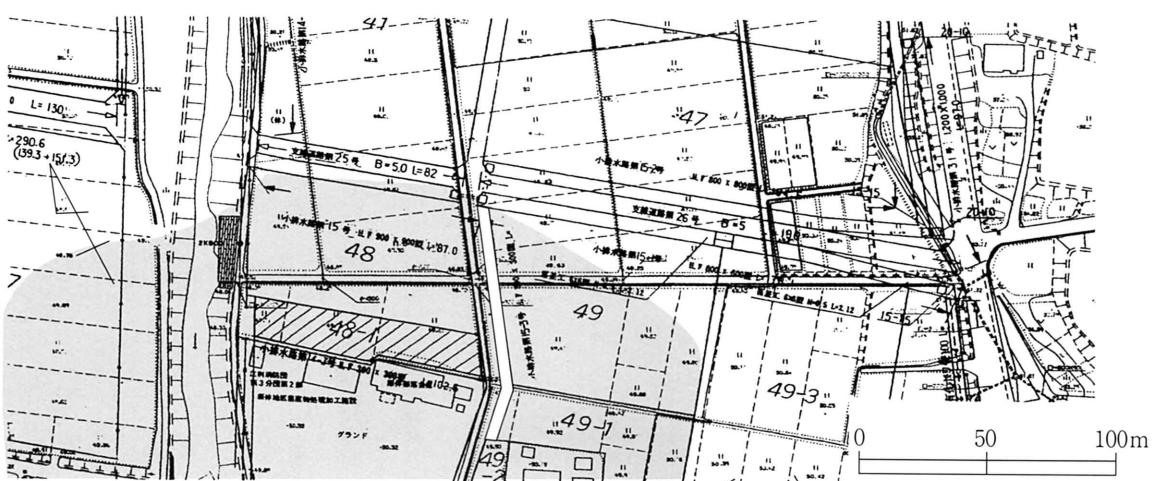
堆積土中からは、自然木、未分解の植物等が出土した。種子等も採取された。動物遺存体も出土し、シカの歯、骨片も出土した。

これ以外の調査区では砂、礫層が耕作土直下にあり、遺構、遺物の出土はなかった。

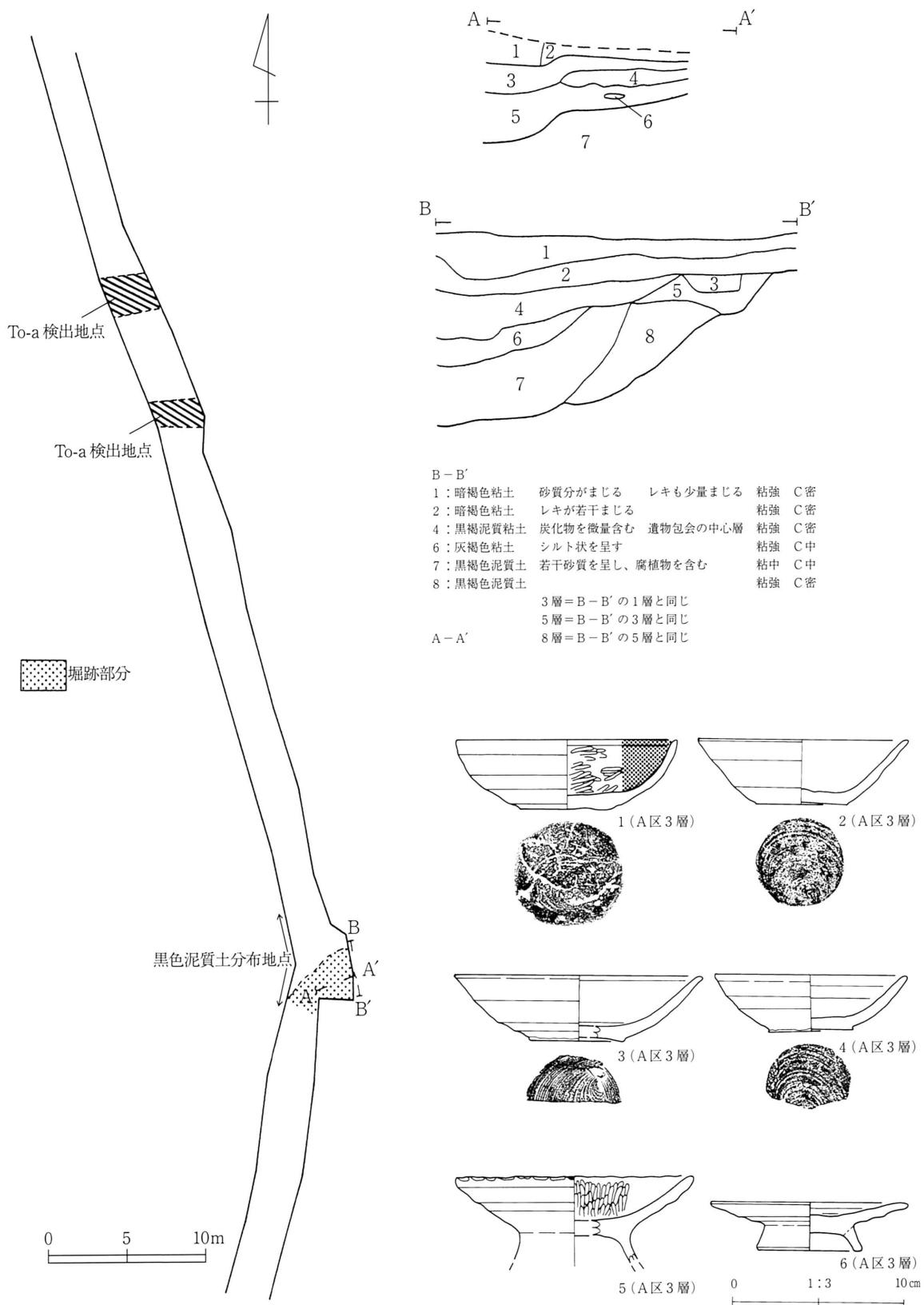
発掘区に隣接する水田北端の段差部分で赤漆塗り木製椀の破片（時期不明）、土師器、須恵器を表採した。



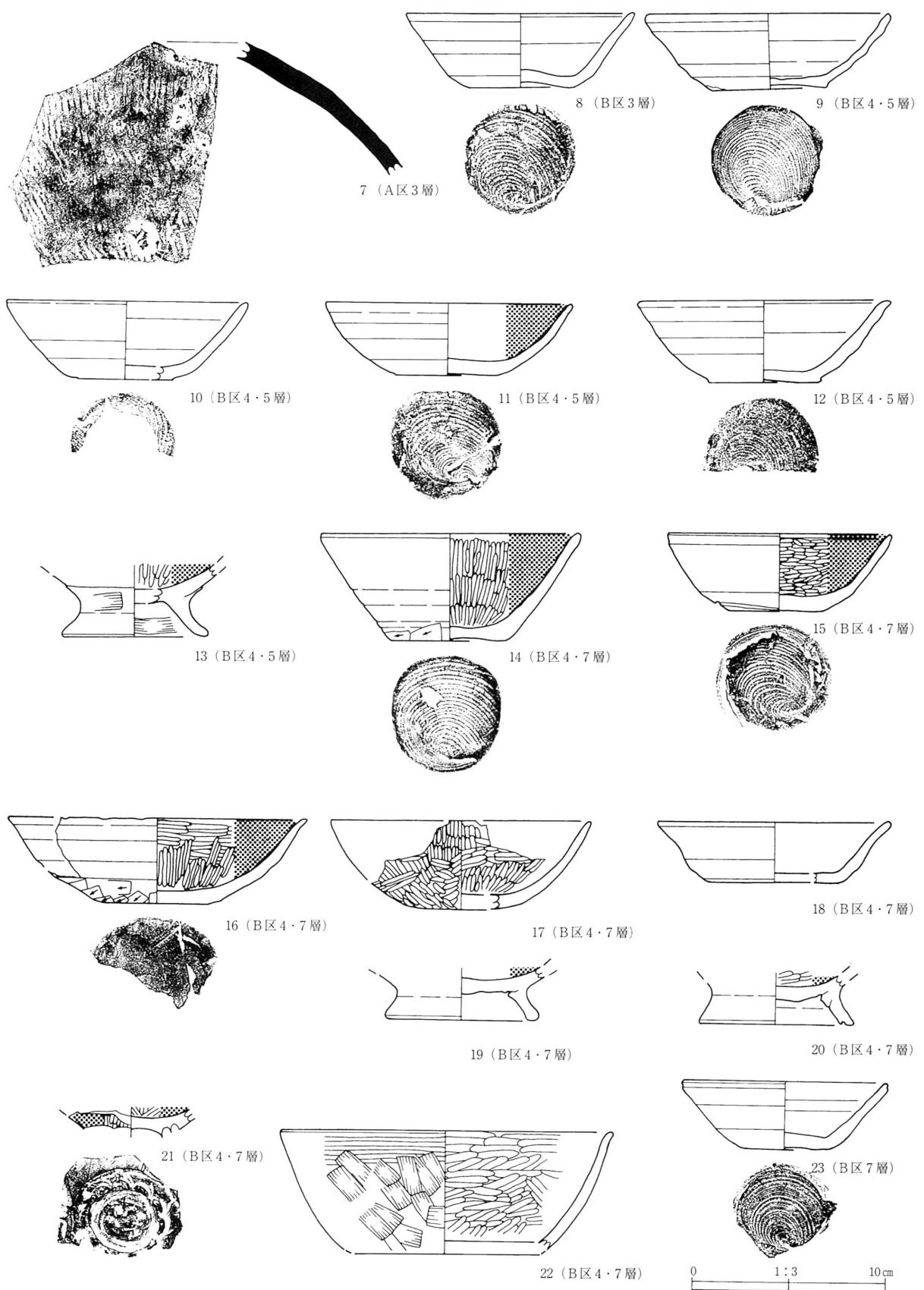
第10図 東館遺跡位置図



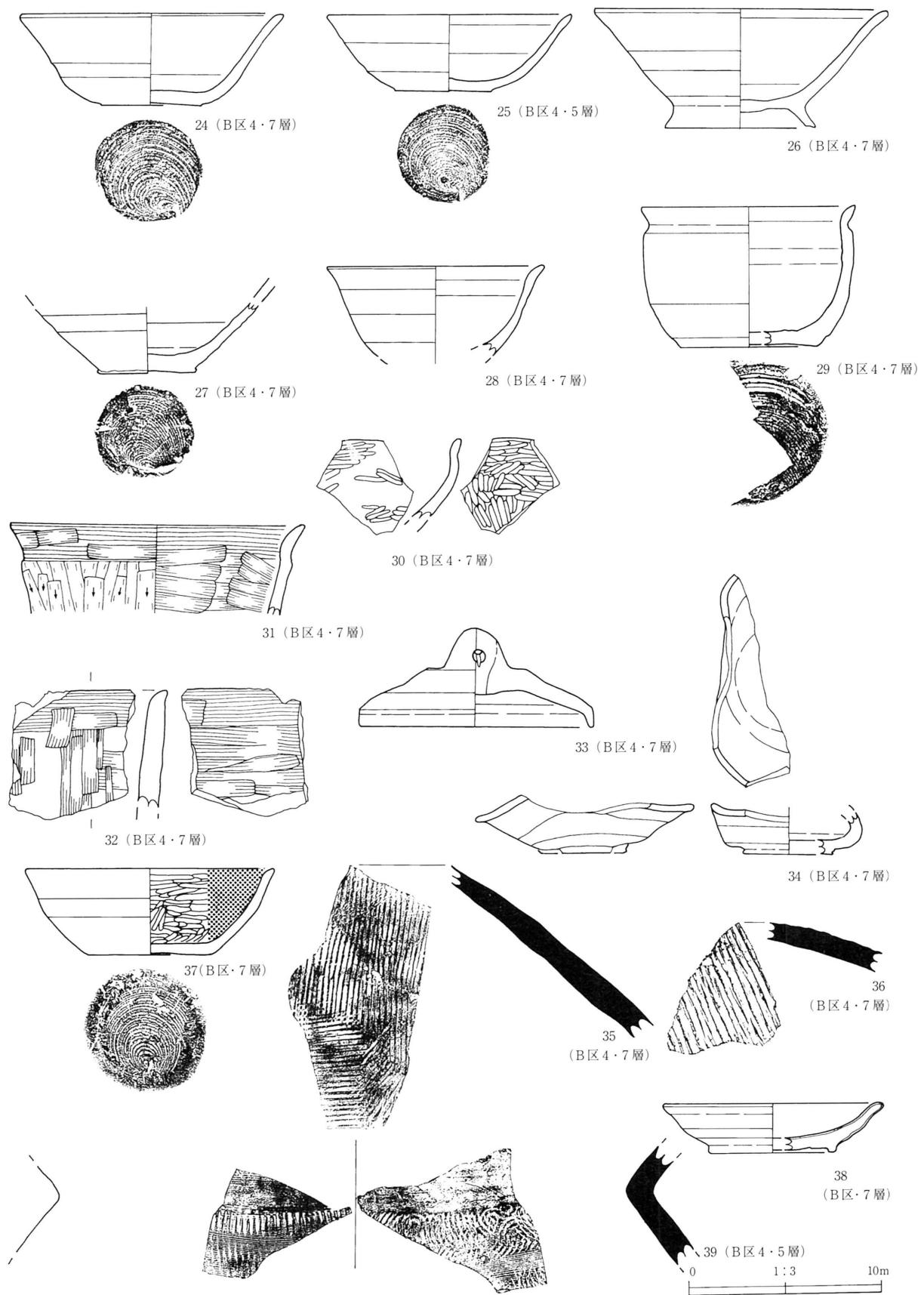
第11図 東館遺跡調査区位置図



第12図 東館遺跡遺構図・出土遺物 1



第13図 東館遺跡出土遺物 2



第14図 東館遺跡出土遺物 3

5 県営土地改良総合整備事業関連調査

上幅遺跡 (ME17-2128)

調査期日；平成12年5月18日～24日（5日間）

事業者；花巻地方振興局花巻農村整備事務所

所在地；花巻市矢沢第6地割

遺跡は、新花巻駅の北東約1kmのところに位置し、北上川によって形成された河岸段丘上に立地する。標高は90m前後を測り、現況は、水田・畑地である。今回の調査は、県営土地改良総合整備事業に伴い実施した。

以前に試掘調査を実施した結果、遺構・遺物が確認されたことにより今回発掘調査を実施したものである。今回の発掘対象面積は140m²である。

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡3棟である。

1号竪穴住居跡は、一辺3m前後の隅丸方形を呈する。遺物は土師器の小片が若干見られる程度である。かつての開田の際に、遺構上部及び新幹線高架寄りの部分は削平を受けている可能性が高く、遺構の残存状況は良くなかった。

2号竪穴住居跡は、一辺3.5m前後四方の隅丸方形を呈し、東向きのカマドを持つ。かつての開田の際に遺構上部及び新幹線高架よりの部分は削平を受けており、残存状況は貼床とカマドに伴う焼土の一部程度であった。なお、住居内にあるP3からは、土師器甕が器全体の1/2、内面黒色処理の施された土師器壺が完形で5～6個体分出土している。

3号竪穴住居跡は、1号竪穴住居跡のほぼ直下にあり、深さは50cm前後、一辺3.6m前後四方の隅丸方形を呈するものと推定されるが、今回の調査区外へ伸びるため、正確な規模については不明である。

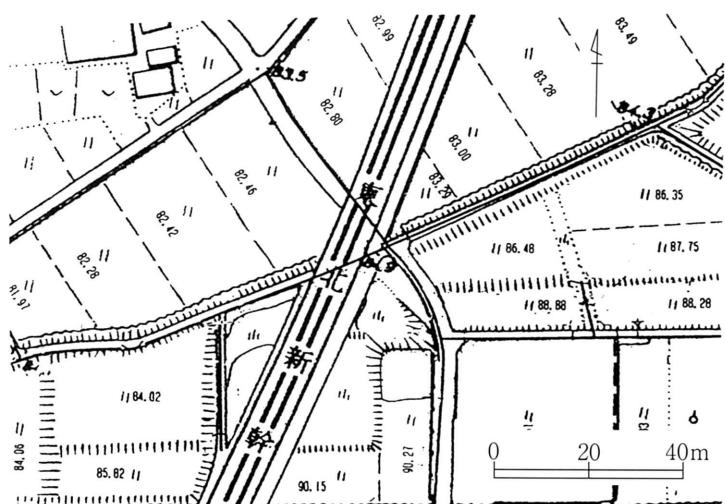
なお、1号竪穴住居跡及び3号竪穴住居跡の東側には南東向きのカマドが認められる。カマドの構築材の確認状況などから、このカマドの跡は、主に3号住居跡に伴うものであることが予想される。

遺物は土師器の壺（1～5）、椀（6）、甕（7）が確認されている。壺はいずれもロクロ成形であり、内面は黒色処理の後、ヘラミガキの調整が施されている。底部外面は、1はヘラケズリで調整しているが、2～5は無調整である。椀はロクロ成形であり、内面は部分的にヘラミガキ、底部外面にヘラケズリの調整が施されている。甕はロクロで成形の後、体部外面以下にヘラケズリの調整が施されている。出土した土器の年代はいずれも9～10世紀のものであると考えられる。

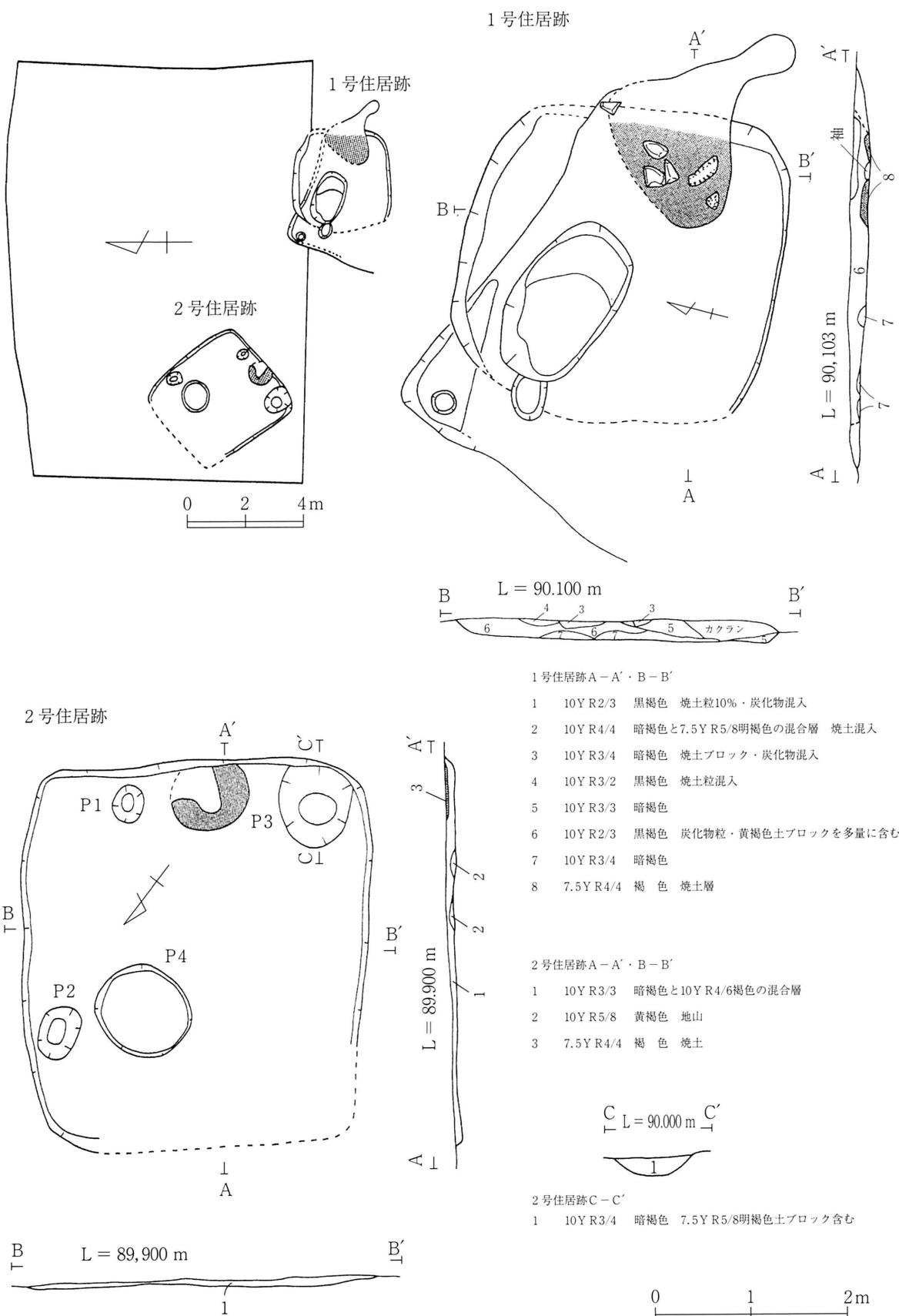
なお、今回の発掘調査によって、調査範囲の南側にも遺構があることが明らかとなった。



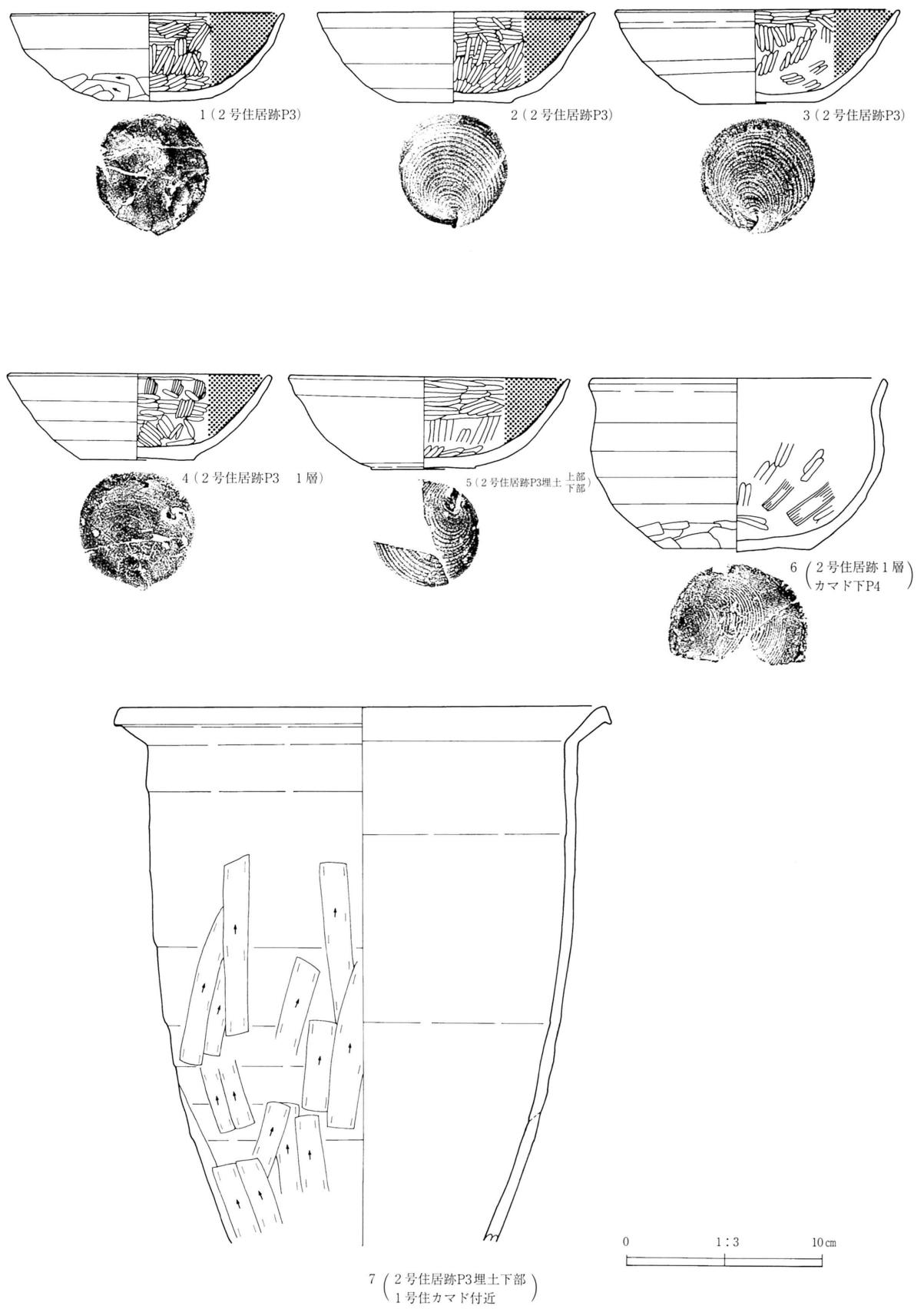
第15図 上幅遺跡位置図



第16図 上幅遺跡調査区位置図



第17図 上幅遺跡遺構図



第18図 上幅遺跡出土遺物

6 県営ほ場整備事業(担い手育成区画整理型)猫川左岸 地区関連調査

深沢遺跡 (MF 66-2239)

所在地；遠野市上郷町細越地内

事業者；遠野地方振興局遠野農村整備事務所

調査期日；平成12年5月15日～17日

遺跡は、猫川左岸の丘陵地の緩斜面地に位置する。現況は畠地及び水田で、標高は407m前後を測る。

調査面積は約70m²で、基本層序は、第1層：表土（耕作土）層厚15～25cm、第2層：黒褐色土層厚20～30cm、第3層：黄褐色土（地山、遺構検出面）層厚不明である。

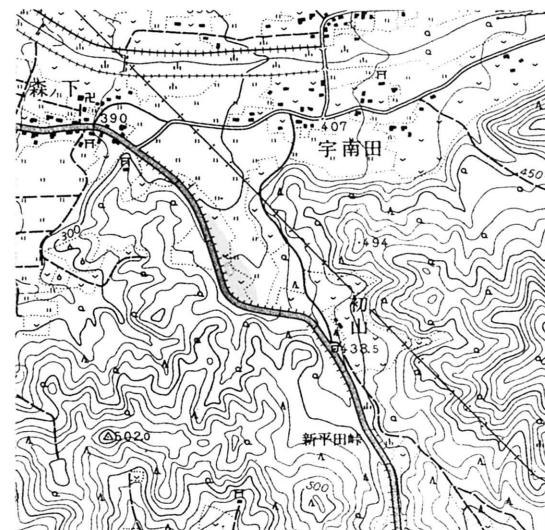
調査の結果、平安時代の竪穴住居跡1棟を検出した。

竪穴住居跡は、2層黒褐色土を除去した段階で検出され、形状は隅丸方形を呈し、規模は6.5×6.0m程である。壁は外傾気味に立ち上がり、壁高は10～30cmである。竪穴上部は、現代の耕作により、削平を受けている。埋土は黒褐色土シルトによる単層で、炭化物や焼土ブロックが少量含まれる。床面は、部分的に貼り床が施され、全般に固く若干の凹凸がある。カマドは、西壁際に構築されており、煙道部はすでに削平を受けていたが割り貫き式と推定される。煙出し部分は、上位に堆積する4層（断面図C-C'）は自然堆積層であるが、下位の5・6層は人為堆積層であることから、なんらかの要因で埋め戻された可能性が窺える。カマド袖部部分の残存はなかったが、燃焼部と思われる現地性の焼土の広がりが80×60cmで見られる。柱穴は明確ではないが、検出された小土坑5基に可能性がある。その他の付属施設としては、壁際から貯蔵穴と思われる土坑2基と西壁際の床面で30cm程に広がる焼土を検出している。

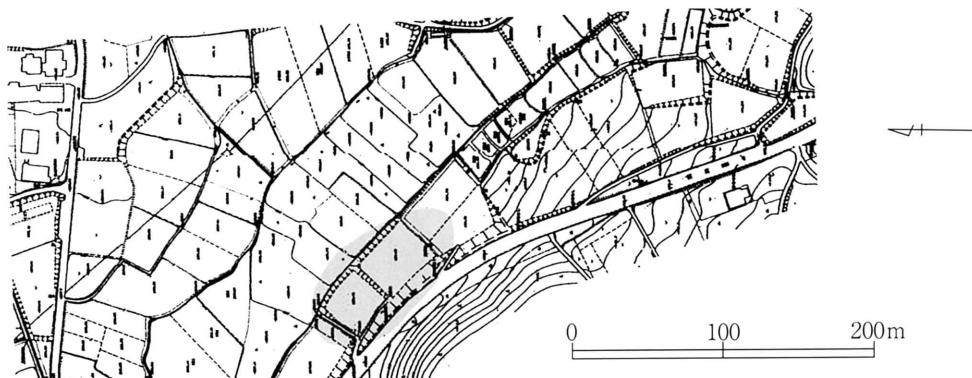
出土遺物は、床面及び床面直上から土師器片が出土した。器種は甕を主体とする。

本竪穴住居跡は、明確には把握できなかったが、焼失家屋と推定され、その際にカマド煙出し部を埋め戻すなどの行為が行われた可能性が示唆される。

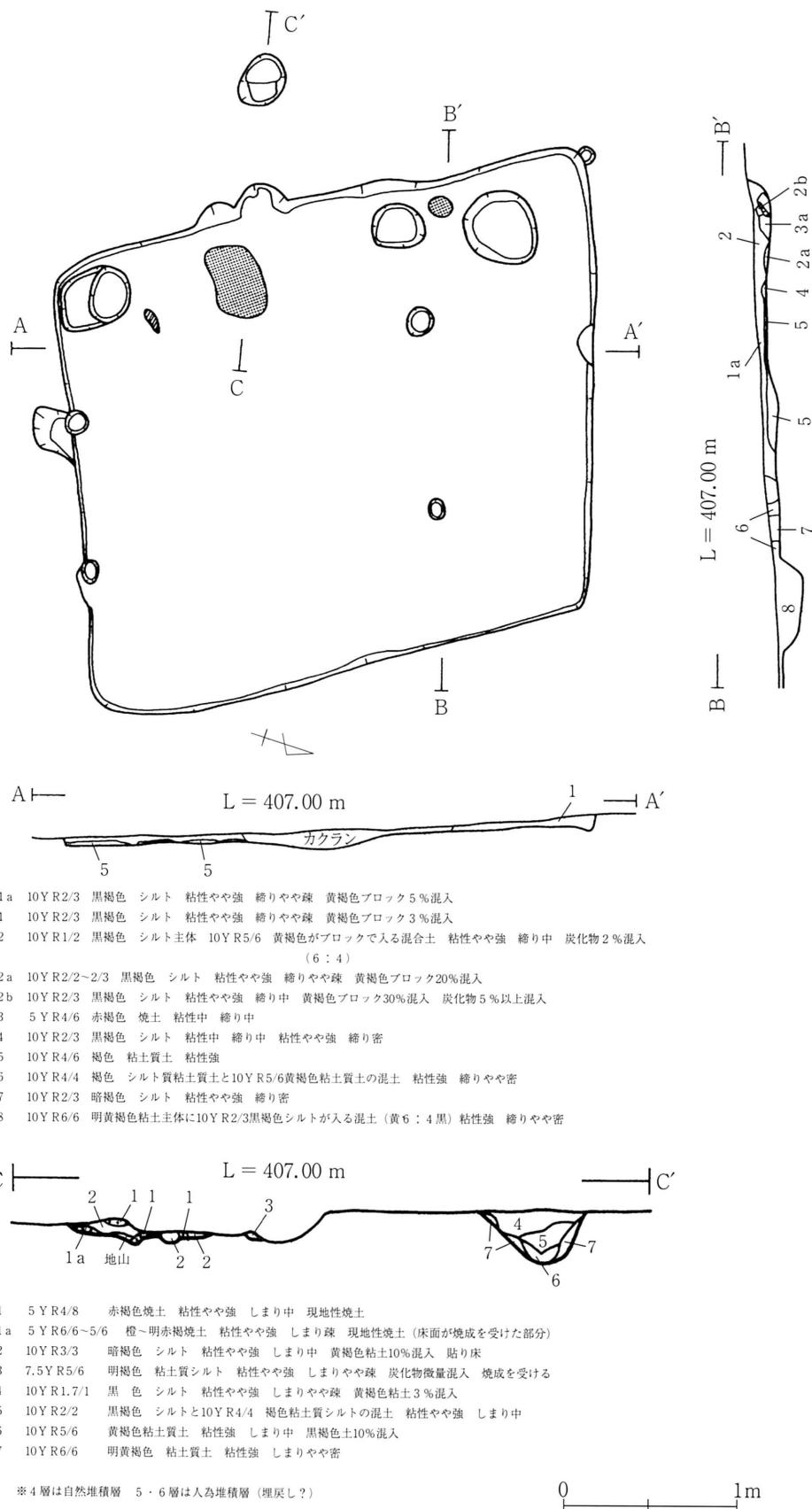
以上、今回の調査区からは平安時代の集落跡の存在を確認することができた。



第19図 深沢遺跡位置図



第20図 深沢遺跡調査区位置図



第21図 深沢遺跡遺構図

7 家畜保健衛生所施設整備事業関連調査

砂込Ⅲ遺跡 (KE 76-0172)

所在地；岩手郡滝沢村滝沢字砂込390-5

事業者；県農政部畜産課

調査期日；平成12年6月19日～23日（5日間）

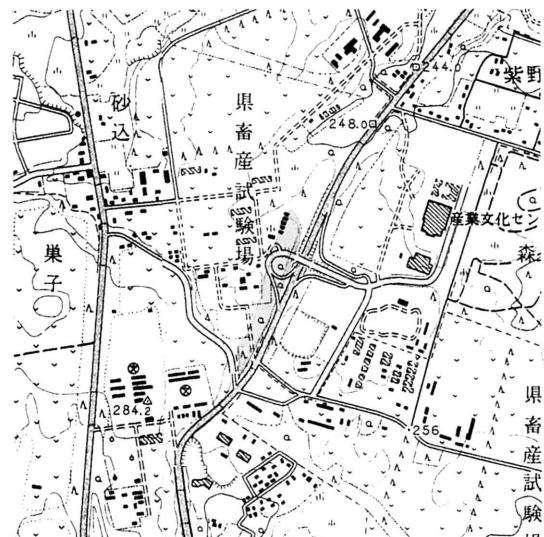
本遺跡は、JR東北本線滝沢駅の西約2.5km、岩手火山を供給源とする火山灰台地上に位置する。調査面積は6,000m²、標高は260m～261m程度である。

今回の発掘調査は、盛岡家畜保健衛生所新庁舎建設工事に伴うもので、調査区は県畜産試験場の敷地内にある。調査区の現況はグランド（野球場）で、前年度の試掘調査では、陥し穴状遺構1基だけの検出であったが、土層等の観察から住居跡の検出も予想できた。調査は、重機により表土を除去することから始まったが、面積が広範囲にわたることもあり、排土の置き場を考えながらの調査となった。

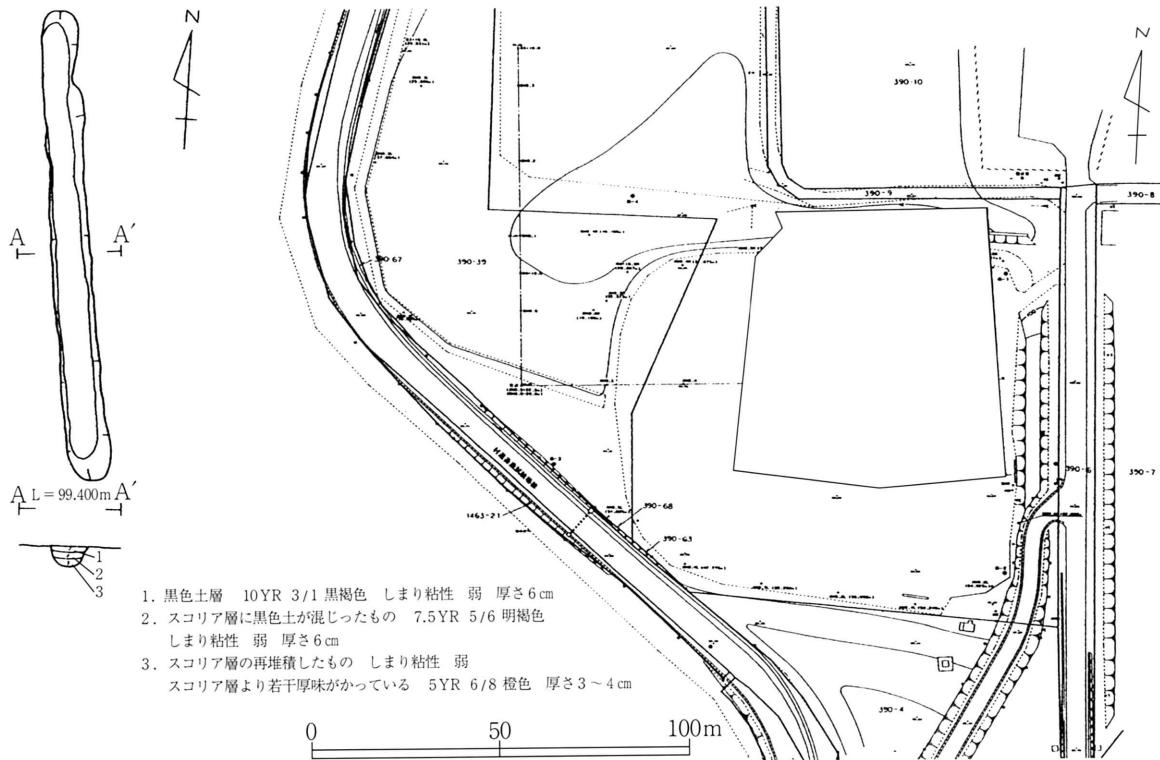
その結果、調査区北側はグランド造成時にかなりの削平を受けており、大部分の遺構は破壊されていたことが判った。検出された遺構は、縄文時代の陥し穴状遺構1基のみである。基本層序は、次のとおりである。

第1層：表土5～10cm、第2層：暗褐色～黒褐色土（生出火山灰混入層）約25cm、第3層：褐色～暗褐色土（堀切火山灰層）30～40cm、第4層：褐色土（分かれ火山灰層）50cm以上、第5層：黄褐色土（柳沢火山灰層）層厚不明

陥し穴状遺構は、調査区の南東端、5層中で検出したが、遺構の深さから判断して、その上部は破壊を受けているものと判断される。形状は溝状を呈し、規模は3.2×0.2m、深さは15cmである。出土遺物を伴わなかったため、詳細な時期は不明である。



第22図 砂込Ⅲ遺跡位置図



第23図 砂込Ⅲ遺跡調査区位置図

8 ふるさと農道緊急整備事業要害地区関連調査

鳥喰Ⅲ遺跡（N F 91-2244）

所在地；東磐井郡千厩町清田鳥喰地内

事業者；千厩地方振興局千厩農村整備事務所

調査期日；平成12年4月17日～27日（9日間）

鳥喰Ⅲ遺跡は、JR東日本千厩駅の東約1.5kmに位置し、北流して千厩川に注ぐ小規模な沢沿いに、わずかに張り出した細長い平坦部に立地している。遺跡の標高は143m前後を測り、現況は山林であるが、以前は水田として利用されていた時期がある。平坦部の幅は約15mで、自然地形を残す部分と、開田等により平坦に造成された部分とがある。

今回の調査は、ふるさと農道緊急整備事業に伴うもので、平成11年12月の試掘調査において遺物包含層が確認されたことから、記録保存を目的として実施したものである。

発掘調査面積は約200m²で、調査区の基本層序は以下の通りである。1層：表土（腐食土）20～30cm、2層：黒褐色土（遺物包含層）10～30cm、3層：暗褐色土（部分的に黄褐色の火山灰がブロック状に混入する）30～40cm、黄褐色土（地山、砂・礫が混じる）層厚不明。

検出された遺構は、焼土遺構1基と遺物包含層である。焼土遺構は調査区南側のⅢ層上面で検出され、47×33cmほどの規模の不整形で、赤褐色の焼土と少量の炭化物から構成されている。断面の形状から投げ込まれたものの可能性が高い。

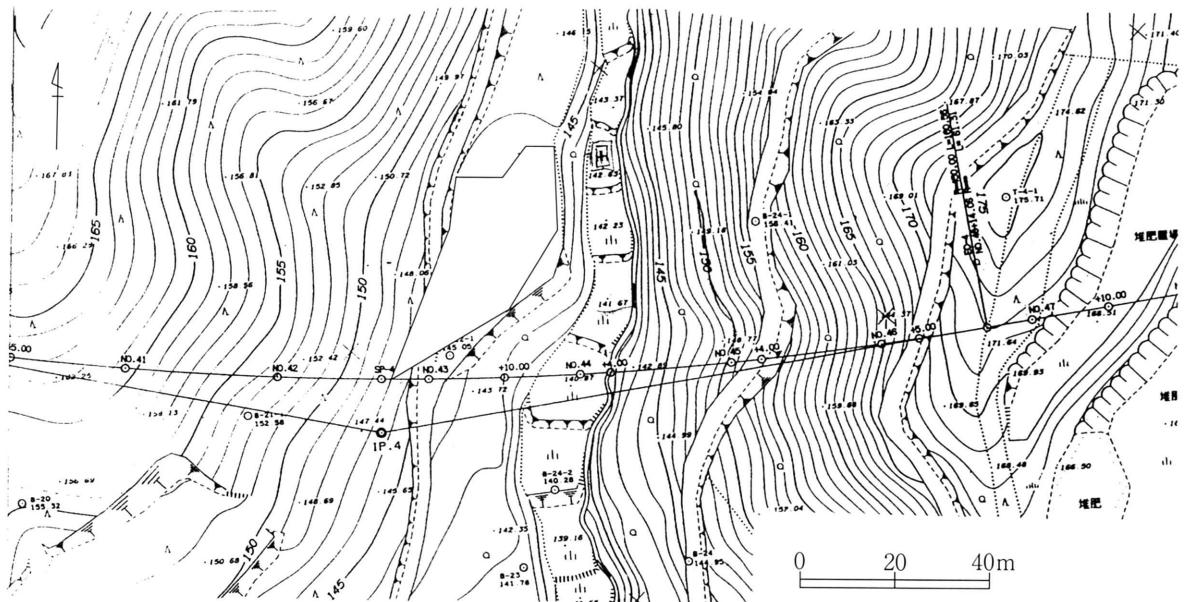
遺物包含層は2層の黒褐色土層で、調査区南側から中央部付近に広がり、緩やかな斜面になる南側ほど遺物を包含している。

出土した遺物は、縄文時代後期のものが中心であり、若干晩期前葉と思われる土器も出土している。石器は、石鏸・石匙・磨石が出土している。また、土製品として土偶の足及び体部各1点出土した。

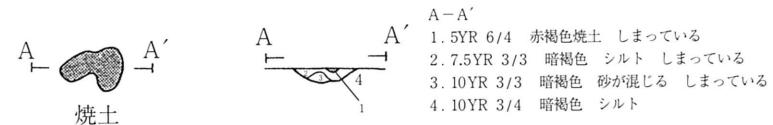
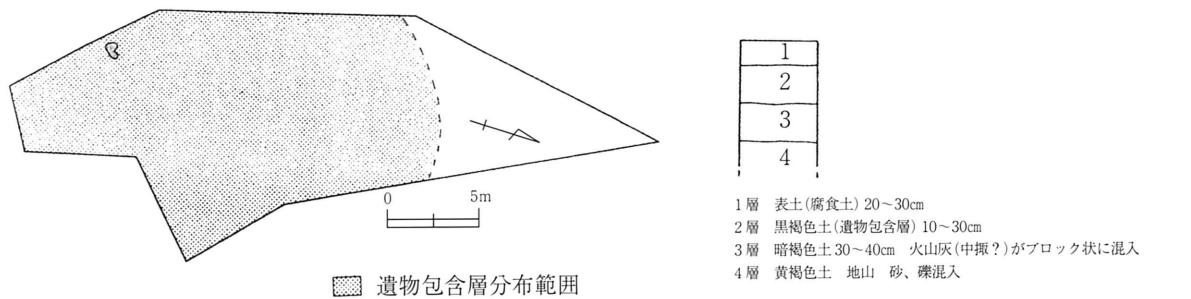
今回の調査区は、鳥喰Ⅲ遺跡の中でも縄文時代後期の土器の捨て場であることが明らかとなった。



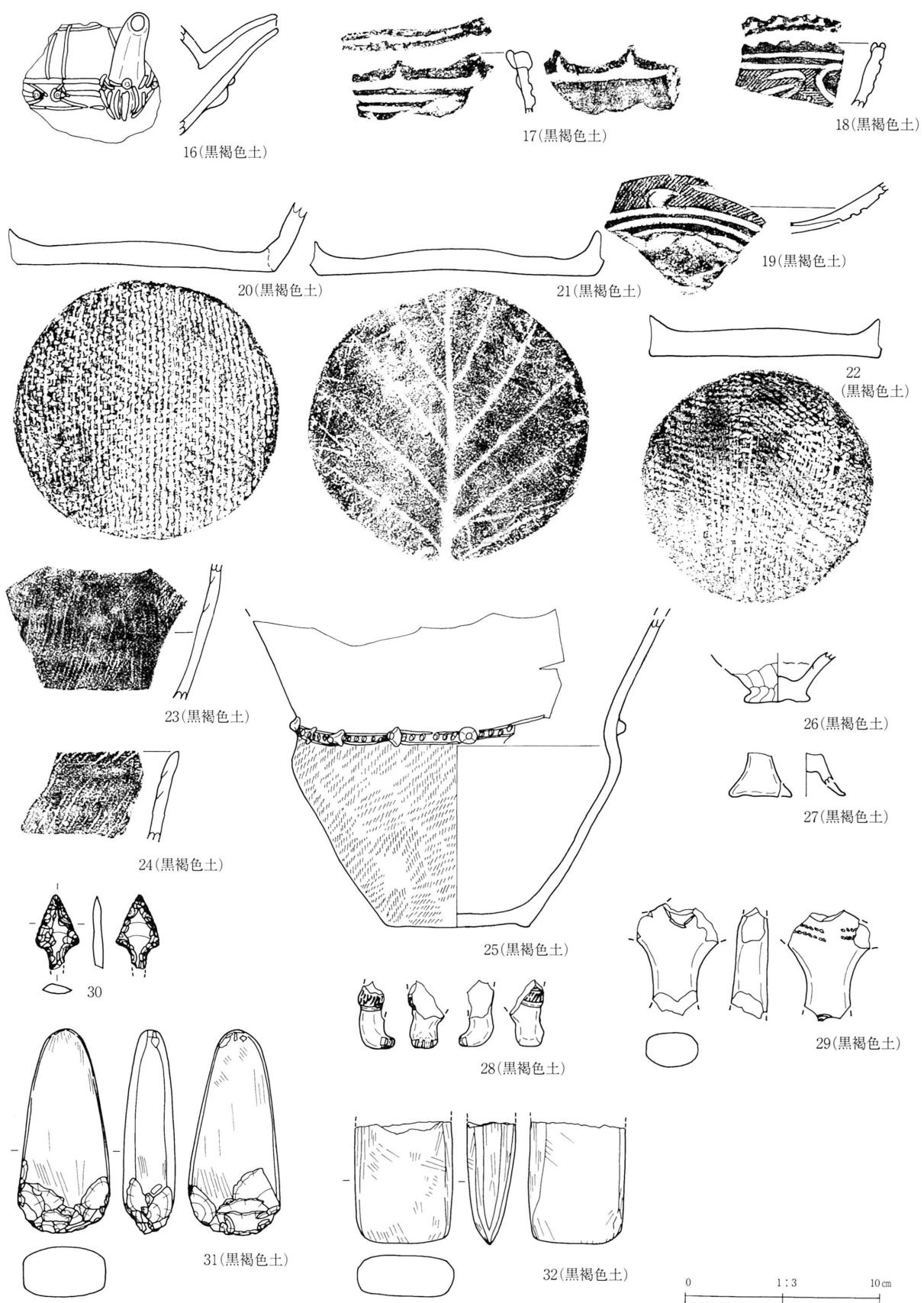
第24図 鳥喰Ⅲ遺跡位置図



第25図 鳥喰Ⅲ遺跡調査区位置図



第26図 鳥喰Ⅲ遺跡遺構図・出土遺物(1)



第27図 鳥喰Ⅲ遺跡出土遺物(2)

9 宮古測候所ウインドプロファイラ設置事業

鉢ヶ崎館山貝塚（LG24-2184）

所在地；宮古市鉢ヶ崎下沢地内

事業者；盛岡地方気象台宮古測候所

調査期日；平成12年10月12日～13日（2日間）

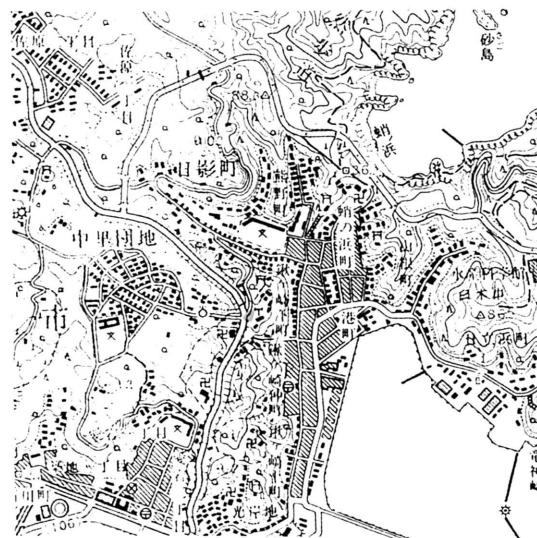
遺跡は、閉伊川北側樹枝状に解析された千徳丘陵の最東端部に立地する。現況は宮古測候所の各施設、旧宅地等である。調査区の標高は45～46mである。今回は、ウインドプロファイラ設置予定地部分とそれに伴う管線部分の確認調査を行った。

遺跡の基本層序は、第Ia層：表土（アスファルト）層厚5cm、第Ib層：砂利（現代整地層）層厚20～30cm、第Ic層：にぶい黄褐色砂質シルト（現代盛土層）層厚0～250cm、第Id層：黒褐色シルト質粘土（搅乱或遺構埋土）層厚約25cm、第II層：にぶい黄橙色マサ土（地山）層厚不明、遺構検出面である。その結果、ウインドプロファイラ設置予定地部分は、現地表面から80～300cm削平（掘削）されていることがわかった。

ウインドプロファイラ設置予定地部分における東部は、削平が著しく、250～300cmの深さで掘削後、Ic層と呼称した土層で整地されている。なお、Ic層の年代については、当初中世城館構築に伴う整地層の可能性が示唆されたが、局的に見られた鉄くずやスズランテープ等から現代の整地層と判断した。

ウインドプロファイラ設置予定地部分における西部は、現地表面からの削平が80cm前後と比較的浅く、「縄文時代の包含層を使用した旧表土」と判断される堆積層及びその下部からプラスコピットの下半部と思われるプランを確認した。旧表土と思われる土層は、暗褐色を呈したシルトで、縄文時代早期・中期の土器片や貝殻小片等が出土した。現代遺物が全く含まれないことと、同層の下部から縄文時代のプラスコピット？が検出された状況から推定して、古代あるいは中世に削平した後に整地された土層である可能性が考えられる。本層は調査区外南西側に延びることから、現在駐車場として利用されている部分の下位では、良好に残存するものと思われる。

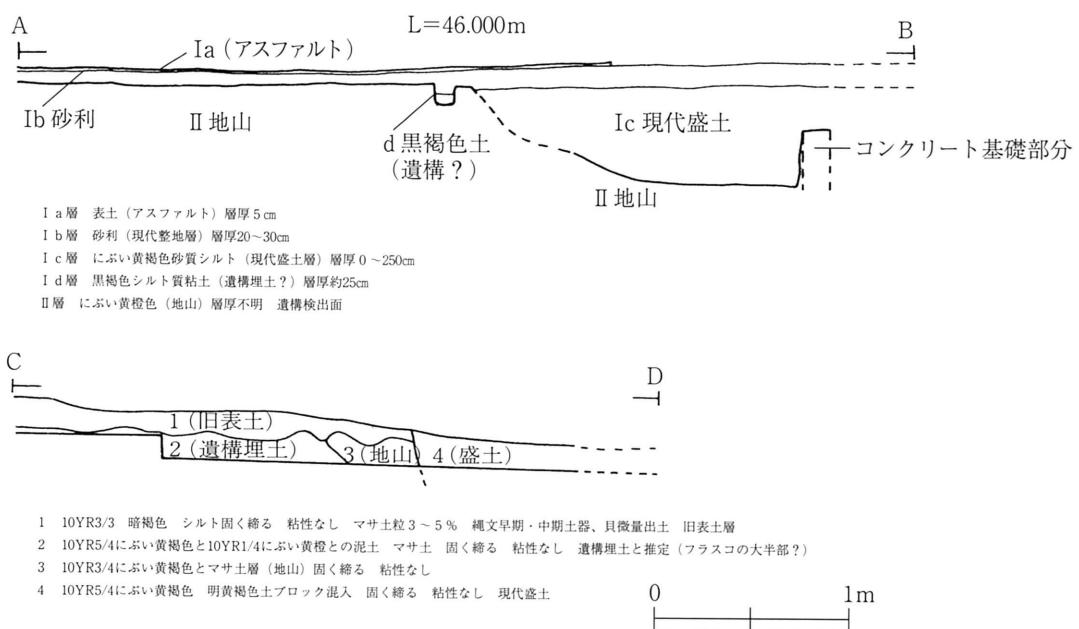
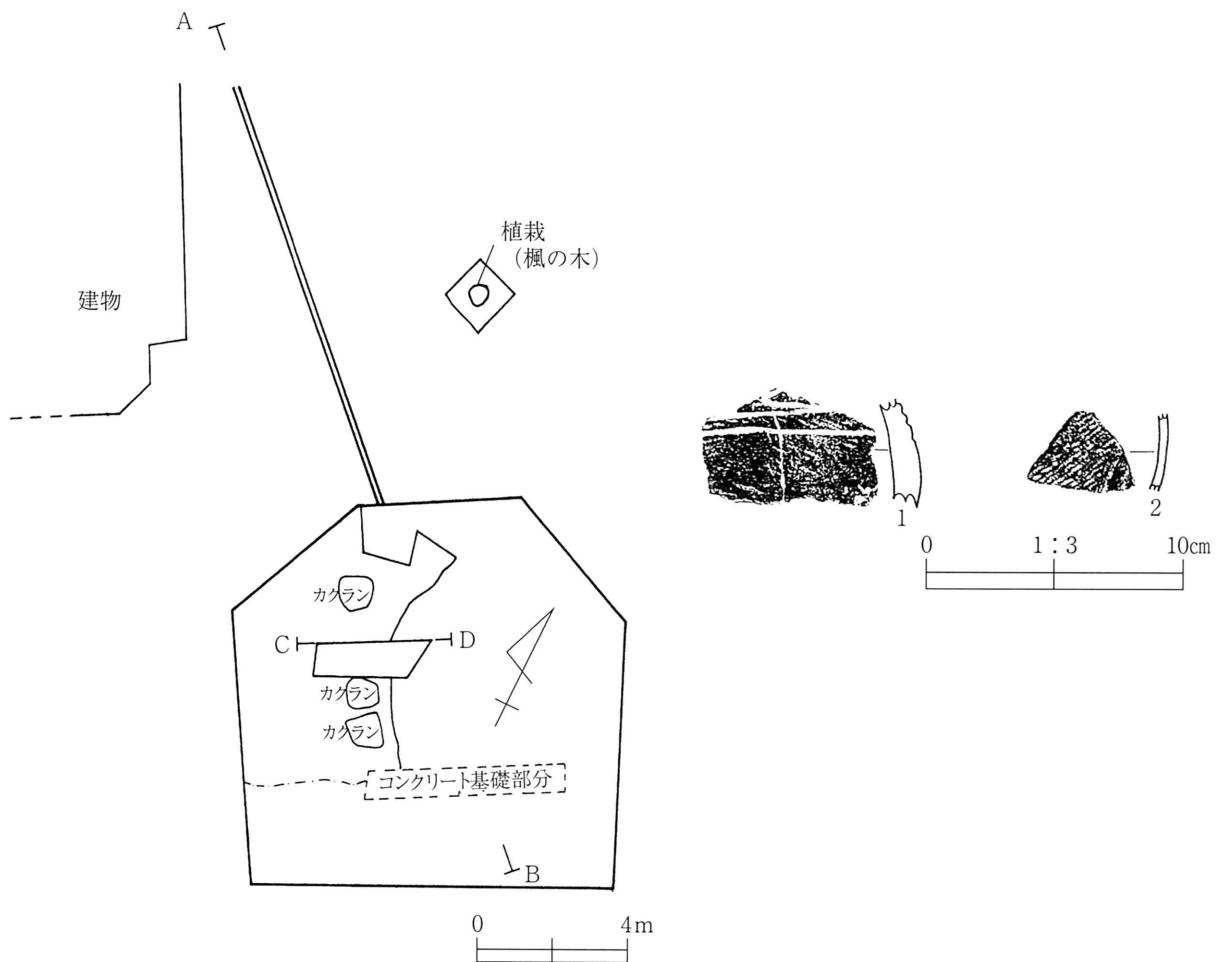
管線部分については、調査区の幅30cm前後と狭いこともあり遺構検出が困難で、地山面の確認にとどまる。現在の地表面から40cm弱で地山面が表れ、ウインドプロファイラ設置予定地部分と比べて削平の深さが浅いことから、平成元年に実施した発掘調査（宮古市教委）と同様の遺構残存状態であると思われる。



第28図 鉢ヶ崎館山貝塚位置図



第29図 鉢ヶ崎館山貝塚調査区位置図



第30図 鍬ヶ崎館山貝塚遺構図

10 農地開発事業普代地区関連調査

下村遺跡（J G93-2158）

下村I遺跡（J G93-2147）

所在地；下閉伊郡普代村第2地割字下村地内

事業者；久慈地方振興局久慈農村整備事務所

調査期日；平成13年3月5日～7日（3日間）

下村遺跡・下村I遺跡は三陸鉄道北リアス線普代駅の東約4kmに位置し、海岸段丘の頂上付近に見られる傾斜の緩やかな丘陵地に立地している。遺跡の標高は200m前後を測り、現況は主に山林・畠地である。

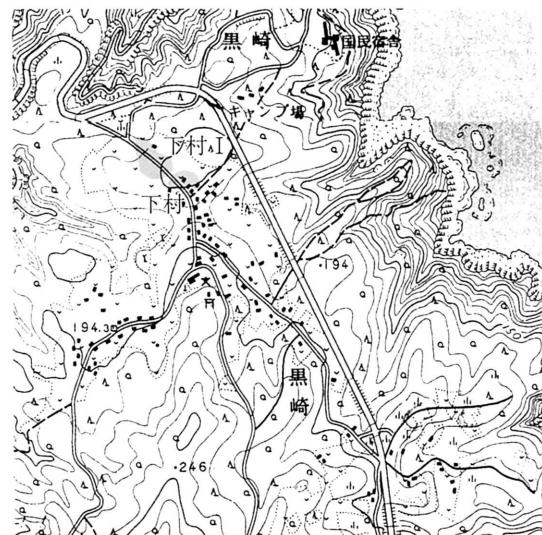
今回の調査は、農地開発事業に伴うもので、平成12年10月31日と11月28日の試掘調査において遺物と遺構が確認されたことから、記録保存を目的として実施したものである。

事業はアスファルト舗装の村道黒崎港線内を幅約1mにわたり掘削し、配水のパイプを埋設するものである。試掘調査では遺跡にかかる村道内に、下村遺跡は3箇所、下村I遺跡は6箇所のトレンチを設定した。その結果、今回の発掘調査の範囲において遺構と思われる暗褐色土の広がりが検出され、少量の縄文土器・石器が出土した。また、道路に隣接する畠からも縄文土器が表採されている。今回の発掘調査面積は約120m²である。

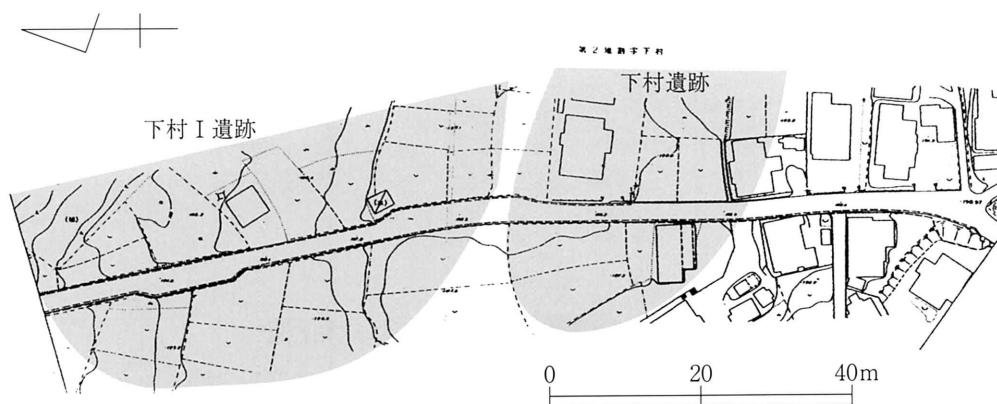
下村遺跡からは調査区北側で土坑が1基検出されている。土坑は、一部が現道下へ続くことから詳細は不明であるが、平面形は開口部・底部とも円形で、断面形はフラスコ状を呈する。規模は開口部径が1.1m、底部径が2.1m、深さは1.0mほどである。断面は検出面から15cmほどの深さで径65cmにすぼまり、20cmほどそのまま下がってから底部に向かって広がっていく。この土坑の埋土から縄文土器が出土したことから、縄文時代の遺構と考えられる。

下村I遺跡は下村遺跡の北側に隣接している。下村I遺跡からは中央部付近で陥し穴状遺構が1基検出された。陥し穴状遺構も一部が現道下へ続くことから詳細は不明であるが、平面形は溝状を呈するものと推定される。

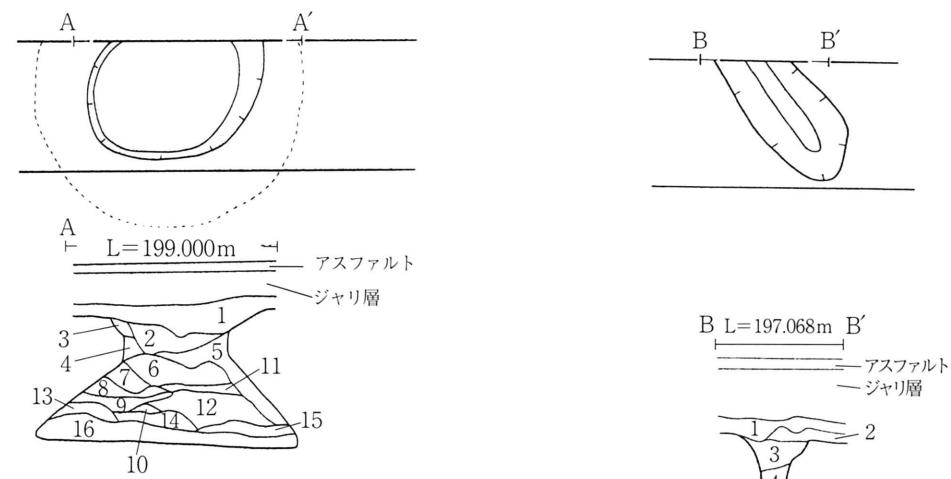
断面形はT字状を呈する。検出した遺構の規模は開口部幅が60cm、底部幅が15cm、深さ85cmである。埋土から少量の縄文土器が出土したことと形状から、時期は縄文時代と推定される。



第31図 下村・下村I遺跡位置図



第32図 下村・下村I遺跡調査区位置図

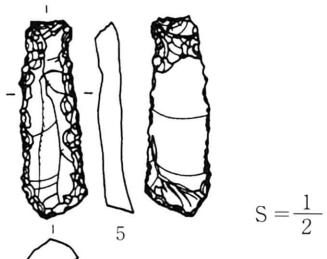


A-A'

1. 10Y R3/4 暗褐色土 シルト かたくしまっている 粘性なし
2. 10Y R6/8 明黄褐色 粘土質 しまっている やや粘性あり
3. 10Y R4/4 褐色土 シルト かたくしまっている 粘性なし
4. 10Y R6/8 明黄褐色土 粘土質 しまっている 暗褐色土を混入する
5. 10Y R5/4 にぶい黄褐色土 シルト 明黄褐色をブロックで混入する
6. 10Y K3/4 暗褐色土 シルト やわらかい 粘性なし 明黄褐色土をブロックで混入する
7. 10Y R5/8 黄褐色土 粘土質 しまっている 暗褐色土を少量混入する
8. 10Y R5/3 にぶい黄褐色土 シルト しまっている
9. 10Y R2/3 黒褐色土 シルト やわらかい
10. 10Y R3/3 暗褐色土 シルト やわらかい
11. 10Y R6/6 明黄褐色土 粘土質 やわらかい
12. 10Y R3/3 暗褐色土 シルト 黄褐色土をブロックで混入する
13. 10Y R6/8 明褐色土 粘土質 やわらかい 暗褐色土をブロックで混入する
14. 10Y R6/8 (明褐色土) と 10Y R4/4 (褐色土) の混合土
15. 10Y R6/6 (暗褐色) シルト やわらかい
16. 10Y R4/4 (褐色土) シルト やわらかい

B-B'

1. 10Y R2/2 黒褐色 シルト かたくしまる 粘性なし、炭化物混入
2. 10Y R4/4 褐色 シルト かたくしまる 粘性なし、遺物・炭化物混入
3. 10Y R4/4 褐色 シルト やわらかい 粘性あり、ロームブロック混入
4. 10Y R4/4 褐色 シルト やわらかい 粘性あり、ロームブロック混入
5. 10Y R4/6 褐色 シルト やわらかい 粘性あり、ロームブロック混入
6. 10Y R4/6 褐色 シルト かたくしまる 粘性あり ロームブロック混入



第33図 下村・下村Ⅰ遺跡遺構図・出土遺物

11 盛岡東警察署等庁舎新築事業関連調査

盛岡城跡（L E 16-0355）

調査期日；平成12年3月1日～10日（8日間）

事業者；岩手県警察本部警務部

所在地；盛岡市内丸66番2

中津川と北上川の合流点付近の浸食段丘上に立地する。現在の盛岡城指定地の東側に隣接し、外曲輪の部分に該当する。今回の調査は、盛岡東警察署等庁舎の建替に伴うもので、遺構の遺存が期待される中庭部分について調査を実施した。

基本層序は、1層：現警察署の中庭造成時の整地層（層厚1m程）、2層：褐色砂礫層（地山）となっている。

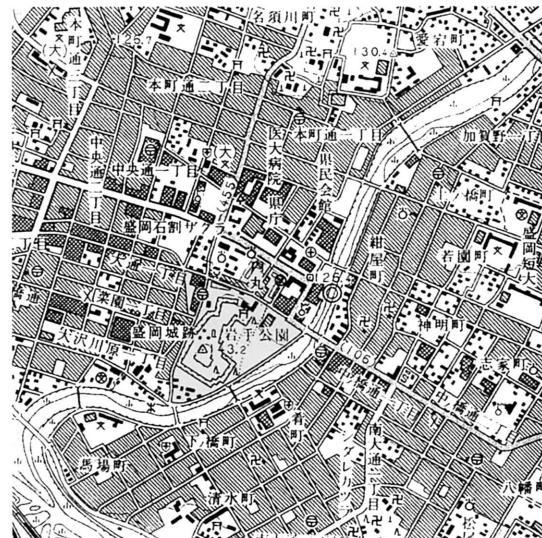
調査の結果、遺構は、近世以降の溝跡1条、石組遺構1基、埋瓶4基が確認された。

溝跡は、幅1.7mで、中津川に平行するように南北方向に伸びている。北側は調査範囲外に続いているようだが、石組遺構より南側には確認できなかった。南に向かうにつれて徐々に深くなっている。埋土には近世陶磁器が含まれていた。石組遺構より古いことは確実であるが、正確な時期については不明である。

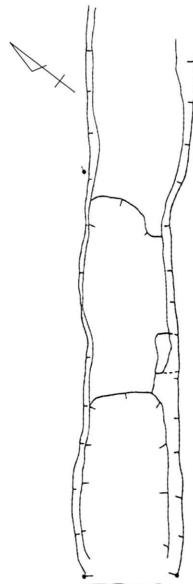
石組遺構は、幅1m程度で、溝状に東西方向に伸び、調査範囲外に続くようである。溝跡に直交し、盛岡城の堀と中津川を結ぶ方向に伸びる。石の組み方は、個々の石の大きさが異なるため、場所によって異なる。西の方で、古い水道管が石の下から出てきたが、周囲は搅乱を受けていたため、水道管との時期の前後関係は不明である。ただし、楔の痕跡から、一部の石は江戸時代に削られたことは確実である。近世～近代の遺構であり、排水路と考えられる。

埋瓶は、径1mほどの瓶を地山を掘って埋設したものである。4基とも上半部が残っていなかった。内部には黄褐色の土が詰まっており、近世以降の便槽と考えられる。

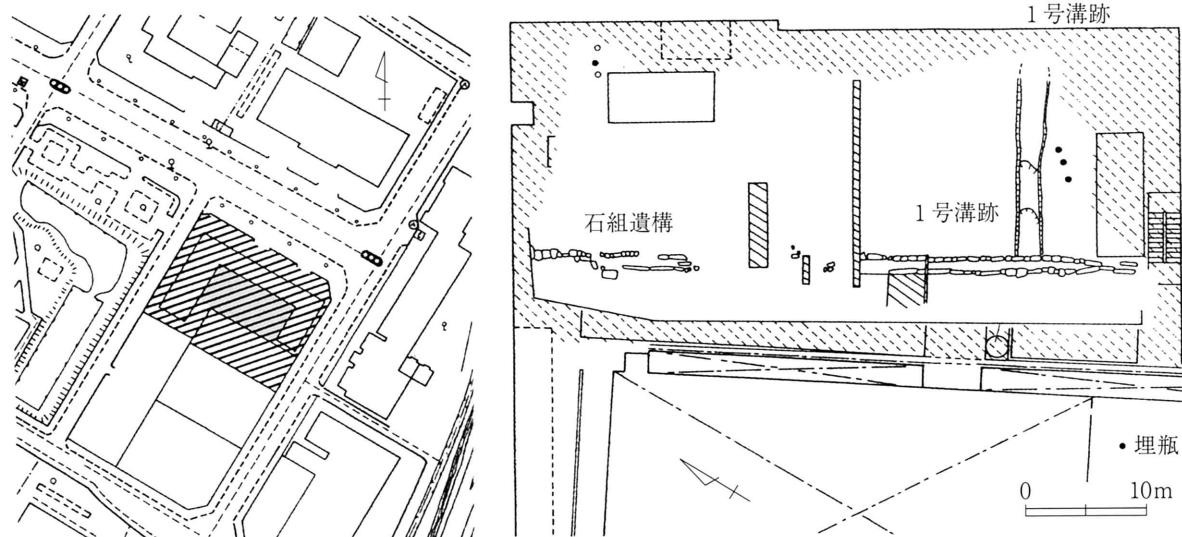
遺物については、陶磁器片・瓦が確認されている。いずれも近世以降のものである。



第34図 盛岡城跡位置図



1号溝跡



第35図 盛岡城跡調査区位置図・遺構配置図

II 試掘調査

1 一関遊水地管理用道路建設事業関連調査

猪岡館跡 (N E 76-2347)

所在地；西磐井郡平泉町長島字須崎

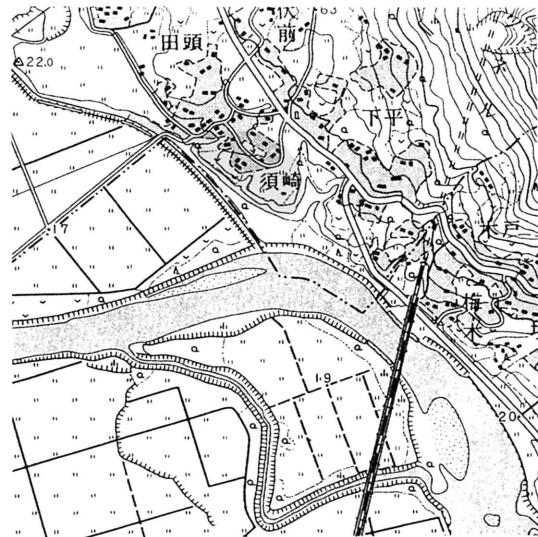
事業者；国土交通省東北地方整備局岩手工事務所

調査期日；平成12年11月14日、

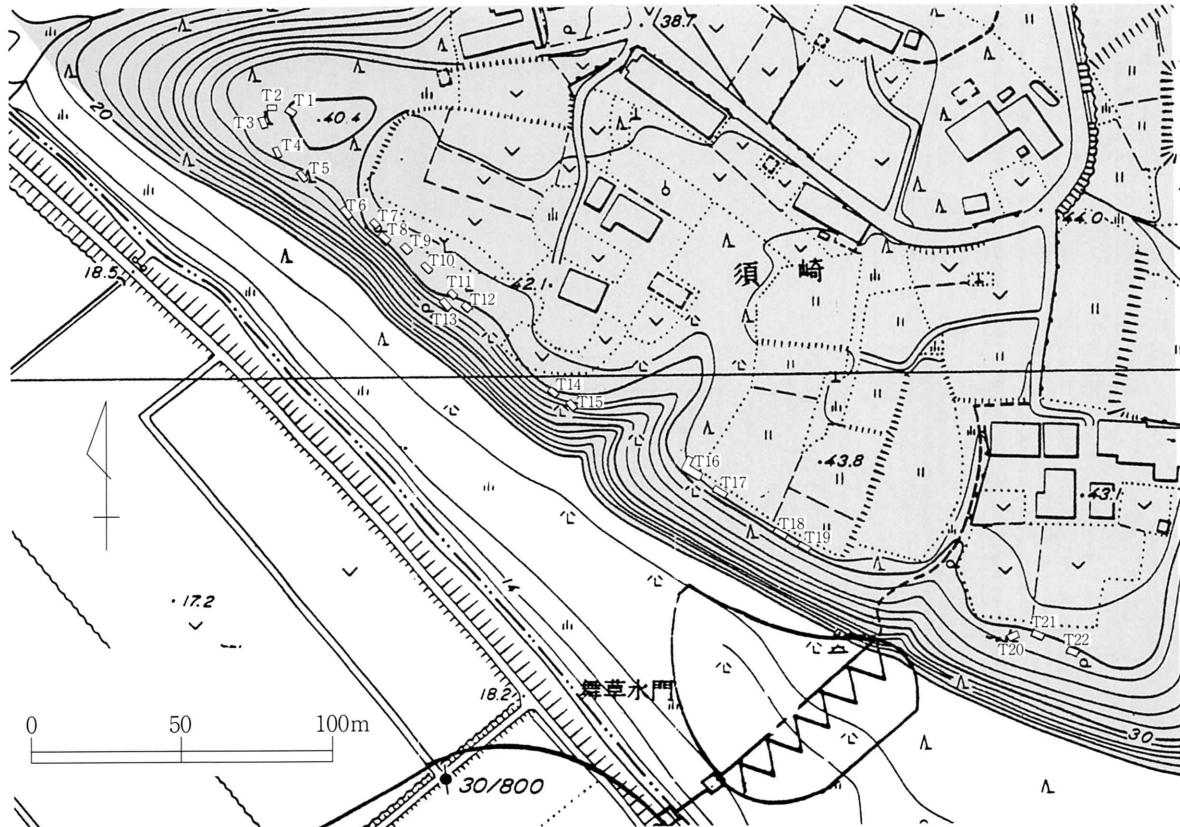
12月11日（2日間）

遺跡は平泉町の東側に位置し、北上川によって形成された段丘の縁に立地している。遺跡の標高は、42m前後で、沖積地との比高は24m程である。『岩手県中世城館跡分布調査報告書』によれば、「猪岡館跡」は北上川に向かって扇状に広がる丘陵に3本の堀があり130×100mの主郭があるとされている。現況は水田と山林であったが、一部未伐採の箇所があったため、2回に分けて試掘調査を実施した。1回目の調査では、樹木伐採中の一部

を除き22本の試掘トレンチを設定した。北側で自然地形を利用した空堀跡を検出した。現地表面から約1.8mの深さがある。また、表土下から密度は低いがほぼ全域にわたって柱穴等の遺構を検出しており、それらについては館跡に伴う建物跡の柱穴の可能性が考えられる。また、T1～5付近では、縄文土器片と剥片を地表で2点採集しており、遺跡内に縄文時代の遺構が存在する可能性が考えられる。2回目の調査では、前回樹木の伐採中で調査できなかった部分について試掘トレンチを4本設定した。いずれのトレンチからも表土直下の地山面から柱穴を確認した。一方段丘の縁に近い部分では、厚さ40cm程の新しい盛土層が認められた。これらについては、現況の水田造成時のものと考えられる。（平成13年度本発掘調査予定）



第36図 猪岡館跡位置図



第37図 猪岡館跡調査区位置図

2 一般国道4号水沢東バイパス建設関連調査

北田Ⅱ遺跡 (N E 17-2038)

所在地；水沢市佐倉河字北田地内

事業者；国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査期日；平成12年5月23日

北田Ⅱ遺跡は、JR東日本東北本線水沢駅の東北東約1.5kmに位置し、北上川に注ぐ支流によって形成された河岸段丘上に立地している。現況は水田である。

今回の調査は水沢東バイパス建設に伴うもので、今回の試掘調査区の西側と南側の水田は、平成12年度に財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが発掘調査を実施している。

調査では、東西方向に幅1.5m、長さ6~12m程のトレンチを21本設定した。(T 1~21)

調査の結果、T 1東端とT 18東端を結んだ線の西側では、表土直下に砂礫層が検出され、河川の氾濫原であった可能性が高い。昨年度の試掘調査及び水沢市教育委員会が付近で行った倉庫建設に伴う確認調査でも旧河道の存在が確認されており、今回のものもその延長と考えられる。この部分からは遺構・遺物とも確認されなかった。

T 1東端とT 18東端を結んだ線の東側では、T 2・3・6・8・11・14・16・21から縄文時代晩期の土器片が出土している。T 2・3では、黒色土の円形の広がりを検出した。土器を伴っており、径3.5m程の規模の縄文時代の堅穴住居跡と推定される。

また、T 11・14・16では、北西-南東方向に幅1m程の黒褐色土の溝状の広がりが確認された。この溝からは遺物は出土せず、時期は不明である。

今回の試掘調査で出土した遺物はすべて縄文土器で、調査区東側を中心に少量出土している。

以上のことから、調査区の東側は、氾濫原の微高地が残存しており、その部分で遺構が検出される可能性が高い。(平成13年度本調査予定)



3 国営いさわ南部農地整備事業

台II遺跡 (N E 34-2247)

所在地；胆沢町小山地内

事業者；東北農政局胆沢猿ヶ石土地改良建設事業所

いさわ南部農地整備事業建設所

調査期日；平成12年11月10日

遺跡は、奥羽山脈から東に向かって伸びるなだらかな扇状地上に立地し、標高は152～154mである。現況は主に水田となっている。

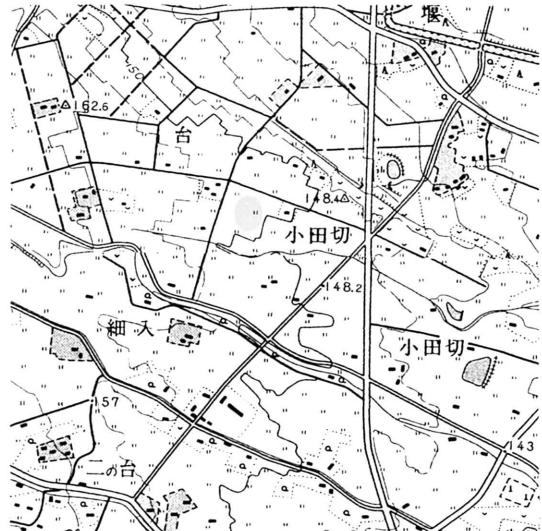
今回の試掘トレーニングは事業予定地内に全面的に入れ、計42カ所設定した。

おおよその基本層序は次のとおりである。

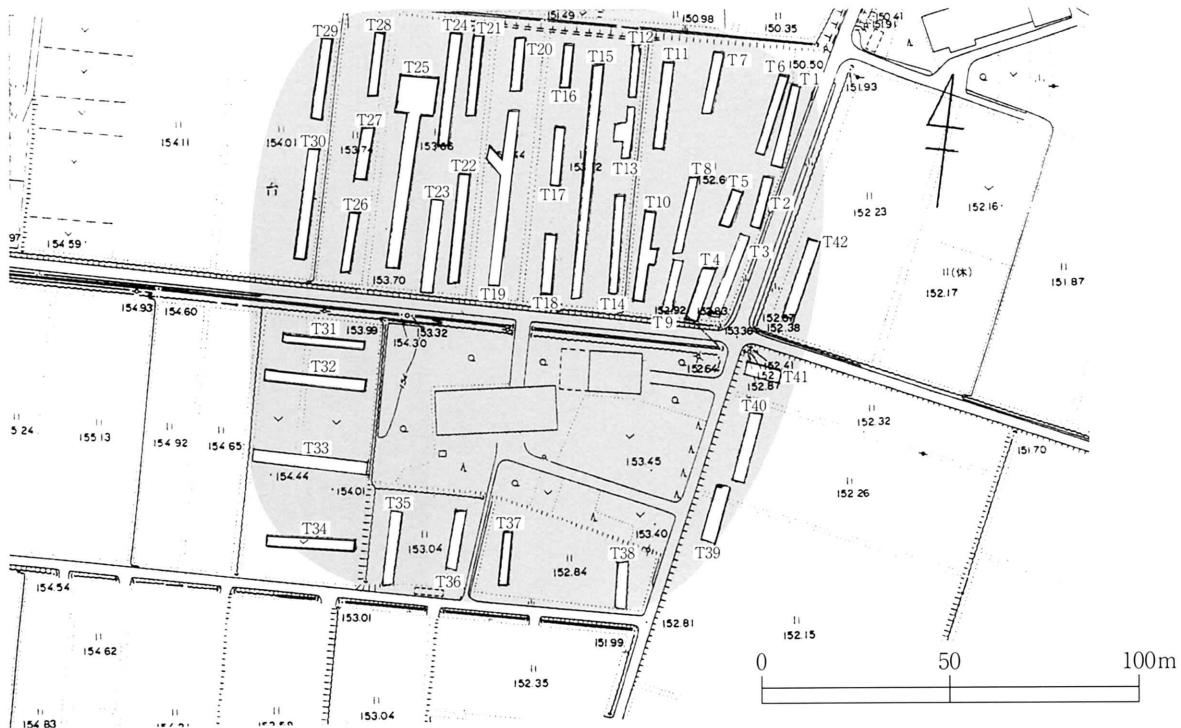
第1層、耕作土(水田土、床土)、層厚20~40cm、第2層、盛土、層厚0~70cm、第3層、黒~黒褐色泥炭、層厚

0～100cmで調査地北側の旧沢跡部分で確認、第4層、暗褐色シルト、層厚0～20cm、自然堆積層、第5層、黄褐色土、遺構検出面、層厚不明である。第6層、明黄褐色土、層厚不明となる。

その結果、陥し穴状遺構7基、土坑1基、円形周溝1基が発見された。T33では土坑1基が発見された。平面形は楕円形で、規模は 1.8×0.8 mである。中央部では焼土が見られる。陥し穴状遺構はT3、10、13、19、25、32で発見されている。埋土は黒色シルトを主体としている。遺構の上部は削平を受けていると考えられた。配置に特に規則性は見られないが、北側の沢部分を避けていると推測できた。円形周溝はT25で発見され、溝は幅0.4m、直径2.5mの大きさである。埋土の様相はT33の土坑と類似している。遺構密度は高くないが、遺跡のほぼ全域に広がることが確認された。なお、今回の調査で、遺物は全く出土しなかった。



第40図 台II遺跡位置図



第41図 台II遺跡調査区位置図

4 国営いさわ南部農地整備事業

稔橋遺跡 (N E 34-2288)

所在地；胆沢町小山地内

事業者；東北農政局胆沢猿ヶ石土地改良建設事業所

いさわ南部農地整備事業建設所

調査期日；平成12年11月16日

遺跡は、奥羽山脈から東に向かって伸びるなだらかな扇状地上に立地し、標高は124～143mである。現況は主に水田となっている。遺跡の中央部を原川水路が流れている。

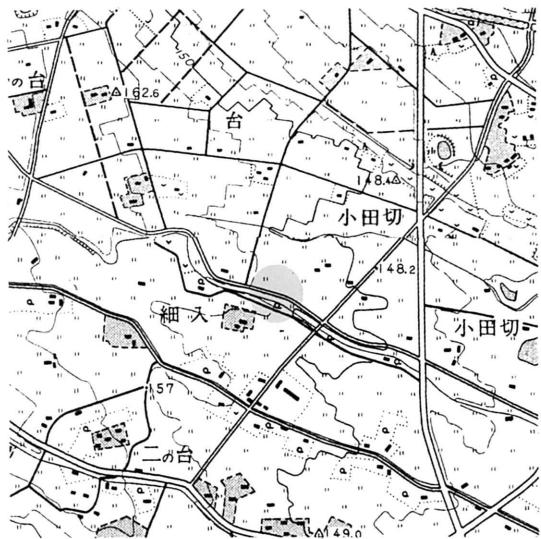
今回の試掘トレンチは事業予定地内に全面的に入れ、計37カ所設定した。

おおよその基本層序は次のとおりである。

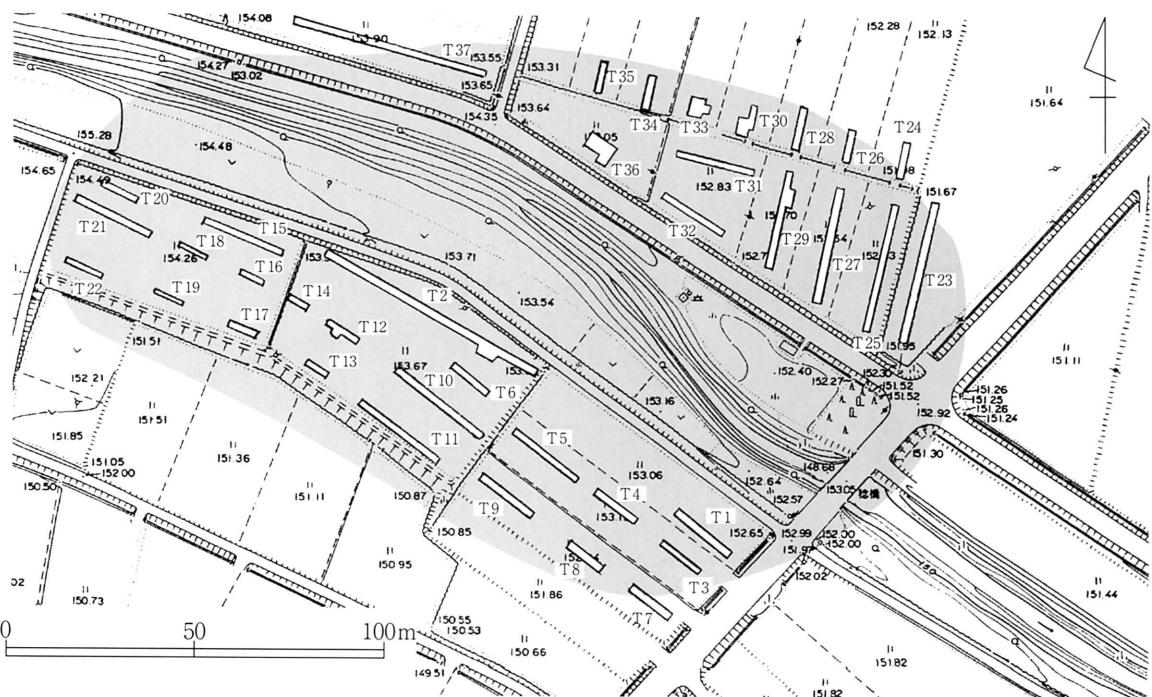
第1層、耕作土（水田土、床土）、層厚20~40cm、第2層、盛土、層厚0~70cm、第3層、黒、黒褐色泥炭、層厚0~100cmで調査地南側の旧沢跡部分で確認、第4層、暗褐色シルト、層厚0~20cm、自然堆積層、第5層、黄褐色土、遺構検出面、層厚不明である。第6層、明黄褐色土、層厚不明となる。

その結果、陥し穴状遺構3基、土坑4基が発見された。T1では礫を伴う土坑1基、T2では土坑、T12、23、30では陥穴、T33、35では土坑が発見されている。土坑は橢円形を基調とするものが多い。陥し穴状遺構は長さ3.5m、幅0.35mで、埋土は黒色シルトを主体としている。いずれの遺構も上部が削平を受けているものと推定された。

遺物は、T 1 から石器 1 点、T 2 、19 から縄文時代晚期の土器が出土した。また、T 1 、4 、5 の道路より北側の水路沿いの畑で、石範を表採した。



第42図 稔橋遺跡位置図



第43図 稔橋遺跡調査区位置図

5 国営いさわ南部農地整備事業

小田切遺跡（N E 34-2397）

所在地；胆沢町小山地内

事業者；東北農政局胆沢猿ヶ石土地改良建設事業所

いさわ南部農地整備事業建設所

調査期日；平成12年11月6日～9日（4日間）

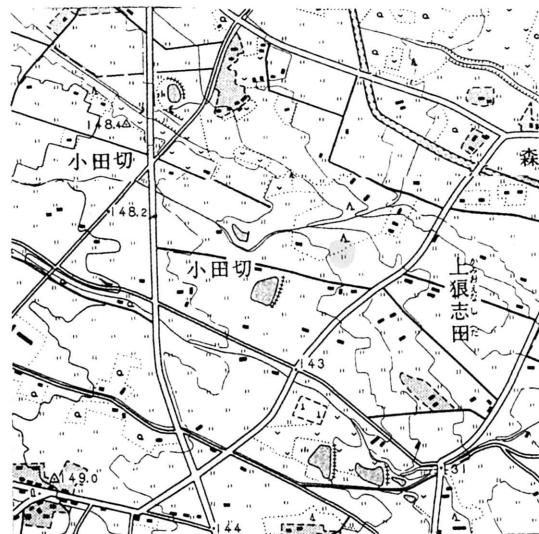
遺跡は、奥羽山脈から東に向かって伸びるなだらかな丘陵上に立地し、標高は124～143mである。現況は主に水田となっており、既に地形改変を受けている。

今回の試掘トレンチは事業予定地内の水路、道路予定期、削平される予定箇所を中心に全面的に入れ、計74カ所設定した。

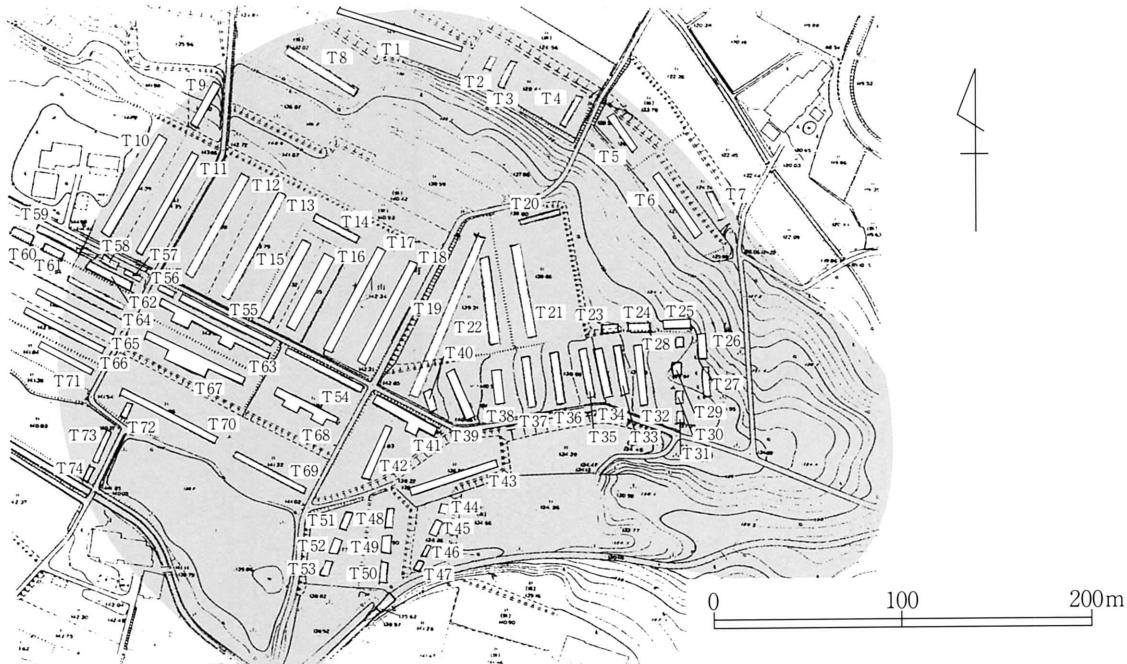
おおよその基本層序は次のとおりである（T5）。第1層、耕作土、層厚18cm、第2層、黒褐色土、層厚12cm、第3層、茶褐色土、層厚10cm、第4層、黒褐色土、層厚28cm、第5層、黄褐色粘土、層厚16cm以上となる。

その結果、陥し穴状遺構3基、土坑1基、焼土1基が発見された。遺物の出土は全くなかった。トレンチ35、38、69では陥し穴状遺構がそれぞれ1基づつ発見された。T35の陥し穴状遺構は長さ3.1m、幅0.4m、T38の陥し穴状遺構は長さ1.2m、幅0.3m、T69の陥し穴状遺構は長さ2m、幅0.6mの大きさである。T63では焼土が1基発見された。T69では土坑1基が発見された。規模は1.6×0.65mで、楕円形を基調とする。

のことから、この遺跡付近は、縄文時代に狩猟の場、生活の場として利用されたことが判明した。住居跡が発見されなかったこと、遺物の出土がないことから、当時の基幹集落ではないと推定できる。常時滞在して生活するような利用ではなく、比較的の利用密度が低い遺構が残された遺跡と判断できた。既に行われた開田によって遺構が破壊された可能性も高く、今回の試掘調査範囲外に、多数の陥し穴遺構等の遺構が存在するものと考えられる。



第44図 小田切遺跡位置図



第45図 小田切遺跡調査区位置図

6 国営いさわ南部農地整備事業関連調査

五反町遺跡（N E44-0117）

所在地；胆沢郡胆沢町小山地内

事業者；東北農政局いさわ南部農地整備事業建設所

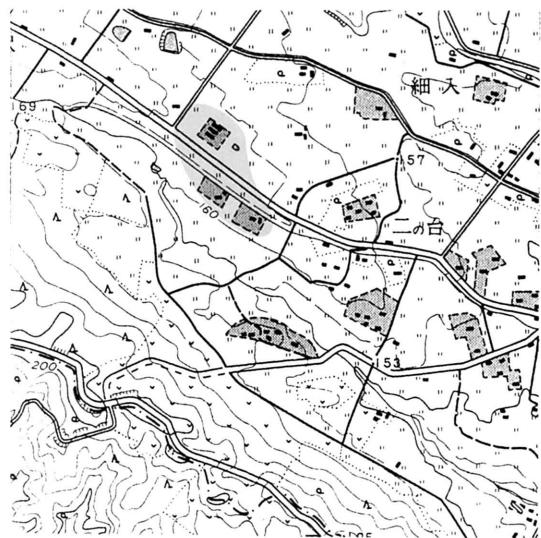
調査期日；平成12年11月13日～15日（3日間）

本遺跡は、胆沢町役場の南東約6km、胆沢川によって形成された胆沢扇状地の段丘上に立地する。現況は、水田・宅地・牧草地等となっている。標高は165m～158mを測り、町道の北側が平坦面、南側は沢に向かって緩やかに傾斜する面となっている。今回の試掘調査では、国営いさわ南部農地整備事業に伴うもので、この他2遺跡にも同時に試掘調査を行っている。ここ五反町遺跡には全部で36本の試掘トレンチを設定した。

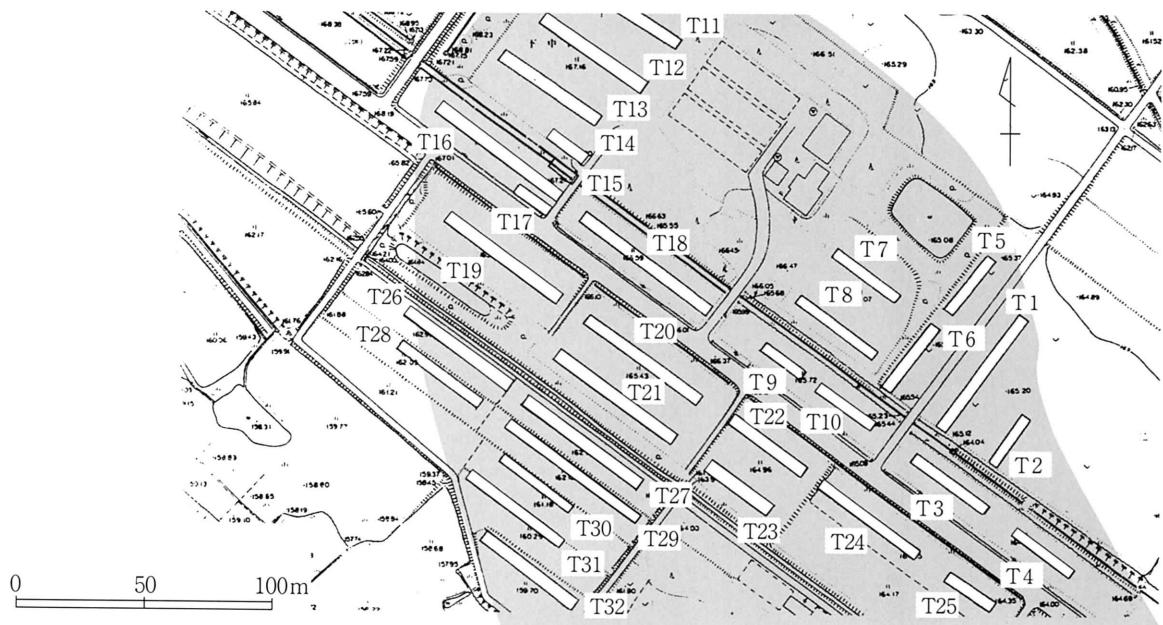
その結果、ほとんどのトレンチにおいて、水田耕作土層の下が直接黄褐色ローム層（地山）となる状況であり、調査区の大半が開田時の地形改変を受けていることが明らかであった。基本層序は、以下のとおりである。第1層：茶褐色砂混シルト（耕作土）、第2層：暗褐色シルト（漸移層）、第3層：黄褐色ローム質シルト（地山）

但し、T15～T18の範囲については旧地形を残しており、遺構・遺物を確認している。T16からは縄文時代の竪穴住居跡1棟、陥し穴状遺構2基が検出された。（検出面、地表から30cm）T15・T17からも住居跡が各1棟、T18から陥し穴状遺構1基が検出された。この範囲からは表土及び遺構検出面から縄文時代中期の土器片が多数出土した。

一方、町道の南側、斜面部分のT27からは、黒暗褐色土の厚い堆積とともに焼土が1基検出されており（検出面は地表から40cm）、これについては竪穴住居跡の地床炉が残存したものと考えられるが、やはり上部は削平されているものと考えられる。（平成13年度生涯学習文化課本調査予定）



第46図 五反町遺跡位置図



第47図 五反町遺跡調査区位置図

7 一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業

仁昌寺遺跡（J F 30-2804）

所在地；二戸郡一戸町大字小鳥谷字仁昌寺33-2外
事業者；建設省東北地方建設局岩手工事務所

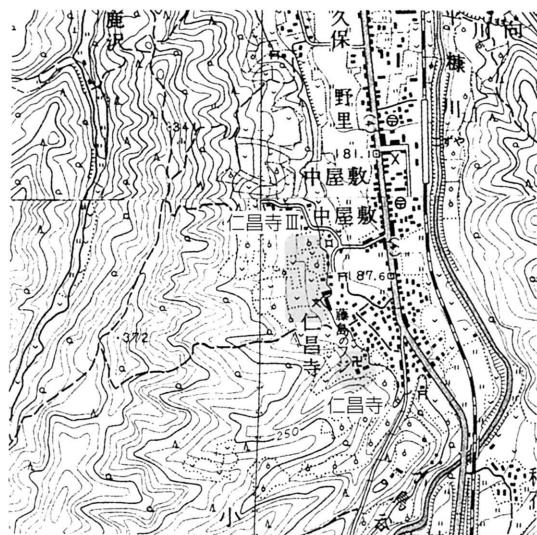
調査期日；平成12年6月14日

遺跡は、馬淵川と小繫川の合流点付近に広がる平地に張り出す丘陵上及び緩斜面に立地する。現況は宅地と畠地で、標高は197~210mを測る。遺跡内には段状の畠地が顕著に見られることから、若干の地形改変が行われていると思われる。調査は、幅1.5m程のトレンチを14箇所入れた（T1~T14）。

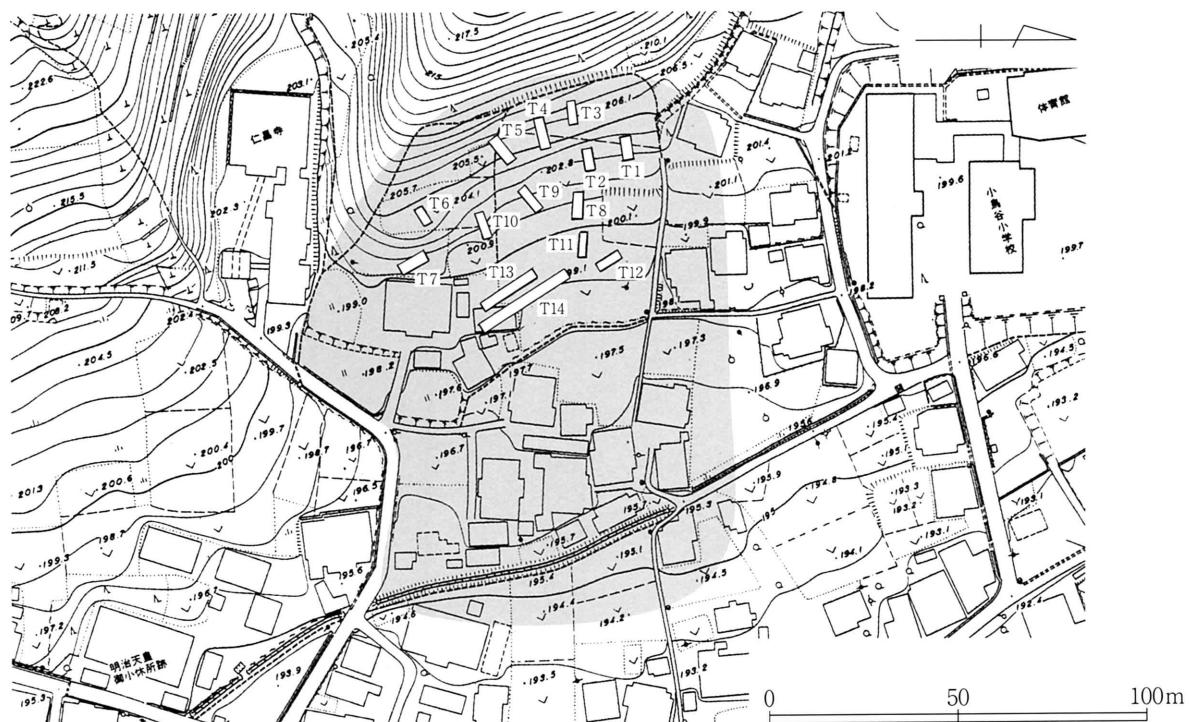
遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土・盛土）層厚15~40cm、第2層：黒褐色土（遺物包含層）層厚20~

50cm、局所的に同層上位～中位に十和田a火山灰が見られる、第3層：暗褐色土層厚20~30cm、第4層：黄褐色土（地山）層厚不明、八戸火山灰相当である。

その結果、調査地中央部に入れたT7・T11では縄文～弥生時代の堅穴住居跡と思われるプランを検出、T6・T14では古代の住居跡と思われるプランを検出（十和田a火山灰の広がりにより判断、土師器等は出土していない）、T9では柱穴状の小土坑を検出した。なお、T14は十和田a火山灰が10m以上の広範囲に層厚10cm程で水平気味に堆積する（なんらかの遺構あるいは埋没沢か）。調査地北端に入れたT12は、現地表面から地山まで2m以上下がることから埋没沢が存在する可能性が高い。斜面上方域に入れたT3・T4・T5は、表土直下で地山が露出することから、斜面上方一帯は旧地形が削平を受けていると判断される。遺物は、T11で弥生土器、T13・T14で縄文土器が第2層黒褐色土より出土した。



第48図 仁昌寺遺跡位置図



第49図 仁昌寺遺跡調査区位置図

8 一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業

仁昌寺Ⅲ遺跡（JF30-2094）

所在地；二戸郡一戸町大字小鳥谷字仁昌寺53-6外

事業者；建設省東北地方建設局岩手工事事務所

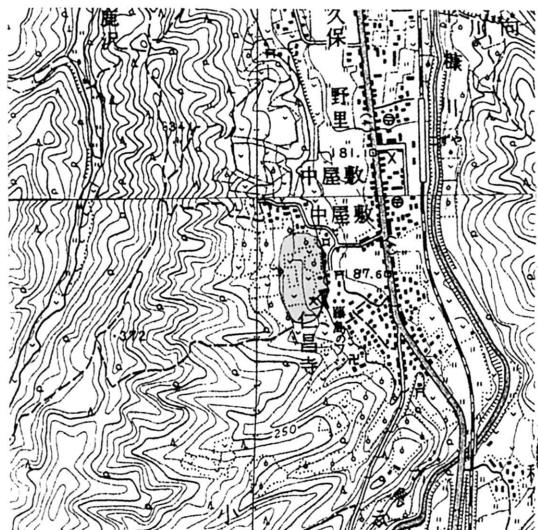
調査期日；平成12年6月15日

遺跡は、馬淵川と小繁川の合流点付近に広がる平地に張り出す丘陵裾緩斜面に立地している。現況は畑地と果樹園で、標高は207~221mを測る。一部人工的に切り出され、段丘状を呈する部分もある。調査は、幅1.5m程度のトレンチを17箇所入れた（T1~T17）。

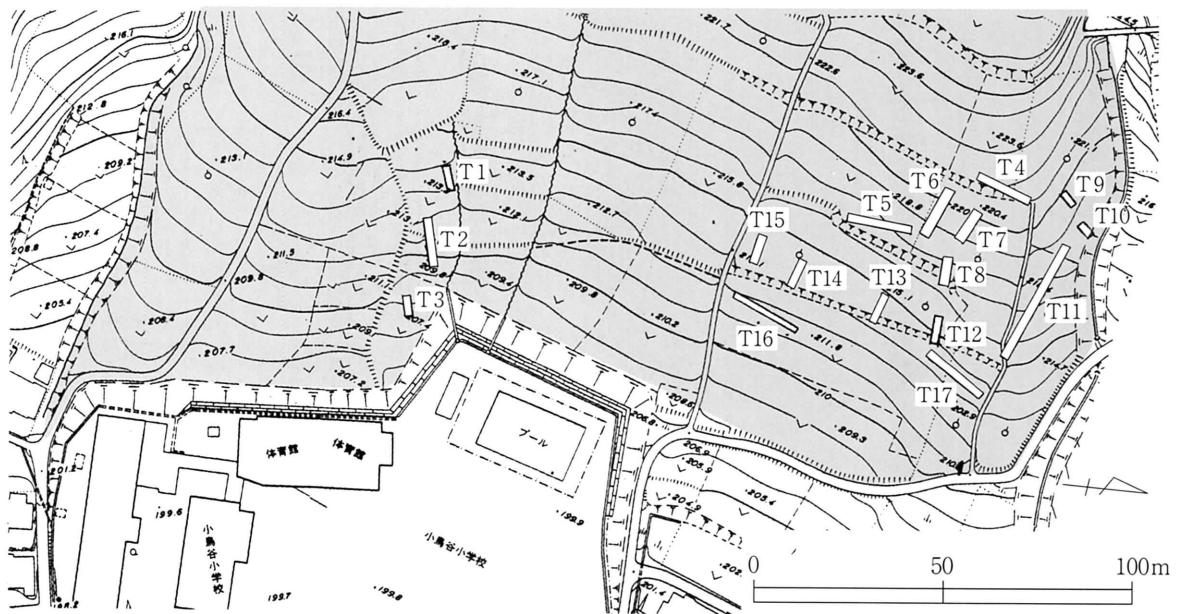
遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土・盛土）層厚15~40cm、第2層：黒褐色土（遺物包含層）層厚20~50cm、第3層：暗褐色土層厚20~30cm、局所的に中揮火

山灰及び南部浮石粒が微量混入する、第4層：褐色土（漸移層）層厚10cm、第5層：黄褐色土（地山）層厚不明、八戸火山灰相当である。

その結果、T4で土坑3基が第5層地山で検出され、T5で竪穴住居跡？2棟、T8で竪穴住居跡の柱穴である可能性がある柱穴状小土坑2基が検出された。また、T9からは旧沢跡が検出された（深さは約190cm）。T7・T15・T16は、表土直下で地山が露出することから、旧地形が削平を受けていると判断される。遺物は、T4・T5・T12・T13で縄文土器が2層黒褐色土より、T14で風倒木痕から剥片石器1点が出土した。



第50図 仁昌寺Ⅲ遺跡位置図



第51図 仁昌寺Ⅲ遺跡調査区位置図

9 一般国道45号普代バイパス建設事業関連調査

力持遺跡（J G 92-0137）

所在地；下閉伊郡普代村第16地割字天押坂地内
事業者；国土交通省東北地方整備局

三陸国道工事事務所

調査期日；平成12年6月26日・11月29日

力持遺跡は、三陸鉄道北リアス線白井海岸駅の南約1kmに位置し、力持川左岸に形成された河岸段丘上に立地している。標高は60m前後を測り、現況は荒れ地・畠地である。

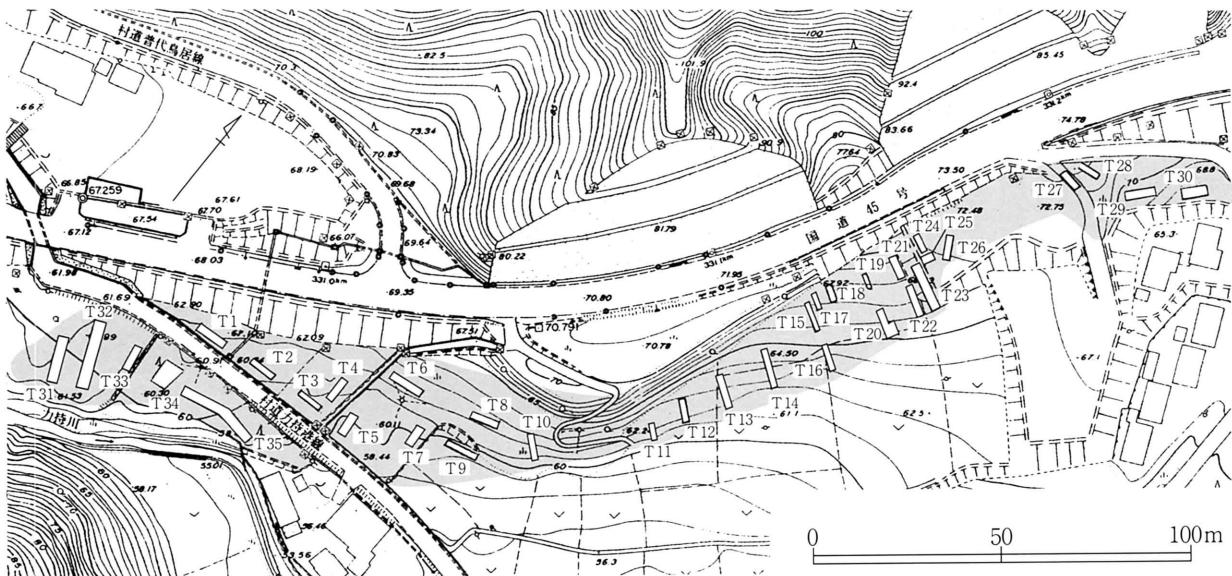
調査では、事業予定区域内の任意の地点に幅2m、長さ3~8mのトレンチを35本設定した（T1~T35）。T1~T30は11月に調査したもので、残りのT31~T35は6月に調査したものである。

調査の結果、6月に調査した調査区南側の地点では、T34・35の黒褐色土中から縄文土器（後～晩期）が出土し、遺構あるいは遺物包含層が存在するものと推定される。また、T33では土坑と思われる遺構が検出されている。T31・32については、表土直下に地山の褐色砂層があることから、遺物包含層は既に削平されているものと考えられる。11月に試掘調査を行った地点では、調査区北側のT27~30では削平を受けており、遺構・遺物とも確認されなかった。なお、T26とT27の間の地点は4mを超える盛土がなされており、T26で遺物が出土しなかったことと国道に近い部分の表土直下に地山が露出している部分があることから遺構の存在する可能性は低いと思われる。調査区南側のT1・2では厚い黒褐色土中から縄文土器が出土したが、ガラス等のゴミも含まれており、攪乱を受けている可能性が高い。T5・6・21・22では、住居跡と思われる暗褐色土の広がりが確認されている。特にT6では2基の焼土がほぼ同じ高さの面で検出されており、縄文時代の大型の住居跡の可能性もある。T7・11・16では、黒褐色土から多量の土器が出土した。特にT11では表土直下で多数の土器が出土しており、住居跡の埋土あるいは土器の捨て場の可能性が高い。

（平成13年度本調査予定）



第52図 力持遺跡位置図



第53図 力持遺跡調査区位置図

10 一般国道340号道路改築事業

永田Ⅲ遺跡（L E 29-0161）

所在地；新里村大字刈屋地内

事業者；宮古地方振興局土木部

調査期日；平成12年12月18日～19日（2日間）

遺跡は、刈屋川右岸に形成された東向きの河岸段丘上に立地し、標高は160m程である。現況は水田、荒れ地となっている。

事業予定地内で遺跡は大きくA、Bの2地区に分けることが可能である。

B地区は、丘陵と斜面からなり、現況は山林、畑となっている。試掘調査の結果、遺構、遺物とも発見されなかった。B区はA区の南東に位置する。

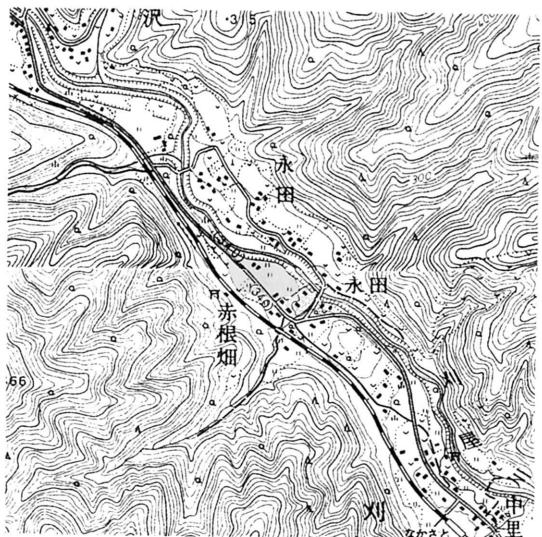
B地区の基本層位は次のようになっている。第1層、表土、層厚15～30cm、第2層、黄褐色土、0～10cm、第3層、砂礫層、層厚不明である。

A地区の基本層位は次のようになっている。第1層、表土、層厚20cm、第2層、暗褐色シルト質土、層厚30～40cm、第3層、褐色シルト質土、層厚0～25cm、遺物包含層であるが包含量は少ない、縄文時代晚期に属する、第4層、黒褐色砂質シルト土、層厚0～10cm、第5層、褐色砂質土、層厚0～15cm、第6層、黒褐色砂質土、0～10cm、第7層、緑灰色砂質土、層厚不明となる。遺構検出面は第3層上面、第7層上面の2面が確認されている。

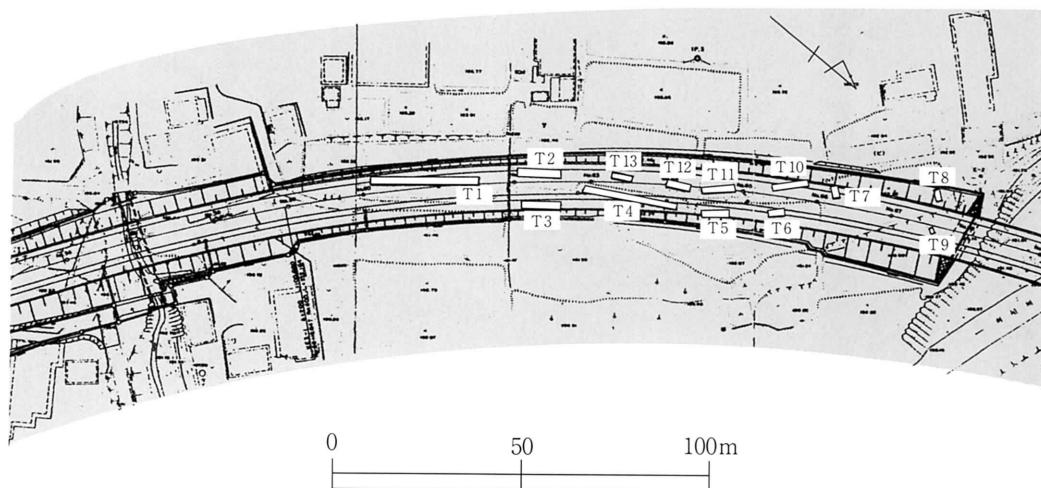
A地区では、T2、4、12で焼土、T2、3で土坑、T11で溝跡、T4、13において炭化物集中区が発見されている。

焼土は直径0.3cm程度のものが多い。土坑は直径0.6～0.7mで円形プランを基調とする。第3、7層上面で確認されている。溝状遺構は幅0.5mで、南東方向の調査区外に延びる見込みである。炭化物集中区は第3層上面で確認された。遺物はT2、4、7、12で出土している。いずれも縄文晚期のものである。

以上の結果から、少なくとも遺構確認面が2面あり、一つは縄文時代晚期、もう一つは晩期以前と判断できる。



第54図 永田Ⅲ遺跡位置図



第55図 永田Ⅲ遺跡調査区位置図

11 胆沢ダム建設事業関連調査

市野々遺跡（N E 22-2116）

所在地；胆沢郡胆沢町若柳字市野々地内

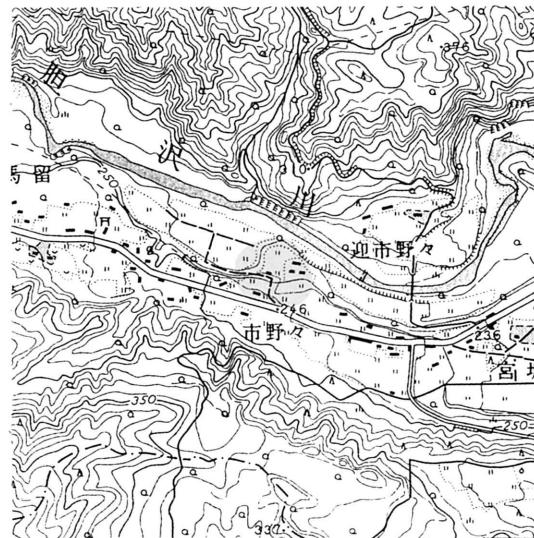
事業者；国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所

調査期日；平成12年9月5日、

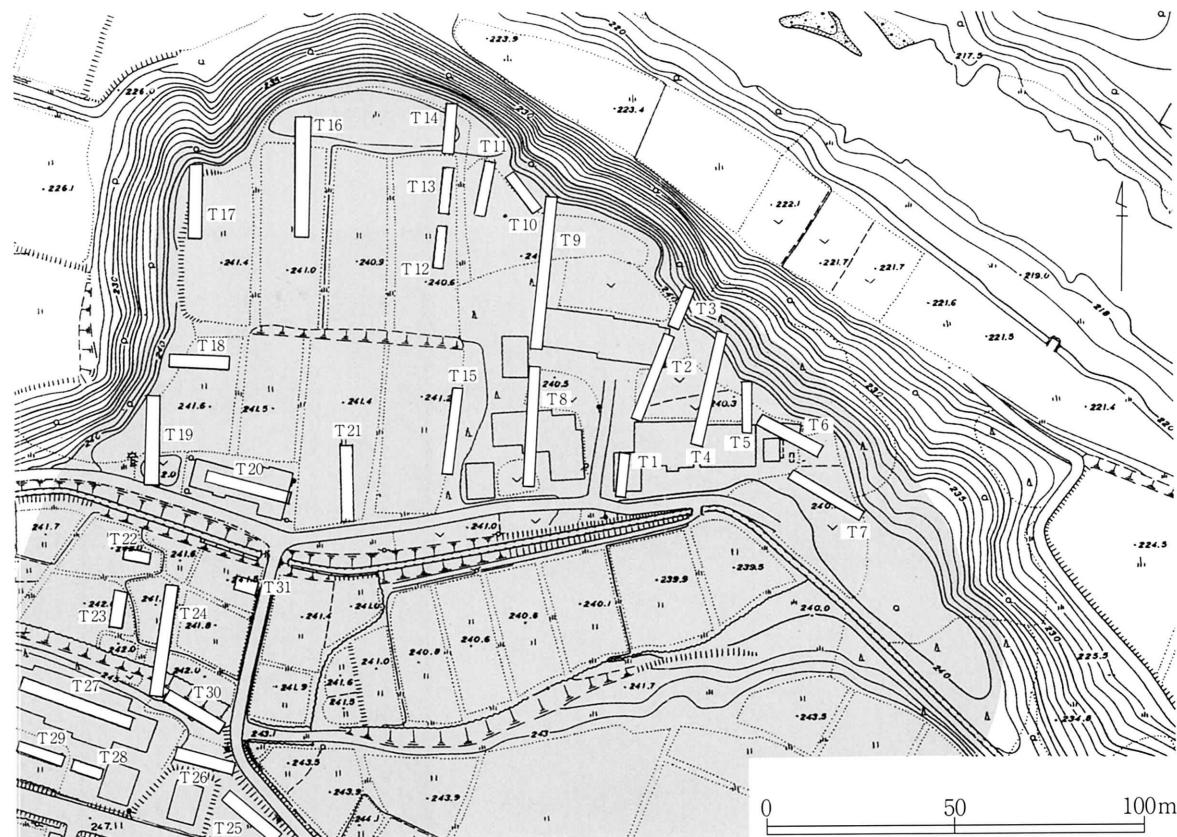
12月25日～12月26日（3日間）

遺跡は胆沢川右岸の河岸段丘の平坦面に位置し、調査地の標高は240～247mである。現況は宅地・休耕田・畑地である。事業予定地の全域に31本の試掘トレンチを設定した（T 1～31）。調査地南側については段丘基盤層の砂礫層が露出していた。第1回目の調査では、事業予定地の東半部の調査を行った。検出した土坑類は径1～2mの円形のものが主体である。柱穴状土坑については、各トレンチから確認しており、径は40cm前後のものが主体であったが、径が60cmを超えるものもいくらか

あった。柱痕跡は明確ではなかったが、埋土に灰白色火山灰ブロックと土師器片が含まれていた。これらについては、平安時代の掘立柱建物跡の柱穴群と考えられる。第2回目は西半部を対象に行い、T 16～19で縄文時代の竪穴住居跡と柱穴群、陥し穴状遺構を検出した。T 16～17で確認した竪穴住居跡の埋土は、黄褐色シルトに暗褐色土ブロックと炭化物粒を少量含むものであり、縄文時代早期の土器片が伴っていた。一方、T 18・19の竪穴住居跡は晩期の土器片が伴っていた。低湿地部分では、1m近い黒褐色～青灰色粘土層があった。国道沿いの標高の高い部分に設定したT 25～31では、耕作土や盛土層の直下が地山ローム面となつており、宅地造成や開田時の削平が推測された。（平成13年度本発掘調査予定）



第56図 市野々遺跡位置図



第57図 市野々遺跡調査区位置図

12 東北新幹線建設事業

秋浦 I 遺跡

所在地；岩手町大字江刈第6地割字入口地内

事業者；日本鉄道建設公団盛岡支社

調査期日；平成12年4月13日

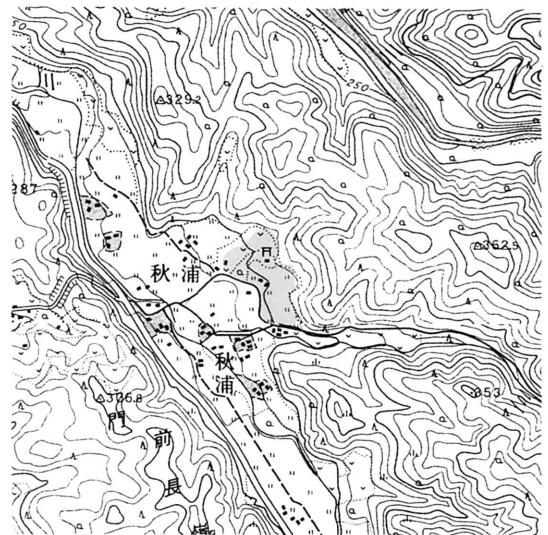
遺跡のある岩手町川口地区は、岩手町の南端で玉山村との境近くに位置している。吉館川右岸の沖積地に接する南斜面に立地している。現況は畑となっているが、遺跡の中央部はすでに、新幹線用地となり、工事が進んでいる。

今回の試掘は、新たに工事用地となった追加箇所内の埋蔵文化財の有無を確認するものである。予定地内に3カ所のトレンチを設定した。追加箇所はA・B・C区

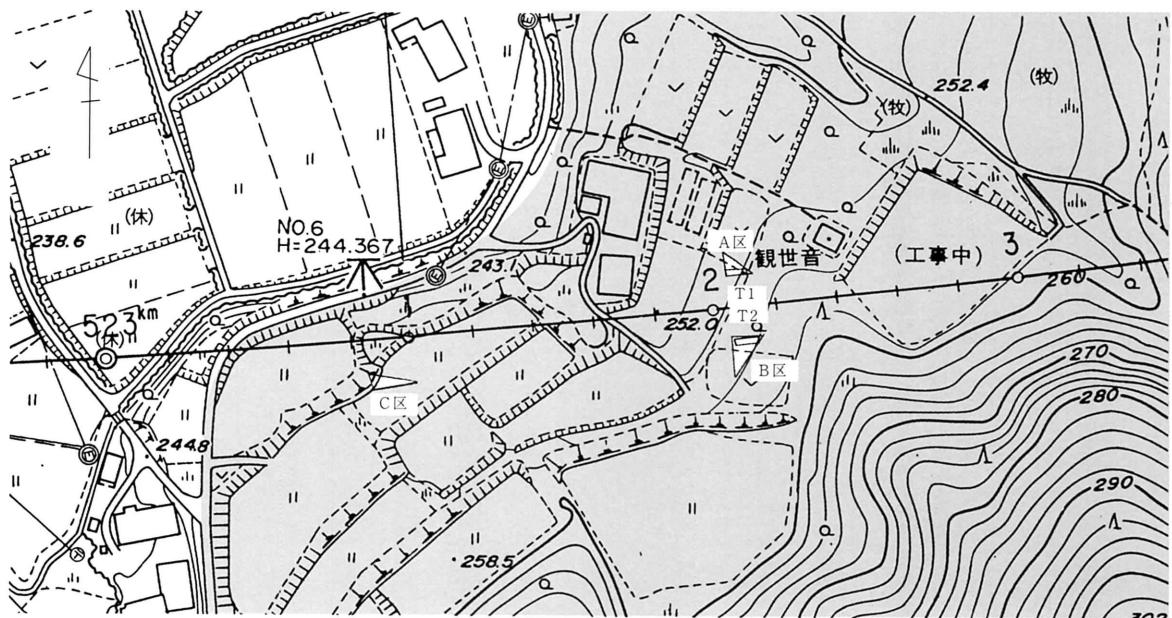
に分けられる。A・B区はC区より標高が高い場所となっており、畑として利用されていた。A・B区にトレンチを各1本づつ入れ、遺構の有無を確認した。その結果、A区では、過去の水田造成時に削平を受け、遺構、遺物は確認できなかった。B区は第1層、表土、層厚25cm、第2層、茶褐色土、層厚35cm、第3層、黒褐色土、層厚45cmの層序が確認できた。第3層直下から直径55cmの焼土1基が確認された。遺物は縄文土器が数点出土している。

C区は現況が水田である。隣接する箇所が以前、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより発掘調査され、多量の遺構、遺物が出土しており、その結果から試掘調査を実施せず本発掘調査することにした。この時の調査では、縄文時代、前期、中期を中心とする夥しい量の遺物が出土した。土器、石器、土製品、石製品等豊富な内容の遺物が確認されている。

調査の結果をまとめると、A区は調査なし、B、C区は発掘調査が必要な範囲とすることができる。この調査は岩手町教育委員会が実施することとなった。



第58図 秋浦 I 遺跡位置図



第59図 秋浦 I 遺跡調査区位置図

13 北上川上流改修砂鉄川直轄床上浸水対策特別緊急事業

河崎の柵擬定地遺跡（OE 09-1099）

所在地；川崎村字門崎地内

事業者；建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査日；平成12年12月8日

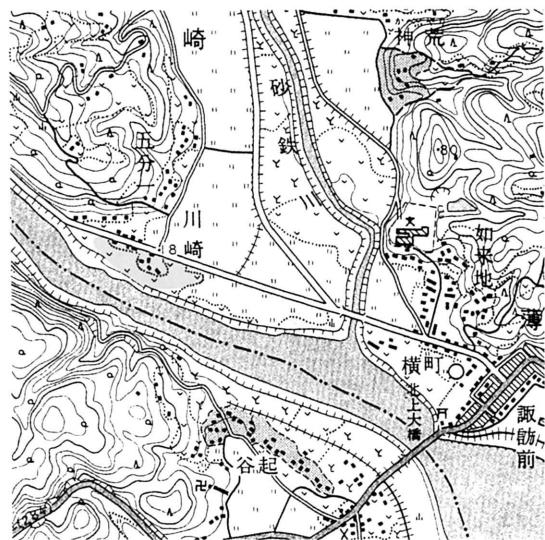
遺跡は、北上川左岸の河岸段丘縁に立地し、現況は畑・住宅などで、標高は約15~19mを測る。調査は、事業予定地部分に長さ6~30m、幅約1.8mで15本のトレンチを設定した。

遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土等）層厚20~50cm、第2層：褐色砂質土層厚50~170cm以上、局所的に十和田a火山灰をブロック状に含む、第3層：暗褐

色砂質シルト層厚0~70cm、局所的に土器・炭化物を含む、第4層：褐色砂質土層厚不明、2層に類似した土質である。

調査の結果、T9で溝跡1条（十和田aに入る）を、T12で竪穴住居跡1棟と土坑1基を、T13で溝跡1条（十和田aに入る）を検出した。遺物は、T4・T5から縄文土器片（晚期あるいは弥生土器）を、T7から須恵器片を、T12の土坑からは土師器が出土した。なお、T9付近の東側の畑から白磁四耳壺と思われる破片を表採した。T1~3・T8・T11の西部（北上川側で斜面下方となる）からは、遺構・遺物とともに検出されなかった。なお、県道を挟む東側の飛び地に入れたT14~15からは、遺構・遺物とともに検出されなかった。

上述のことから、北上川に近くなるにつれて遺構・遺物が希薄になり（標高約17mより下）、県道に近くなるにつれて遺構及び遺物包含層が残存する（標高約18mより上）ものと推定される。



第60図 河崎の柵擬定地遺跡位置図



第61図 河崎の柵擬定地遺跡調査区位置図

14 主要地方道盛岡和賀線道路改築事業関連調査

飯岡林崎Ⅱ遺跡（L E26-1005）

調査期日；平成12年3月8日、4月12日、27日、
5月25日（4日間）

事業者；盛岡地方振興局土木部

所在地；盛岡市下飯岡字新田

遺跡は、盛岡南インターの北西約4kmのところに位置し、零石川によって形成された沖積平野上の微高地に立地する。標高は125m前後を測り、現況は、水田である。今回の調査は、遺跡内を南北に走る主要地方道盛岡和賀線道路改築事業のために実施した。なお、今回の調査区に隣接する地域では数年前に県営ほ場整備事業が実施されている。この時の確認調査では、須恵器、土師器、円面硯などの平安時代の遺物と竪穴住居跡などが確認されており、現地は盛土保存されている。そのため、現況では、旧地形をはっきりと確認することはできない。

基本層序は1層：耕作土（40~50cm）、2層：暗褐色土（20~25cm）、3層：黄褐色シルト土（地山）であるが、位置によって層厚等が著しく異なっている。

調査の結果、T1、T2、T9、T28において竪穴住居跡が6棟、T4、T27、T28において溝跡が3条、T2、T5、T9、T13、T14、T23、T24、T26、T28において柱穴が10基以上、T6、T9において土坑3基がそれぞれ検出された。T6の土坑とT9の竪穴住居跡、T26の方形状の柱穴、T28の竪穴住居跡、土坑、溝からは土師器片・須恵器片が伴出しており、平安時代頃の遺構と推定される。なお、T28の溝跡については、黒色土の下層にある砂層からも土師器等の遺物が確認されている。

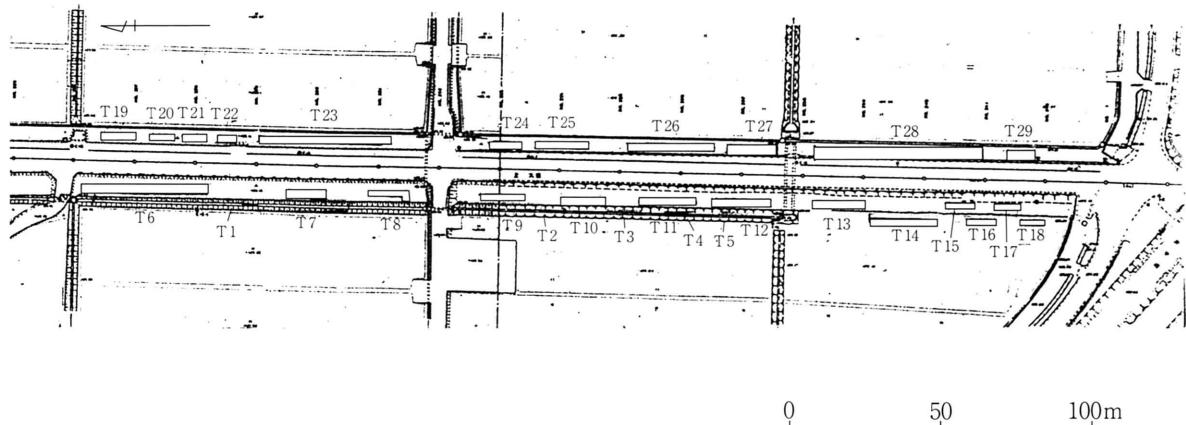
この他に、T6、T14、T23でも土師器・須恵器の出土が確認されている。

T15~T22については、T14までと比べて著しく黒色土が深く入っており、かつ青灰色土も確認されることから、旧河道あるいは湿地状を呈していた可能性が高いと思われる。

T29についても、遺構確認面の土層堆積が不安定であること、黒色土の下層に灰色粘土層があることなどから、旧河川の影響を受けているものと思われる。（平成13年度本調査予定）



第62図 飯岡林崎Ⅱ遺跡位置図



第63図 飯岡林崎Ⅱ遺跡調査区位置図

15 主要地方道盛岡和賀線道路改築事業関連調査

新井田Ⅱ遺跡（L E26-2013）

所在地；盛岡市羽場14地割～13地割

事業者；盛岡地方振興局土木部

調査期日；平成12年6月30日

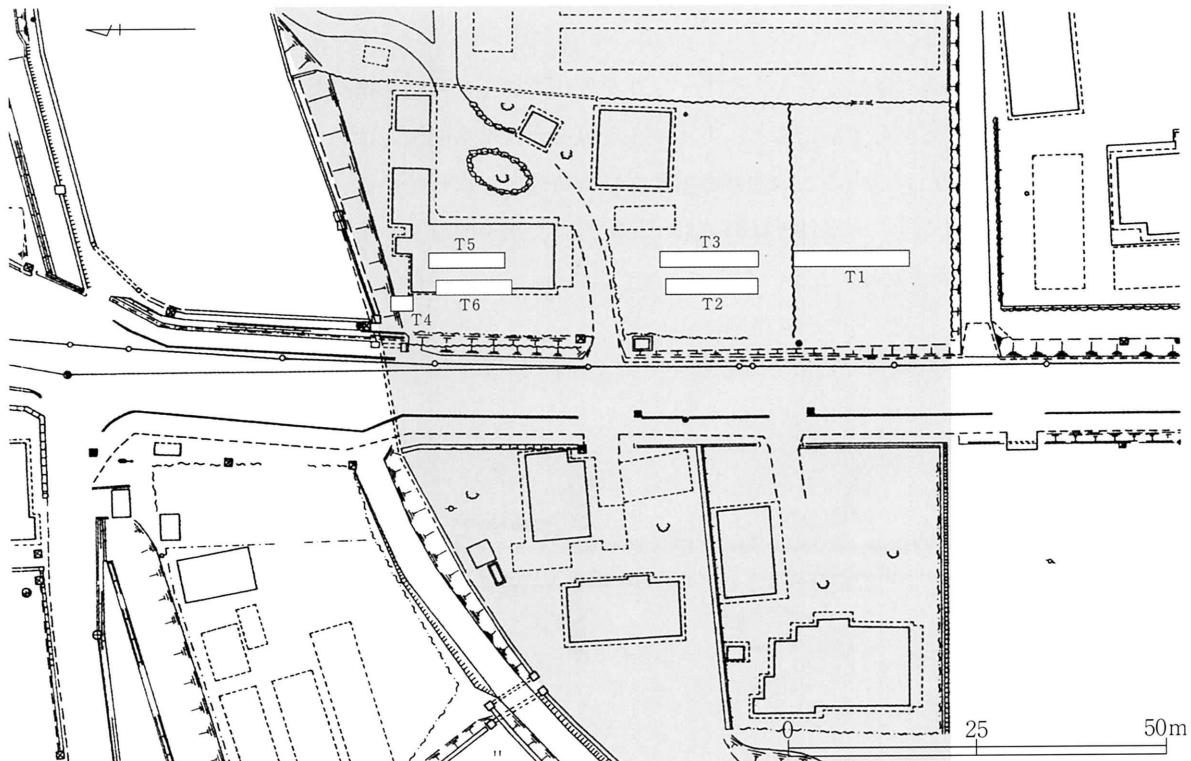
本遺跡は、JH東北自動車道盛岡南インターチェンジの北西約1.2km、河岸段丘の縁辺部に立地する。標高は130m前後を測り、現況は宅地・荒れ地・畑地である。この調査は、主要地方道盛岡～和賀線改築事業のために実施したもので、飯岡林崎Ⅱ遺跡の調査とは同一事業に係るものである。

調査の結果、T5・T6で弥生土器の出土が確認されている。基本層序は以下のとおり。第1層：表土20～30cm、第2層：黒褐色土（遺物包含層）0～40cm、第3層：暗褐色土10～20cm、第4層：黄褐色土（地山、水が湧きやすい）。試掘トレンチは計6本を設定している。弥生土器が確認されたのは、2層の黒褐色土中からである。遺物に伴う遺構はこの調査では確認できなかったが、少なくとも遺物包含層が存在すると考えられる。また、T5では柱穴も確認されており、その形状は円形を呈し、直径30cm前後を測る。遺物は確認されていないので具体的な時期については不明であるが、埋土の状況から弥生時代の遺構の可能性も考えられる。

調査区南側のT1～T3については、遺物包含層であるとみられる黒褐色土がすでに削平されているか、わずかにしか残っておらず、先述の遺物包含層はすでに削平されているものと考えられる。また、遺構についても明確なものは確認できなかった。（平成13年度本調査予定）



第64図 新井田Ⅱ遺跡位置図



第65図 新井田Ⅱ遺跡調査区位置図

16 地方特定道路整備事業関連調査

新規遺跡（LE42-2052）

所在地；零石町南畠第14地割～第12地割地内

事業者；盛岡地方振興局土木部

調査期日；平成12年6月12日

遺跡（LE42-2052）はJR東日本田沢湖線零石駅の南南西約10.5kmに位置し、南畠川が形成した段丘の西向き緩斜面に立地している。遺跡の標高は255m前後を測り、現況は水田・畠地である。

今回の調査は地方特定道路整備事業に伴うもので、県道盛岡横手線を拡幅する部分について試掘を行った。

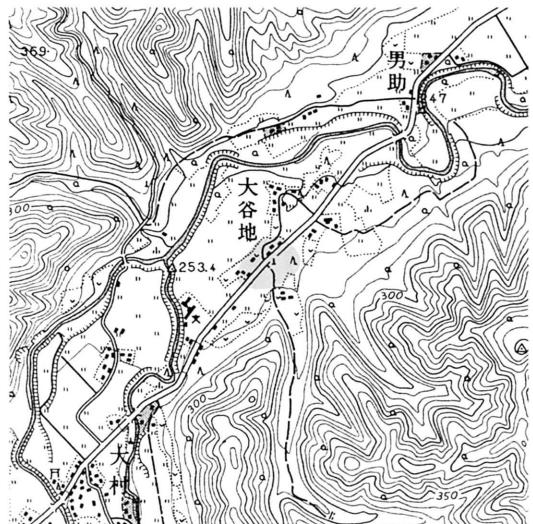
調査では、道路の西側は拡幅部分が道路の法面にあたり、傾斜が急で狭いためトレンチを入れることが困難なことから、道路東側の拡幅部分である畠地と水田に幅90cm、長さ5mほどのトレンチを11本設定した（T1～T11）。

調査区の基本土層は、1層が15～40cmの表土、2層が15～25cmの黒褐色土、3層が10cm前後の暗褐色土、4層が地山の黄褐色土となる。

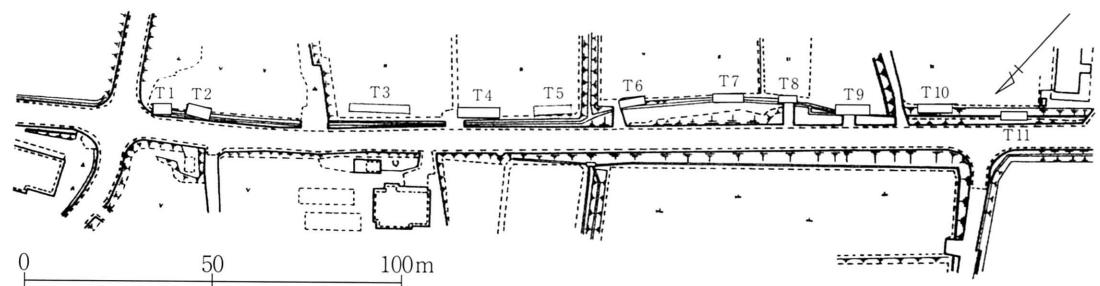
調査の結果、水田より一段高い畠地に入れたT1・T2の3層下位で竪穴住居跡の埋土と思われる黒褐色土の広がりを検出した。T1の黒褐色土からは縄文時代後期の土器片が数点出土しており、竪穴住居跡もこの時期のものと推定される。畠に隣接する水田部分に入れたT3の3層下位から地山の4層上位では、土坑の埋土と思われる黒褐色土の広がりを2基検出した。いずれも円形を呈するものと推定される。南側の水田部分に入れたT4～T11では、水田の床土の下が礫を多量に含む地山の黄褐色土になっており、遺物は出土せず、遺構も確認されなかった。

なお、地元地権者からの話によると、T1・T2を入れた畠及び道路を挟んだ西側の宅地付近の畠では、かつて相当量の土器が出土していたこと、T4からT11を入れた水田付近はかつて湿地帯で土器は出土していないことが確認された。このことは今回の試掘調査の結果と一致している。

以上のことから、調査区の北端付近は旧地形が比較的よく残っており、遺構・遺物の残存する可能性が高い。（平成13年度本調査予定）



第66図 LE42-2052位置図



第67図 LE42-2052調査区位置図

17 地方特定道路整備事業関連調査

早坂平遺跡（J F 46-0039）

所在地；九戸郡山形村大字川井地内

事業者；久慈地方振興局土木部

調査期日；平成12年12月6日

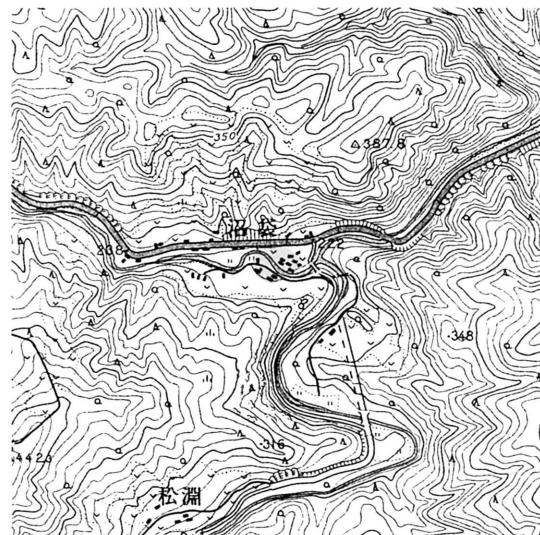
本遺跡は、山形村役場から北東へ約1.7km、川井川に向かって舌状に張り出す丘陵の裾部に立地し、標高は230m～233mを測る。現況は北向き斜面を利用した畠地となっている。

今回の調査は、地方特定道路整備事業に伴うもので、南北に伸びる予定の道路部分に幅1m×長さ10～20mのトレンチを計4本任意に入れた。

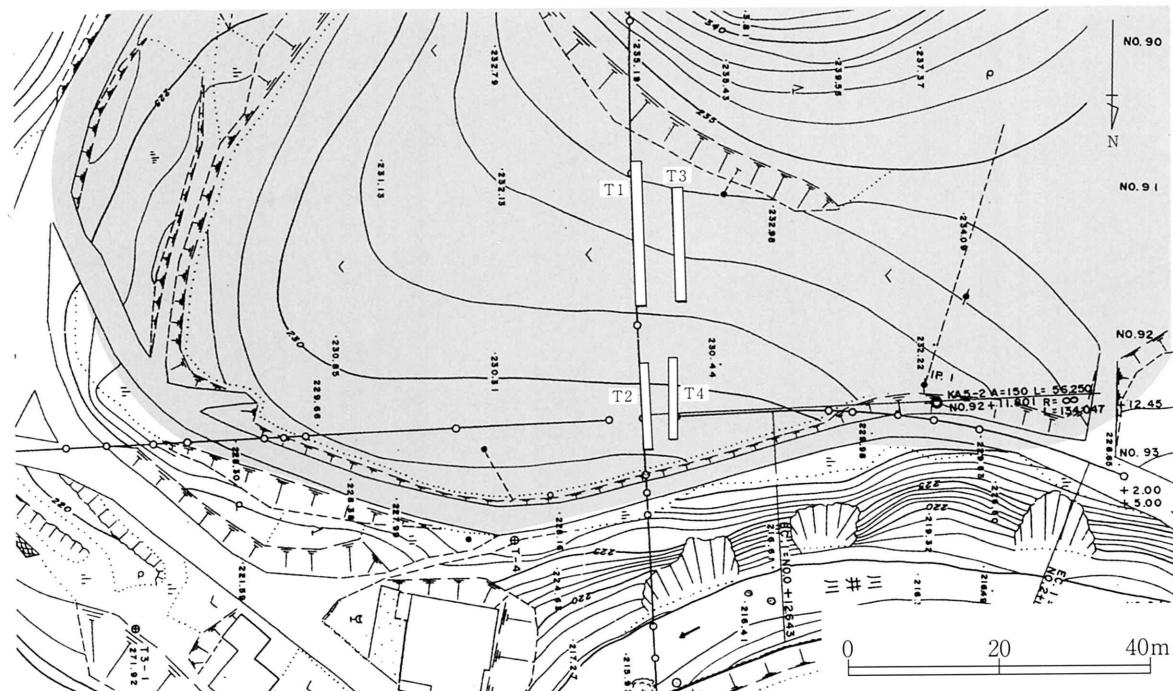
その結果、土層の堆積は山側ほど表土が浅くなっている、川に向かって削平された跡が見受けられた。基本層序は次のとおりである。第1層：表土5～15cm、第2層：暗褐色土15cm、第3層：黄褐色土（地山）層厚不明。

T1からは竪穴住居跡と思われる暗褐色の埋土が検出され、住居壁の立ち上がりを少なくとも3棟分確認した。遺物は、縄文中期の土器が多数出土した。T2の2層からも同様に土器が多数出土しているが、斜面の下位に降りるに従い、その密度は低くなるようである。T3からも竪穴住居跡と思われる遺構が1棟分検出された。住居跡の検出面は、いづれも地表から15cmのところであった。

なお、この遺跡については、旧石器も過去に出土していることから、今回は検出されなかつたが、本調査ではその可能性もあると思われる。（平成13年度本調査予定）



第68図 早坂平遺跡位置図



第69図 早坂平遺跡調査区位置図

18 緊急地方道路整備事業

浅石遺跡

所在地；二戸市似鳥字浅石地内

事業者；二戸地方振興局土木部

調査期日；平成12年9月13日

遺跡は、二戸市の中心部から南西部に位置する似鳥地区に所在する。背後の丘陵を越えると一戸町に接する地区である。

遺跡は、安比川右岸の河岸段丘面に立地している。標高は140m前後で、安比川に沿って造られた水田より一段高い場所にある。現況は畑、荒れ地となっており、周囲には民家が点在する。

本年度、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

により発掘調査が行われているが、遺構が調査区外の事業予定地に延びる可能性が出たため、試掘調査を実施した。

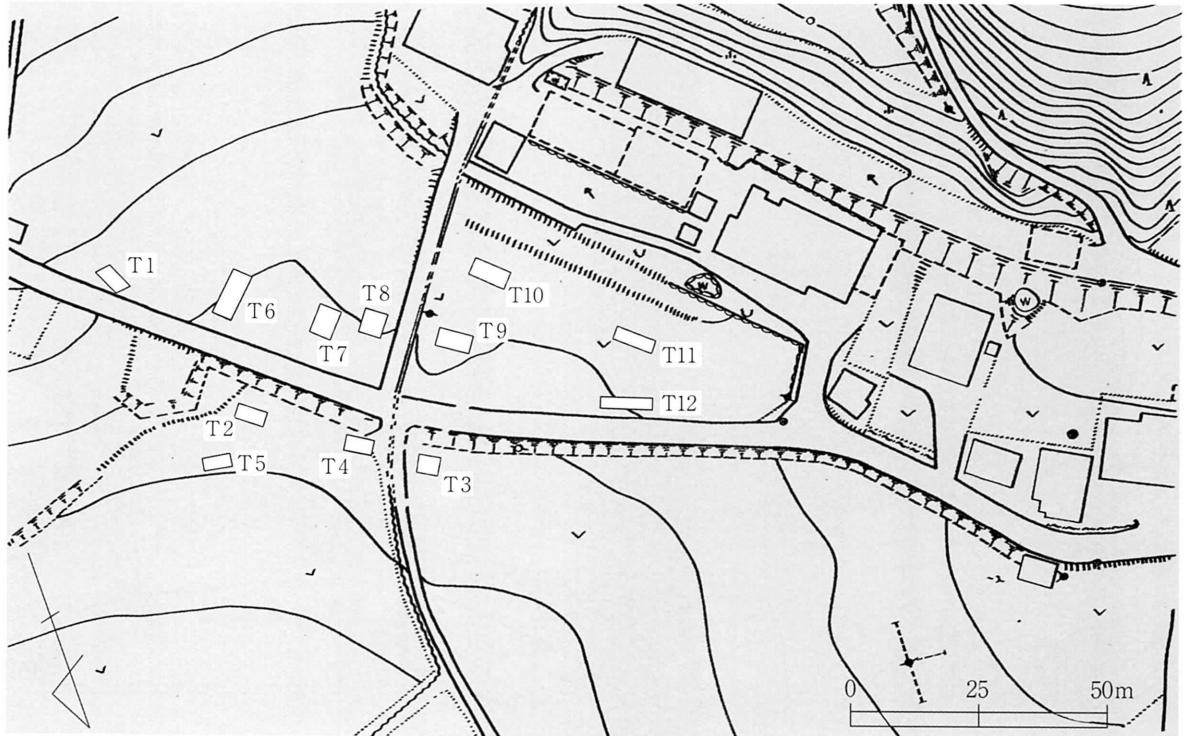
T1から10の基本層位は次のとおりとなる。第1層、表土、層厚20cm、第2層、茶褐色土、層厚0~50cm、第3層、黒褐色土、層厚20~40cm、第4層、黄褐色土、層厚不明となる。

T11、12の基本層位は次のとおりとなる。第1層、表土、層厚60cm、第2層、黒褐色土、層厚40cm、第3層、火山灰ブロックが混じる黒褐色土、層厚20cm、第4層、灰白色火山灰、20cm以上となっている。

試掘の結果、T11、12で遺構埋土の可能性がある火山灰層が発見された。T1、5ではピットが2基発見された。T2、4では、縄文時代後期の遺物包含層が確認された。



第70図 浅石遺跡位置図



第71図 浅石遺跡調査区位置図

19 緊急地方道路整備事業（交付金A）関連調査

黒岩宿遺跡（ME 56-1388）

調査期日；平成12年9月25日

事業者；北上地方振興局土木部

所在地；北上市黒岩地内

遺跡は、北上駅の北東約2.5kmのところに位置し、北上川左岸の沖積地上に形成された自然堤防上に立地する。標高は58m前後を測り、現況は、畑地、水田、果樹園、荒れ地などである。今回の調査は、県道花巻北上線における緊急地方道路整備事業のために実施した。事業予定範囲内に16本のトレンチを設定した。なお、果樹園部分については、リンゴの収穫前であることから、トレンチは設定しなかった。

基本層序は、1層：耕作土（25cm前後）、2層：暗褐色粘土質シルト土（10cm前後）、3層：灰白色火山灰ブロックを含む暗褐色粘土質シルト土（0～10cm）、4層：炭化物粒を含んだ褐色粘質土（0～10cm）、5層：褐色シルト質土（地山）となっている。

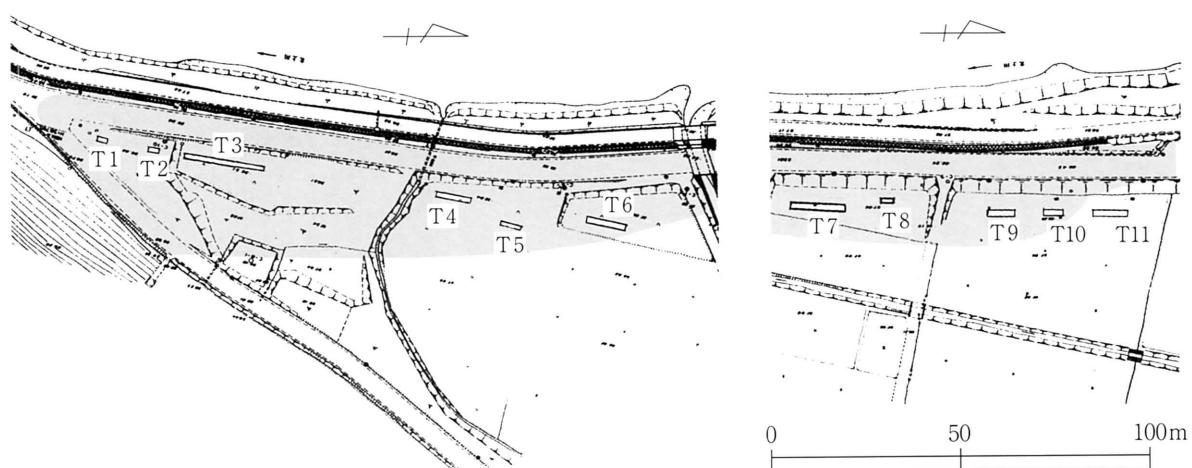
調査の結果、T4～T6及びT9で柱穴及び土坑が多数（20基以上）確認されている。うち、T4については、柱穴が柵列状に4列分確認されている。本遺構が確認されたところでは、3層は確認することはできなかったが、灰白色の火山灰がブロック状に確認されている部分があり、少なくともT9付近までは、遺構が存在することが予想される。なお、共伴する遺物が確認されなかったために時期の特定はできないが、今回の調査と北上市教育委員会の調査成果等をあわせて考えると、本遺跡は、少なくとも、平安時代及び中世前半期の遺跡になるものと推定される。

遺物は、T11で流れ込みと見られる縄文土器の小破片が1点確認されている。

なお、今回の試掘調査の結果、本遺跡の遺跡範囲が、既周知範囲よりも北上川沿いに南側へ拡大することが明らかになった。（平成13年度本調査予定）



第72図 黒岩宿遺跡位置図



第73図 黒岩宿遺跡調査区位置図

20 緊急地方道整備事業（交付金A）

新規遺跡（L F 77-0265）

所在地；下閉伊郡川井村江繫地内

事業者；宮古地方振興局土木部

調査期日；平成12年10月27日

遺跡（L F 77-0265）はJ R 東日本山田線陸中川井駅の南約7kmに位置し、閉伊川の支流である薬師川に沿って延びる丘陵尾根裾部に立地している。遺跡の標高は295m前後を測り、現況は原野・畑地である。

本遺跡の西側には中世の城館跡である稻荷森館跡が、北側の丘陵尾根上部には新規遺跡 L F 77-0245が所在する。

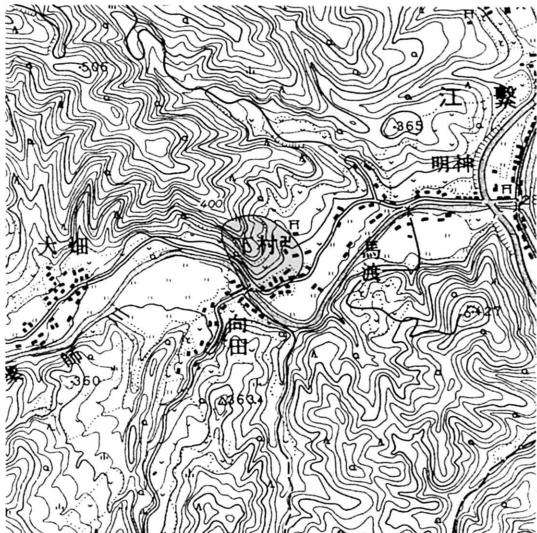
今回の調査は緊急地方道整備事業に伴うもので、県道紫波川井線を改築する部分について試掘を行った。

調査では、道路から今回の調査区域までの畑が作付け中で重機が進入できなかつたため、人力によって幅1m、長さ2~5mのトレンチを6本設定した。（T 1 ~ T 6）

調査区の基本土層はどのトレンチでもほぼ同じで、10~15cmの表土の下は小角礫を含む層厚25cm前後の暗褐色土が堆積している。その下の層は暗褐色のシルトとなるが、人力での掘り下げのため層厚を確認することはできなかつた。

検出された遺構としては、調査区中央部付近の畑地に入れたT 4で、トレンチ西端の、表土から約40cmの深さから焼土を1基検出した。検出された焼土は、1辺が30cmほどの不整形を呈するものである。しっかりと焼成を受けており、現地性のものと思われる。

遺物としては、焼土のほぼ中央部付近で鉄滓が1点出土しており、この遺構に伴う遺物と考えられる。ただし、他の遺物が出土していないことから、焼土については時代は特定できない。他のトレンチからは遺物は出土せず、遺構も確認されなかつた。



第74図 L F 77-0265遺跡位置図



第75図 L F 77-0265遺跡調査区位置図

今回の試掘調査は、人力によってトレンチを掘ったため、暗褐色土を深く掘り下げることができなかつたが、焼土を検出した面より下の部分にも炭化物が混入しており、他の遺構の存在も予想される。

(平成13年度本調査予定)

21 一般県道東和花巻温泉線緊急地方道路整備事業関連
調査

遊子Ⅱ遺跡 (ME 15-1368)

所在地；花巻市西宮野目地内

事業者；花巻地方振興局土木部

調査期日；平成12年5月31日、

6月28日（2日間）

遺跡は、東流する瀬川左岸の沖積平野の微高地に立地する。標高88m前後の平坦地であり、現況は主に水田で周辺に宅地が点在する。試掘調査は未買収地の関係で2回に分けて実施した。1回目の調査では、県道建設予定地の水田面を中心に12本の試掘トレンチを設定した（T1～12）。耕作土下層の黄褐色ローム層（地山）が遺構検出面となつたが、場所によっては耕作土と地山面との間に黒色粘質土層が入る。地山のローム層の下層は、厚い砂礫層となつていた。

調査地の南西側に設定したT8で、柱穴8個、T9で炭窯状の遺構1基、土坑1基、柱穴12個を検出した。また、遺構を検出したT8・9に隣接のT10からも、堅穴状の遺構1基、土坑2基、柱穴2個を検出した。各トレンチで確認した柱穴は、径が20～30cm程のものが主体で、埋土は炭化物粒を含む黒色土であった。周辺から土師器の小片が少量出土しており、古代の掘立柱建物を構成する柱穴群の可能性がある。炭窯状の遺構に関しては、一部を確認しただけで全体像は不明であるが、底面に炭化物層のある細長い形状が推測できる。確認された土坑については、埋土が黒色シルト（炭化物粒を含む）のものと、褐色砂質土のものの2種がある。T10の耕作土下の黒色土から縄文土器片（縄文時代中期の土器片）が少量採取されたことから、縄文時代の遺構が存在する可能性が推測できる。

一方、T1～7、T11・12では、黄褐色ローム層が希薄で、旧河道に伴う砂礫層が露出する部分と、地山を切る流路が点在しており、遺構・遺物は確認できなかった。

2回目の試掘調査では、前回の西側部分の調査を行った。T8・9に近接するトレンチで、土坑1基、柱穴10基を確認した。柱穴はいずれも小規模なものであり、出土遺物もなかつたが、位置的にみて平安時代の遺構の可能性がある。それよりも西側のトレンチでは、表土下層が旧河道に伴う砂礫層となり、遺構・遺物は確認されなかつた。（平成13年度本発掘調査予定）



第76図 遊子Ⅱ遺跡位置図



第77図 遊子Ⅱ遺跡調査区位置図

22 二級河川雪谷川災害復旧事業関連調査

尾田(2)遺跡（I F 73-1023）

所在地；九戸郡軽米町大字軽米字尾田地内

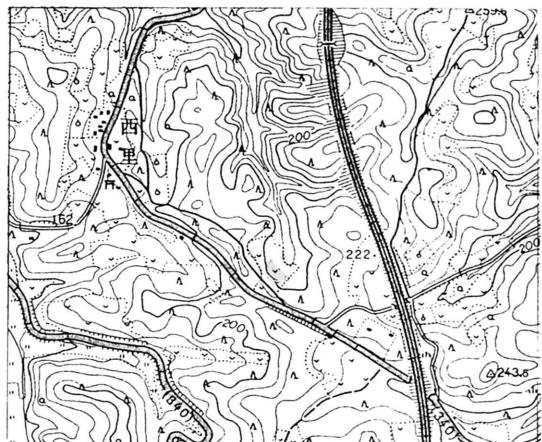
事業者；二戸地方振興局土木部

調査期日；平成12年9月18日

遺跡は、雪谷川と支流の郷坂川の間に挟まれた丘陵の緩斜面に立地する。調査地の標高は71~78mであり、現況は葉たばこ栽培を中心とする畑地である。土捨場予定地に試掘トレンチを9本設定した（T1~9）。

T6から、縄文時代の竪穴住居跡を検出した。竪穴住居跡は直径3.8mの円形を呈し、中央部に石窯炉をもつものである。埋土中から縄文時代後期後葉頃の土器が出土しており、竪穴住居跡の年代も概ねこの時期と考えられる。また、T6・8の東側から検出した4個の柱穴は、直径60cm程の掘方と明確な柱痕跡をもつもので、竪穴住居跡に関連する遺構（掘立柱建物跡）の一部の可能性がある。さらに、T4では2箇所で地震痕跡を確認している。この地震痕跡は、地震による地割れ部分に、十和田a火山灰と推定される灰白色の火山灰が入り込んだものである。一方、北東側のやや低い沢に近い部分からは、遺構・遺物は検出されなかった。層位は、耕作土下層に十和田a火山灰層を局的に含む黒褐色土層があり、その下層が褐色中摺浮石層となる。この面が縄文時代後期の遺構検出面である。中摺層下層は黒褐色粘質土層を挟んで南部浮石層となり、最終面の褐色～暗褐色の八戸火山灰層となっていた。中摺層より下層からは、遺構・遺物は確認されなかった。

出土遺物については、T6の竪穴住居跡付近に縄文時代後期の土器が顕著であったが、全体的には縄文時代前期の土器片が散布するような状況であった。縄文時代前期の遺構は確認していないが、今回の調査地の周辺部に存在しているものと考えられる。



第78図 尾田(2)遺跡位置図



第79図 尾田(2)遺跡調査区位置図

23 山本川山本地地区通常砂防事業

MF 91-1028

所在地；江刺市米里字山本地内

事業者；水沢地方振興局土木部

調査期日；平成12年9月27日

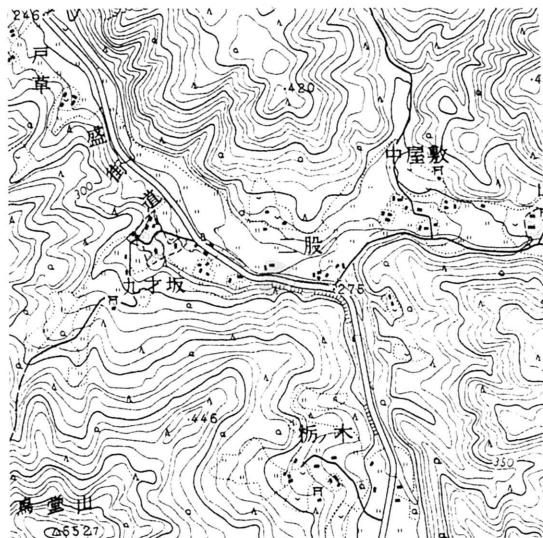
遺跡は、人首川と山本川の合流地点付近に発達する沖積地に位置する。標高は270m前後を測り、現況は宅地、水田、原野などで、既周知の中屋敷遺跡（N F 01-0114）から西に300m程の位置にある。

今回の調査区は、両河川の合流地点から山本川沿いに150m程上った付近までの範囲が対象である。トレント T 1～T 6 は、調査区を網羅するように設定した。

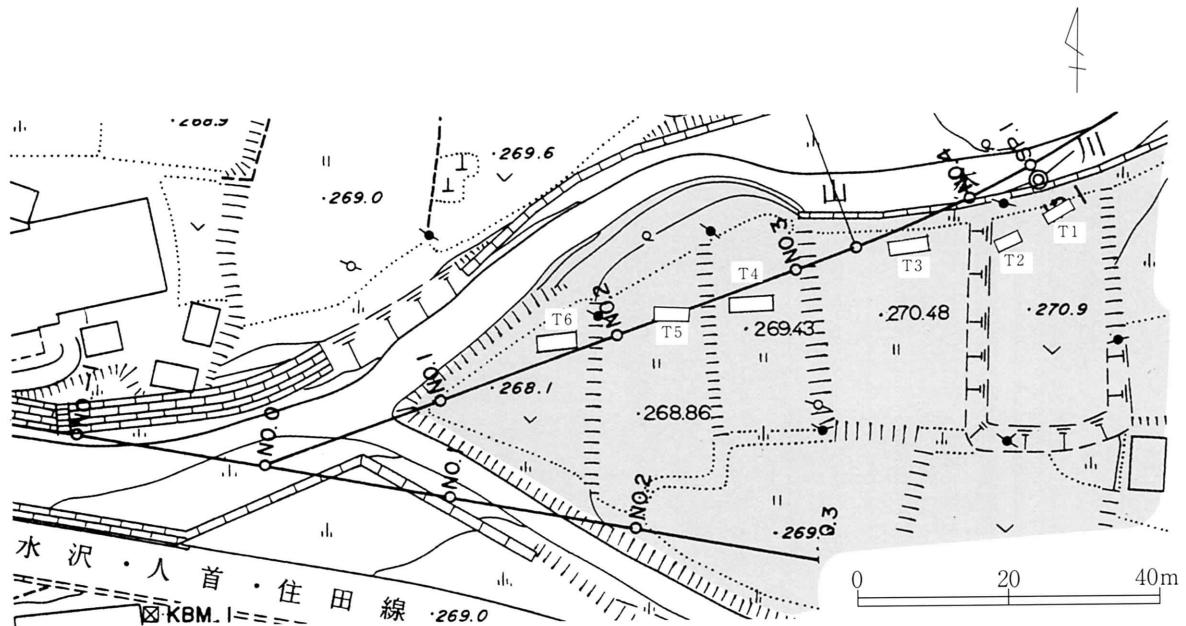
遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土・盛土）層厚

約10cm、第2層：黄褐色砂質シルト（河岸性堆積）層厚0～20cm T 2付近に分布、第3層：暗褐色シルト（遺物包含層）層厚0～20cm縄文中期土器を包含、T 1付近に分布する、第4層：黒褐色シルト質粘土質土層厚0～20cm、第5層：黄褐色砂礫土（地山）層厚不明である。

その結果、T 1は、表土直下で遺物包含層（第3層）が確認され、縄文時代中期末葉の土器が30片程出土した。遺構は確認されなかったが、遺構識別の難しい土層であることから、確認できなかった可能性もある。T 2は、河岸性の堆積層と思われる第2層の堆積が見られるが、その下位から第3層と第4層の漸移層的な土層が確認されることから、T 1と同様に遺構が存在する可能性がある。T 3～T 6は遺構・遺物ともに検出されなかった。



第80図 MF 91-1028位置図



第81図 MF 91-1028調査区位置図

24 県営ほ場整備事業一関第2地区

竜ヶ坂遺跡 (NE76-0204)

所在地；西磐井郡平泉町長島字竜ヶ坂

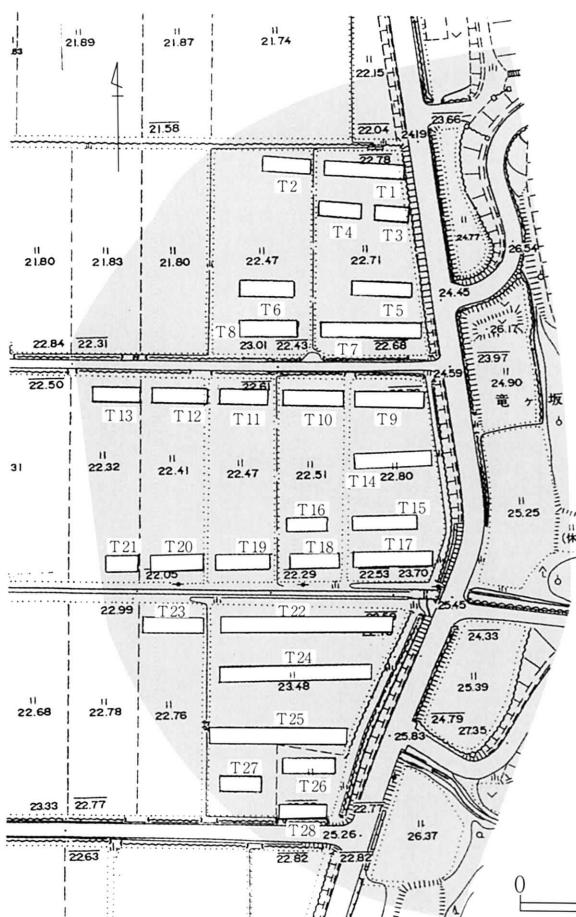
事業者；一關地方振興局一關農村整備事務所

調査期日；平成12年6月6日

遺跡は、北上川左岸の河岸段丘低位面及び沖積地の微高地に立地する。調査地の現況は主に水田であり、標高は22~23mの平坦地である。今回の調査は、ほ場整備事業に伴い切土予定の田面と排水路部分を中心に28本の試掘トレンチを設定した（T 1~28）。

今回の調査地の大半は、北上川によって形成された沖積平野であり、耕作土あるいは盛土層の下層の暗青灰色土～青灰色砂質土の堆積が厚く、さらにその下層は砂礫層となっていた。その中で、調査地の南側に設定したT22とT24～28において、灰白色火山灰層に覆われた水田部分で、周辺の水田より1m程高い部分となっていた。柱り、灰白色火山灰層の下層は、ほぼ水平の堆積状況を示され、平泉町内の火山灰の検出状況からみて、10世紀初めに

第82図 竜ヶ坂遺跡位置図



られる。灰白色火山灰層直下の土層（5層）は比較的均質な暗茶褐色を呈しており、土壤化した土層と考えられる。また、各試掘トレンチの灰白色火山灰層と5層上部からは、赤褐色を呈する土師器片を採取している。この部分の北側の、T1～17及び西側のT23でも、連続する水田面の広がりが存在していたものと考えられるが、耕作土及び盛土層の下層で、灰白色火山灰の小ブロックが稀に確認できる程度であり、開田時に削平を受けたか、流路での浸食を受けたため、火山灰層として確認することはできなかった。水田層の可能性がある遺構を確認した試掘トレンチの中でも、比較的明確に確認できたのはT22であるが、このトレンチの断面観察においてでも、水田跡に伴う畦畔の状況は確認できなかったが面的な調査で明確になるとと考えられる。土壤分析や面的な調査が行われていない現段階では確実なことはいえないが、灰白色火山灰層に覆われた5層の暗茶褐色土層は、平安時代前期の水田層と推定される。

(平成13年度本発掘
調査予定)

第83図 竜ヶ坂遺跡調査区位置図

25 県営ほ場整備事業一関第2地区

佐藤屋敷遺跡 (N E 76-0235)

所在地；西磐井郡平泉町長島字新田

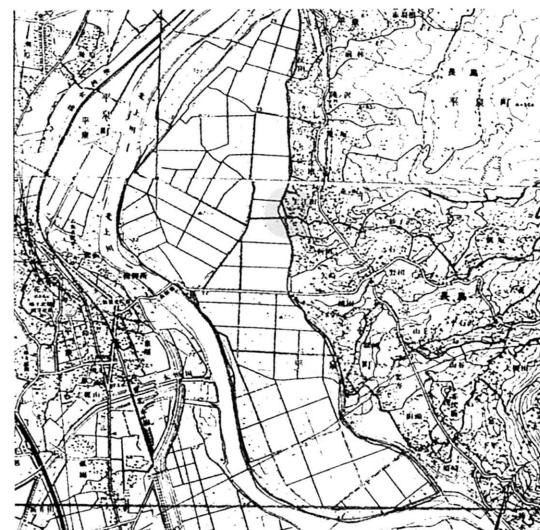
事業者；一関地方振興局一関農村整備事務所

調査期日；平成12年6月6日

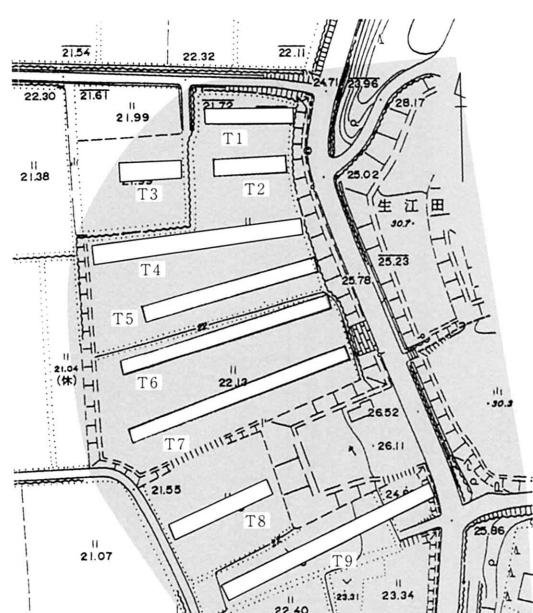
遺跡は、北上川左岸の舌状に張り出した段丘の先端部及び沖積平野の微高地に立地している。調査地の現況は主に水田であり、標高は21~23mの平坦地である。今回の調査は、ほ場整備事業に伴い切土予定の田面と排水路部分を中心に試掘調査を実施し、10箇所の試掘トレンチを設定した (T 1~10)。調査地の中央部には水田面に5m近い盛土をした場所があったため、この部分については試掘調査から除外せざるを得なかった。

主な遺構が確認されたのは、段丘寄りの場所（調査地の東側）である。この部分での遺構検出面は、水田耕作土層の下層の黄褐色粘質土層（地山）上面である。T 1~7、T 9 の試掘トレンチの東側部分において南北に延びる溝跡3条を検出した（東から仮に1号～3号溝とする）。1号溝は、平均幅3m前後で、埋土が暗茶褐色砂混シルトで砂礫を多く含むものであった。2号溝は、平均幅4m程で、埋土が暗茶褐色砂混シルトであり、埋土下層に層厚10cm前後の水性堆積による灰白色火山灰層を含んでいた。3号溝は、平均幅3m程で、埋土が炭化物を多く含む青灰色粘質土層であった。これら3条の溝跡は、ほぼ並行していると推定される。一方、南端のT 10や西側のT 8では、これらの溝跡を検出できなかったため、T 9の南側で東側に屈曲している可能性が考えられる。

各トレンチ西側の北上川寄りの部分の調査地北半部では遺構・遺物は検出されなかつたが、T 9 西側部分からは直径3m前後の土坑や柱穴群等を検出した。これらの遺構と、検出された3条の溝跡との関係は不明であるが、T 9 からその未調査地の盛土部分にかけて、土坑や柱穴群が広がっている可能性がある。



第84図 佐藤屋敷遺跡位置図



第85図 佐藤屋敷遺跡調査区位置図

出土遺物は、2層茶褐色～褐灰色砂質土中から土師器片が少量出土しており、一部深掘りをした2号溝埋土からフイゴ羽口片が出土している。鍛冶関連の遺構は検出していないが、調査地周辺部（段丘部分）に平安時代の鍛冶遺構が存在している可能性が考えられる。また、T 9 と T 10の間の小高い畠地（未調査地）についても遺構の存在が想定できる。

試掘結果から、検出された3条の溝跡が同時存在かどうかの判断は困難であるが、3者が同じような形態で、並行することから、大きな時期差はないと推定される。また、2号溝内の灰白色火山灰の存在から、溝跡の年代は平安時代前期頃と考えられる。（平成13年度本発掘調査予定）

26 県営ほ場整備事業一関第2地区関連調査

矢崎I遺跡 (N E 76-0283)

所在地；西磐井郡平泉町長島字新田

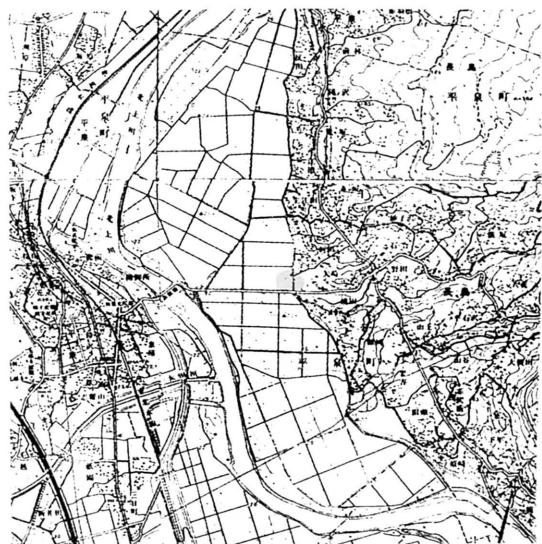
事業者；一関地方振興局一関農村整備事務所

調査期日；平成12年6月7日

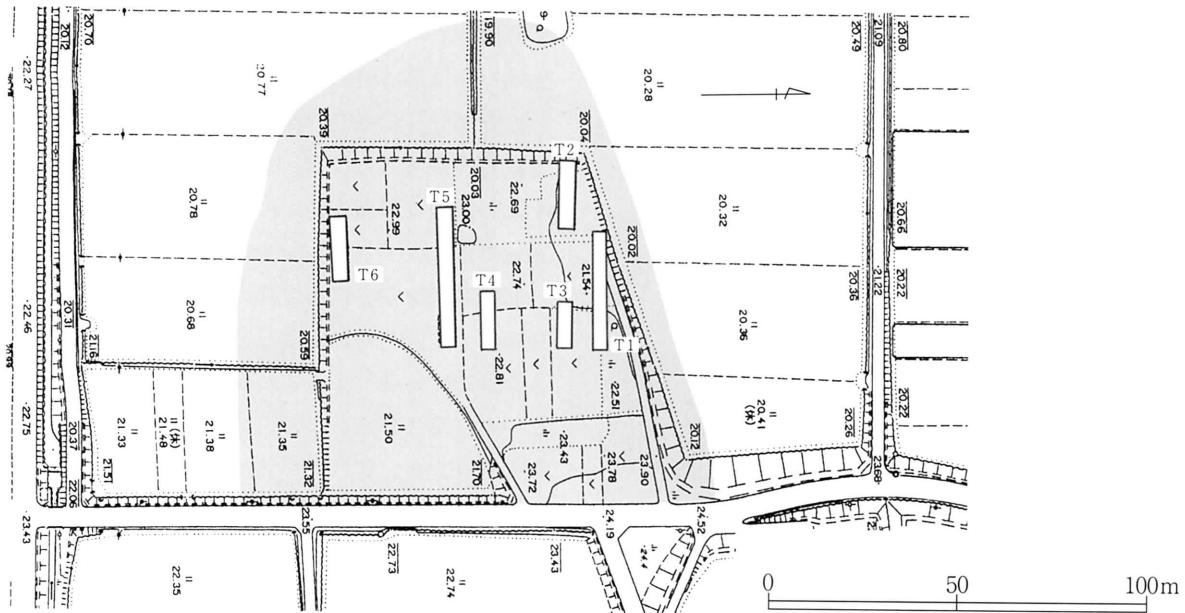
遺跡は、北上川左岸の沖積平野の微高地に立地している。現況は畑・牧草地であり、三方に水田面が広がっている。遺跡の標高は22~23mの平坦地であり、周囲の田面とは2m前後の比高がある。本遺跡は、以前実施された分布調査により12世紀のかわらけ片が採取されており遺跡東側については平成12年度に財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターで発掘調査を実施し、平安時代の竪穴住居跡等を調査している。今回の調査は、ほ場整備事業に伴い実施したものであり、事業による切土予定の畑地等を対象に6本の試掘トレンチを設定した (T1~6)。

調査対象の畑地は、開田の際に削平を受けておらず、表土から下層については良好な土層の堆積状況を示していると考えられる。各トレンチの明黄褐色シルト面から柱穴状の土坑を検出している。T5とT3では同じ面で、焼土を検出している。耕作土下層の暗茶褐色シルト層の次にある4層明黄褐色シルト上面が主な遺構検出面となると考えられるが、検出された焼土の状況から見て、遺構の大半はかなり削平を受けていると考えられる。4層の面は、畑地部分のはば全域から検出されており、削平の程度の差はあっても面的な遺構の検出は可能であると考えられる。

検出された焼土は、竪穴住居跡の炉ないしカマド部分の残存部の可能性がある。焼土周辺の柱穴は同様に竪穴住居跡の柱穴の可能性がある。柱穴は径20cm前後で、褐色シルトの埋土に炭化物粒を多く含むものであるが、遺構の大部分がその後の流路等の影響で削平されたことが原因と考えられる。(平成13年度本発掘調査予定)



第86図 矢崎I遺跡位置図



第87図 矢崎I遺跡調査区位置図

27 県営ほ場整備事業一関第2地区関連調査

畠中遺跡 (N E 66-2291)

所在地；西磐井郡平泉町長島字畠中

事業者；一関地方振興局一関農村整備事務所

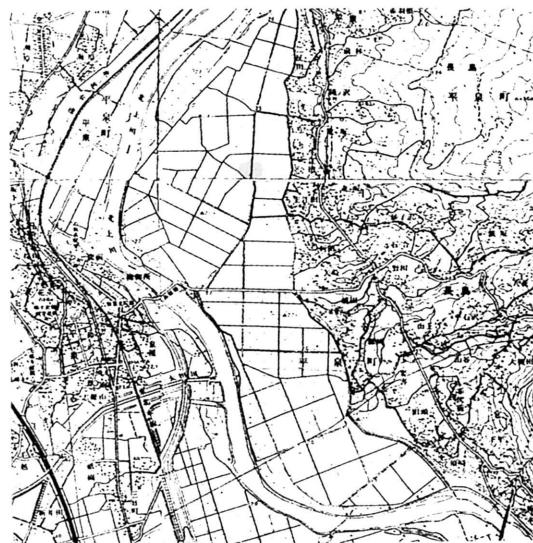
調査期日；平成12年6月7日、

6月13日（2日間）

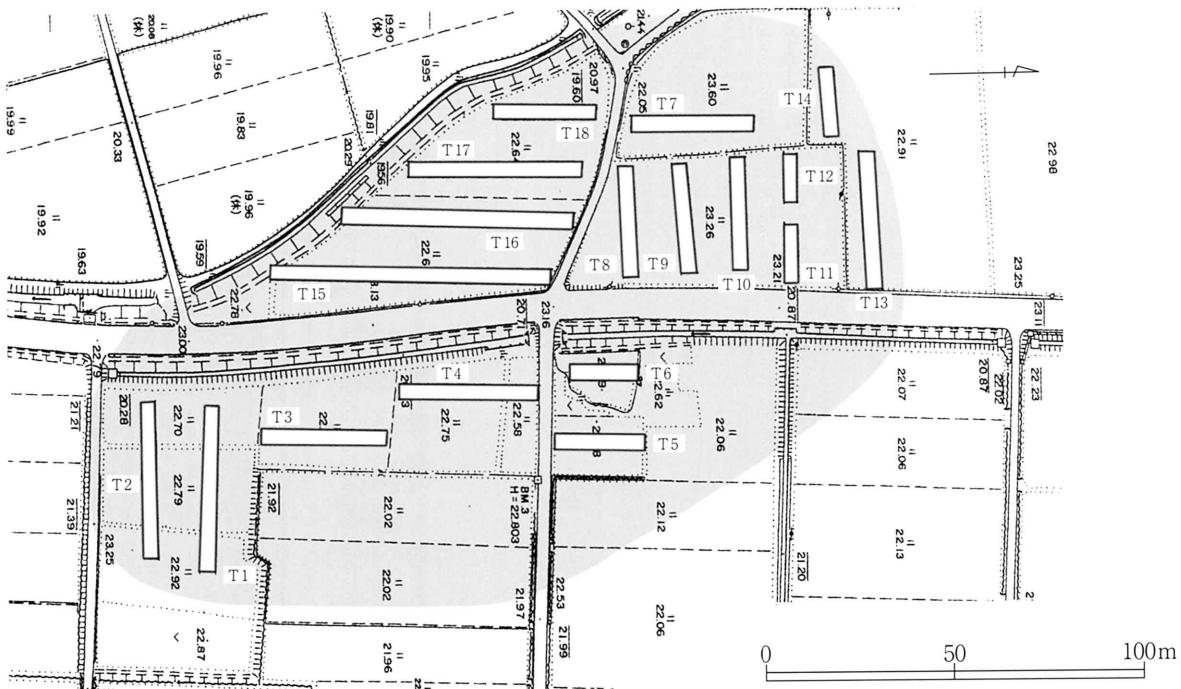
遺跡は、北上川左岸の自然堤防上に立地している。現況は水田・畠地であり北上川遊水地計画以前には、近年まで集落が存在した場所である。田面標高は22~23mで遺跡外の周囲の田面とは2~3m程の比高がある。本遺跡は以前実施された分布調査により、土師器やかわらけ片が採取され、平安時代の散布地とされている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴い実施したもので、切土予定の田面を中心に18本の試掘トレンチを設定した（T1~18）。

道路の西側に設定したT7・8では、宅地造成時の盛土の下に旧耕作土があり、道路の東側の現在の耕作土面と連続する。安定した地山面と考えられるのは、4層黄褐色粘土層である。その下層は旧流路の深い砂層となっていたが、遺物包含層等は確認されなかった。

明確な遺構が確認されたのは、道路の東側である。特に、南側のT1~3からは、平安時代と推定される堅穴住居跡群（住居跡状を含む）と柱穴・溝跡が検出された。また、T3・4では、住居跡状の遺構・柱穴群・土坑・溝跡が検出された。道路の西側は、移転した家屋の基礎やごみ捨て穴等の攪乱が多く、遺構は確認できなかった。出土遺物は、土師器の小片のみであり、検出された住居跡内にはカマド的な施設は認められず、埋土にも遺物は確認できなかった。また、埋土中から灰白色火山灰も認められなかったことから、平安時代後期頃の集落跡の可能性も考えられる。（平成13年度本発掘調査予定）



第88図 畠中遺跡位置図



第89図 畠中遺跡調査区位置図

28 県営ほ場整備事業一関第2地区関連調査

本町II遺跡 (N E 66-2179)

所在地；西磐井郡平泉町長島字本町

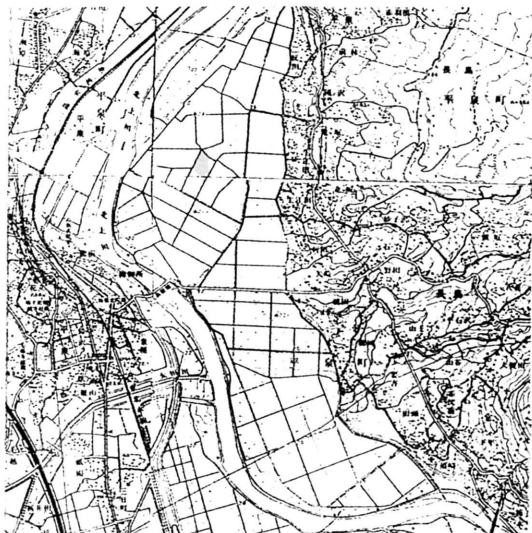
事業者；一関地方振興局一関農村整備事務所

調査期日；平成12年6月13日

遺跡は北上川左岸の自然堤防上に立地している。現況は水田、畑地であり、北上川遊水地計画以前には、近年まで集落が存在した場所である。標高22~23mの平坦地で、遺跡外の周囲の田面とは2~3m程の比高がある。今回の調査はほ場整備事業に伴い実施したもので、遺跡全域が切土予定のため、遺跡内のほとんどの田面に42箇所の試掘トレンチを設定した (T 1~42)。

遺跡の西端の畑部分に設定したT 1・2では、層厚15cm程の耕作土直下の黄褐色粘質土上面が遺構検出面で、

竪穴住居跡2棟、柱穴群を検出している。検出面の状況から遺構の残存状況は良好であると考えられる。T 3は水田面であるが、西の畑から連続する黄褐色土上面から竪穴住居跡3棟、焼土、柱穴群を検出した。柱穴の埋土に灰白色火山灰ブロックを含み、あかやき土器片が出土していることから、検出された遺構の時期は、大半が10世紀頃と推定される。遺跡西側のT 10~16では、西側よりも遺構密度は低いものの、竪穴住居跡2棟と土坑・柱穴群・炭窯等を検出している。検出面は西側よりも低くなるが、検出面は同じ黄褐色土面である。南西側の水田面のT 27~31では灰白色火山灰層の下層から柱穴群を検出している。その東側のT 35~42からは、灰白色火山灰を埋土にする並行する小さな溝跡群を検出しており、それらは畠間状遺構と考えられる。遺跡南側には平安時代初期の住居跡や柱穴群、畑遺構等が存在するものと推定される。一方、遺跡南東側のT 19~24では、層位中に火山灰層や黄褐色土層は見られなかった。また、一部深掘りをかけたが、砂層が連続する状況で、最終的に青灰色粘土層になった段階で掘り下げを中止した。いずれの層からも、明確な遺構面（生活面が想定される面）や土器片等の遺物は確認されなかった。出土遺物は、遺跡西側を中心にあかやき土器を中心とする土師器等が中心であるが、量的には少量であった。今回の試掘調査で、本遺跡は平安時代初期と10世紀以降の時期の集落跡が存在することが明らかになった。(平成13年度本発掘調査予定)



第90図 本町II遺跡位置図



29 県営ほ場整備事業一関第2地区

遺跡 (N E 76-1226)

所在地；西磐井郡平泉町長島地内

事業者；一関地方振興局一関農村整備事務所

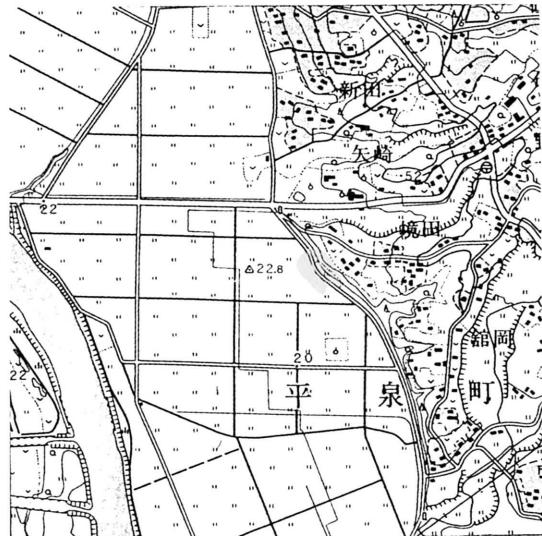
調査期日；平成12年10月3日

本遺跡は、JR東北本線平泉駅の東約2km、北上川左岸の低位河岸段丘の先端部に立地する。現況は水田・畑地となっているが、以前は宅地があった場所である。調査地の標高は21mほどであり、周辺の水田との比高は2m前後ある。

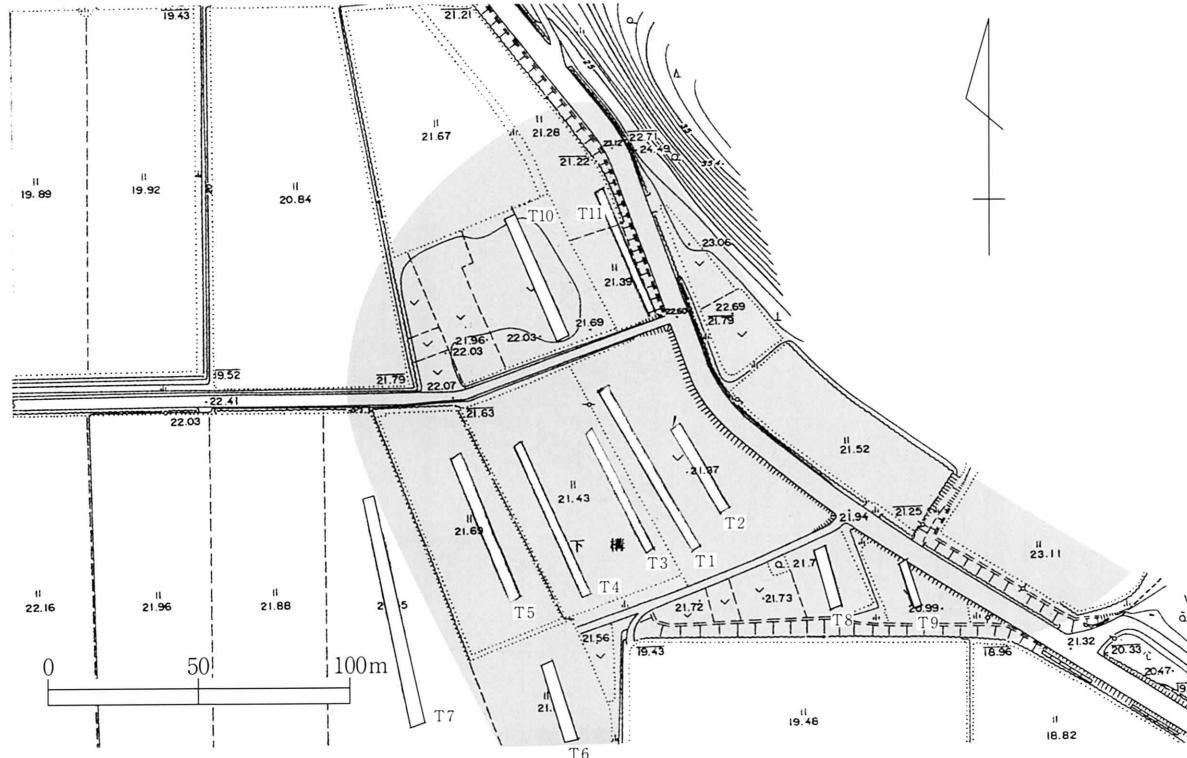
今回の試掘調査では、ほ場整備の対象となる水田・畑地に11本の試掘トレンチを設定した。調査区中央の水田面に設定したT1～T3からは、径20～50cmの柱穴状の土坑を多数検出した。埋土は炭化物粒を含む暗褐色～灰褐色で、一部に礫を含むものがあった。T2の遺構内には焼土ブロックを含むものがあった。T1からは径3m

程の大きな土坑も検出されている。T2・T3検出の溝は東西方向のものが中心で、埋土中から赤焼き土器片が出土している。T4・T5からも柱穴状土坑が何個か検出されているが、分布状況は西へ行くに従い希薄になるようである。畑地に設定したT8～T10からも柱穴状土坑が検出されているが、遺構数は少ないものの、残存状況は水田面よりも良好である。遺跡範囲外に設定したT6・T7からは、明確な遺構は検出されなかったことから、遺構の広がりはT5から東側の段丘内に収まるものと考えられる。

遺構の検出面は地表から50～60cmのところで、水田床土の下層であるが、出土遺物は全体に少なく、調査区内の土層及び遺構埋土内からは灰白色火山灰は検出されていない。検出された遺構の時期についての資料は少ないが、10～11世紀頃の可能性が考えられ、掘立柱建物跡を中心になると思われる。(平成14年度本調査予定)



第92図 N E 76-1226位置図



第93図 N E 76-1226調査区位置図

30 県営ほ場整備事業八幡東部地区

島岡Ⅱ遺跡（L E 96-2343）

所在地；稗貫郡石鳥谷町八幡地内

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日；平成12年10月12日～13日（2日間）

本遺跡は、JR東北本線石鳥谷駅の南約2.5km、北上川右岸に広がる沖積平野に立地し、標高は81m～83mである。

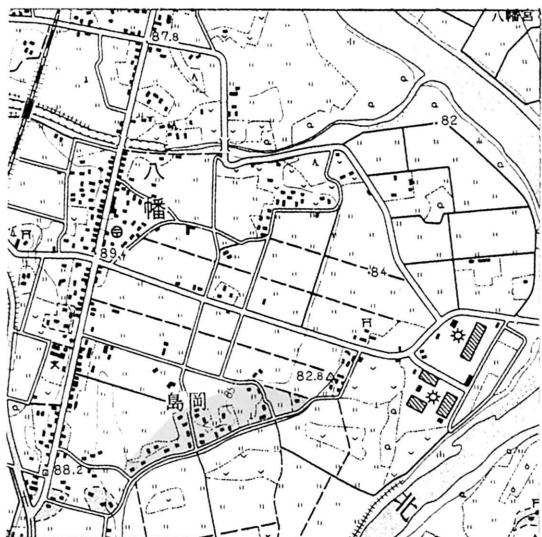
今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、小排水路と付帯する道路部分（T1～T10）及び区画整理される田面部分（T11～T26）に試掘トレンチを全部で26本設定した。また、調査は今回本報告書に掲載される島岡Ⅲ遺跡・番屋遺跡その他1遺跡と一緒に行われたものである。

調査の結果、およその基本層序は次のとおりであった。第1層：表土15cm（水田耕作土）、第2層：茶褐色

土20cm（水田床土、盛土）、第3層：黄褐色粘土（地山、遺構検出面）層厚不明

調査区西側に設定したT1～T8では住居跡5棟、土坑14基が検出された。住居跡は平安時代のもので、土坑については縄文・平安時代のものと考えられる。出土遺物には、縄文土器・土師器・近世陶磁器がある。これらの遺物はいづれも1・2層から出土している。なお、こここの調査区は幅が狭いためトレンチを広げられない制約がついた。

一方、東側の田面に設定したT19～T21では、縄文時代の土坑が20基発見された。住居跡は伴っていない。出土した遺物には、西側調査区同様、縄文土器・石器・近世陶磁器があり、やはり1・2層から出土した。これ以外のトレンチからは遺構・遺物とも確認されず、また切土を伴うものでないことから、この東側で確認された遺構については、事業者との協議の結果、田面調整をすることで保存が図られることとなっている。西側の遺構については、付帯道路部分も含めて本調査対象範囲となった。（平成13年度本調査予定）



第94図 島岡Ⅱ遺跡位置図



第95図 島岡Ⅱ遺跡調査区位置図

31 県営ほ場整備事業八幡東部地区関連調査

島岡Ⅲ遺跡（L E 96-1368）

所在地；稗貫郡石鳥谷町八幡地内

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日；平成12年10月12日～13日

本遺跡は、J R 東北本線石鳥谷駅の南約2.5km、北上川右岸に広がる沖積平野に立地し、標高は83m前後を測る。

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、他にも島岡Ⅱ遺跡・番屋遺跡等とも同一事業で調査したものである。試掘トレンチは、盛土により遺構が破壊される恐れのない所を除いて事業予定地内に29本設定した。おおよその基本層序は次のとおりである。第1層：耕作土20cm、第2層：茶褐色土3cm（水田の床土）、第3層：茶褐色土35cm（水田造成時の盛土）、第4層：青灰色粘土層（地山、層厚不明）

調査の結果、調査区北側に設定したT20・21・23・24から溝跡が確認された。T20・21・23のものは同一のもので、幅30cm、深さ10cmで北西から南東方向へ伸びている。T24検出の溝は幅40cm、深さ15cmで東西方向に伸びている。これらの溝からは遺物は出土していないが、堆積した土層から判断すると平安ないしは中世のものと考えられる。埋土は両者とも黒褐色土である。遺物は、T21の1層からは近世陶磁器が出土している。

一方で、南側に設定したトレンチからは、開田時にかなりの地形改変を伴っていることもあり、明瞭な遺構を確認することはできなかった。遺物については、T1・T2・T4・T7の2・3層から縄文土器、T6の2層・3層からは土器、石器が出土した。T9の3層からは須恵器、T16の2層上面からは12世紀末から13世紀前半代の陶器が、T5では4層上部から縄文土器がやまとまって出土した。遺物の種類こそ多かったが、遺構が確認できなかったことから流れ込みか、地形改変に伴うものと判断された。

北側で確認した遺構については、事業者と協議の結果、盛土による工法変更がなされることになった。



第96図 島岡Ⅲ遺跡位置図



第97図 島岡Ⅲ遺跡調査区位置図

32 県営ほ場整備事業八幡東部地区関連調査

番屋遺跡（L E 96-1372）

所在地；稗貫郡石鳥谷町八幡地内

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日；平成12年10月12日～13日

本遺跡は、JR東北本線石鳥谷駅の約2.5km、北上川右岸に広がる沖積平野に立地し、標高は85m前後を測る。

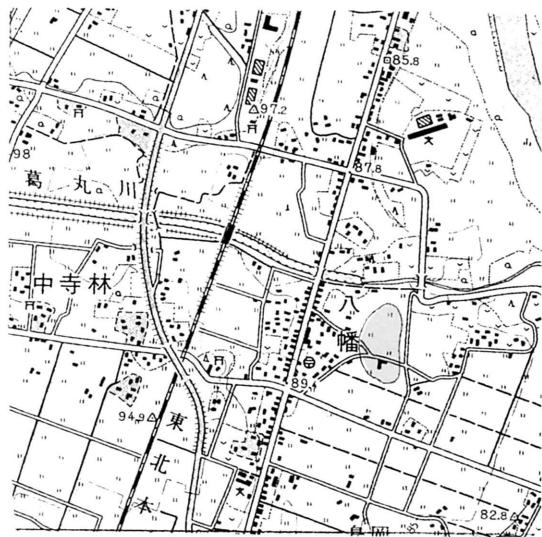
今回の調査は、ほ場整備事業八幡東部地区に伴うもので、他にも島岡Ⅱ遺跡・島岡Ⅲ遺跡等と一緒に調査に及んだものである。試掘トレンチは事業予定地内に12本設定した。およそその基本層序は次のとおりである。

第1層：表土、耕作土10cm、第2層：褐灰色粘土層10cm、第3層：赤褐色+褐灰色土35cm（遺構検出面）、第4層：灰白色粘土40cm以上（酸化鉄混じる）

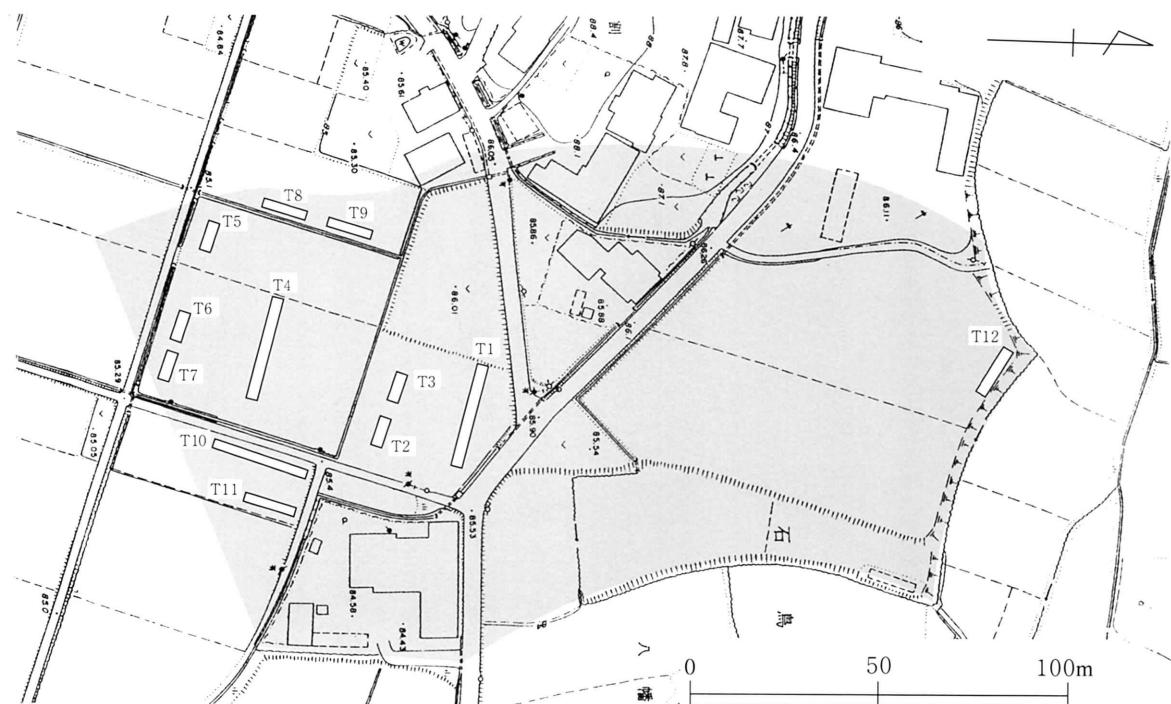
調査の結果、T4から溝跡1条と土坑1基が発見された。溝の幅は40cm、土坑は一辺40cmの方形状を呈している。検出面は、いずれも表土から35cmであった。

また、T1・T5の3層より縄文土器、土師器が各1点出土したが、遺構は伴わなかった。T5～T8までは排水路を伴う箇所で、トレンチを入れたものだが、T7の2層からは12～13世紀のものと思われる常滑の陶器片が1片出土した。遺構を伴うものではなかったので、なぜここから出土したかは不明である。

T10・T11からは旧暗渠のものと思われる砂利層が表土下に入っていた。調査区北側に設定したT12は、盛土工法がとられる田面を除いて排水路と付帯する道路部分に設定したものだが、遺跡の縁辺部に当たるこの場所からは遺物・遺構とも確認できなかった。なお、この遺跡で確認された遺構については、事業者との協議の結果、盛土により保存が図られることになった。



第98図 番屋遺跡位置図



第99図 番屋遺跡調査区位置図

33 ほ場整備事業姉帯地区

水ノ口前東遺跡

所在地；水沢市字水ノ口地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

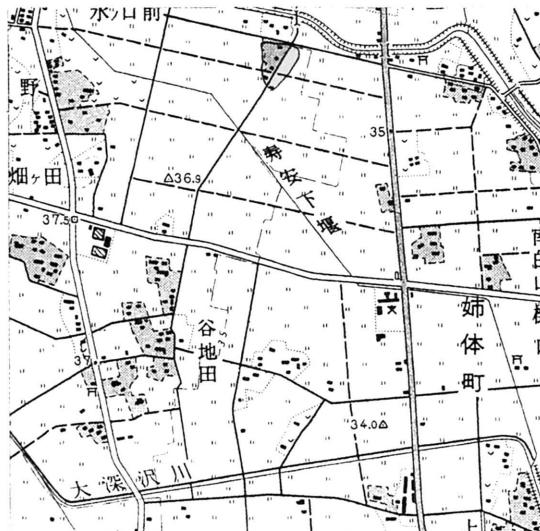
調査期日；平成12年11月17日

遺跡は水沢市中心部から南東に行った姉帯町地区にある。北上川右岸に接する沖積平野中の微高地に立地し、標高はおよそ35~36mである。

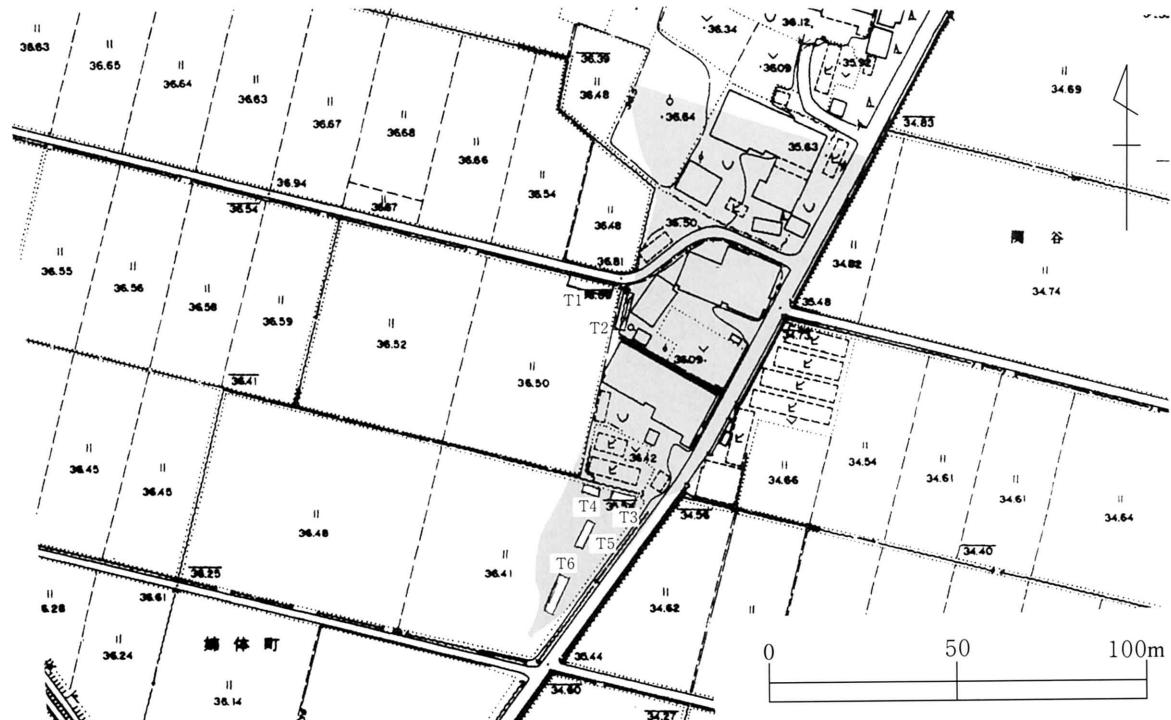
試掘トレンチは事業予定地内の水路、削平される範囲に設定した。計6カ所のトレンチのうち、遺構の確認ができたのは、T1、2である。ここからは、竪穴住居跡に伴うと推定される土坑が確認された。

周辺からは土師器、須恵器破片が数点出土した。遺構の残存状況から、遺構の上部はすでに削平を受けていたものと判断することができた。埋土は茶褐色、黒褐色の土でしまりが強い。このトレンチの基本層位は第1層、耕作土、層厚25cm、第2層、黄褐色粘土層、層厚不明となっている。つまり、表土直下が遺構確認面である。遺構はこれらのトレンチ以外からは確認できず、事業予定地の削平範囲に広がらないことが判明した。

トレンチ3の表土から土師器が1点出土したが、遺構に伴うものではなかった。T5、6等は、厚い盛土の下に黄褐色粘土層が堆積していた。遺跡の中心は、現在民家の建っている下の標高が若干高い箇所に存在しているものと推定できる。



第100図 水ノ口東前遺跡位置図



第101図 水ノ口前東遺跡調査区位置図

34 県営ほ場整備事業姉体地区関連調査

寺ヶ前 I 遺跡 (NE37-0093)

所在地；水沢市真城字谷地田地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成12年11月16日・17日

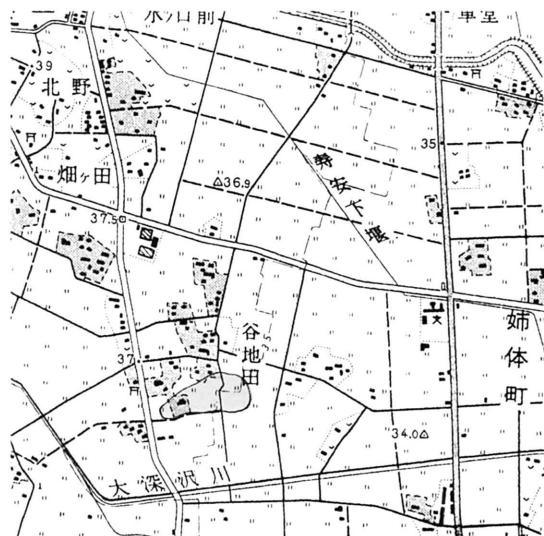
寺ヶ前 I 遺跡は J R 東日本東北本線陸中折居駅の南約 7 km に位置し、北上川右岸の沖積地の微高地に立地している。遺跡の標高は 36m 前後を測り、現況は水田・畠地・宅地である。

今回の調査はほ場整備事業に伴うものである。

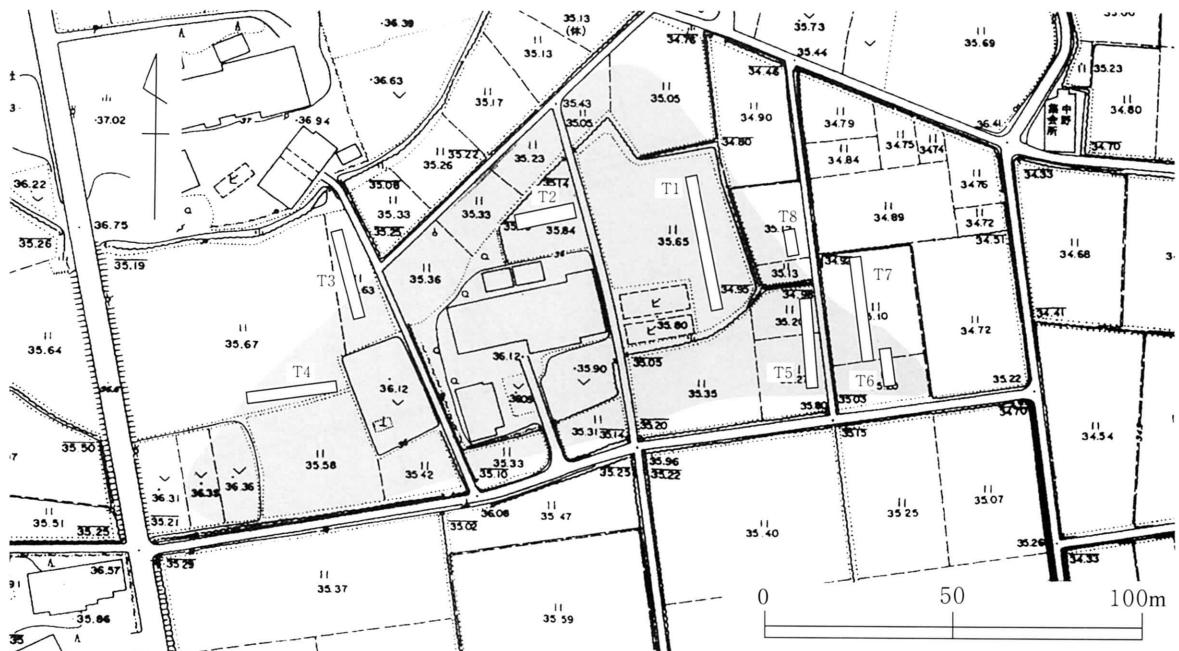
調査では用排水路が入るため掘削される部分と田面が切り土になって削平される部分に任意にトレーニチを設定して行った。トレーニチは幅1.5m、長さ3~10mほどの規模で8本設定した。(T1~T8)

調査の結果、付近より高くなっている水田に入れたT 1では、地山直上で古代の竪穴住居跡4棟と土坑1基、柱穴状土坑が数基検出され、土師器・須恵器が出土している。畑部分に入れたT 2では、溝跡が2条検出され、陶磁器片も出土した。排水路として掘削される部分に入れたT 3及び東側の水田に入れたT 6では、柱穴状土坑が検出されている。T 6からは縄文時代晩期の土器も出土したが、風倒木痕から出土していることから二次堆積によって埋まったものと推定される。また、西側の田面のT 4と東側の田面のT 5からは溝跡がそれぞれ1条検出された。この溝跡からは遺物は出土しておらず、時期は不明である。

今回の調査で、ほぼ遺跡範囲全面にわたり遺構が存在することが確認された。特に標高の高い宅地周辺部については、上部が開田により多少削平されているものの、平安時代の遺構が多数残存している可能性が高い。(平成13年度本調査予定)



第102図 寺ヶ前 I 遺跡位置図



第103図 寺ヶ前遺跡調査区位置図

35 県営ほ場整備事業姉妹地区

寺ヶ前Ⅱ遺跡（NE37-0072）

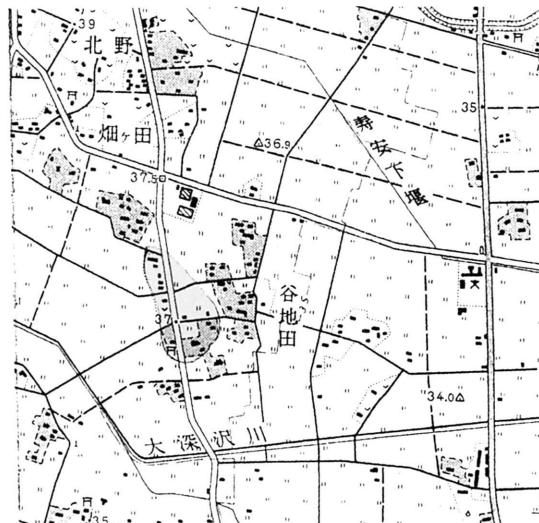
所在地；水沢市姉体地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

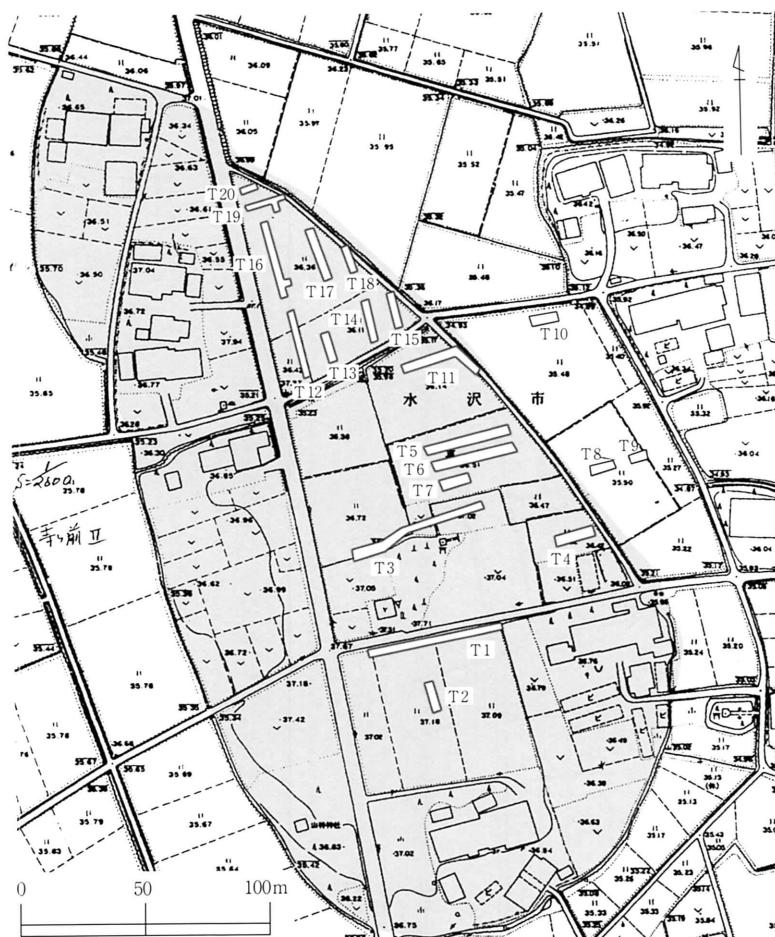
調査期日；平成12年11月17日・11月30日（2日）

遺跡は、北上川右岸に広がる河岸平野に位置し、標高は35~37mを測る。現況は水田（休耕田含む）・畠地・果樹園である。今回の調査は、ほ場整備事業に伴う田面切土部分・排水路部分・道路部分の試掘調査を実施した。遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土）層厚15~30cm、第2層：暗褐色シルト層厚0~25cm、第3層：黒褐色シルト層厚0~20cm、第4層：黄褐色粘土質土（地山）層厚不明である。

その結果、T 1 では竪穴住居跡 3 棟・土坑 1 基・溝跡 3 条を、T 2 では竪穴住居跡 2 棟を、T 3 では竪穴住居跡 2 棟・溝跡 1 条・柱穴 3 基を、T 4 では柱穴 2 基を、T 5 では土坑 1 基・溝跡 1 条を、T 6 では竪穴住居跡 1 棟を、T11 では竪穴住居跡 3 棟・溝跡 2 条を、T16 では溝跡 1 条を、T19 では溝跡 1 条を検出した。遺構の埋土には、竪穴住居跡・土坑・柱穴の埋土は何れも黒褐色土で、溝跡の埋土は黒褐色



第104図 寺ヶ前Ⅱ遺跡位置図



第105図 寺ヶ前Ⅱ遺跡調査区位置図

土の両者があり、埋土の違いが遺構の廃絶時期に関係する可能性が考えられる。なお、一段低い面に入れたT8～T10は、表土直下で泥炭層が見られ、遺構・遺物は検出されなかった。旧河道跡部分と推定される。遺物は、T2の竪穴住居跡より土師器壺の口縁部片が出土している以外に確認されなかつた。

以上、本遺跡からは奈良・平安時代と推定される遺構・遺物を検出した。また、T12～T20は、溝跡以外の遺構が検出されていないことから、集落の中心はT1～3付近と推定される。

36 県営は場整備事業姉体地区関連調査

寺ヶ前Ⅲ遺跡（N E 37-0074）

調査期日；平成12年11月16日～17日（2日間）

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

所在地；水沢市真城字谷地田

遺跡は、陸中折居駅の北東約2kmに位置し、北上川右岸の低位段丘である水沢段丘上に立地する。標高は34～35m前後を測り、現況は水田・畑地・荒地である。今回の調査は、水沢市姉体地内におけるは場整備事業のため実施した。用排水路、道路がに入る部分及び水田で切土になる部分に任意に37本のトレンチを設定した。

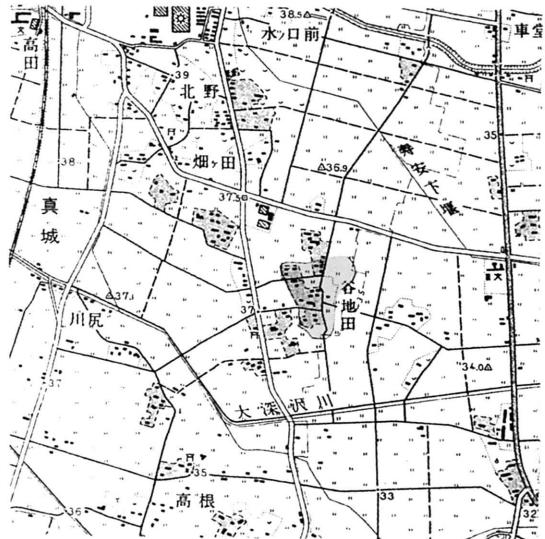
基本層序は、1層：表土（10～40cm）、2層：暗褐色粘土（0～5cm）、3層：黄褐色粘土（地山）である。

調査の結果、T3～T5、T12、T15～T17、T26において、竪穴住居跡1棟、溝跡3条、柱穴を含む土坑類が20基以上確認された。うち、T16の土坑1基と溝跡、T17の土坑からは須恵器・土師器が出土したことから、平安時代の遺構と考えられる。周辺の遺物が出土しなかった遺構についても、平安時代の遺構であると考えられる。

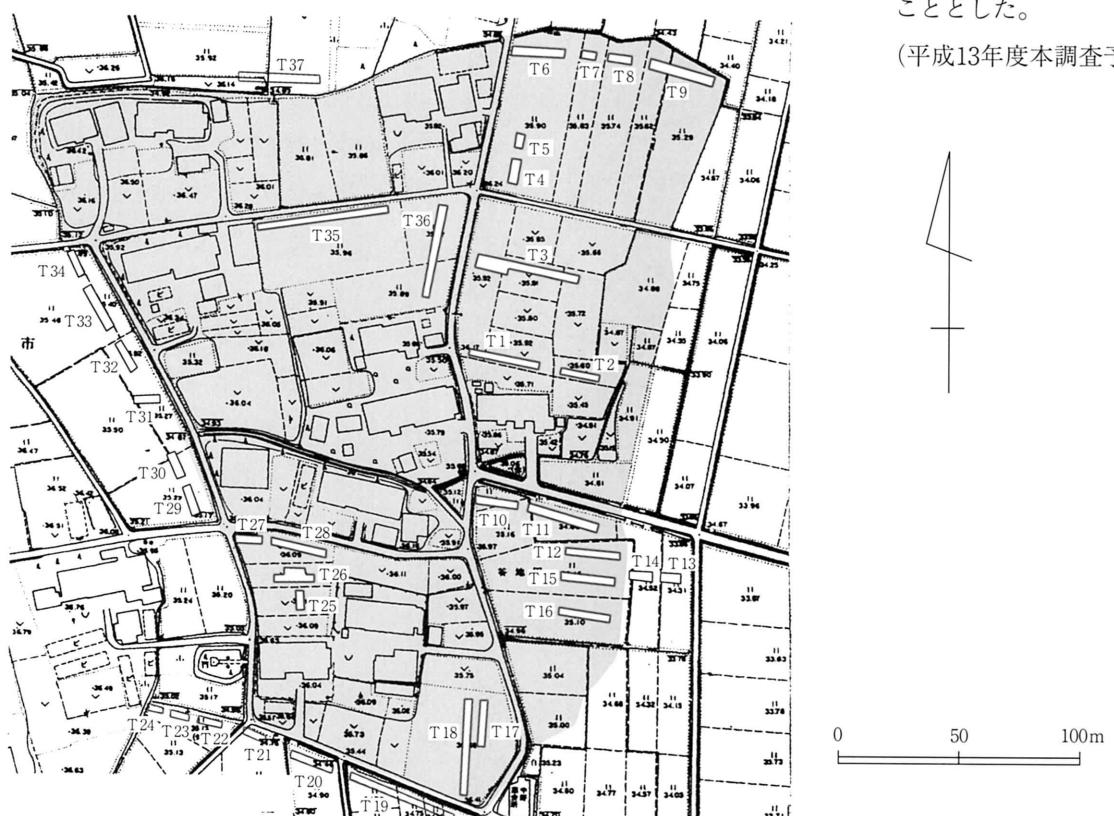
なお、T12、T15、T16を設定した結果、遺跡範囲が若干東側に拡大することも明らかになった。

本遺跡の扱いについては、基本的には盛土をすることによって遺構の保護を図ったが、T12、T15の入っている第37号支線道路と両側の排水路部分の一部については、工法変更は難しいことから、記録保存を行うこととした。

（平成13年度本調査予定）



第106図 寺ヶ前Ⅲ遺跡位置図



第107図 寺ヶ前Ⅲ遺跡調査区位置図

37 県営ほ場整備事業（扱い手育成・区画整理型）奥玉地区関連調査

宿下遺跡（N F 81-2334）

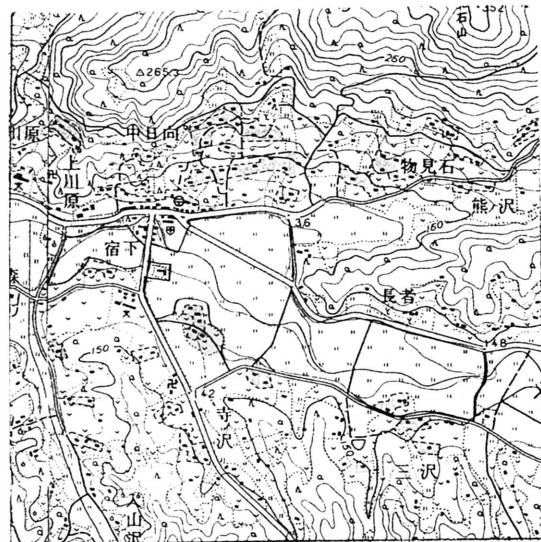
所在地；東磐井郡千厩町奥玉字宿下地内

事業者；千厩地方振興局千厩農村整備事務所

調査期日；平成12年10月25日

遺跡は、千厩川左岸の河岸段丘に立地する。現況は主に水田であり、宅地・畠地が点在する。遺跡の標高は、130~142mで、段丘上の平坦地と東側の緩斜面部からなる。今回の試掘調査では、ほ場整備予定の田面及び用排水路予定の3地点に16箇所の試掘トレンチを設定した（T 1~16）。

遺跡北側の休耕田に設定したT 1・2では、水田床土の直下が削平された地山ローム層となっており、開田時に大きく削平を受けている場所と考えられた。本来の地形はすぐ南側の畠地と連続する緩斜面であると推定される。遺跡東側の水田面に設定したT 3~6においても、水田床土直下は削平された時山面か盛土粘土層であった。開田時の地形改変が著しいが、本来の地形は千厩川に面した段丘崖状の斜面地であったと推定される。遺跡南東側に設定したT 7~16の中で、T 10の一部で遺物包含層を検出した。T 10は西側の段丘上位面である平坦地に近い場所に設定したトレンチで、水田床土下にあった層厚20cm程の黒褐色粘質土層の下層から、褐色砂質土に多くの縄文土器や石器、有機物を含む包含層を検出したものである。土層中では、主に磨耗度の低い比較的大きな縄文時代前期の土器片を確認しており、土器に混じって完形の石匙も出土している。遺物の検出状況と土層の在り方から、この包含層は縄文時代のうちに沢あるいは自然の窪地状の場所に堆積し、そのままパックされた良好な残存状況を示す遺物廃棄層と考えられる。T 10以外のトレンチからは、遺構・遺物は確認されなかったが、既に開田時の地形改変を受けていたためと考えられる。T 10の遺物包含層については、縄文時代の集落の中心が西側の段丘上位面に存在したことによると推定される。



第108図 宿下遺跡位置図



第109図 宿下遺跡調査区位置図

38 県営は場整備事業八重畠地区関連調査

稻荷遺跡 (ME 07-2078)

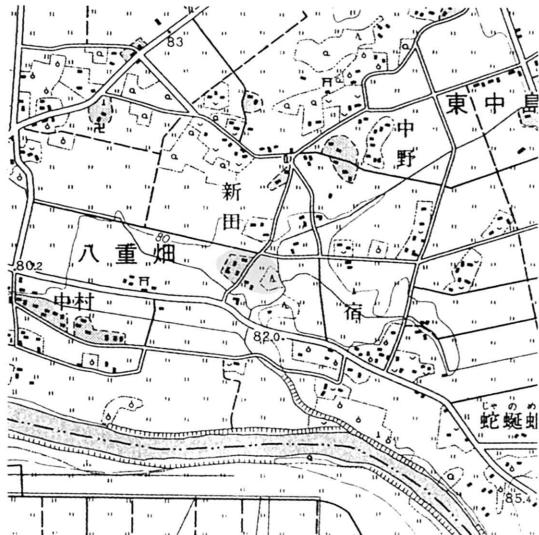
所在地；稗貫郡石鳥谷町八重畠地内

事業者；花巻地方振興局花巻農村整備事務所

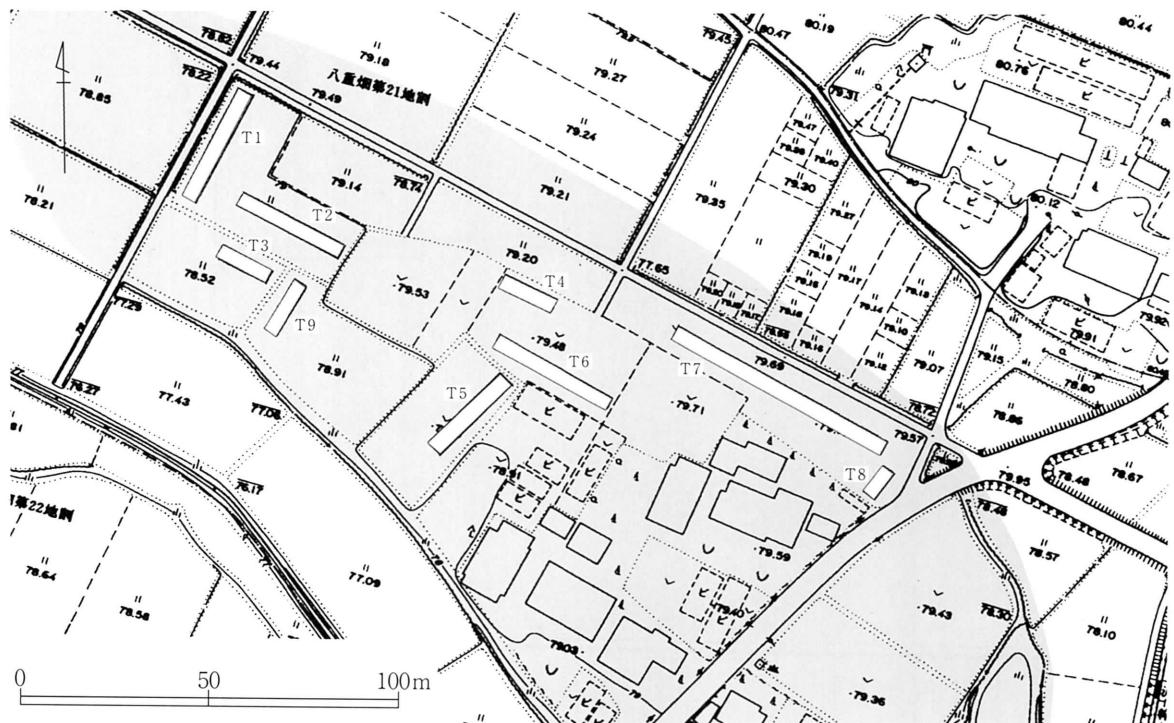
調査期日；平成12年11月30日

遺跡は、北上川が形成した沖積平野の微高地に立地し、北東側と南西側は河川による小規模な段丘崖を呈している。遺跡の標高は78~79mの平坦地であり、現況は水田・宅地・畠地である。平成10年に実施した試掘調査で平安時代の竪穴住居跡等を検出しており、今回の調査では、前回確認した遺構の広がりを確認するために試掘トレンチを8本設定した (T 1 ~ 8)。

水田部分に設定したT 2 ~ 3、T 9では、耕作土直下で砂質シルト面となるが遺構は検出されなかった。一方、T 1では、耕作土下層に黒褐色粘質土等が厚く堆積し、旧河道部分であったと考えられる。畠地部分について設定したT 4 ~ 6では、耕作土層の下層に黒褐色シルト層が厚く堆積していたが、それぞれのトレンチから遺構と若干の遺物が確認された。T 4からは、竪穴住居跡1棟、土坑2基、柱穴3個、T 5からは、柱穴10個、T 6からは溝跡2条を検出した。遺構の検出面の埋土は黒褐色シルトで、土師器片と灰白色火山灰小ブロックを少量含むだけである。土坑は埋土に地山ブロックを含む人為堆積の遺構であり、墓壙の可能性が考えられる。検出された柱穴の中には、径70cm程の明確な掘方をもつものがあり、掘立柱建物の柱穴と考えられる。2条の溝跡については、幅4 mと幅2 mのほぼ並行するものであり、竪穴住居跡と同様の時期が想定される。トレンチの断面観察から、各遺構は3層暗褐色粘土質シルト層を掘り込む形であることがわかった。各トレンチからの出土遺物は、平安時代前期の土師器片のみであり、T 4 ~ 6の周辺の2層黒褐色土層中から出土している。



第110図 稲荷遺跡位置図



第111図 稲荷遺跡調査区位置図

39 県営ほ場整備事業猫川左岸地区

林崎 I 遺跡 (MF66-2158)

所在地；遠野市上郷町地内

事業者；遠野地方振興局遠野農村整備事務所

調査期日；平成12年11月21日

遺跡は、猫川と早瀬川に挟まれた河岸平野と傘森山裾部の地形変換点付近に位置し、遺跡は南東向きの緩斜面地に広がる。標高は372～385mを測り、現況は水田・畑地・牧草地等である。今回の調査は、ほ場整備事業に伴う切土部分・排水路部分・道路部分の試掘調査（T1～T19）を実施した。

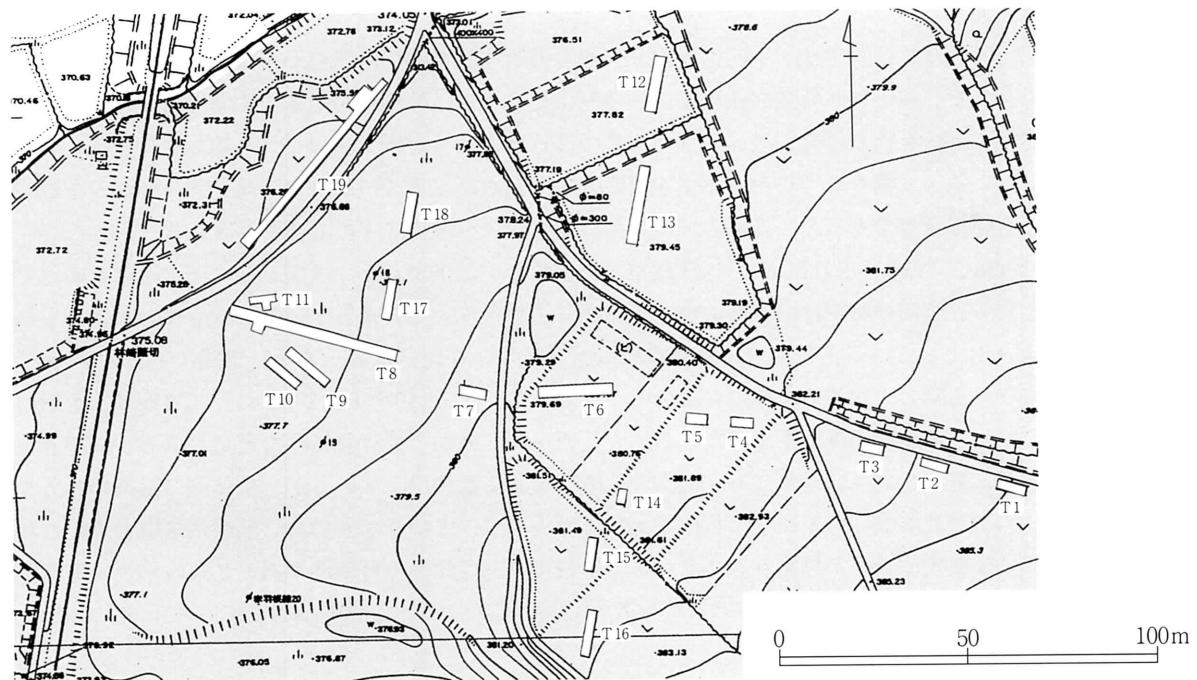
遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土等）層厚25～50cm、第2層：黒褐色シルト層厚0～40cm、第3層：

黄褐色粘土（地山）層厚不明、局所的に浅黄橙色で砂質を呈する地点やマサ土を含む地点がある。

調査の結果、JR釜石線に近接する調査区西側のT8、T19より遺構を確認した。T8からは、土坑1基を検出した。形状は楕円形を呈し、規模は90×60cm程で、埋土は暗褐色土である。遺構の種類としては、陥し穴状遺構である可能性もある。T19からは、竪穴住居跡の可能性がある直径260cm程の黒褐色土の広がりを検出した。遺物の出土がなかったことから、遺構の時期は特定できないが、縄文時代と思われる。



第112図 林崎 I 遺跡位置図



第113図 林崎 I 遺跡調査区位置図

40 県営ほ場整備事業姥沢上野地区

明後沢遺跡群 (N E 36-2175・N E 36-2211)

所在地；前沢町古城姥沢上野地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成12年10月25日・10月26日・11月10日・

15日・12月6日・7日・22日（7日間）

遺跡は、北上川右岸に広がる胆沢扇状地の中位段丘縁辺部に位置する。この中位段丘は、北側を松ノ木沢川、南側を明後沢川に開析され、舌状台地を呈する。明後沢遺跡群とは、この舌状台地内部に含まれる7遺跡（明後沢遺跡、八郎館遺跡、宗角館遺跡、熊野遺跡、鳥子沢遺跡、幅遺跡、前堀遺跡）の総称である。今回の調査範囲は、明後沢遺跡、幅遺跡、及びそれらの隣接地に相当するが、現況は過去の水田造成などにより、平坦的な地形となっていることから、遺跡同士の境界は明瞭ではない。

よって、明後沢遺跡群として報告する。調査地の現況は水田・畑地などで、標高は70～75mを測る。

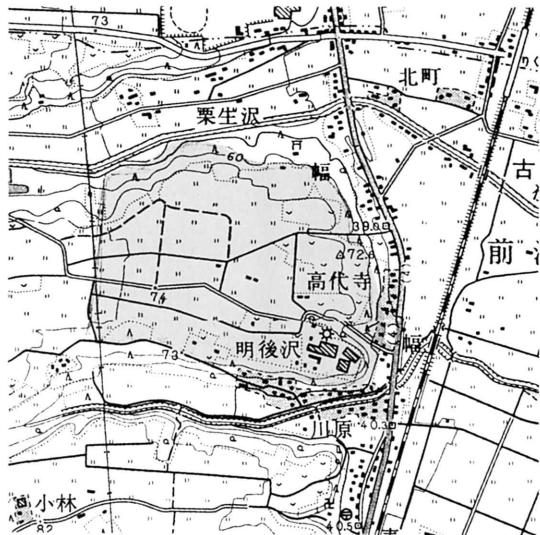
調査は、ほ場整備事業に伴い掘削の必要となる計画道路・田面のうちの切土部分・排水路部分を対象とし、試掘を実施した（T 1～T 141）。遺跡の基本層序は以下のとおりである。

第1層；表土（耕作土）層厚25～40cm（平均30cm） 第2層；黒褐色土層厚0～80cm 第3層；黄褐色粘土（地山）層厚不明

今回検出された遺構数は推定も含め、竪穴住居跡10棟、ピット類36基、陥し穴状遺構6基、溝跡76条、井戸跡1基、畝間状遺構1箇所、柱穴30基以上である。今回は、調査地が広範囲であることと、調査が複数日にわたったことから、トレンチ数は141本と多く、またアトランダムな配置となっている（トレンチNOの若い方ほど調査期日が早い）。よって、調査地を大きく①～⑥に区分し、区分した調査地毎にその概要あるいは特記事項を記述する。

①調査地北部（段丘縁）は、T 60～T 62付近より、過去の明後沢遺跡群の調査からは希薄であった竪穴住居跡が密に検出された。検出された竪穴住居跡は、全般に径3～4mの小形が主体のようであり、また比較的土器（土師器壊など）を伴う場合が多い。併せてこの付近からは、方形気味のピット類など特殊性が窺える遺構も検出している。②調査地中央からやや北西に寄った地点は、T 67～T 91で時期不詳の溝跡が多数検出された。出土遺物は皆無であった。推測の域はでないが、古代～現代までのものが存在すると思われる。③調査地中央付近は、T 102～T 117を中心に溝跡やピット類を少數検出した。遺構からは出土遺物を確認できなかったことから、時期の特定はできないが、T 31から須恵器片、T 37から土師器片（高杯）が何れも第2層黒褐色土より出土していることから、遺構も概ね平安時代と推定される。また、T 35・T 41・T 106で縄文時代と推定される陥し穴状遺構を検出している。なお、T 31・T 119・T 121・T 123・T 125は、土層の様相から判断して、旧河道跡の可能性が考えられ、大凡西～東に向かって流れていたと思われる。④調査地中央からやや南西に寄った地点は、T 127～T 139より溝跡を若干数検出しているが、全体的に遺構の希薄な地点であった。⑤調査地南部は、T 15で十和田a火山灰の小溝状の広がりが見られ、畝間状遺構と推定される。また、T 52より竪穴住居跡と思われるプランを、T 44より道路側溝の可能性がある2条の平行する溝跡を検出した。⑥調査地南西端部は、T 141で溝跡を若干数検出した。なお、溝跡より古代の布目瓦片が出土している。

今回の調査結果をまとめると、この台地全体に人の生活の痕跡を確認できたが、古代人の居住空間は台地縁辺部、縄文時代と思われる狩場的空間は中央付近を中心とする様相であることがわかった。



第114図 明後沢遺跡群位置図



第115図 明後沢遺跡群調査区位置図

41 土地改良総合整備事業（一般）

久田遺跡（N E 09-1329）

所在地；江刺市伊手地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成12年10月24日

遺跡は、伊手川の右岸に突き出た丘陵の西側斜面に立地し、標高は130～134mである。

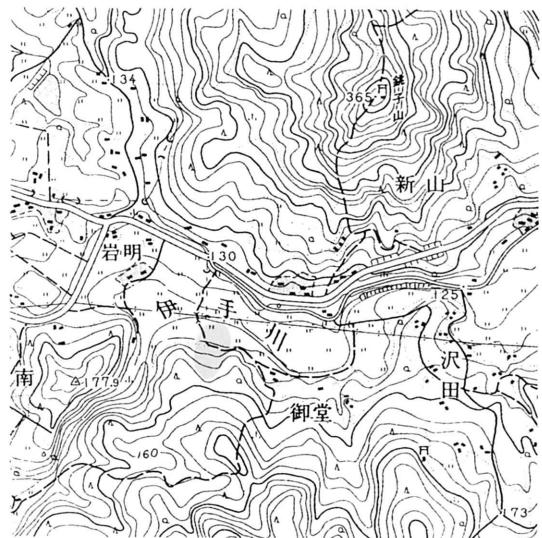
試掘トレンチは予定地内に22カ所設定した。おおよその基本層序は、第1層、耕作土、層厚23cm、第2層、黒色土、層厚23cm、第3層、黄褐色土層、層厚40cm以上で、第3層上面が遺構確認面である。

試掘の結果、T1・2層（黒色土）から縄文土器、T10では竪穴住居跡1棟が発見された。T11、12から縄文

時代後期の遺物包含層1カ所、T13・3層（黒色土）から石範、T14・15・16の3層（黒色土）から縄文土器が出土した。T15から幅0.3mの溝が発見された。T18からは土坑2基、T19からは、竪穴住居跡2棟、土坑2基が確認された。T22からは竪穴住居跡1棟が発見された。T10の竪穴住居跡は深さ15cm程度と判断された。全体的に見て、遺物は遺構を除くと、それ程多く出土していない。

出土した遺物は、縄文時代後期中葉の土器が主体となる。出土事例が多くない単孔土器が出土しており、この地域における後期中葉の基幹集落跡が存在する可能性が高い。遺跡の構造は住居跡を取り囲んで、遺物包含層が存在する形と推定される。

しかし、T10の結果から遺構の残存状況は良いとは言えず、遺構上部はすでに削平を受けたものと考えられた。周囲の地形との比較から、今回の事業区は過去の削平により一部改変されているものの、遺構が残存する範囲を中心に発掘調査を実施することとした。



第116図 久田遺跡位置図



第117図 久田遺跡調査区位置図

42 新交流ネットワーク道路整備事業関連調査

館遺跡 (N F 14-0159)

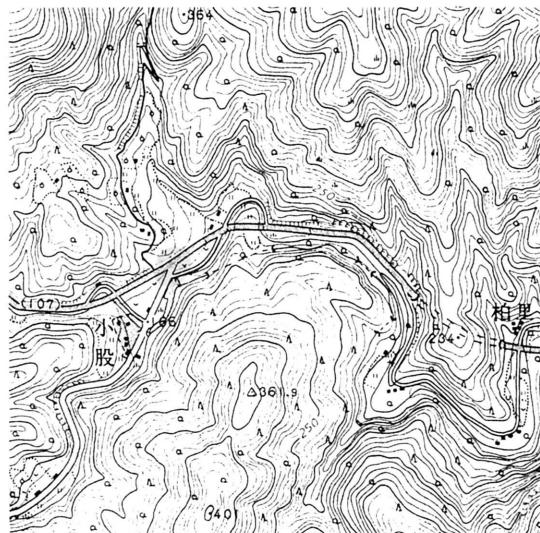
所在地；気仙郡住田町世田米字小股地内

事業者；大船渡地方振興局土木部

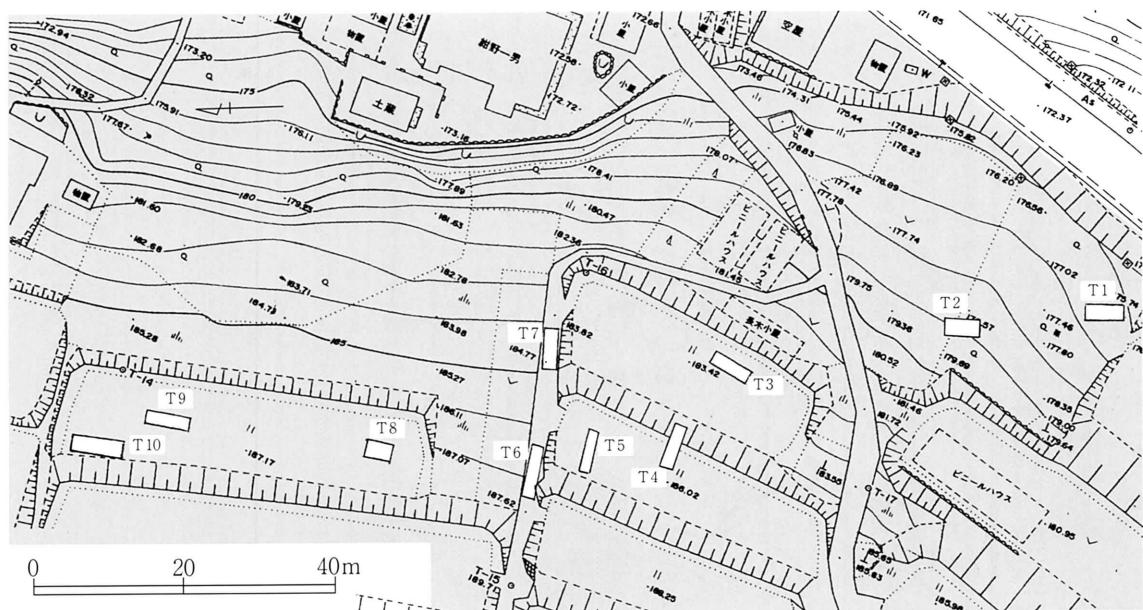
調査期日；平成12年4月20日

遺跡は、大股川とその北からの支流の小股川の合流点に挟まれた丘陵部とその裾部の河岸段丘部に立地している。遺跡全体の現況は山林・水田・畑地であり、丘陵裾部の道路近くに宅地が点在する。今回の試掘調査は国道397号建設予定地（小股地区）を対象とし、国道から分岐する丘陵部の水田・畑地等を中心に、10本の試掘トレーニチを設定した（T 1～10）。

T 1・2は、調査地西側の大股川に近い低い部分に設定したトレーニチであり、地形的に遺構の存在が見込まれた場所であった。2つのトレーニチでは、畑作耕作土下層に黒褐色土が認められたが、遺構・遺物は確認されなかった。T 1・2から一段上の標高183～186mの水田面に設定したT 3～5では、水田床土下層は水田北側で削平された地山面（黄褐色ローム面）、水田南側で地山粘土による盛土層があり、その下層に一部黒褐色土が認められたが、遺構・遺物は確認されなかった。T 6・7は道路部分に設定したトレーニチであるが、表土下から黒色土層が認められたものの、そのまま斜面状態の地山面となった。T 8～10は、さらに一段高い水田面に設定したトレーニチであり、標高は187～189mである。T 8の部分においては、水田床土直下が地山面となっていたが、縄文土器片は水田耕作土に混入する形で出土した。出土した土器は厚手のもので縄文前期から中期頃と考えられる。T 9では、水田床土下層の地山面から焼土が1基確認されている。同じ地形面であることから、焼土についてはT 8で出土した土器と同様の時期が推定される。水田造成による削平を受けているとすれば、竪穴住居跡の炉跡の残存したものと解釈することもできるだろう。T 8～10の斜面下の水田面は未調査だが縄文時代の集落遺構の広がりが想定できる場所であり、残存状況が良好である可能性がある。（平成13年度本発掘調査予定）



第118図 館遺跡位置図



第119図 館遺跡調査区位置図

43 中山間地域総合整備事業

平清水 I 遺跡 (J G 60-0241)

所在地；九戸郡野田村大字野田地内

事業者；久慈地方振興局久慈農村整備事務所

調査期日；平成12年6月9日

平清水 I 遺跡は三陸鉄道北リアス線陸中野田駅の南西約2.5kmに位置し、北上山地から張り出す尾根の先端部付近に立地している。遺跡の現況は、水田・畑地・山林である。

今回の調査は中山間地域総合整備事業における地域活性化施設を整備するために行ったものである。

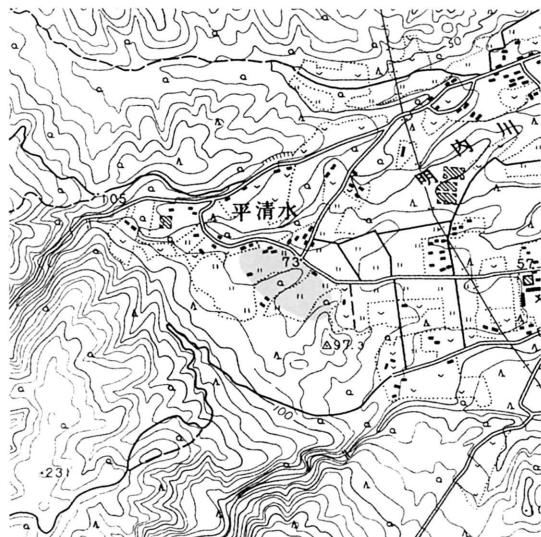
調査では調査対象区域が未買収地であり立ち木があることから、重機が入ることができる北側のみを調査し

た。調査にあたっては、立ち木を避けながら2×3mほどのトレンチを6本設定した(T1～T6)。

調査区の基本土層は1層が表土で層厚20～25cm、2層が暗褐色土で層厚15～35cm、3層は地山の褐色土である。

調査の結果、T1・T5からは褐色土上面で焼土がそれぞれ1基検出された。焼土はいずれも幅40cmほどの不整形のもので、現地性のものと思われる。また、T2からは褐色土上面で暗褐色土の広がりが確認されており、住居跡の可能性が高い。T3からは径50cmほどの円形の土坑が1基検出された。遺物は、T4から土器が1点出土している。小片で摩滅しているため時期は特定できないが、縄文土器と推定されるものである。

以上のことから、尾根の先端部付近の調査区域内には、縄文時代の遺構が多数存在する可能性が高い。



第120図 平清水 I 遺跡位置図



第121図 平清水 I 遺跡調査区位置図

44 中山間地域総合整備事業黒岩地区関連調査

四十九里遺跡（ME57-2028）

所在地；北上市黒岩地内

事業者；北上地方振興局北上農村整備事務所

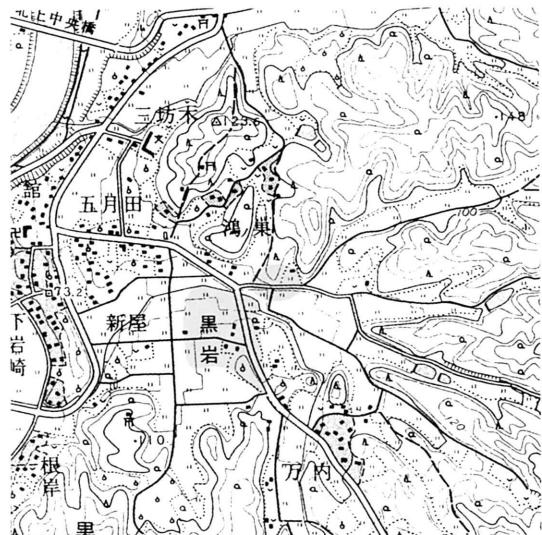
調査期日；平成12年10月4日～5日、

12月11日～12日（4日間）

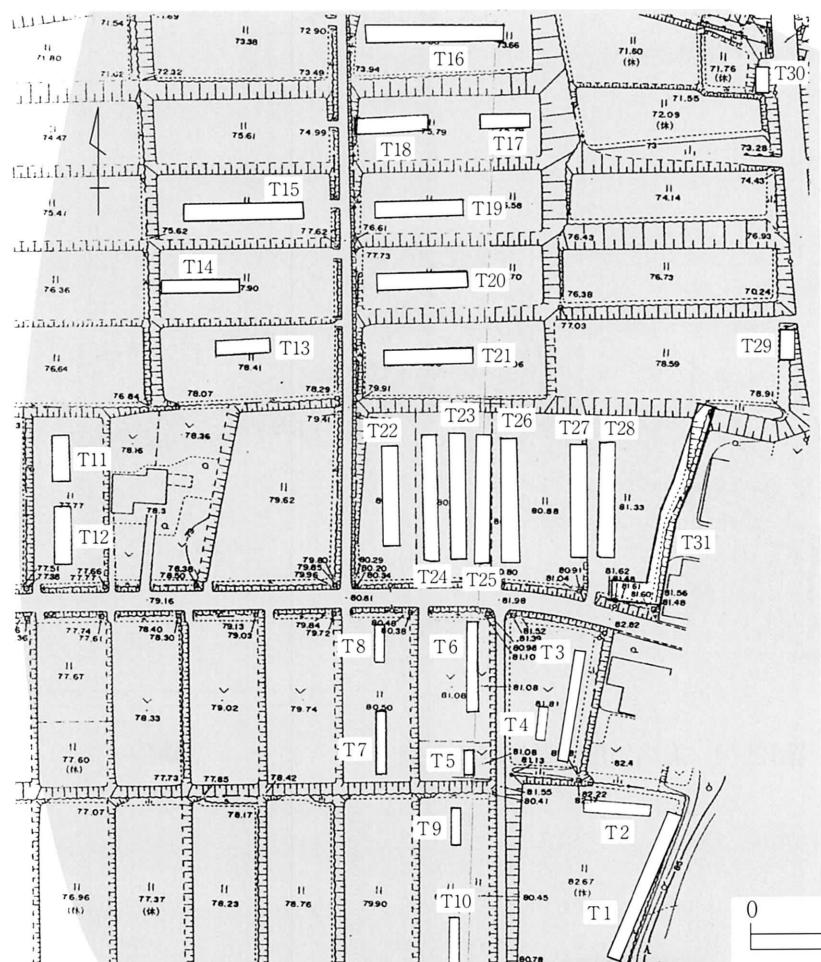
本遺跡は、国道107号線の北上川にかかる日高見橋から北東へ約2.3km、北上川左岸の低位段丘（微高地）及び、沢で開析された緩斜面に立地する。標高は72m～81m前後を測り、現況は水田・畑地・果樹園等である。今回の調査区は、ほ場整備事業に伴う切土部分・排水路部分で、調査は2回にわたって計4日間調査した。

その結果、T23～T28・T31で縄文時代と平安時代の遺構及び遺物を確認した。T23では土坑3基と柱穴1基（焼土を伴う）及び土師器を、T24では柱穴4基、T25では平安時代の竪穴住居跡1棟と土坑1基・柱穴1基をそれぞれ確認した。また、T26では平安時代の住居跡1棟と土坑1基・柱穴3基を、T27では柱穴4基（内、1基から石匙出土）、T28からは縄文時代の住居跡1棟と土坑2基、さらにT31からは土坑2基（1基は方形基調で墓壙の可能性有り）と柱穴1基をそれぞれ検出した。（一部は平成13年度生涯学習文化課本調査予定）

なお、2次調査でのT1～T10からは特段、遺構・遺物は確認されていない。



第122図 四十九里遺跡位置図



第123図 四十九里遺跡調査区位置図

45 ふるさと農道緊急整備事業黒内地区

黒内Ⅷ遺跡 (KE 06-0214)

所在地；岩手郡岩手町大字黒川第2地割9-58

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日；平成12年5月25~26日（2日間）

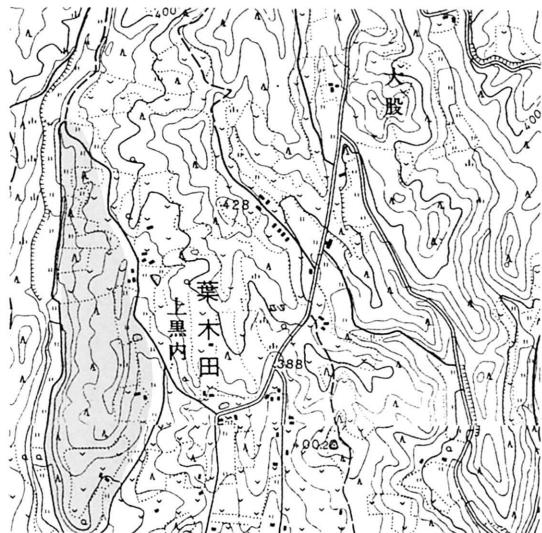
遺跡は、木谷内沢に接する東側にある丘陵上に位置する。現況は畠地を中心に宅地、牧草地、水田、山林となっている。

試掘調査は、農道に沿って1m×3~5m程のトレンチを12本（T14~T25）入れた。

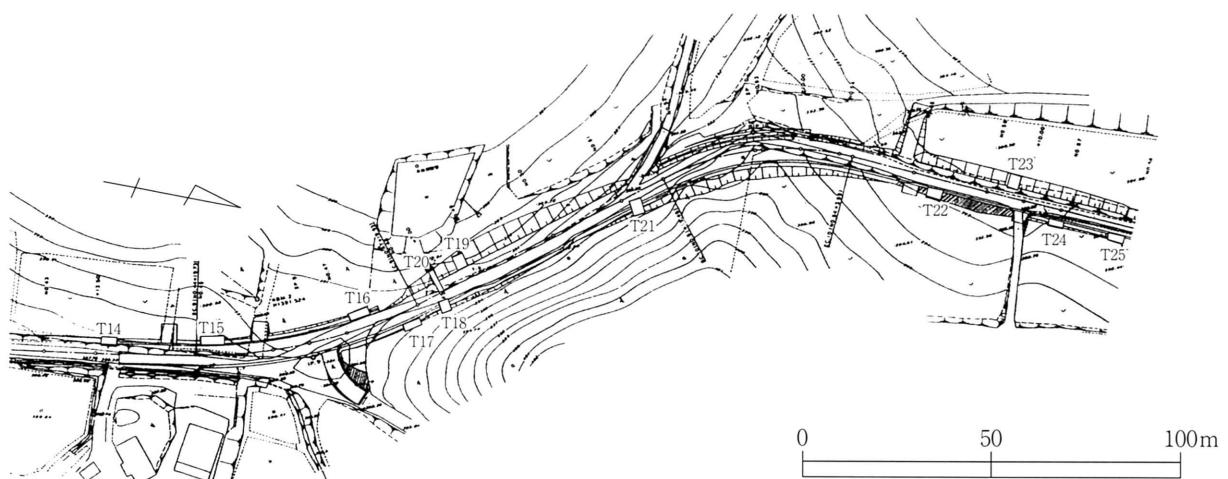
基本土層は、第1層：表土（耕作土・盛土）層厚10~50cm、第2層：暗褐色土層厚20~40cm、第3層：黒~黒褐色土層厚20~50cm、縄文時代中期土器出土、第4層：褐色土層厚0~30cm、第5層：黄褐色土（地山遺構検出面）層厚不明である。

その結果、T15の第3層黒褐色土下位より縄文時代中期の土器片が10点程出土したが、他のトレンチからは遺物・構ともに検出されなかった。

土器の出土したT15は、東向きの緩斜面地で、地形的に見て縄文の集落立地には最適と思われる。また、土器は耕作土から50cm程下位で出土していることから、地形の改変（現況は畠地）による埋蔵文化財への影響はほとんどないと判断され、その部分で遺構が検出される可能性が高いと思われる。



第124図 黒内Ⅷ遺跡位置図



第125図 黒内Ⅷ遺跡調査区位置図

46 ふるさと農道緊急整備事業季ヶ平地区関連調査

野黒沢Ⅲ遺跡（JE25-2237）隣接地

所在地；二戸郡淨法寺町淨法寺地内

事業者；二戸地方振興局二戸農村整備事務所

調査期日；平成12年10月17日

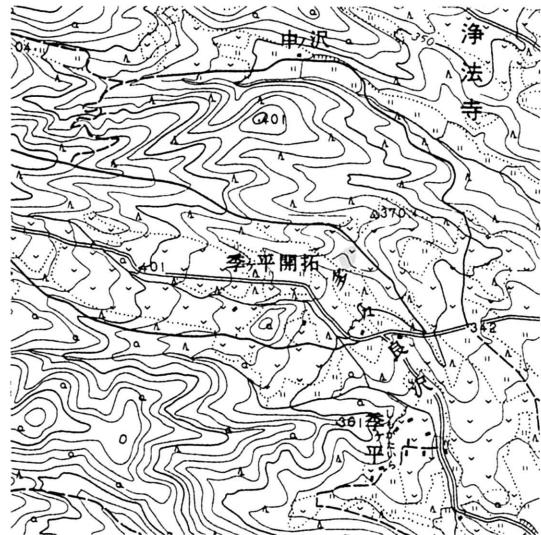
野黒沢Ⅲ遺跡は、日本道路公団八戸自動車道淨法寺インターの西約7kmに位置し、北上山地から張り出す尾根の先端部付近に立地している。遺跡の標高は355m前後を測り、現況は畑地である。

今回の調査はふるさと農道緊急整備事業に伴うもので、現道拡幅部分について試掘を行った。なお、今回試掘した地点は、野黒沢Ⅲ遺跡の南側に隣接する部分であるが、地形が連続するところから調査を行った。調査に

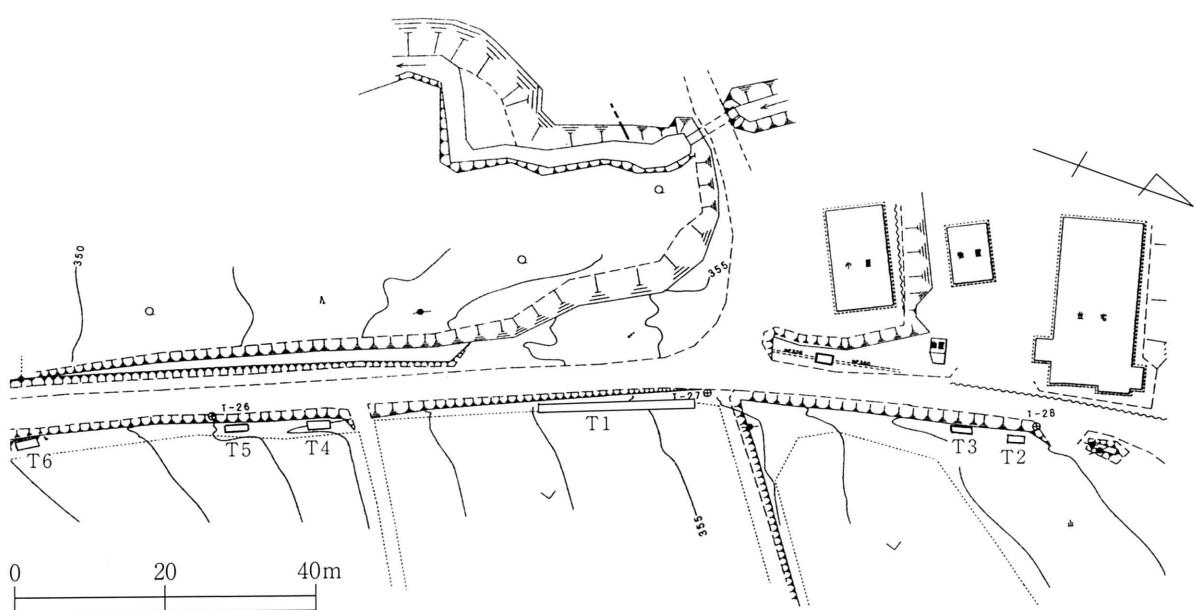
おいては道路拡幅部分に幅70cm、長さ1.5~15mのトレンチを7本設定した。

調査の結果、調査区中央部付近に長く入れたT1では、地山である黄褐色土の上面で陥し穴状遺構4基と柱穴状の土坑6基が検出された。検出された陥し穴状遺構は、平面形が溝状を呈するもので、埋土の黒褐色土には炭化物が少量混入する。1基の埋土から縄文土器が出土している。柱穴状土坑は径が20cm前後のもので、ほぼ円形を呈する。調査区の北端に入れたT2では径30cmほどの柱穴状土坑が検出され、埋土上部から縄文土器が出土している。T2の南側の現道の土手部分に入れたT3では、竪穴住居跡と思われる黒褐色土の広がりが確認された。この住居跡の埋土上部からも縄文土器が出土している。T1の南側に入れたT4からT7では、遺構は確認されず、遺物も出土しなかった。

以上のことから、調査区の北側の部分には遺構が集中する可能性が高く、野黒沢Ⅲ遺跡の範囲が拡大するものと考えられる。（平成13年度本調査予定）



第126図 野黒沢Ⅲ遺跡隣接地位置図



第127図 野黒沢Ⅲ遺跡隣接地調査区位置図

47 ふるさと農道緊急整備事業関連調査

平清水Ⅱ遺跡（J G60-0224）

調査期日；平成12年10月30日

事業者；久慈地方振興局久慈農村整備事務所

所在地；九戸郡野田村大字第22地割（通称平清水）

遺跡は、陸中野田駅の南西約2.5kmの所に位置し、明内川左岸の河岸段丘面に立地する。標高は65m前後を測り、現況は、水田・道路・荒地などである。今回の調査は、野田地区におけるふるさと農道緊急整備事業のために実施した。道路を含む事業予定地内に任意に3本のトレンチ（T1～T3）を設定した。

調査の結果、T3において遺構が確認された。

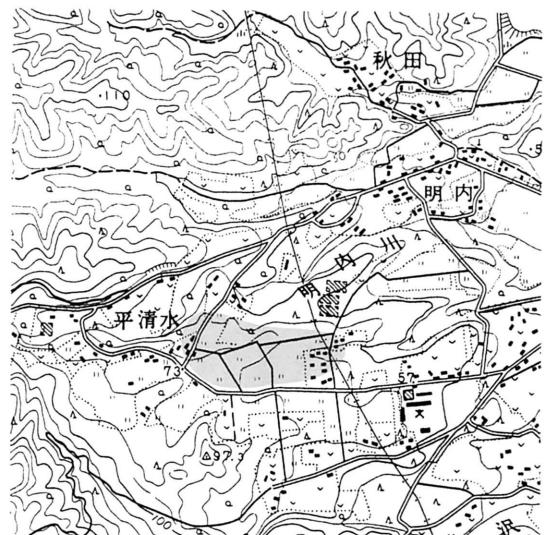
T3の層序は、1層：道路基盤層としての盛土（70cm前

後）、2層：黒褐色土（10cm前後）、3層：遺物包含層となる暗褐色土（15cm前後）、4層：遺構検出面となる黄褐色粘土（地山）となっている。

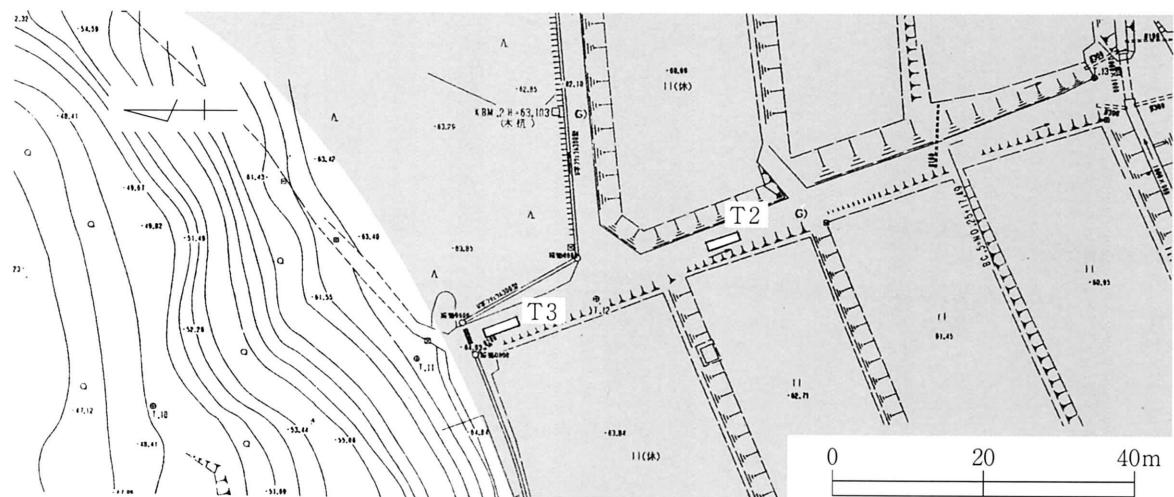
遺構としては、竪穴住居跡と考えられる遺構が少なくとも3棟、さらに土坑が1基確認されている。竪穴住居跡1と竪穴住居跡2、竪穴住居跡3と土坑1はそれぞれ切り合っている。新旧関係については、竪穴住居跡1と竪穴住居跡2については今回の調査では判断できなかったが、竪穴住居跡3と土坑1については土坑のほうが新しいことが判明した。いずれの遺構についても、縄文時代の土器・石器が覆土中より出土していることから、遺構の時期も同時期のものと推定される。

T1、T2については、T3とは土層堆積の様相及び土質が著しく異なること、開田の際に多くの土器類を採取することができたという地元の方の話などから、開田の際に影響を受けていた地域であると考えられる。

なお、本遺跡は岩手県遺跡台帳では、度重なる開田により遺跡自体が壊滅したこととなっていたが、今回の調査によって、遺跡全体が壊滅しておらず、一部残っていることが明らかになった。（平成13年度本調査予定）



第128図 平清水Ⅱ遺跡位置図



第129図 平清水Ⅱ遺跡調査区位置図

48 ふるさと農道緊急整備事業根岸地区関連調査

宝性寺跡 (ME 97-1048)

所在地；江刺市岩谷堂字根岸地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成12年11月2日

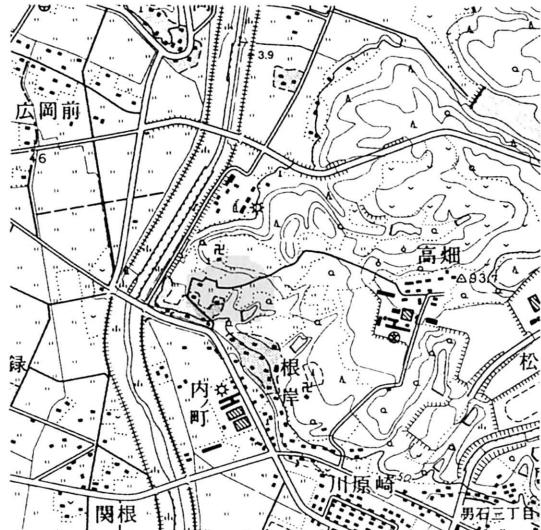
宝性寺跡は、JR東日本東北新幹線水沢江刺駅の北北西約7kmに位置し、広瀬川に沿って延びる丘陵尾根の緩斜面に立地している。遺跡の標高は80m前後を測り、現況は畠地・水田・山林・宅地である。

今回の調査はふるさと農道緊急整備事業に伴うもので、現道拡幅部分について試掘を行った。調査においては道路拡幅部分に幅160cm、長さ2~4mのトレンチを17本設定した (T1~T17)。

調査の結果、道路際の1.5mほど高くなっている林に入れたT3では、表土直下の暗褐色土から多量の縄文土器が出土し、遺物包含層の可能性が高い。包含層の厚さは1.2m前後はありそうで、道路を挟んだ畠部分にも土器が散布していることから遺物量はかなり多いと思われる。T4では、暗褐色土から縄文土器が出土し、表土から40cmの深さで焼土を1基検出した。T5では土器と石器が出土したほか、表土から40cmの深さで土坑と思われる径1.4mほどの暗褐色土の円形の広がりと、柱穴状土坑がそれぞれ1基検出された。T6~T8でも土器・石器が出土し、T7・T8では表土から80cmの深さで住居跡と思われる暗褐色土の広がりが見られた。現況が水田と山林であるT9~T17からは遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。また、本遺跡は寺社跡となっているが、寺社に係わるような遺物・遺構は確認されなかった。

以上のことから、調査区の西側の道路拡幅部分及び現道部分には縄文時代の遺構が集中する可能性が高く、多量の遺物が出土することが予想される。

(平成13年度本調査予定)



第130図 宝性寺跡位置図



第131図 宝性寺跡調査区位置図

49 ふるさと農道緊急整備事業黒川乙部地区関連調査

沢川目遺跡（L E48-1011）

所在地；盛岡市大ヶ生11、沢川目

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

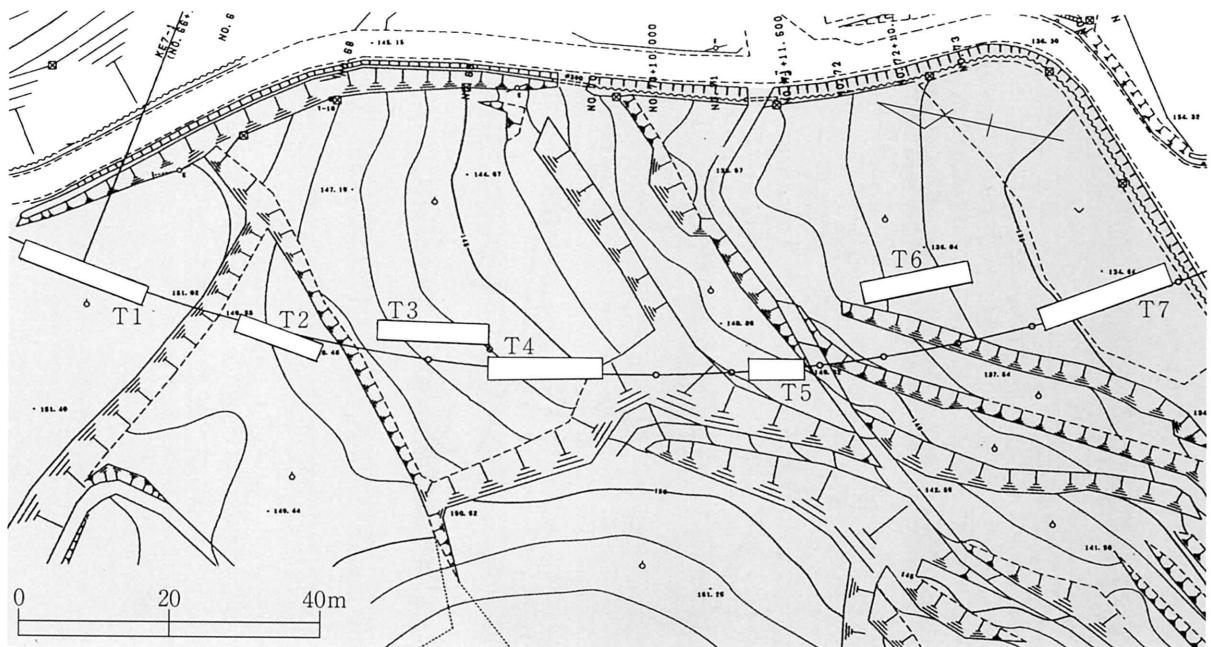
調査期日；平成12年12月13日

遺跡は、北上川左岸の河岸段丘上に立地しており、遺跡の南端及び北端は、北上川と合流する小河川の開析により段丘崖を形成している。遺跡の標高は、136～155mである。遺跡の大半は斜面地となっており、尾根上と段丘裾部に平坦部及び緩斜面部があるだけである。遺跡の現況は山林・果樹園・畑地である。今回の調査地は主として果樹園であるが、現況から既に大きな地形改変を受けていることが予想された。

今回の調査では農道建設予定地内に7本の試掘トレンチを設定した（T1～7）。調査地内で最も高い地点のT1では、表土下に70cm程の盛土がなされ、その下層は削平された地山面であった。T2では、表土下に黒褐色土層が存在したが、遺構・遺物は確認されなかった。T3北側からは、竪穴住居跡を褐色ローム層上面で検出した。住居跡は一辺4.4mの方形を呈し、埋土に土器片・焼土ブロック・灰白色火山灰小ブロックが少量含まれていた。T3北側にも一部黒褐色土層が存在したが、土層の状況から果樹園造成に伴う土層と考えられる。T4～5では、薄い表土直下に削平された地山面となっていた。調査区で最も低い地点の緩斜面に設定したT6～7では、表土下に黒褐色土層が見られたが、その下層は削平を受けた地山面となっており、包含層等は存在しなかった。遺構・遺物が確認されたのはT3北側のみである。この部分については、本来の地形をある程度残しているものと考えられる。確認された遺構の時期としては、竪穴住居跡の埋土内にあった土器片がロクロ使用の坏であること、埋土内に灰白色火山灰ブロックを含むことから、平安時代前期の遺構であると推定され、遺跡の西方の徳丹城跡との関連も想定できる。



第132図 沢川目遺跡位置図



第133図 沢川目遺跡調査区位置図

50 一般農道整備事業日向川西地区関連調査

新規遺跡（N E 65-1163）

所在地；胆沢郡衣川村大字下衣川字金成地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成12年7月24日

遺跡N E 65-1163は、JR東日本東北本線平泉駅の北西約5kmに位置し、滝ノ沢川に向かって延びる丘陵尾根の裾部に立地している。遺跡の標高は60m前後を測り、現況は水田・山林である。

今回の調査は一般農道整備事業に伴うもので、農道新設部分について試掘を行った。調査においては道路新設部分に幅160cmのトレンチを14本設定した（T1～T14）。なお、調査区の南側は休耕田ではあるが、重機の

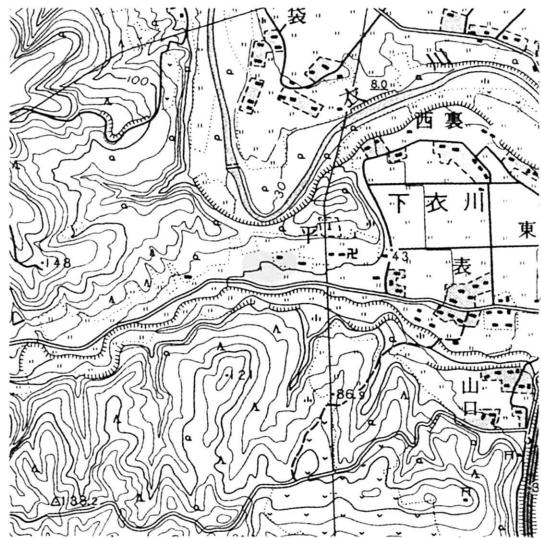
進入路がなく、水を抜いた直後であったため調査ができなかったが、この部分については山林部分との間に沢と水路があり、標高も5～7m下がることから遺構の検出される可能性は低いと考えられる。

調査区の基本土層は、1層が表土で層厚20cm前後、2層が暗褐色土で層厚は30～40cm、3層が黒褐色土で層厚は15～20cm、4層は黄褐色土で地山となる。

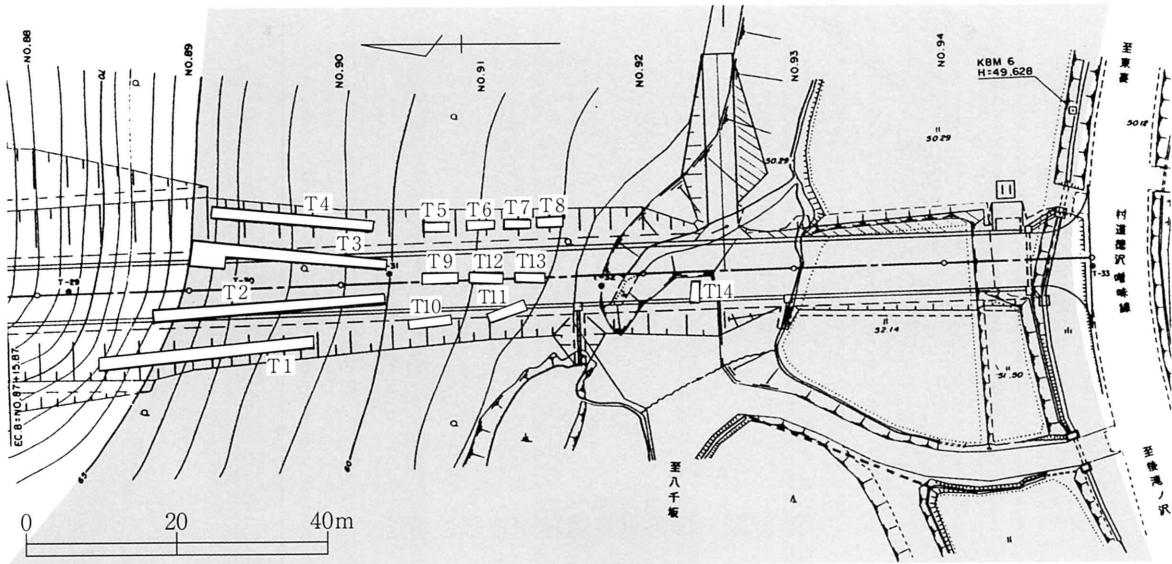
調査の結果、T1とT3の尾根斜面部の2層上面で焼土の広がりが検出されたが、これは元地権者の話から昭和初期の炭窯の跡と確認された。T1の南側では土坑が1基検出された。この土坑は平面形が楕円形で、規模は90×80cm前後と推定される。その埋土には少量の焼土と炭化物が含まれ、土師器片が数点出土したことから平安時代の遺構と推定される。

尾根の裾部に入れたT6とT12ではゴミが出土し、付近は攪乱をうけていることが分かった。他のトレンチからは遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。

以上のことから、調査区の尾根の下部西側付近では平安時代の遺構が検出される可能性が高い。（平成13年度本調査予定）



第134図 N E 65-1163位置図



第135図 N E 65-1163調査区位置図

51 広域農道整備事業盛岡西部地区

田の沢D遺跡

所在地；玉山村渋民字田ノ沢

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

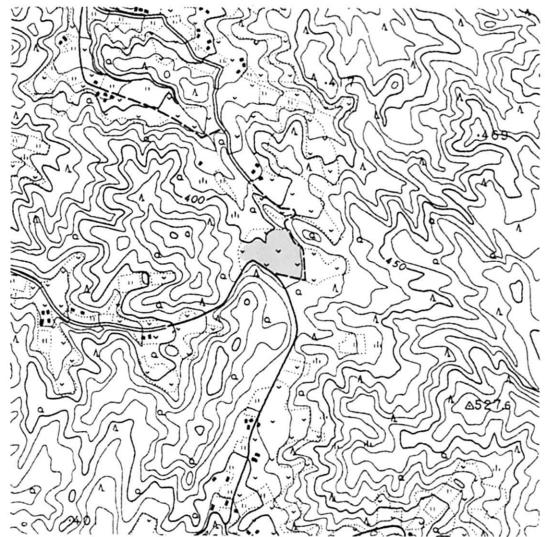
調査期日；平成12年11月24日

遺跡は、玉山村の東部の渋民地区に所在する。姫神山の北西山麓斜面上に立地し、標高は405m前後である。現況はなだらかな傾斜の牧草地となっており、地形の観察から、かつての草地造成時に地形改変を受けていることがわかる。

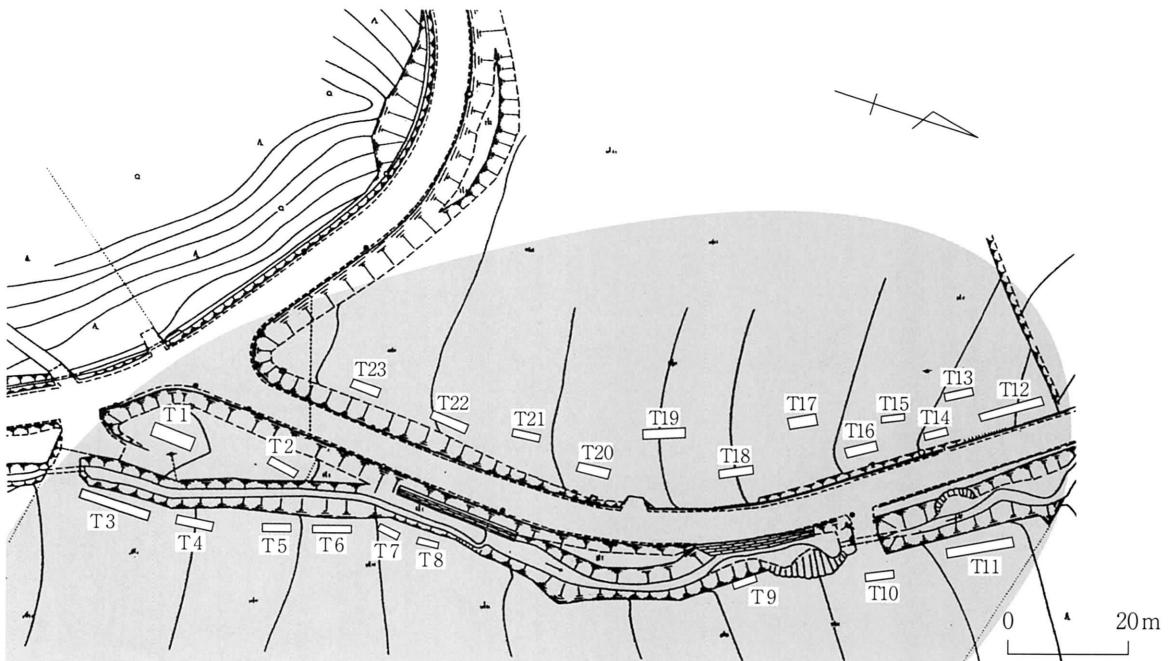
試掘トレンチは事業予定地に計23カ所設定した。基本層位は次のようにになっている。第1層、表土、層厚20~30cm、第2層、暗茶褐色土、0~15cm、第3層、黒色土、遺物包含層、層厚20~40cm、第4層、茶褐色土、層厚不明、T1, 2, 6以外では、黄褐色土（花崗岩巨礫が入る）、層厚不明が地山となる。

T1, 2, 6では縄文土器、石器が出土した。特にT1, 2では縄文時代晚期の遺物包含層が発見された。土器は器面の保存状態が良く、遺物包含層も搅乱が少ないとから、良好な遺物の出土が想定される。

この他のトレンチでも、黒色土層は確認できたものの、遺物が包含されておらず、遺構の確認もできなかった。草地造成時に削平を受けているものと考えられた。



第136図 田の沢D遺跡位置図



第137図 田の沢D遺跡調査区位置図

52 広域農道整備事業東磐井地区興田地区

奈良崎Ⅱ遺跡（N F 51-1312）

所在地；大東町興田字八日町

事業者；千厩地方振興局千厩農村整備事務所

調査期日；平成12年12月20日

遺跡は、砂鉄川の支流である興田川の左岸に広がる丘陵地の南向き緩斜面地に立地する。標高は170m前後を測り、現況は畠地である。

今回の調査は、広域農道整備事業伴い、農道予定路線の試掘調査を実施した。

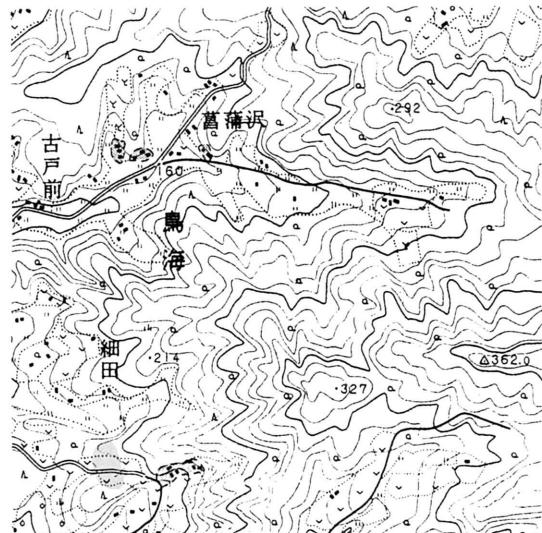
遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土）層厚15~25cm、第2層：黒褐色シルト層厚0~25cm、第3層：

黄橙色中摺火山灰層厚0~8cm、T2・T3付近に分

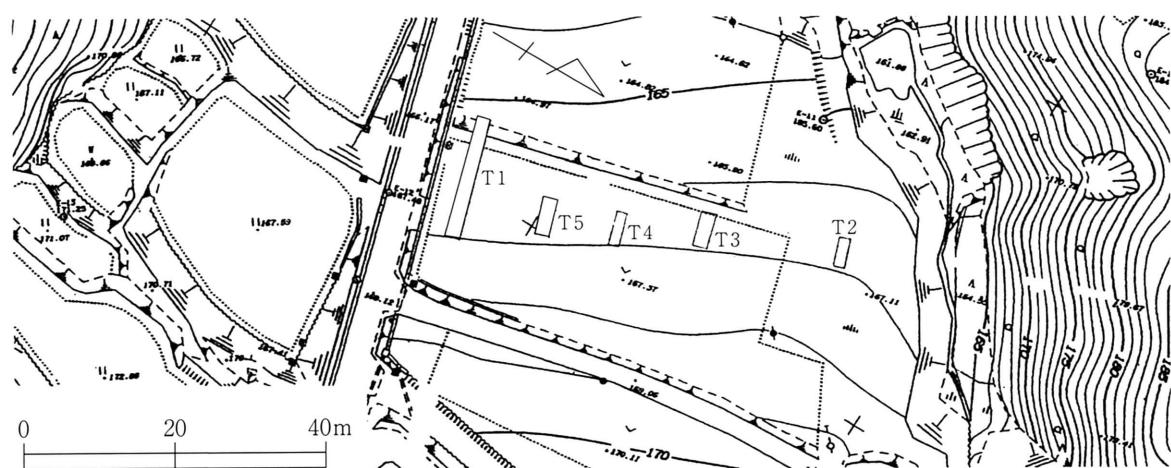
布、第4層：黒褐色シルト層厚0~30cm、下位にはマサ土粒が5%混入、縄文土器混入、第5層：暗褐色粘

土質シルト層厚20~30cm、マサ土粒が10%混入、第6層：黄褐色粘土質シルト層厚不明である。

その結果、T2・T3で、現地表面（畠）から約40cm下で中摺火山灰の広がりを検出し、その下位の黒褐色土（基本土層の第4層）より縄文土器が出土した。出土した土器の胎土中には、纖維を確認できることから、縄文時代前期前半期の土器と推定される。なお、遺物の出土した第4層黒褐色土は、マサ土粒の混入具合で上下層に区分される可能があり、同層下位はマサ土粒の混入率が高くなり、無遺物層と思われる。黒土中のため、明確には遺構を特定できなかったが、第3層中摺火山灰層は遺構（住居跡など）の埋土上位層で、第4層上位層（マサ土粒の入らない部分）は遺構埋土中位～下位層である可能性がある。T1は、第3・4層の堆積がなく、遺物も出土していない。T1とT3の中間地点に設定したT4は、遺物は出土しなかったが、第4層上位層が確認できることから、遺構の検出される可能性がある。



第138図 奈良崎Ⅱ遺跡位置図



第139図 奈良崎Ⅱ遺跡調査区位置図

53 広域農道整備事業東磐井地区興田地区

鳥海II遺跡（N F51-0316）

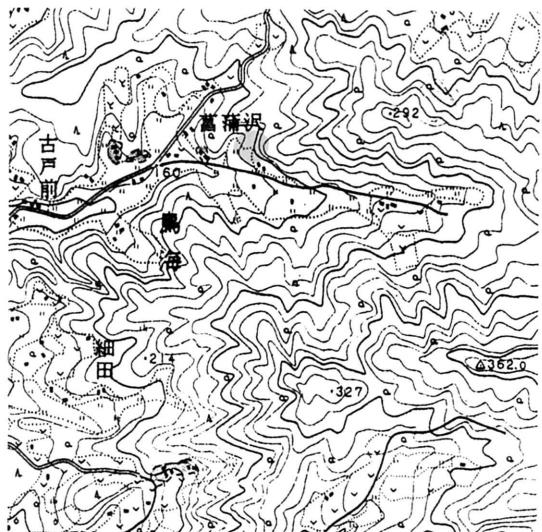
所在地；大東町興田鳥海字菖蒲沢

事業者；千厩地方振興局千厩農村整備事務所

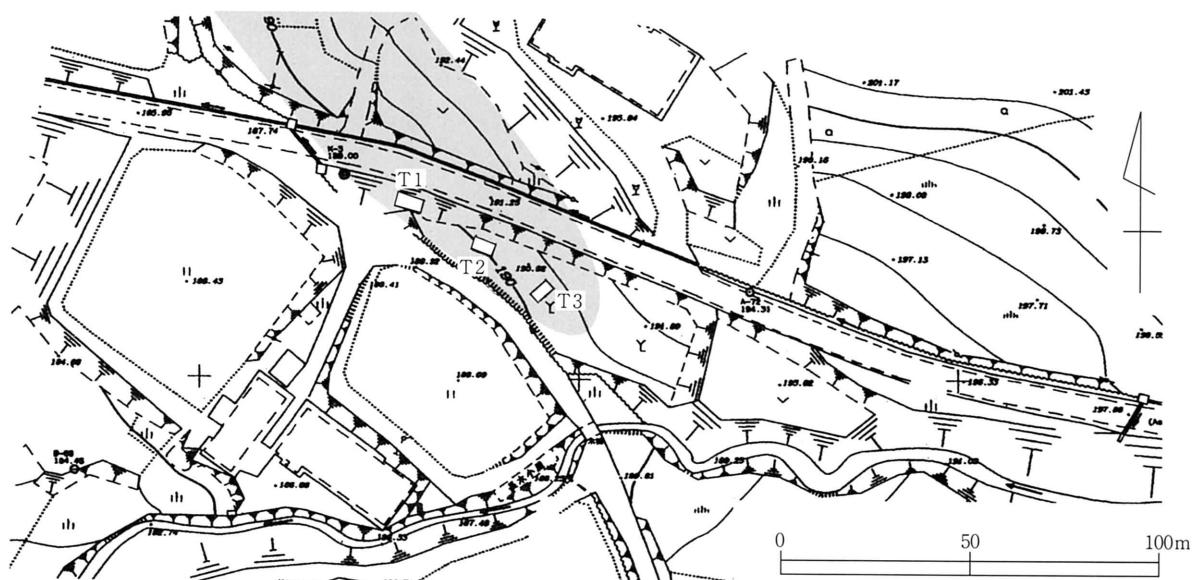
調査期日；平成12年12月20日

遺跡は、砂鉄川の支流である興田川の左岸に広がる丘陵地の南向き斜面地に立地する。標高は190~191m前後を測り、現況は道路及び畑である。今回の調査は、広域農道整備事業伴い、農道の改築部分の試掘調査を実施した。遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土）層厚15~30cm、第2層：盛土 層厚0~90cm、第3層：暗褐~黒褐色土層厚10~50cm、遺物包含層、第4層：黄褐色粘土（地山）層厚不明である。

その結果、現道脇に設定したT1は、表土直下から約90cmの盛土層が確認され、その下から地山が表れる。T2・3は、傾斜地形変換点に相当する部分で、表土下約30cmに見られる暗褐~黒褐色土層から、縄文土器が出土した。遺物の出土量はそれほど多くはないが、捨て場の縁辺である可能性がある。



第140図 鳥海II遺跡位置図



第141図 鳥海II遺跡調査区位置図

54 森林保全整備事業関連調査

中ノ館跡 (L E 20-0227)

調査期日；平成12年8月21日

事業者；盛岡地方振興局林務部

所在地；岩手郡雫石町御明神字清水川、志戸前

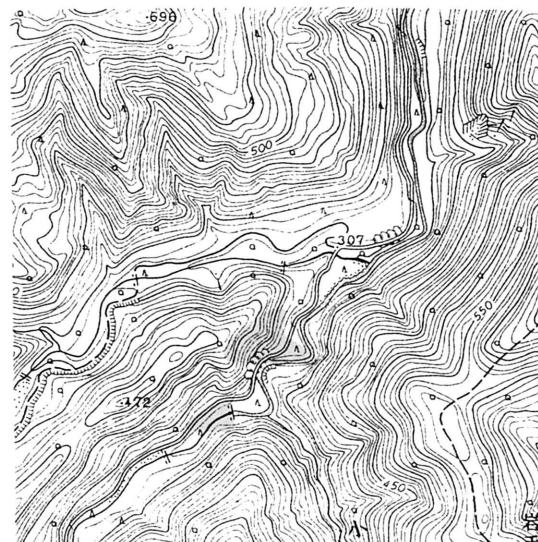
遺跡は、赤渕駅の南西約5kmのところに位置し、標高682mの方丈山の西側、荒沢と志戸前川の合流点付近に立地する。標高は310m前後を測り、現況は道路及び林地である。

今回の調査は森林保全整備事業における広域基幹林道志戸前川線整備のためのものである。事業予定地内に6本のトレンチ (T 1～T 6) を設定した。

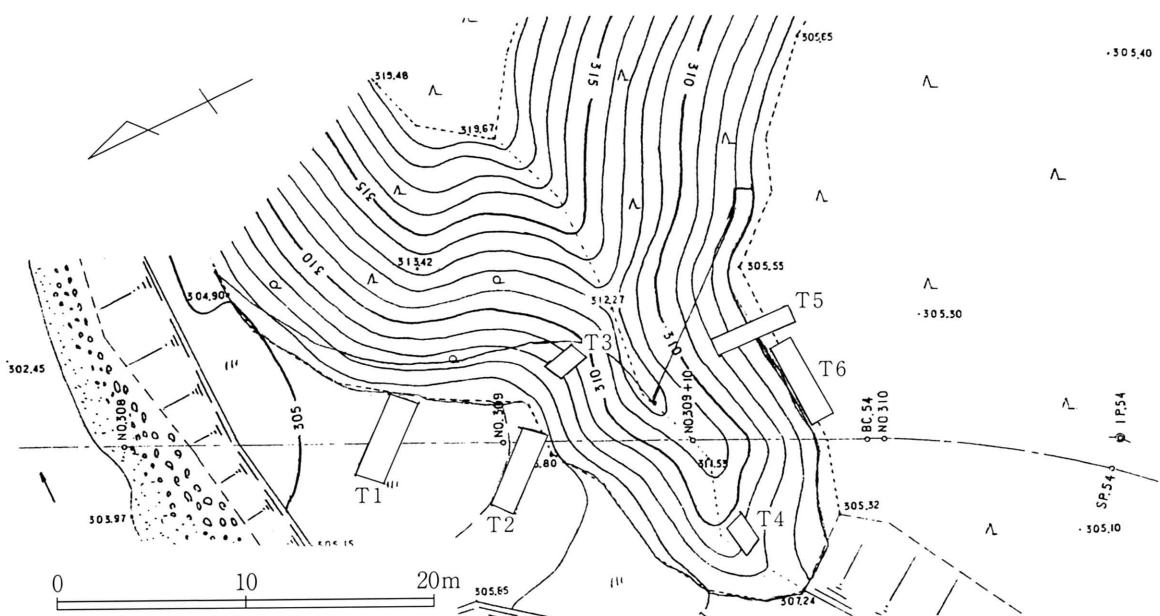
基本層序は、郭部分と郭周辺部で著しく異なる。郭部分の基本層序は、1層：表土 (0～5cm)、2層：岩盤層（地山）である。郭周辺部の基本層序は、1層：暗褐色砂質土 (20～30cm)、2層：褐色砂質土 (50～100cm)、3層：青灰色砂質土 (60～70cm)、4層：泥炭を含んだ暗褐色シルト質土 (40～100cm)、5層：湧水のある岩盤層（地山）となっている。

調査の結果、郭と考えられる部分の南側 (T 5～T 6) については、土層堆積の状況から、湿地状を呈していたところに、褐色砂質土が堆積したものと考えられ、遺構・遺物が存在した可能性は低いものと考えられる。北側 (T 1～T 2) については、岩盤層があること、T 1部分で青灰色粘土層上層にラミナ状の暗青灰色砂層が確認されており、志戸前川が増水した際の堆積層であると考えられる。郭部分 (T 3～T 4) に関しては、表土直下で岩盤層が確認されている。一部堀跡かと見られたところにも下層から岩盤が確認されており、柱穴などの遺構の存在する可能性は低いものと考えられる。また、遺物については、全トレンチで確認されなかった。

本遺跡の取り扱いについては、郭の南西側斜面に工事を行うということで、工事着手前に現況について20cm間隔の等高線の入る地形図を作成し、記録保存とすることとした。



第142図 中ノ館跡位置図



第143図 中ノ館跡調査区位置図

55 遠野第二ダム建設事業

九重沢遺跡 (MF 55-0082)

所在地；遠野市遠野町九重沢地内

事業者；遠野地方振興局土木部

調査期日；平成12年9月28日、11月13日

遺跡は、米内川沿いの河岸段丘上に立地し、標高は283m前後である。川沿いのほぼ平坦な場所にある。

試掘トレンチは予定地内に9カ所設定した。現況が林である。各トレンチの基本層序は次のとおりであるが、トレンチにより基本層位がだいぶ異なる。

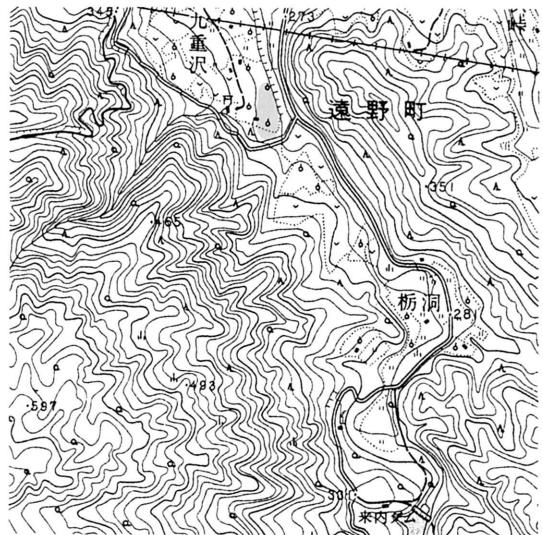
トレンチ1では第1層、表土、層厚45cm、縄文前期の土器が出土、第2層、黄褐色砂礫層、層厚40cm、花崗岩巨礫が含まれている。トレンチ2は、第1層、表土、層厚10cm、第2層、黄褐色砂礫層、層厚53cm、第3層、黒色土層、層厚24cm、第4層、黄褐色粘土層、層厚10cm以上、この層上面に直径30cmの焼土が確認された。トレン

チ3北側は、第1層、表土、層厚40cm、第2層、黄褐色砂質粘土層、層厚20cm以上、この層上面で竪穴住居跡、焼土を確認した。トレンチ3南側、第1層、表土、層厚30cm、第2層、黒褐色土層、層厚50cm以上で縄文時代早期の遺物包含層である。第3層、黄褐色砂層、花崗岩巨礫を含んでいる。

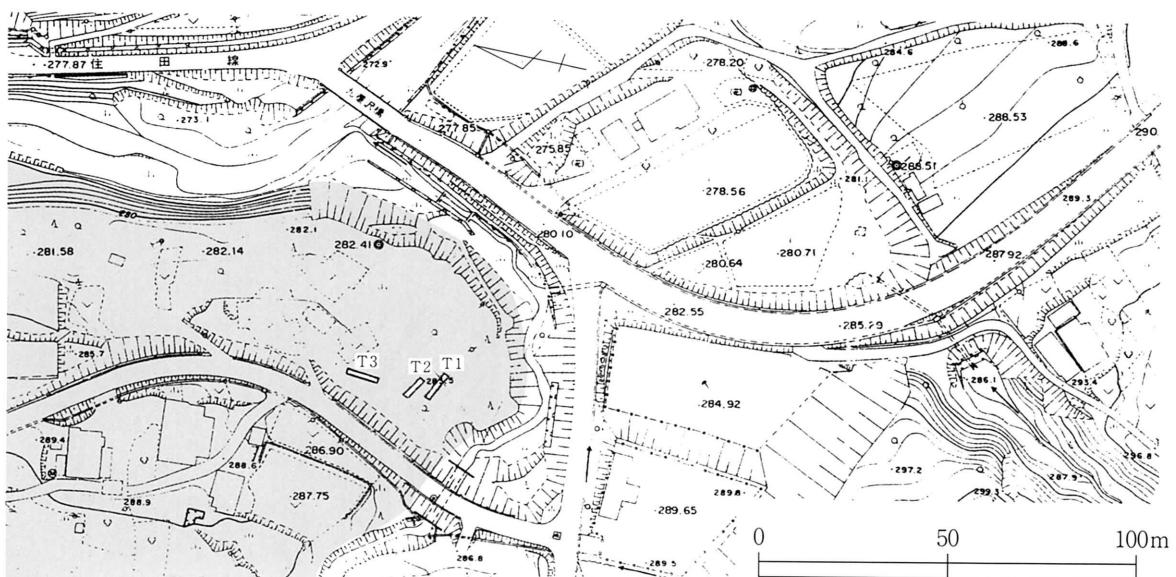
各トレンチに見られる黄褐色砂礫層の堆積から、遺跡は、たびたび砂礫層に覆われる状況にあり、河川堆積物の影響を受けていたと考えられた。よって現地表下より深い場所に遺構の存在があるものと推定される。

出土した土器は、早期末の表裏縄文土器、貝殻腹縁文土器があり、縄文時代早期の遺構が存在するものと考えられた。トレンチ2とトレンチ3の遺構確認面のレベル差が1m程あり、遺構面が2枚存在する可能性が高い。

発掘調査が必要な範囲は遺跡の南側を中心とした範囲であることが判明した。この他、発掘調査が必要な範囲の北側にもトレンチを9カ所設定し、試掘調査を実施したが、遺構、遺物は確認できなかった。現水田下の場所であったが、表土の下には黄褐色砂礫層やシルト粘土層が堆積していた。層中には花崗岩巨礫が混入している状況であった。



第144図 九重沢遺跡位置図



第145図 九重沢遺跡調査区位置図

56 遠野第二ダム建設事業関連調査

栎洞II遺跡(MF55-0082)

所在地；遠野市遠野町地内

事業者；遠野地方振興局土木部

調査期日；平成12年9月27日、11月13日（2日間）

本遺跡は、遠野市役所から南へ約2km、来内川沿いの河岸段丘上に立地し、標高は278m前後を測る。現況は、道路を挟んで畠地と果樹園が広がっている。

今回の試掘調査は、遠野第二ダム建設事業に伴うもので、同事業関連の九重沢遺跡・夫婦石袖高野遺跡と一緒に実施したものである。

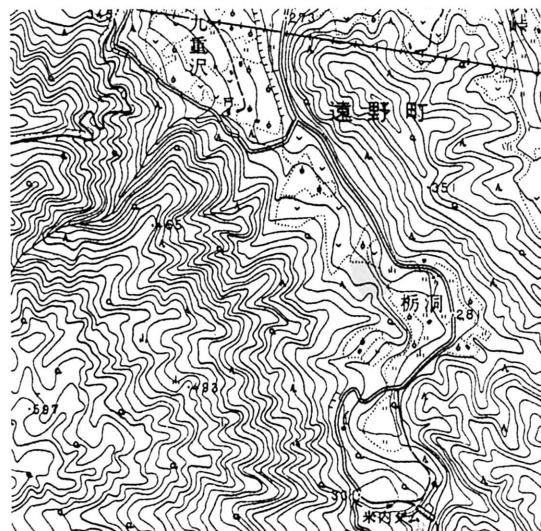
試掘トレチは事業予定地内に10本設定した。各トレチの基本層序は次のとおりである。

第1層：表土30~40cm、第2層：灰白色砂層30cm（T3でのみ検出）、第3層：黒色土層30~50cm、第4層：黄褐色土層10~30cm、第5層：明黄褐色土層、地山・層厚不明。

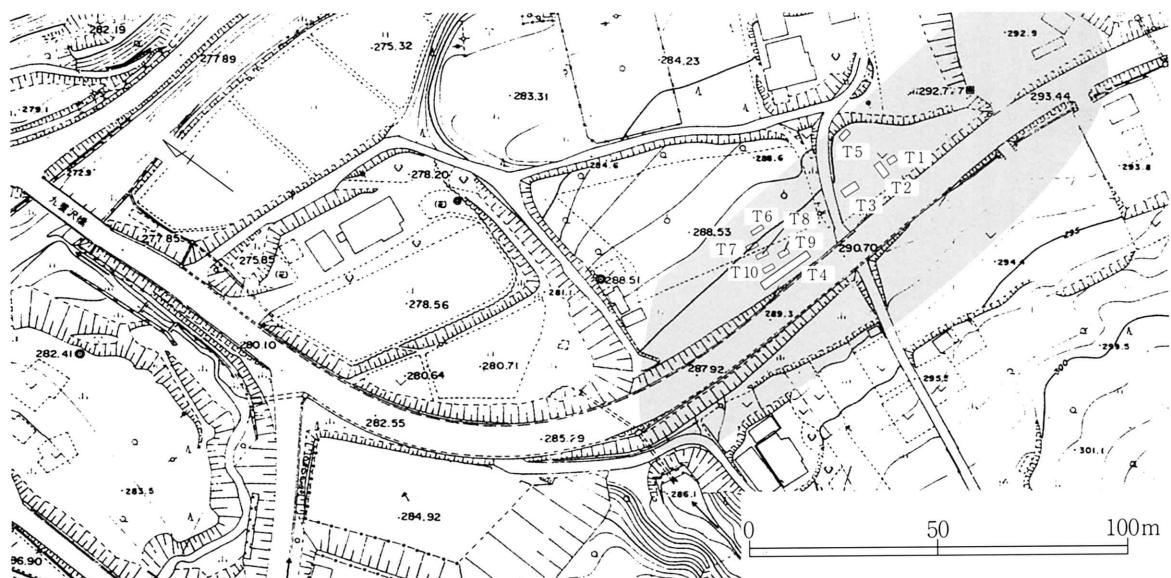
調査の結果、T1~T3付近では縄文土器が表採されたが、遺構は確認できず、一段低くなった畠地に設定したT5からは遺構・遺物は確認されなかったので、調査区東側は事業に影響のないことが判った。一方、西側道路沿いに設定したT4からは3層と4層の間から埋設土器2基、土坑1基が出土し、縄文時代中後期の遺構が存在することが判った。

また、調査未了であった調査区西側の果樹園に改めて入った調査では、T6で竪穴住居跡、T7~T10で遺物包含層が確認された。この果樹園部分の基本層序は、前回のT1からT5に比べ、表土が薄く、黒色土の上に暗褐色砂質土・粘土が堆積しており、遺物包含層である黒色土が20cm堆積する下に褐色粘土・シルト層が続いていた。この遺構の広がりはさらに東側の果樹園に広がるものと思われ、遺跡範囲からはずれる部分について再度の試掘調査が必要になると判断した。

（平成13年度本調査予定、対象範囲確定に際して改めて試掘調査が必要）



第146図 栂洞II遺跡位置図



第147図 栂洞II遺跡調査区位置図

57 築川ダム建設事務所造成工事

沢田遺跡（L E 17-2230）

所在地；盛岡市東中野字沢田

事業者；盛岡地方振興局築川ダム建設事務所

調査期日；平成12年6月1日、2日

遺跡は、北に向かって傾斜する丘陵上に立地し、築川に面し、現況は畠となっている。

試掘調査では28カ所のトレンチを設定した。

基本層位は、トレンチ9；第1層、耕作土、層厚30cm、第2層、茶褐色土層、層厚20cm、第3層、明黄褐色土層、層厚50cm、第4層、茶褐色土層、層厚10cm、第5層、暗褐色土層、層厚15cm、第6層、明黄褐色土層、層厚5cm以上となる。

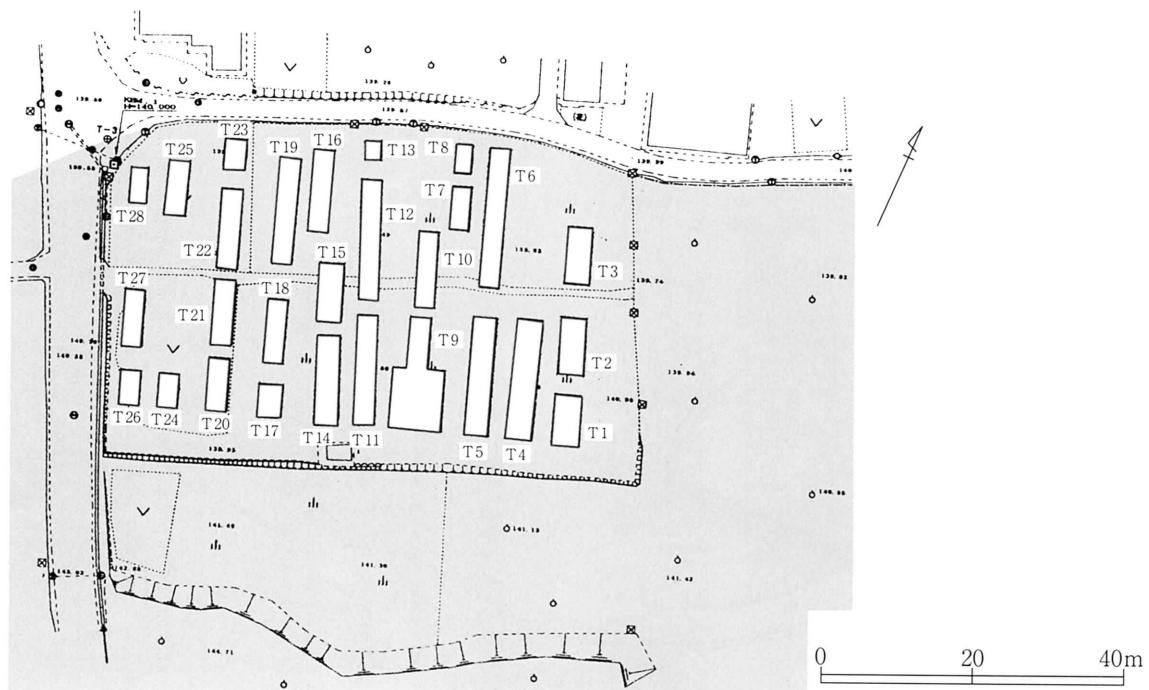
調査の結果、縄文時代早期の包含層が1カ所発見された。T5、T9、T14での所見からすると包含層の範囲は東西長さ28m、南北幅5m、厚さ0.2m程の規模と推定され、事業地外に延びると考えられる。縄文早期の土器が出土している遺物包含層は、岩手山起源と推定される火山灰（基本層位第3、4層）の下に形成されたものである。

表土等からは、19世紀後半の陶磁器、縄文時代前期、晚期の土器、鉄滓が出土した。遺物は表土から比較的多く出土するものの、早期包含層を除いて、出土量は少なく、遺構は確認できなかった。

なお、事務所建設にあたっては遺物包含層を保護する建物の配置、工法を採用することとした。



第148図 沢田遺跡位置図



第149図 沢田遺跡調査区位置図

58 特定環境保全公共下水道（代行）事業関連調査

和野 I 遺跡（K G 23-1047）

所在地；下閉伊郡田野畠村西和野地内

事業者；宮古地方振興局岩泉土木事務所

調査期日；平成12年6月29日

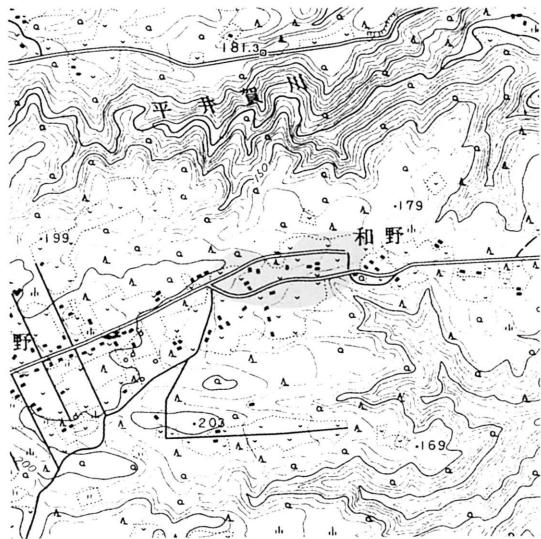
和野 I 遺跡は、三陸鉄道北リアス線田野畠駅の西南西約1kmに位置し、三陸海岸の海岸段丘上に立地している。遺跡の標高は185m前後を測り、現況は畠地・山林である。

今回の調査は特定環境保全公共下水道（代行）事業における下水処理場建設に伴つて行ったものである。調査では、施設建設予定地と管理用道路部分に幅1.2m、長さ2~3mのトレンチを9本設定した（T1~T9）。

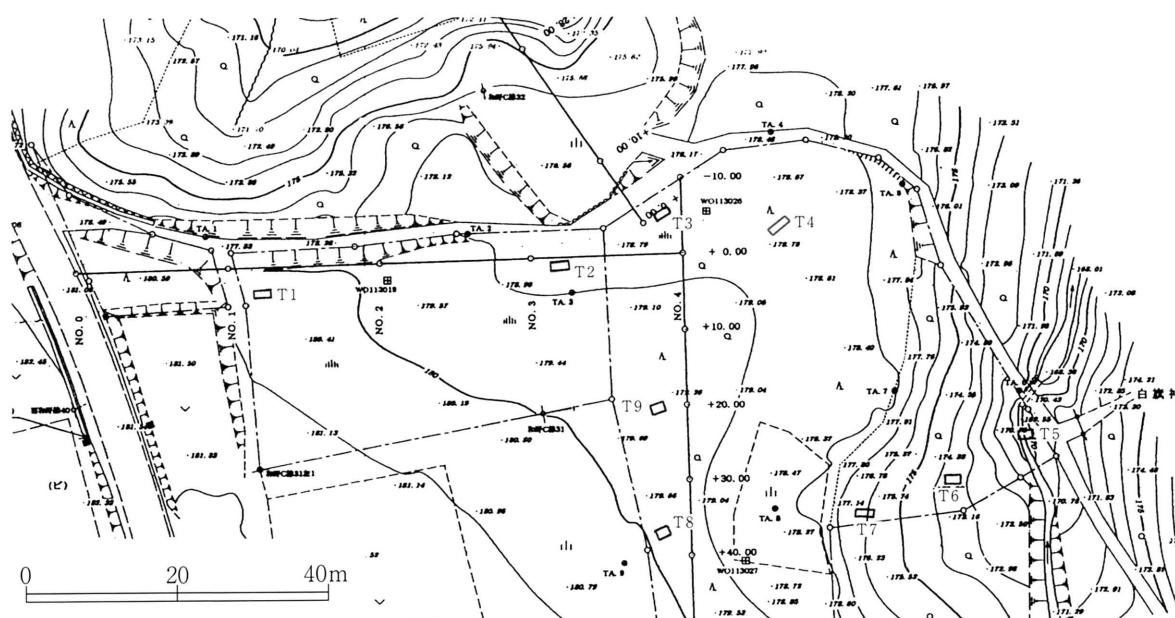
なお、今回の調査区には重機の進入路がなく、立ち木もあったため、人力によって掘り下げを行った。

調査の結果、管理用道路部分に入れたT1・T2では、表土直下の暗褐色土中から多量の土器が出土した。T1では暗褐色土の層の中で焼土が検出されたが、多量の遺物を含み木根も混入し、人力での掘り下げであるため詳細は不明であるが、住居跡に伴う可能性が高い。T2では、暗褐色土が1m以上堆積しているが、土器は主に上面で出土し、下方では出土しなかった。下水処理施設予定地に入れたT3からT9では、T3・T7~T9で少量の土器が出土した。T9では磨石の欠損品が1点出土している。この部分は暗褐色土の層が薄くなっている。調査区南側に入れたT4~T6では、薄い表土の下がすぐ黄褐色あるいは灰黄褐色の地山になっており、遺物・遺構は確認されなかった。

以上のことから、遺跡の主体部は調査区北側の畠と思われ、管理用道路予定地と処理場予定地の南側では遺構が集中する可能性が高い。（平成13年度本調査予定）



第150図 和野 I 遺跡位置図



第151図 和野 I 遺跡調査区位置図

59 一級河川伊手川伊手地区河川局部改良事業関連調査

新田遺跡 (N E 09-1252)

所在地；江刺市伊手字沢田地内

事業者；水沢地方振興局土木部

調査期日；平成12年10月20日

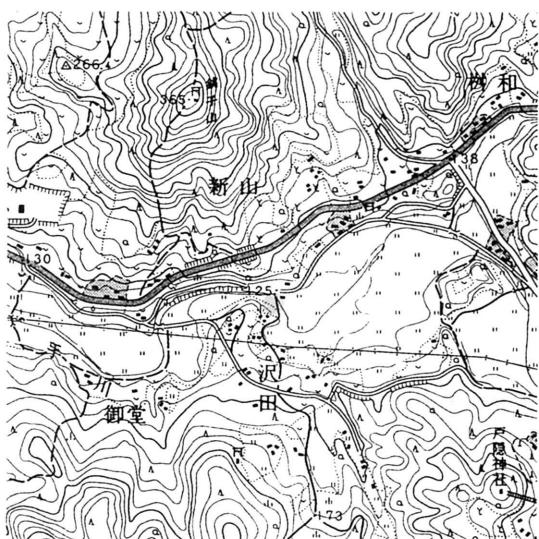
新田遺跡は、JR東日本東北新幹線水沢江刺駅の東北東約8.5kmに位置し、伊手川左岸に舌状に張り出した丘陵尾根の頂部付近に立地している。遺跡の標高は135m前後を測り、現況は畑地・原野・山林である。

今回の調査は、一級河川伊手川の河川改修に伴って遺跡の一部が消滅することから行ったものである。調査では、調査区域の畠脇で過去に表土を若干掘削した形跡が見られ、土器が散布していたため、その部分を中心とし

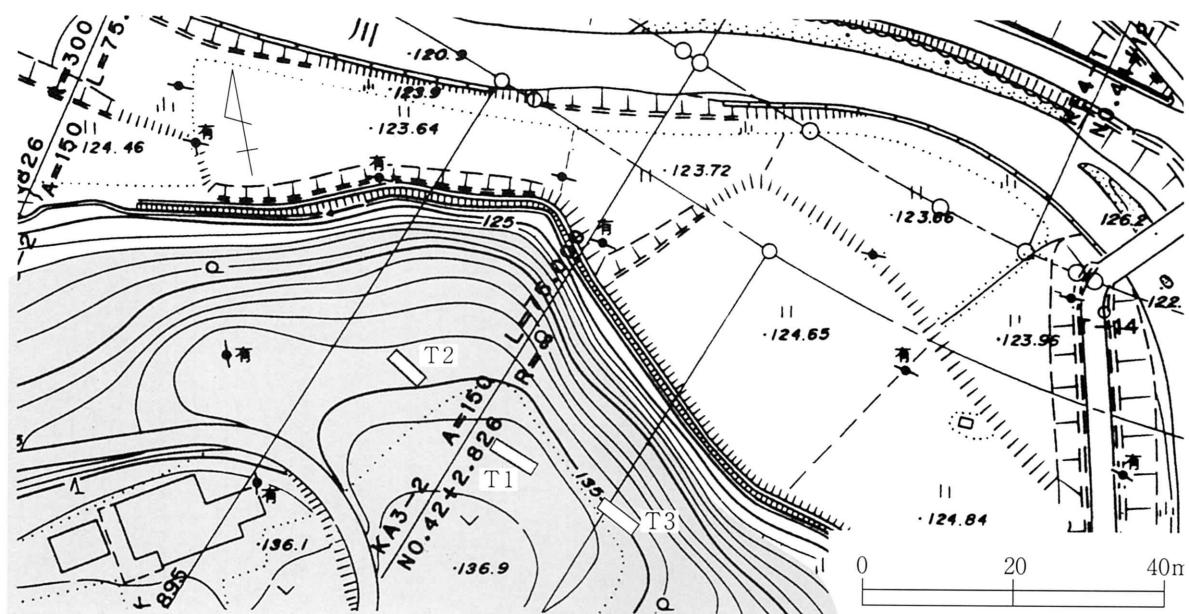
て河川改修によって掘削され法面となる部分に幅1.5m、長さ5mほどのトレンチを3本設定した(T1～T3)。

調査の結果、最も高い部分に入れたT1では表土直下の暗褐色土から縄文時代中期の土器が出土し、その下の黄褐色土の上面で炭化物が混入する暗褐色土の広がりが見られた。T1の東側では少量の焼土も確認されたことから、この部分には少なくとも2棟の住居跡が重複して存在するものと推定される。T1から少し下がった原野に入れたT2では暗褐色土の下に径10～25cmの円礫の層が確認され、その下は砂礫層であった。T2からは遺物は出土していない。もっとも東側に入れたT3ではT1と同様に黄褐色土上面で暗褐色土の広がりが確認されており、住居跡と思われる。T3からも中期の土器が出土している。

以上のことから、今回の調査区域の中で、尾根の頂部付近から尾根が伊手川に向かって急激に落ち込む手前の部分かけては、縄文時代の遺構が集中している可能性が高く、遺物の量も多いことが予想される。(平成13年度本調査予定)



第152図 新田遺跡位置図



60 荒廃砂防事業関連調査

梅の木沢遺跡（J F 15-0344）

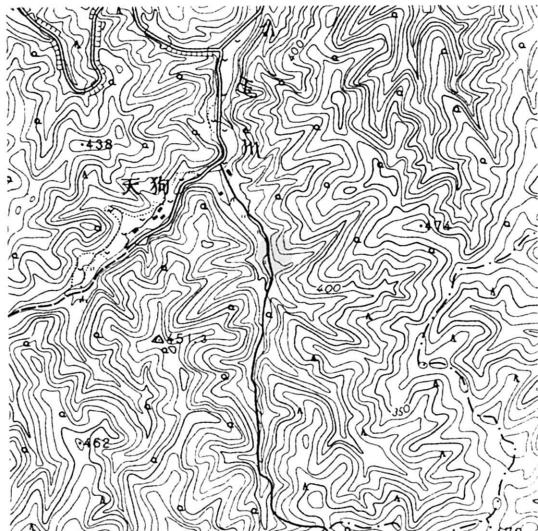
所在地；九戸郡軽米町大字小軽米第17地割字玉川向平
事業者；二戸地方振興局土木部

調査期日；平成12年10月30日～31日（2日間）

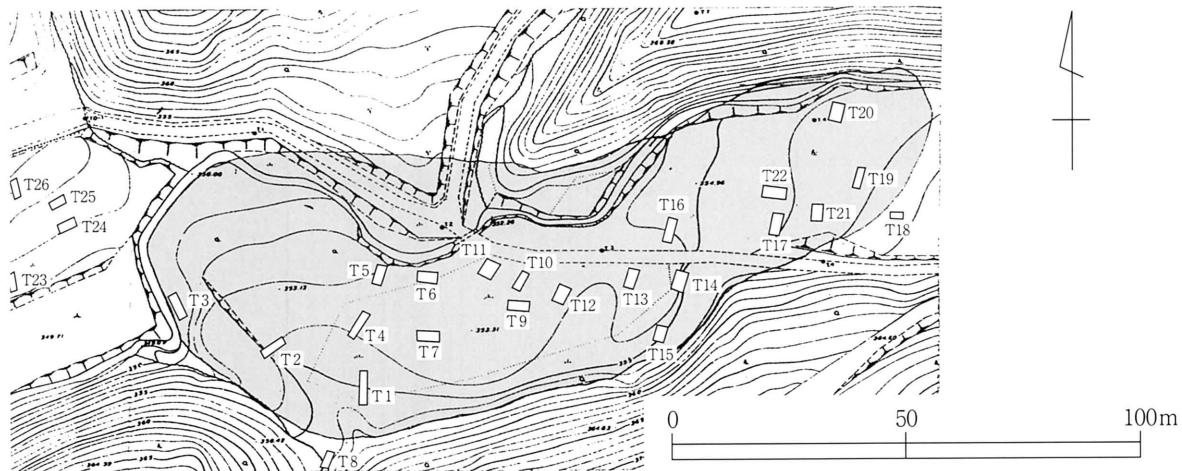
遺跡は、ウチナイ沢とそれに合流する小規模な2つの沢の合流点付近の谷部に立地する。遺跡の標高は348～356mで、現況は山林・原野である。今回の試掘調査では、砂防ダム建設により埋没するダム上流部分を対象に26本の試掘トレンチを設定した（T 1～26）。

製鉄炉のあった場所（高殿）が予想される小高い平場に設定したT 4では、表土、黒色粘質土層の下に、炭化物や鉄滓が集中する部分と、焼土と炉壁の一部が残存する部分、炭化物のみが集中する部分を確認した。炭化物のみの部分は、製鉄炉の地下施設の可能性が考えられる。また、事業予定地外であるが、T 1からも良好な焼土面が確認されており、この場所についても製鉄炉が営まれていた可能性がある。T 7からは、炭窯の可能性がある楕円形の土坑を検出した。一方、沢寄りの斜面部のT 3・T 5・T 6からは、排滓場に関わる排滓層を検出している。最も厚いT 5の排滓層は、炉壁廃棄層を挟んで大きく3層に分かれ、全体の層厚は170cm程であった。また、北東側の沢沿いに盛り上がっている部分でも、多くの鉄滓が表採できる状況であり、この部分はT 5他の部分と同一の排滓場をなしているものと考えられる。T 10～15においては、鉄滓の分布は希薄であるが、表土下の地山面から、柱穴や土坑等の遺構を検出している。柱穴は直径25～60cm程であり、鉄生産に関わる居住施設等の存在が考えられる。またT 13では灰白色火山灰層を検出しており、この部分については遺構は存在せず、低地状の地形であったと考えられる。T 16～22からも遺構は確認されず、部分的に沢跡や低湿地の状況であったと考えられる。遺跡外ながら、沢下流の小高い緩斜面部にも関連遺構の可能性が考えられたので、遺跡寄りの部分にT 23～26を設定したが、この場所からは遺構及び鉄滓等は確認されなかった。

出土遺物は、主として鉄滓と炉壁である。年代を推測できる陶磁器類や鉄製品は出土していない。出土した鉄滓は暗青灰色の流状滓であり、調査範囲においては製鉄のみを行った場所であると考えられ、その立地と大量の鉄滓等から、近世の鉄山跡であると推測される。（平成13年度本発掘調査予定）



第154図 梅の木沢遺跡位置図



第155図 梅の木沢遺跡調査区位置図

61 低コスト化水田農業大区画は場整備事業徳田第一地区関連調査

岡村遺跡（L E57-0181）

所在地；紫波郡矢巾町大字間野々岡村地内

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日；平成13年3月6日～7日（2日間）

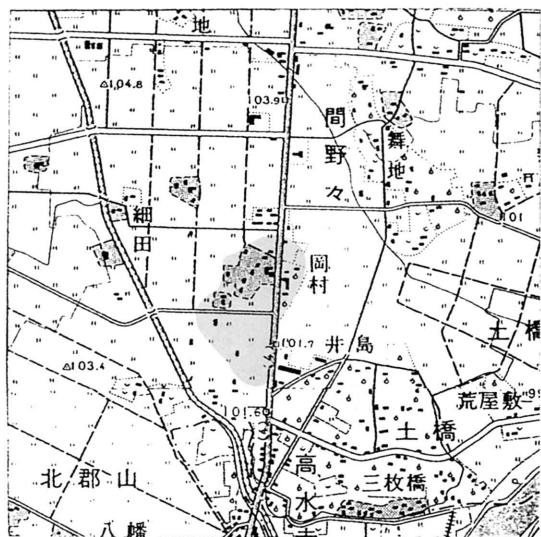
本遺跡は、JR東北本線古館駅の東約1.2km、北上川支流の岩崎川流域に広がる微高地に立地する。現況は水田が中心で、標高は101m～103mである。今回の調査は、暗渠排水パイプ取り付けに伴い、実施したものである。調査区は2地点に分かれることから、南部をA区、北部をB区と呼ぶこととする。A区・B区ともそれぞれ12本ずつ（T1～T12）（T13～T24）のトレーナーを設定した。

その結果、検出された遺構はA・B区併せて竪穴住居

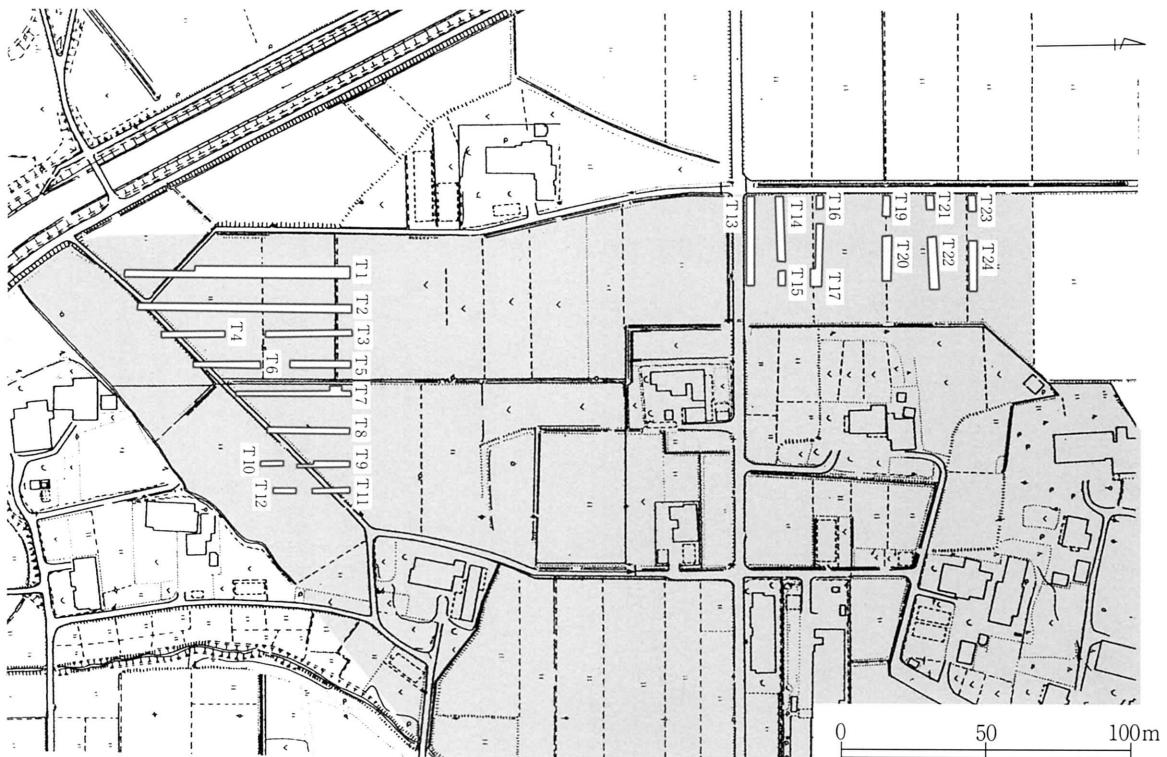
跡5棟、周溝墓3基、土坑9基、溝跡10条、焼土1基、柱穴15基等で、主に4層の黒褐色シルト（層厚0～15cm）から確認された。出土した遺物は、平安時代の土師器（主に甕と壺）が竪穴住居跡1・4号（T1・T9）、土坑2・5・7・8号（T7・T9・T17）及びT9の柱穴群から出土している。

また、溝跡2・3・5・8号（T1～T3・T5、幅90～110cmの同一の溝跡で南西から北東に伸びる）と溝跡9号（T7で検出、幅90cm）は伸びる方向や規模等から、直角に交わる一連の溝跡である可能性があることが特筆される。

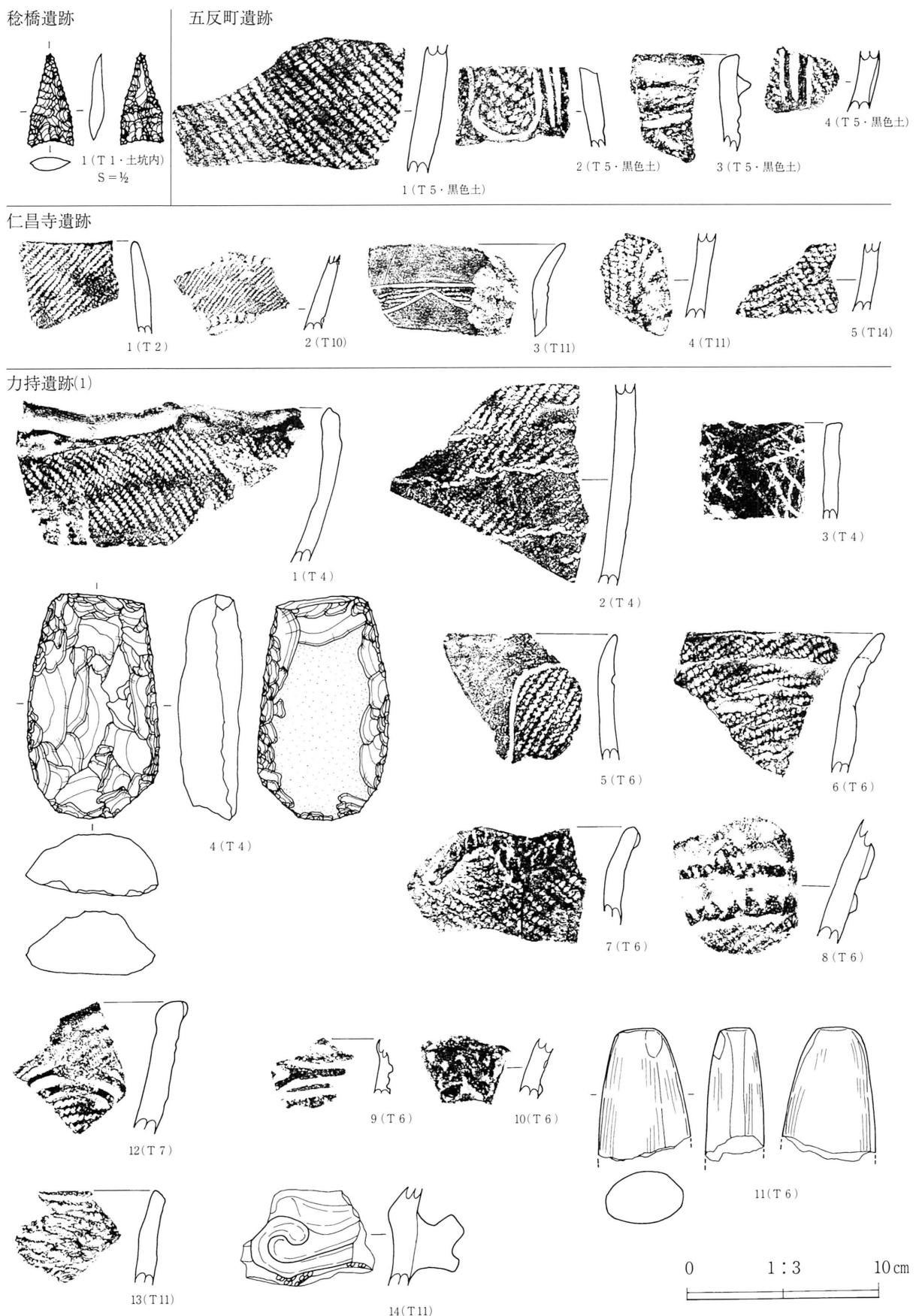
また、土坑5号（T7）出土の土師器壺は、内外面とも黒色処理がなされている等の特徴が見られた。これら一連の遺構については、事業者と協議の結果、工法変更により保存が図られることとなった。



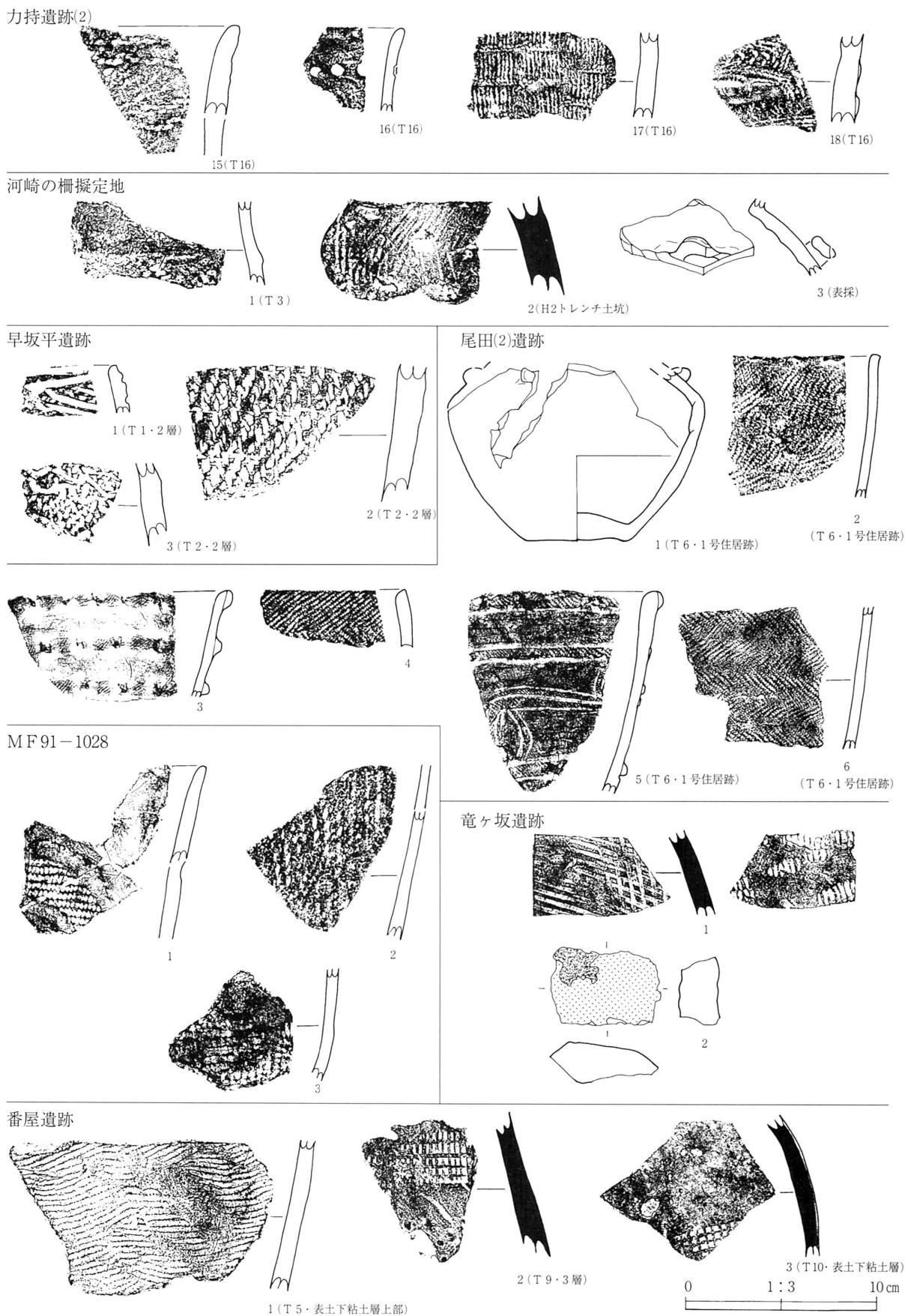
第156図 岡村遺跡位置図



第157図 岡村遺跡調査区位置図



第158図 県内遺跡試掘調査出土遺物1

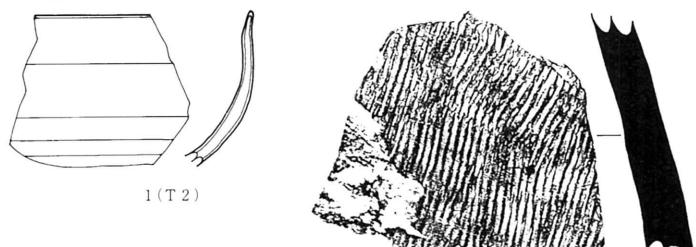


第159図 県内遺跡試掘調査出土遺物 2

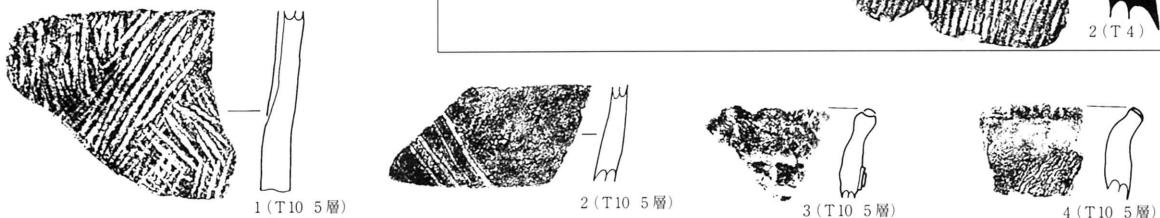
水ノ口前東遺跡



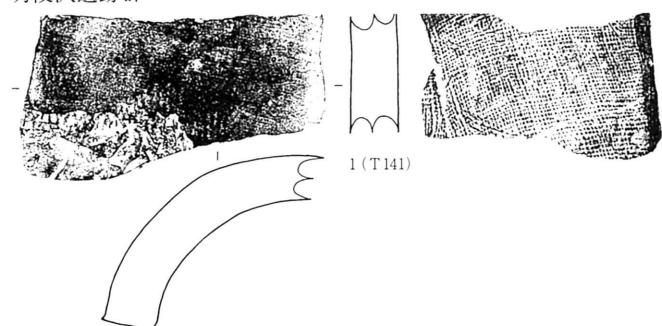
寺ヶ前 I 遺跡



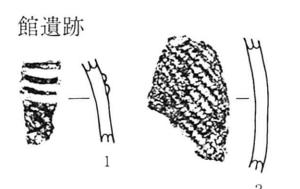
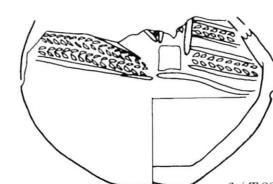
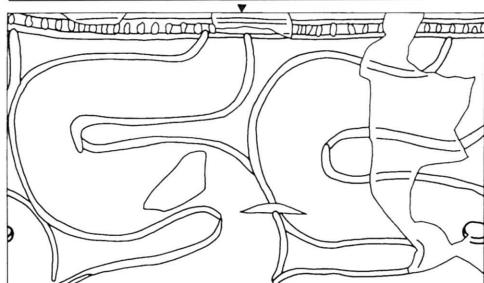
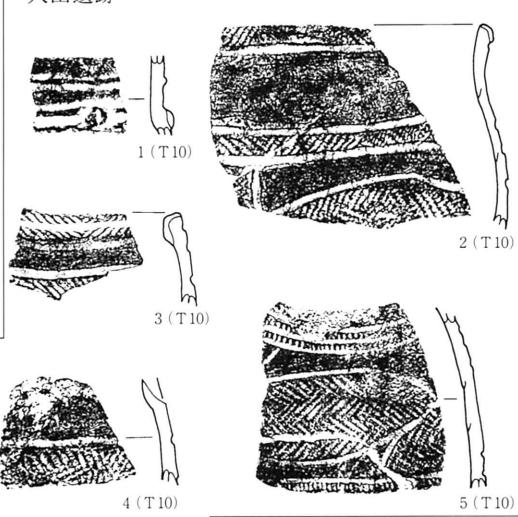
宿下遺跡



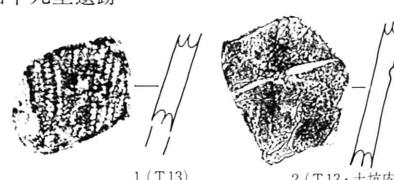
明後沢遺跡群



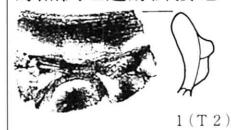
久田遺跡



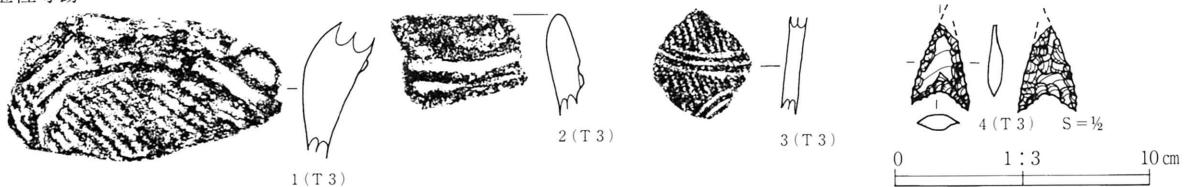
四十九里遺跡



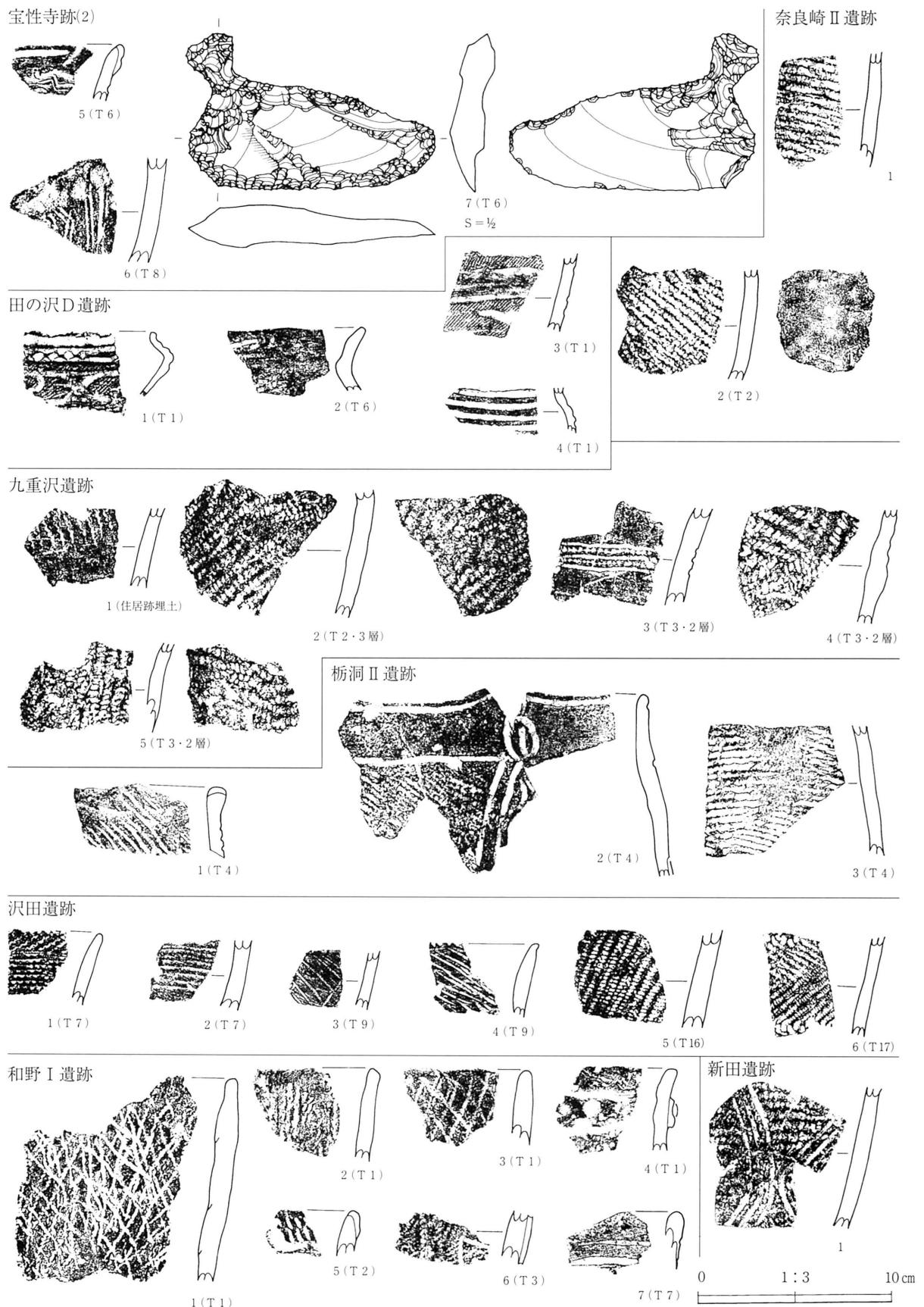
野黒沢VII遺跡隣接地



宝性寺跡



第160図 県内遺跡試掘調査出土遺物 3



第161図 県内遺跡試掘調査出土遺物 4

50 平成12年度試掘調査一覧

No	調査在期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
1	平成12年4月12日	主要地方道路網和賀線道路改良事業	盛岡地方振興局	飯岡林崎II遺跡	盛岡市
2	平成12年4月14日	中山間地域総合整備事業（黒岩地区）	北上農村整備事務所	白山窓寺跡	北上市
3	平成12年4月14日、27日	中山間地域総合整備事業（黒岩地区）	北上農村整備事務所	ME57-1193	北上市
4	平成12年4月13日	東北新幹線建設工事	日本鉄道建設公団	秋浦I遺跡	岩手町
5	平成12年4月13日	広域農道整備事業 肥沢南部地区	水汎農村整備事務所	NE44-0381	肥沢町
6	平成12年4月13日	一般国道395号鳥谷地区道路改良事業	久慈地方振興局	鳥谷館遺跡	久慈市
7	平成12年4月13日～14日	一関水地事業	建設省東北地方建設局岩手工事事務所	坂下遺跡隣接地	平泉町
8	平成12年4月20日	新免農道整備事業 上野地区	大船渡地方振興局	木部館遺跡	住田町
9	平成12年4月24日	緊急農道整備事業（交付金A）事業	二戸農村整備事務所	上野I遺跡	一戸町
10	平成12年5月19日	緊急地方道路整備（交付金A）事業	宮古地方振興局	福荷森館遺跡	川井村
11	平成12年5月23日	一般国道4号水沢東バイパス	建設省東北地方建設局岩手工事事務所	北田II遺跡	水沢市
12	平成12年5月25日	主要地方道路網和賀線道路改良事業	盛岡地方振興局	飯岡林崎II遺跡	盛岡市
13	平成12年5月25日	八雲(1)地区急傾斜地前擾対策事業	釜石市	沢山遺跡	釜石市
14	平成12年5月25日～26日	ふるさと農道緊急整備事業黒内地区	盛岡農村整備事務所	黒内VI遺跡	岩手町
15	平成12年5月25日	ふるさと農道緊急整備事業黒内地区	盛岡農村整備事務所	黒内VIII遺跡	岩手町
16	平成12年5月25日～26日	ふるさと農道緊急整備事業黒内地区	二戸地方振興局	二戸B遺跡	岩手町
17	平成12年5月29日	都市計画事業 上野地区	二戸地方振興局	上野II遺跡	一戸町
18	平成12年5月30日	郡上市才の羽ヶ県単道路改良事業	北上地方振興局	木部田遺跡	北上町
19	平成12年5月31日	緊急地方道路整備事業	花巻地方振興局	田野田遺跡	花巻市
20	平成12年6月1日～2日	梁川ダム建設事務所造成工事	盛岡地方振興局梁川ダム建設事務所	沢田遺跡	盛岡市
21	平成12年6月5日	流域下水道工事	北上川上流域下水道事務所	下湯沢遺跡	盛岡市
22	平成12年6月5日	郷地帯総合整備事業（盛岡西部地区）	盛岡農村整備事務所	煙山箭跡	矢巾町
23	平成12年6月5日	郷地帯総合整備事業（盛岡西部地区）	盛岡農村整備事務所	石切茶屋西方遺跡	矢巾町
24	平成12年6月6日	郷地帯総合整備事業（盛岡西部地区）	盛岡農村整備事務所	油田遺跡	矢巾町
25	平成12年6月6日	特定地方道路整備事業	花巻地方振興局	宮野目方八丁遺跡	花巻市
26	平成12年6月5日	担い手育成基盤整備事業 一関第2地区	一関農村整備事務所	新山滑現丸寺遺跡隣接地	平泉町
27	平成12年6月5日	担い手育成基盤整備事業 一関第2地区	一関農村整備事務所	反田Ⅱ遺跡隣接地	平泉町
28	平成12年6月6日	担い手育成基盤整備事業 一関第2地区	一関農村整備事務所	油田遺跡	平泉町
29	平成12年6月6日	担い手育成基盤整備事業 一関第2地区	一関農村整備事務所	新ヶ坂遺跡	平泉町
30	平成12年6月6日	担い手育成基盤整備事業 一関第2地区	一関農村整備事務所	佐藤屋敷遺跡	平泉町
31	平成12年6月7日	担い手育成基盤整備事業 一関第2地区	一関農村整備事務所	矢崎I遺跡	平泉町
32	平成12年6月7日、13日	担い手育成基盤整備事業 一関第2地区	一関農村整備事務所	畠中遺跡	平泉町
33	平成12年6月13日	中山間地域総合整備事業 野田地区	本町I遺跡	平野田遺跡	平野田村
34	平成12年6月9日	地方特定道路整備事業	千厩農村整備事務所	平清水I遺跡	零石町
35	平成12年6月12日	一般農道整備事業 大森鰐地区	大馬場遺跡	大東町	
36	平成12年6月12日	一般国道4号小鳥谷バイパス	建設省東北地方建設局岩手工事事務所	仁昌寺遺跡	一戸町
37	平成12年6月14日	一般国道4号小鳥谷バイパス	建設省東北地方建設局岩手工事事務所	仁昌寺III遺跡	一戸町
38	平成12年6月15日	緊急地方道路整備（交付金A）事業	宮古地方振興局	福荷森館遺跡	川井村
39	平成12年6月19日	一般国道45号 普代バイパス改築事業	建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所	力持遺跡	普代村
40	平成12年6月26日	一般県道清水野村崎野線 崑車道路改良事業	北上地方振興局	北上市	北上市
41	平成12年6月27日	緊急地方道路整備事業	花巻地方振興局	和野II遺跡	花巻市
42	平成12年6月28日	特定環境保全公共下水道（代行）事業	宮古地方振興局	新井田II遺跡	野田村
43	平成12年6月29日	主要地方道路網和賀線道路改築事業	盛岡地方振興局	盛岡市	盛岡市
44	平成12年6月30日				

No	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
45	平成12年7月5日	一般国道15号山田道路	建設省東北地方建設局三陸国道事務所	柳沢貝遺跡	山田町
46	平成12年7月11日～12日	道路維持修繕事業	一関地方振興局	土木部伽羅之御所遺跡	平泉町
47	平成12年7月13日	緊急地方道整備（交付金A）事業	宮古地方振興局	土木部稻荷森館遺跡	川井村
48	平成12年7月18日	姫地帯総合整備事業（藤崎2期地区）	千厩農村整備事務所	OP22-2064	藤沢町
49	平成12年7月18日	東北横断自動車道建設事業	日本道路公团北上工事事務所	ME15-1368	花巻市
50	平成12年7月19日	担い手育成基盤整備事業 一関第2地区	一関農村整備事務所	本町1遺跡	平泉町
51	平成12年7月24日	一般農道整備事業 日向川西地区	水沢農村整備事務所	NE65-1163	衣川村
52	平成12年7月26日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）宮守川上流地区	田野農村整備事務所	MP41-0214	守山村
53	平成12年7月31日	校舎建設事業 宮古養護学校	県教委事務局	女房貝塚I遺跡	宮守山村
54	平成12年8月8日	特定交通安全施設等整備事業	一関地方振興局	土木部可能性能あり	一関市
55	平成12年8月21日	森林保全整備事業（区域基幹林道志戸前線）	盛岡地方振興局	林務部中ノ節跡	平石町
56	平成12年8月22日	砂鉄川改修事業	川崎村教育委員会	長平遺跡	川崎村
57	平成12年8月28日	国営八戸平原開拓建設事業（左岸支線用水路工事）	東北農政局八戸平原開拓建設事業所	笹目1遺跡	輕米町
58	平成12年8月28日	国営八戸平原開拓建設事業（左岸支線用水路工事）	東北農政局八戸平原開拓建設事業所	皂角子久保	輕米町
59	平成12年8月28日	国営八戸平原開拓建設事業（左岸支線用水路工事）	東北農政局八戸平原開拓建設事業所	長倉1遺跡	輕米町
60	平成12年8月28日	国営八戸平原開拓建設事業（左岸支線用水路工事）	東北農政局八戸平原開拓建設事業所	可能性能あり	輕米町
61	平成12年8月30日	一般国道107号 特定交通安全施設等整備事業	北上地方振興局	土木部横町遺跡隣接地	北上市
62	平成12年8月31日	一般県道矢巾西安庭線広宮沢地区道路改修事業	盛岡地方振興局	土木部LEP-1394	矢巾町
63	平成12年9月4日	特定地方道路整備	釜石地方振興局	土木部道々遺跡	釜石市
64	平成12年9月4日	緊急地方道路整備事業（交付金A）	釜石地方振興局	土木部浜田2遺跡	釜石市
65	平成12年9月5日	一般県道相川平泉線中村地区歩道設置工事	一戸地方振興局	土木部中村1遺跡	平泉町
66	平成12年9月6日	荒尾砂防事業	二戸地方振興局	土木部海の木水道遺跡	軽米町
67	平成12年9月7日	災害弱者関連緊急土砂災害対策事業	宮古地方振興局	土木部磯崎沖浦遺跡	宮古市
68	平成12年9月7日	地すべり対策事業	二戸地方振興局	土木部上地切遺跡	一戸町
69	平成12年9月8日	交通安全施設等整備事業	水沢地方振興局	土木部MUS-1042	金ヶ崎町
70	平成12年9月11日	ふるさと農道緊急整備事業 要害地区	千厩農村整備事務所	要害館遺跡	千厩町
71	平成12年9月13日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局	土木部浅石遺跡	二戸市
72	平成12年9月18日	二級河川雪谷川 河川災害復旧等関連緊急事業及び災害復旧助成事業	二戸地方振興局	土木部毛田(2)遺跡	江刺市
73	平成12年9月21日	中山間地域総合整備事業 鷲沢地区	遠野農村整備事務所	幅長峰遺跡	守山村
74	平成12年9月21日	松山地区予防治山事業	宮古地方振興局	土木部松山館跡	宮古市
75	平成12年9月25日	北上市黒岩緊急地方道路整備事業（交付金A）	北上地方振興局	土木部黒岩宿遺跡	北上市
76	平成12年9月27日	山本川山本地區通常砂防事業	水沢地方振興局	土木部NE09-1028	江刺市
77	平成12年9月27日	重王堂重王地区通常砂防事業	水沢地方振興局	土木部重王堂遺跡	江刺市
78	平成12年9月27日	緊急地方道整備A事業	遠野地方振興局	土木部西鎧跡	前沢町
79	平成12年9月27日	遠野第二ダム建設事業	宮古地方振興局	土木部MP55-0093	遠野市
80	平成12年9月28日	遠野第二ダム建設事業	遠野地方振興局	土木部九重沢遺跡	遠野市
81	平成12年9月28日	農免農道整備事業 烏越地区	二戸農村整備事務所	野月道ノ下遺跡	一戸町
82	平成12年10月3日	担い手育成基盤整備事業 一関第2地区	盛岡地方振興局	土木部福井石袖高野遺跡	盛岡市
83	平成12年10月3日	担い手育成基盤整備事業 一関第2地区	水沢農村整備事務所	米沢遺跡	二戸市
84	平成12年10月3日	北上川上流域下水道整備事業	北上農村整備事務所	黒岩遺跡	北上市
85	平成12年10月3日	農免農道整備事業	北上農村整備事務所	四十九里遺跡	北上市
86	平成12年10月4日	一般国道455号北山地区排水路工事	盛岡地方振興局	野月道ノ下遺跡	一戸町
87	平成12年10月4日	馬淵川沿岸農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所	平泉町	二戸市
88	平成12年10月4日	中山間地域総合整備事業黒岩地区	北上農村整備事務所	北上市	北上市
89	平成12年10月4日～5日	中山間地域総合整備事業黒岩地区	北上農村整備事務所	四十九里遺跡	北上市
90	平成12年10月4日～5日	中山間地域総合整備事業黒岩地区	北上農村整備事務所	北上市	北上市

No	調査期日	事業名	事業者	事務所	遺跡名	所在地
91	平成12年10月5日	中山間地域総合整備事業黒岩地区	北上農村整備事務所	ME57-2029	北上市	
92	平成12年10月5日	一般国道107号和賀仙人地区道路情報板設置工事	北上地方振興局土木部	仙人駕前遺跡	北上市	
93	平成12年10月6日	ほ場整備事業(担い手育成型)区画整理型原体地区	水沢農村整備事務所	鹿空藏跡	江刺市	
94	平成12年10月6日	ほ場整備事業(担い手育成型)区画整理型原体地区	水沢農村整備事務所	NE08-1029	江刺市	
95	平成12年10月6日	新活動施設整備事業 黒沢尻北校グラント遺跡	県教委事業務局財務課	黒沢尻北校グラント遺跡	北上市	
96	平成12年10月10日	安家地区地域活性化支援道整備事業	宮古地方振興局岩泉上木事務所	安家日向I遺跡	岩泉町	
97	平成12年10月10日	ほ場整備事業(担い手育成区画整理型)	北上農村整備事務所	相田遺跡	北上市	
98	平成12年10月10日	ほ場整備事業(担い手育成区画整理型)	北上農村整備事務所	MB76-2160	北上市	
99	平成12年10月11日	土地改良総合整備事業 和賀中部第5地区	北上農村整備事務所	上成沢遺跡	北上市	
100	平成12年10月11日	盛岡広域都市計画及び率石郡市計画公園事業 9・7・1号御所湖広域公園事業	盛岡地方振興局土木部	下根遺跡	盛岡市	
101	平成12年10月11日	盛岡広域都市計画及び率石郡市計画公園事業 9・7・1号御所湖広域公園事業	盛岡農村整備事務所	長根遺跡	盛岡市	
102	平成12年10月12日	担い手育成基盤整備事業 八幡東部地区	盛岡農村整備事務所	島岡I遺跡	石鳥谷町	
103	平成12年10月12日	担い手育成基盤整備事業 八幡東部地区	盛岡農村整備事務所	島岡II遺跡	石鳥谷町	
104	平成12年10月13日	担い手育成基盤整備事業 八幡東部地区	盛岡農村整備事務所	島岡III遺跡	石鳥谷町	
105	平成12年10月13日	担い手育成基盤整備事業 八幡東部地区	盛岡農村整備事務所	番屋遺跡	石鳥谷町	
106	平成12年10月13日	ほ場整備事業黒岩第1地区	北上農村整備事務所	三坊木遺跡隣接地	北上市	
107	平成12年10月13日	ほ場整備事業黒岩第1地区	北上農村整備事務所	三坊木館遺跡隣接地	北上市	
108	平成12年10月16日	ふるさと農道緊急整備事業 円子地区	二戸農村整備事務所	IF94-2285	軽米町	
109	平成12年10月16日～17日	胆沢ダム建設事業(付替町道若柳線)	建設省東北地方建設局胆沢ダム工事事務所	野黒沢山II遺跡	胆沢町	
110	平成12年10月17日	ふるさと農道緊急整備事業 季ヶ平地区	二戸農村整備事務所	野黒沢山II遺跡	淨法寺町	
111	平成12年10月17日	ふるさと農道緊急整備事業 季ヶ平地区	二戸農村整備事務所	野黒沢山IV遺跡	淨法寺町	
112	平成12年10月17日	ふるさと農道緊急整備事業 季ヶ平地区	二戸農村整備事務所	野黒沢山V遺跡	淨法寺町	
113	平成12年10月17日	ふるさと農道緊急整備事業 季ヶ平地区	二戸農村整備事務所	野黒沢山VI遺跡	淨法寺町	
114	平成12年10月17日	ふるさと農道緊急整備事業 季ヶ平地区	二戸農村整備事務所	野黒沢山VII遺跡	淨法寺町	
115	平成12年10月18日	沢村沢地区急傾斜地崩壊対策事業	釜石地方振興局土木部	孤崎城跡	釜石市	
116	平成12年10月18日	中山間地域総合整備事業 篠巻川河川局部改良事業	盛岡農村整備事務所	垂柳遺跡	葛巻町	
117	平成12年10月18日	ほ場整備事業(担い手育成型)区画整理型	水沢農村整備事務所	可能なり	江刺市	
118	平成12年10月18日	(ほ場)整備事業(担い手育成型)区画整理型	水沢農村整備事務所	MES7-0223	江刺市	
119	平成12年10月18日	(ほ場)整備事業(担い手育成型)区画整理型	水沢農村整備事務所	茶臼領跡遺跡	江刺市	
120	平成12年10月19日	岡沢地区通常砂防事業	釜石地方振興局土木部	洞泉遺跡	釜石市	
121	平成12年10月20日	水沢地方振興局土木部	新田遺跡	江刺市		
122	平成12年10月23日	千厩農村整備事務所	古堂西平遺跡	藤沢町		
123	平成12年10月23日	県営土地改良総合整備事業(担い手育成型)羽田地区	水沢農村整備事務所	糸田遺跡	水沢市	
124	平成12年10月23日	県営土地改良総合整備事業(担い手育成型)高倉地区	水沢農村整備事務所	ME96-1001	江刺市	
125	平成12年10月23日	県営土地改良総合整備事業(担い手育成型)高倉地区	水沢農村整備事務所	ME96-2030	江刺市	
126	平成12年10月23日	県営土地改良総合整備事業(担い手育成型)高倉地区	水沢農村整備事務所	ME96-2033	江刺市	
127	平成12年10月23日	県営土地改良総合整備事業(担い手育成型)高倉地区	水沢農村整備事務所	沼笠遺跡	江刺市	
128	平成12年10月23日	県営土地改良総合整備事業(担い手育成型)高倉地区	水沢農村整備事務所	天竺老婆遺跡	江刺市	
129	平成12年10月24日	県営土地改良総合整備事業(担い手育成型)高倉地区	水沢農村整備事務所	広岡前前遺跡	江刺市	
130	平成12年10月24日	土地改良総合整備事業(一般型)伊手西部地区	水沢農村整備事務所	久田遺跡	江刺市	
131	平成12年10月24日	ほ場整備事業(担い手育成区画整理型)奥玉地区	千厩農村整備事務所	陣場館跡	千厩町	
132	平成12年10月25日	ほ場整備事業(担い手育成区画整理型)奥玉地区	千厩農村整備事務所	宿下遺跡	千厩町	
133	平成12年10月25日	ほ場整備事業(担い手育成区画整理型)奥玉地区	千厩農村整備事務所	NF82-2054	千厩町	
134	平成12年10月26日	ほ場整備事業(担い手育成区画整理型)奥玉地区	千厩農村整備事務所	牛生連室遺跡	千厩町	
135	平成12年10月26日	ほ場整備事業(担い手育成区画整理型)奥玉地区	千厩農村整備事務所	福荷森館跡	千井村	
136	平成12年10月27日	緊急地方道整備(交付金A)事業	宮古地方振興局土木部			

No	調査期日	事業名	事業者	所在地
137	平成12年10月27日	緊急地方道整備（交付金A）事業	宮古地方振興局土木部	川井村
138	平成12年10月27日	緊急地方道整備（交付金A）事業	宮古地方振興局土木部	川井村
139	平成12年10月27日	県単交通安全施設整備事業	宮古地方振興局土木部	盛岡市
140	平成12年10月27日	主要地方道盛岡和賀線道路改築事業	宮古地方振興局土木部	盛岡市
141	平成12年10月30日	ふるさと農道緊急整備事業 農免農道整備事業 野陽和野地区	久慈農村整備事務所	新田1丁遺跡 平清水山遺跡
142	平成12年10月30日	農免農道整備事業	宮古地方振興局農政部	野田村
143	平成12年10月30日、31日	荒廢砂防事業	二戸地方振興局土木部	田野畠村
144	平成12年10月31日	農地開発事業	久慈農村整備事務所	軽米町
145	平成12年10月31日	農地開発事業	久慈農村整備事務所	普代村
146	平成12年10月31日	農地開発事業	久慈農村整備事務所	普代村
147	平成12年10月31日	農地開発事業	久慈農村整備事務所	普代村
148	平成12年10月31日	農地開発事業	久慈農村整備事務所	普代村
149	平成12年10月31日	一般農道整備事業 淌地区	久慈農村整備事務所	下村四遺跡
150	平成12年11月1日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局土木部	一戸町
151	平成12年11月1日	土地改良総合整備事業（省力化対特別型）	花巻農村整備事務所	花巻市
152	平成12年11月1日	緊急地方道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	住田町
153	平成12年11月1日	緊急地方道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	久慈市
154	平成12年11月2日	ふるさと農道緊急整備事業 枝岸地区	水沢農村整備事務所	江刺市
155	平成12年11月2日	ふるさと農道緊急整備事業 横岸地区	水沢農村整備事務所	江刺市
156	平成12年11月6日	田舎掌基盤整備促進事業（一般）	千貫石土地区	北上町
157	平成12年11月6日～9日	国営いわき南部農地整備事業	東北農政局胆沢ダム石土地改良建設事業所	胆沢町
158	平成12年11月7日	農免農道整備事業「大森3期地区」	水沢農村整備事務所	金ヶ崎町
159	平成12年11月7日	農免農道整備事業「大森3期地区」	水沢農村整備事務所	金ヶ崎町
160	平成12年11月7日	農免農道整備事業「大森3期地区」	水沢農村整備事務所	金ヶ崎町
161	平成12年11月7日	中山間地域総合整備事業「黒石地区」	水沢農村整備事務所	水沢市
162	平成12年11月7日	中山間地域総合整備事業「黒石地区」	水沢農村整備事務所	水沢市
163	平成12年11月7日	中山間地域総合整備事業「黒石地区」	水沢農村整備事務所	水沢市
164	平成12年11月9日	ほ場整備事業（扱い手育成区画整理型）古城北部地区	水沢農村整備事務所	前沢町
165	平成12年11月9日	ほ場整備事業（扱い手育成区画整理型）古城北部地区	水沢農村整備事務所	前沢町
166	平成12年11月10日	一般県道相川平尾線中村地区歩道設置工事	一関地方振興局土木部	平泉町
167	平成12年11月10日	国営いわき南部農地整備事業	東北農政局胆沢ダム石土地改良建設事業所	胆沢町
168	平成12年11月10日	道路改善事業	大船渡地方振興局土木部	大船渡市
169	平成12年11月13日	雪国生活支援道路環境整備事業	盛岡地方振興局土木部	紫波町
170	平成12年11月13日	一般県道矢巾西客延線広宮沢地区道路改良事業	盛岡地方振興局土木部	矢巾町
171	平成12年11月13日	遠野第二ダム建設事業	遠野地方振興局土木部	遠野町
172	平成12年11月13日	遠野第二ダム建設事業	遠野地方振興局土木部	胆沢町
173	平成12年11月13日～14日	国営いわき南部農地整備事業	東北農政局胆沢ダム石土地改良建設事業所	遠野町
174	平成12年11月14日	国営いさわ南部農地整備事業	建設省東北地方建設局岩手工事務所	胆沢町
175	平成12年11月15日	国営いさわ南部農地整備事業	東北農政局胆沢ダム石土地改良建設事業所	胆沢町
176	平成12年11月14日	ほ場整備事業（扱い手育成区画整理型）寺領小林地区	水沢農村整備事務所	前沢町
177	平成12年11月15日	緊急歩道整備事業	水沢農村整備事務所	松尾村
178	平成12年11月16日	一般国道4号水沢東バイパス	建設省東北地方建設局岩手工事務所	水沢市
179	平成12年11月16日	一般国道4号水沢東バイパス	東北農政局胆沢ダム石土地改良建設事業所	胆沢町
180	平成12年11月16日	国営いさわ南部農地整備事業	東北農政局胆沢ダム石土地改良建設事業所	胆沢町
181	平成12年11月16日	ほ場整備事業（扱い手育成区画整理型）妙体地区	水沢農村整備事務所	中平東山遺跡
182	平成12年11月16日	ほ場整備事業（扱い手育成区画整理型）妙体地区	水沢農村整備事務所	水沢市

No	調査期間	事業名	事業者	事務所	遺跡名	所在地
183	平成12年11月17日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 始体地区	水沢農村整備事務所	東谷地遺跡	水沢市	
184	平成12年11月17日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 始体地区	水沢農村整備事務所	中平東遺跡	水沢市	
185	平成12年11月16日～17日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 始体地区	水沢農村整備事務所	寺ヶ前I遺跡	水沢市	
186	平成12年11月17日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 始体地区	水沢農村整備事務所	寺ヶ前II遺跡	水沢市	
187	平成12年11月17日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 始体地区	水沢農村整備事務所	北野I遺跡	水沢市	
188	平成12年11月17日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 始体地区	水沢農村整備事務所	北野II遺跡	水沢市	
189	平成12年11月17日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 始体地区	水沢農村整備事務所	水ノ口前東遺跡	水沢市	
190	平成12年11月17日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 始体地区	水沢農村整備事務所	畠田荒谷遺跡	水沢市	
191	平成12年11月20日	文化部活動施設整備事業 花巻南高校	県教委事務局	中北方丁目II遺跡	花巻市	
192	平成12年11月20日	流域下水道正山幹線5-2, 5-3工区工事	北上川上流流域下水道事務所	木根遺跡隣接地	遠野市	
193	平成12年11月20日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 猶川左岸地区	遠野農村整備事務所	森ノ下I遺跡	遠野市	
194	平成12年11月20日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 猶川左岸地区	遠野農村整備事務所	森ノ下II遺跡	遠野市	
195	平成12年11月21日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 猶川左岸地区	遠野農村整備事務所	MP66-2158	遠野市	
196	平成12年11月21日	流域下水道玉山幹線5-2, 5-3工区工事	北上川上流流域下水道事務所	卯遠坂遺跡隣接地	滝沢村	
197	平成12年11月21日	ほ場整備事業 (担い手育成・区画整理型) 新里地区	水沢農村整備事務所	香取根館遺跡隣接地	胆沢町	
198	平成12年11月22日	中山間地域総合整備事業 盛岡地区	遠野農村整備事務所	MP41-2282	官守村	
199	平成12年11月22日	県営畜産経営環境整備事業岩手山麓地区	盛岡地方振興局農政部	金沢尾敷C遺跡	松尾村	
200	平成12年11月22日	県営畜産経営環境整備事業岩手山麓地区	盛岡地方振興局農政部	大花森III遺跡	松尾村	
201	平成12年11月22日	部活動施設整備事業 一口高校	県教委事務局	高前台遺跡	一戸町	
202	平成12年11月24日	広域農道整備事業 盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	田の沢ID遺跡	玉山村	
203	平成12年11月24日	建設省東北地方建設局・陸國道工事事務所	建設省東北地方建設局・陸國道工事事務所	太長4遺跡	釜石市	
204	平成12年11月24日	一般国道238号仙人幹道路	建設省東北地方建設局・陸國道工事事務所	可能性あり	釜沢町	
205	平成12年11月24日	産業教育施設建設事業 水沢農業高校	県教委事務局	中島遺跡	盛岡市	
206	平成12年11月27日	文化部活動施設整備事業 盛岡南高校	県教委事務局	見前窓遺跡	淨法寺町	
207	平成12年11月27日	一般農道整備事業 里川日地区	二戸農村整備事務所	安戸I遺跡	二戸町	
208	平成12年11月27日	一般農道整備事業 里川日地区	二戸農村整備事務所	安戸VI遺跡	二戸町	
209	平成12年11月28日	北上市黒岩県単交通安全施設整備事業	北上地方振興局土木部	黒岩宿遺跡	北上町	
210	平成12年11月28日	農地開発事業	久慈農村整備事務所	下村I遺跡	普代村	
211	平成12年11月28日	農地開発事業	久慈農村整備事務所	下村II遺跡	普代村	
212	平成12年11月28日	農地開発事業	建設省東北地方建設局・三陸国道工事事務所	黒崎I遺跡	普代村	
213	平成12年11月29日	一般国道15号普代ハイバス	盛岡地方振興局土木部	力持遺跡	盛岡市	
214	平成12年11月29日	主要地方道盛岡と賀線道路改良事業	花巻農村整備事務所	新井田I遺跡	花巻市	
215	平成12年11月30日	土地改良整備事業 (省力化対策特別型)	花巻農村整備事務所	上福遺跡	花巻市	
216	平成12年11月30日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 館豊地区	水沢農村整備事務所	中平遺跡	水沢市	
217	平成12年12月1日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 館豊地区	遠野農村整備事務所	向野遺跡	遠野市	
218	平成12年11月30日	ほ場整備事業 (担い手育成区画整理型) 館豊地区	遠野農村整備事務所	MF16-0050	遠野市	
219	平成12年11月30日～12月1日	地方特定道路整備	水沢地方振興局土木部	MF16-0082	遠野市	
220	平成12年12月1日	地方特定道路整備	水沢地方振興局土木部	NE55-2110	衣川村	
221	平成12年12月1日	築川ダム建設付替国道4号橋	盛岡地方振興局築川ダム建設事務所	タキノ沢遺跡	盛岡市	
222	平成12年12月4日	は場整備事業 二子地区	北上農村整備事務所	上川端II遺跡	北上町	
223	平成12年12月4日～5日	は場整備事業 二子地区	北上農村整備事務所	高屋I遺跡	北上町	
224	平成12年12月5日	は場整備事業 二子地区	北上農村整備事務所	野田I遺跡	北上町	
225	平成12年12月5日	は場整備事業 二子地区	北上農村整備事務所	野田II遺跡	北上町	
226	平成12年12月5日	交通安全施設等整備事業	遠野地方振興局土木部	田中遺跡	北上町	
227	平成12年12月5日	交通安全施設等整備事業 (市町村代行)	遠野地方振興局土木部	早坂平遺跡	遠野市	
228	平成12年12月6日	地方特定道路整備事業 (市町村代行)	久慈地方振興局土木部	山形村	山形村	

No	調査期日	事業名	事業者	整備事務所	遺跡名	所在地
229	平成12年12月 6日	ほ場整備事業 担い手育成・区画整理型 姫沢上野地区	水沢農村整備事務所	鳥子沢遺跡	前沢町	
230	平成12年12月 6日	中山間地域総合整備事業長沢地区	宮古地方政府	真木田遺跡	宮古市	
231	平成12年12月 6日	中山間地域総合整備事業長沢地区	宮古地方政府	松山館跡	宮古市	
232	平成12年12月 7日	中山間地域総合整備事業長沢地区	宮古地方政府	向沢遺跡	宮古市	
233	平成12年12月 7日	中山間地域総合整備事業長沢地区	宮古地方政府	鷲沢Ⅱ遺跡	宮古市	
234	平成12年12月 7日	中山間地域総合整備事業長沢地区	宮古地方政府	鷲沢館跡	宮古市	
235	平成12年12月 7日	中山間地域総合整備事業長沢地区	宮古地方政府	藤原巨1遺跡	江刺市	
236	平成12年12月 7日	広瀬川河川局管轄事業	水沢地方振興局	卯邊坂遺跡隣接地	澁沢村	
237	平成12年12月 8日	流域下水道工事	北上川上流域下水道事務所	常原遺跡	石鳥谷町	
238	平成12年12月 8日	一般県道羽堂二牧隧道 岐阜県単緊急歩道整備(自歩道)事業	花巻地方振興局	木本部	川崎村	
239	平成12年12月 11日	北上川上流改修砂鉄川直轄床上浸水対策特別緊急事業	建設省東北地方建設局岩手工事務所	河輪の櫛擬定地	川崎村	
240	平成12年12月 11日	緊急地方道路整備B	水沢地方振興局	木本部	下河原釜石遺跡	水沢市
241	平成12年12月 11日	緊急地方道路整備A	水沢地方振興局	木本部	下河原釜石遺跡	水沢市
242	平成12年12月 11日	一関港地事業 管理用道路工事	建設省東北地方建設局岩手工事務所	下平遺跡	平泉町	
243	平成12年12月 11日	一関港地域総合整備事業	北上農村整備事務所	ME57-2047	北上市	
244	平成12年12月 11日～12日	県営中山間地域総合整備事業	北上農村整備事務所	四十九里遺跡	北上市	
245	平成12年12月 12日	県営中山間地域総合整備事業	北上農村整備事務所	ME57-2104	北上市	
246	平成12年12月 12日	県営中山間地域総合整備事業	北上農村整備事務所	ME57-2013	北上市	
247	平成12年12月 12日	県営中山間地域総合整備事業	北上農村整備事務所	ME57-2029	北上市	
248	平成12年12月 12日～14日	東北資材工業工場建設事業	石鳥谷町教育委員会	LB87-0068	石鳥谷町	
249	平成12年12月 13日	土地改良総合整備事業 太田西部地区	盛岡農村整備事務所	猪太郎館遺跡	盛岡市	
250	平成12年12月 13日	土地改良総合整備事業 太田西部地区	盛岡農村整備事務所	上平遺跡	盛岡市	
251	平成12年12月 13日	花巻空港整備事業	花巻港建設事務所	可能性あり	花巻市	
252	平成12年12月 13日	ふるさと農道緊急整備事業 黒川乙部地区	盛岡農村整備事務所	沢川Ⅰ遺跡	盛岡市	
253	平成12年12月 14日	（は）扶養（担い手育成・区画整理型）「新里地区」	水沢農村整備事務所	新里館遺跡（若柳方八丁）	胆沢町	
254	平成12年12月 15日	緊急歩道整備事業	盛岡地方振興局	木部	盛岡市	
255	平成12年12月 15日	一般県道南伊豆地区県単道路改良事業	花巻地方振興局	木部	川前V遺跡	花巻市
256	平成12年12月 18日	一般国道283号仙人幹道路	建設省東北地方建設局三陸国道工事務所	大洞1遺跡	住田町	
257	平成12年12月 18日	二級河川高家川筋下水尺地区河川災害関連事業	二戸農村整備事務所	上野丁遺跡	一戸町	
258	平成12年12月 18日～19日	一般国道34C号井内地区道路改善事業	二戸農村整備事務所	深堀遺跡	淨法寺町	
259	平成12年12月 19日	一般県道宮古山田線長沢橋梁整備事業	二戸農村整備事務所	野黒沢IV遺跡	淨法寺町	
260	平成12年12月 19日	一般国道283号仙人幹道路改善事業	千厩農村整備事務所	越田沢電路跡隣接地	千厩町	
261	平成12年12月 19日	農免農道整備事業 上野地区	千厩農村整備事務所	大洞1遺跡	大東町	
262	平成12年12月 20日	ふるさと農道緊急整備事業 季ヶ平地区	千厩農村整備事務所	上野丁遺跡	大東町	
263	平成12年12月 20日	ふるさと農道緊急整備事業 東磐井地区奥田工区	千厩農村整備事務所	野黒沢IV遺跡	大東町	
264	平成12年12月 20日	（は）駆整備事業（担い手育成・区画整理型）	千厩農村整備事務所	鳥海Ⅱ遺跡	大東町	
265	平成12年12月 20日	広域農道整備事業東磐井地区奥田工区	千厩農村整備事務所	越田沢電路跡	大東町	
266	平成12年12月 20日	広域農道整備事業東磐井地区奥田工区	千厩農村整備事務所	上野平遺跡	藤沢町	
267	平成12年12月 20日	広域農道整備事業東磐井地区奥田工区	千厩農村整備事務所	日坂森遺跡	水沢市	
268	平成12年12月 20日	広域農道整備事業東磐井地区奥田工区	千厩農村整備事務所	西平I遺跡	一関市	
269	平成12年12月 20日	広域農道整備事業東磐井地区奥田工区	千厩農村整備事務所	川平I遺跡	湯田町	
270	平成12年12月 21日	一般町道津谷川線緊急地方道整備事業	水沢地方振興局	上野平遺跡	盛岡市	
271	平成12年12月 22日	一般河川代川北鶴ノ木地区河川局部改良事業	一関地方振興局	木部	木部	
272	平成12年12月 25日	一般県道漁衣豐川線中谷地区緊急地方道整備事業	北上地方振興局	西平I遺跡	一関市	
273	平成12年12月 26日	緊急地方道路整備事業（交付金A）	北上地方振興局	木部	木部	
274	平成13年 1月 11日	盛岡署警察官待機宿舎新築工事	岩手県警察本部	台郎郎遺跡	盛岡市	

No	調査期日	事業名	事業者	登録事務所	遺跡名	所在地
275	平成13年1月15日	県営ほ場整備事業 二子地区	北上農村整備事務所	MB56-1155	北上市	北上市
276	平成13年1月15日	県営ほ場整備事業 二子地区	北上農村整備事務所	MB56-1138	北上市	北上市
277	平成13年1月15日～16日	県営ほ場整備事業 二子地区	北上農村整備事務所	MB56-0195	北上市	北上市
278	平成13年1月19日	盛岡東署警察官特機宿舎新築工事	岩手県警察本部	台太郎遺跡	盛岡市	盛岡市
279	平成13年1月22日	ふるさと農道緊急整備事業	大船渡農村整備事務所	MH96-1220	住田町	住田町
280	平成13年1月25日	道路改良事業	大船渡地方振興局土木部	丸森Ⅱ遺跡	大船渡市	大船渡市
281	平成13年1月30日	一般国道283号仙人越道路	国土交通省東北地方整備局三陸国造整備事務所	大松2遺跡	釜石市	釜石市
282	平成13年2月14日	ほ場整備事業(担い手育成区画整理型) 古城北部地区	水沢農村整備事務所	移子田遺跡	前沢町	前沢町
283	平成13年2月16日	地方特定道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	浦の前遺跡	陸前高田市	陸前高田市
284	平成13年2月19日	一般河川衣川筋泉ヶ城地区河川等災害復旧事業	一関地方振興局土木部	鶴畠遺跡	衣川村	衣川村
285	平成13年2月19日	ほ場整備事業二子地区	北上農村整備事務所	1遺跡	北上市	北上市
286	平成13年2月20日	庄誠農道整備事業東磐井地区	千厩農村整備事務所	宇南遺跡	千厩町	千厩町
287	平成13年2月20日	姫地帯総合整備事業藤崎地区	千厩農村整備事務所	大久保遺跡	川崎村	川崎村
288	平成13年2月20日	ふるさと林道緊急整備事業	久慈地方振興局土木部	川代策治工房址隣接地	山形村	山形村
289	平成13年2月21日	ふるさと農道緊急整備事業	久慈農村整備事務所	平清水Ⅲ遺跡	野田村	野田村
290	平成13年3月5日	庄誠農道整備事業東磐井地区	千厩農村整備事務所	宇南遺跡	千厩町	千厩町
291	平成13年3月5日	姫地帯総合整備事業藤崎地区	千厩農村整備事務所	大久保遺跡	川崎村	川崎村
292	平成13年3月8日	県営ほ場整備事業二子地区	北上農村整備事務所	ME56-0195	北上市	北上市
293	平成13年3月9日	半島地域生活路線確保道路整備事業	宮古地方振興局土木部	重茂館遺跡群	宮古市	宮古市
294	平成13年3月9日	庄誠農道整備事業東磐井地区	千厩農村整備事務所	船丸館遺跡	千厩町	千厩町
295	平成13年3月6日～7日	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業徳田第一地区	盛岡農村整備事務所	岡村遺跡	矢巾町	矢巾町
296	平成13年3月14日～15日	東北資材工場建設事業	石鳥谷町教育委員会	LBS7-0068	石鳥谷町	石鳥谷町
297	平成13年3月15日	盛岡南新都市土地区画整理事業	盛岡市開発部盛南開発課・地域振興整備公团	小幡遺跡	盛岡市	盛岡市
298	平成13年3月21日	地域活性化支援道路整備事業	宮古地方振興局土木部	安家日向Ⅰ遺跡	岩泉町	岩泉町
299	平成13年3月21日～22日	盛岡南新都市土地区画整備事業	盛岡市開発部盛南開発課・地域振興整備公团	野古A遺跡	盛岡市	盛岡市
300	平成13年3月26日	一般283号高木地区道路改良事業	花巻地方振興局土木部	蒼前堂遺跡	花巻市	花巻市
301	平成13年3月26日	ほ場整備事業(担い手育成区画整理型) 姉体地区	水沢農村整備事務所	寺ヶ前Ⅰ遺跡	水沢市	水沢市

51 平成12年度分布調査一覧

事業者：久慈農村整備事務所

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	面積 H.L.Z. + 4.10x1.2 + 1.4 万m ²	参考文献
1						大野村水沢	遺跡なし

一般農道整備事業実施区域			事業者：久慈農村整備事務所	調査日：平成12年4月14日	備考
No	遺跡名	遺跡跡名	時代	種別	所在地
1	JH48-2244	遺跡跡名	縄文	散在地	久慈市大川町

事業者：久慈農村整備事務所	調査日：平成12年4月14日
選択・遺物	種別
中山地域総合整備事業野田地区 No. 調跡コード 1. 遺跡名 2. 時代 3. 種別 4. 所在地	備考

災害弱者避難緊急土砂災害対策事業	事業者：宮古地方振興局土木部	調査日：平成12年4月18日
No 避難路名 避難路名	時代 誰機・機物	種別

1	1C-31-21-3	喰水冲運跡	中世？・近世？	事業者：宮古地方振興局岩泉土木事務所	調査日：平成12年4月18日
県単舗装新工事	中世館？・近世台場 宮古市磯埼一丁目	中世館？

事業名：㈲豊穂軒整備事業所
ふるさと農道緊急整備事業里内曲区
細木田口：昭和12年4月18日
岩泉町金津田字三田貝
道野々上

編號	所在地位點	地質年代	遺物
1 NO. JH96-1-22下	岩手町大字一方井字岸木H 岩手町大字黒川第2地割9-58	繩文・古代	繩文・土器・土師器 繩文土器・石器
2 KE06-0214			

事業者：農水省東北農政局八戸平原開拓建設事業所		調査日：平成12年4月18日・5月8日
No.	遺跡名	年代
1	遺跡一丁目	昭和

1	MIE-2315	日・重保V・遺跡 匱・角子久・遺跡	純文・平安 純文・古代	絆文土器 絆文土器	土師器 土師器	散布地 散布地	輕米町大字町山字匱角子久保 輕米町大字町山字匱角子久保
2	MIE-1-1381	日・久保V・遺跡 新田Ⅲ・遺跡	純文・平安 純文・古代	絆文土器 絆文土器	土師器 土師器	散布地 散布地	軽米町大字町山字匱角子久保 軽米町大字町山字匱角子久保
3	MIE-2-2325						

海岸保全施設整備事業	川越若・成吉斯郡新嘉里町	新米町	2015年4月29日	可能件数 <i>i</i>
5	MF52-2214	~10.00		

1	通身口一下 通身石	時代	遺物・遺物	種別	所在地	備考
					釜石市丹町下荒	レ

No	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	MCG22-2362 白銀遺跡	縄文	純文土器・石斧	散布地	大槌町大槌第3地割	
2	MCG11-2310 桃糰遺跡	縄文・平安	純文土器・土師器	散布地	大槌町大槌第3地割	
3	MCG11-1352	縄文	純文土器	散布地	大槌町大槌第3地割	
4	MCG11-0393	縄文	純文土器	散布地	大槌町大槌第3地割 +4KMR-1000-2-44-Aen	新規発見 35.4H 88.1

中山間地域総合整備事業黒石地区		
No	遺跡コード	遺跡名
1	NE38-1228	時代 縄文
2	NE38-1247	時代 縄文
3	NE38-1254	時代 古代
4	NE38-0085	土師器 石器
5	NE37-2308	石器・石匙

(は場整備事業(柱い手倉成型) 江刺西部地区)

No	遺跡コード	遺跡名
1	ME98-2208	沼ノ上遺跡
2	ME96-2372	北天閣I遺跡

ふるさと農道緊急整備事業季ヶ平地区

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物
1	JE25-2359	深堀遺跡	縄文	縄文土器・石器
2	JE25-2341	野黒沢IV遺跡	縄文	縄文土器・石器
3	JE25-2248	野黒沢V遺跡	縄文	縄文土器・石器
4	JE25-2237	野黒沢IV遺跡	縄文	縄文土器・石器
5	JE25-2233	野黒沢III遺跡	縄文	縄文土器・石器
6	JE25-2211	野黒沢II遺跡	縄文	縄文土器・石器

畑地帯総合整備事業蕨崎地区

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物
1	OF10-1268	東立石遺跡	縄文	土器
2	OF10-1327	要害館A遺跡	中世	空堀・平場
3	OF10-2282	十文字留の森遺跡	縄文	縄文土器・石器
4	OF10-2292	十文字留の森遺跡	縄文・古代	石鍬・石棒・縄文土器・土師器
5	OF20-0100	大塚跡	近世	土器
6	OF20-0171	平呂遺跡	縄文	土器
7	OF20-1171	玉騎館跡	中世	土器・空堀
8	OF10-2157	六十里遺跡	縄文	縄文土器・石棒・石斧
9	OF11-1030		縄文	縄文土器
10	OF10-0394		縄文	縄文土器
11	OF10-2294		古代	土師器
12	OF11-2025		縄文	縄文土器
13	OF20-0141		土器	土器
14	OF20-1102		縄文	縄文土器
15	OF20-1122		土器	土器
16	OF20-0193		縄文・弥生	土器

調査期日：平成12年4月24日・25日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	NE38-1228	時代 縄文	縄文土器	散布地	水沢市黒石町字下在家	新規発見	
2	NE38-1247	時代 縄文	縄文土器	散布地	水沢市黒石町字袖ノ沢	新規発見	
3	NE38-1254	時代 古代	縄文土器	散布地	水沢市黒石町字袖ノ沢	新規発見	
4	NE38-0085	土師器	散布地	水沢市黒石町字谷地	新規発見		
5	NE37-2308	石器・石匙	散布地	水沢市黒石町大久保	新規発見		

(は場整備事業(柱い手倉成型) 江刺西部地区)

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ME98-2208	沼ノ上遺跡	縄文	縄文土器・石器	散布地	江刺市愛宕字沼ノ上	
2	ME96-2372	北天閣I遺跡	古代	土師器	散布地	江刺市愛宕字北天閣	

ふるさと農道緊急整備事業季ヶ平地区

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	JE25-2359	深堀遺跡	縄文	縄文土器・石器	散布地	淨法寺町字深堀	
2	JE25-2341	野黒沢IV遺跡	縄文	縄文土器・石器	散布地	淨法寺町字野黒沢	
3	JE25-2248	野黒沢V遺跡	縄文	縄文土器・石器	散布地	淨法寺町字野黒沢	
4	JE25-2237	野黒沢IV遺跡	縄文	縄文土器・石器	集落跡	淨法寺町字野黒沢	
5	JE25-2233	野黒沢III遺跡	縄文	縄文土器・石器	集落跡	淨法寺町字野黒沢	
6	JE25-2211	野黒沢II遺跡	縄文	縄文土器・石器	集落跡	淨法寺町字野黒沢	

畑地帯総合整備事業蕨崎地区

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	OF10-1268	東立石遺跡	縄文	土器	散布地	藤沢町東立石	
2	OF10-1327	要害館A遺跡	中世	空堀・平場	城館跡	藤沢町要害	
3	OF10-2282	十文字留の森遺跡	縄文	縄文土器・石器	散布地	藤沢町西口字玉川、留の森	
4	OF10-2292	十文字留の森遺跡	縄文・古代	石鍬・石棒・縄文土器・土師器	散布地	藤沢町西口字十文字	
5	OF20-0100	大塚跡	近世	土器	墳墓	藤沢町大塚	
6	OF20-0171	平呂遺跡	縄文	土器	散布地	藤沢町黄海字白石	
7	OF20-1171	玉騎館跡	中世	土器・空堀	城館跡	藤沢町玉騎	
8	OF10-2157	六十里遺跡	縄文	縄文土器・石棒・石斧	散布地	藤沢町六十里	
9	OF11-1030		縄文	縄文土器	散布地	藤沢町要害	新規発見
10	OF10-0394		縄文	縄文土器	散布地	藤沢町知沢	新規発見
11	OF10-2294		古代	土師器	散布地	藤沢町十文字	新規発見
12	OF11-2025		縄文	縄文土器	散布地	藤沢町細田	新規発見
13	OF20-0141		土器	土器	散布地	藤沢町黄海字白石	新規発見
14	OF20-1102		縄文	縄文土器	散布地	藤沢町黄海字白石	新規発見
15	OF20-1122		土器	土器	散布地	藤沢町	新規発見
16	OF20-0193		縄文・弥生	土器	散布地	藤沢町	新規発見

畑地帯総合整備事業蕨崎地区

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	OF10-1268	東立石遺跡	縄文	土器	散布地	藤沢町東立石	
2	OF10-1327	要害館A遺跡	中世	空堀・平場	城館跡	藤沢町要害	
3	OF10-2282	十文字留の森遺跡	縄文	縄文土器・石器	散布地	藤沢町西口字玉川、留の森	
4	OF10-2292	十文字留の森遺跡	縄文・古代	石鍬・石棒・縄文土器・土師器	散布地	藤沢町西口字十文字	
5	OF20-0100	大塚跡	近世	土器	墳墓	藤沢町大塚	
6	OF20-0171	平呂遺跡	縄文	土器	散布地	藤沢町平呂	
7	OF20-1171	玉騎館跡	中世	土器・空堀	城館跡	藤沢町玉騎	
8	OF10-2157	六十里遺跡	縄文	縄文土器・石棒・石斧	散布地	藤沢町六十里	
9	OF11-1030		縄文	縄文土器	散布地	藤沢町要害	
10	OF10-0394		縄文	縄文土器	散布地	藤沢町知沢	
11	OF10-2294		古代	土師器	散布地	藤沢町十文字	
12	OF11-2025		縄文	縄文土器	散布地	藤沢町細田	
13	OF20-0141		土器	土器	散布地	藤沢町黄海字白石	
14	OF20-1102		縄文	縄文土器	散布地	藤沢町黄海字白石	
15	OF20-1122		土器	土器	散布地	藤沢町	
16	OF20-0193		縄文・弥生	土器	散布地	藤沢町	

事業者：盛岡地方振興局土木部

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1						西根町大更	遺跡なし

事業者：大船渡農村整備事務所

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	MF96-0290	鹽ノ口城	中世	腰郭	城館跡	住田町上有住字恵蘇	
2	MF96-2116	山脈地遺跡	縄文	縄文土器	散布地	住田町上有住字山脈地	

調査期日：平成12年5月17日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1							

調査期日：平成12年5月17日

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1							

3	MF96-1220	縄文	縄文土器	散布地	住田町上有住字惠蘇	新規発見
三陸縦貫自動車道山田道路						
No	遺跡コ-下	遺跡名	時代	事業者：建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所 遺構・遺物	調査期日：平成12年5月18日	所在地 種別 備考
1	LG94-0170	柳沢I遺跡	縄文	縄文・平安・中世	散布地	山田町第1地割柳沢
2	LG94-0079	柳沢II遺跡	縄文		散布地	山田町第1地割柳沢
大規模造林開発林道事業						
No	遺跡コ-下	遺跡名	時代	事業者：盛岡地方振興局土木部 遺構・遺物	調査期日：平成12年5月18日・19日	所在地 種別 備考
1	JF60-0242	東VI遺跡	縄文	縄文土器	散布地	一戸町平糠字東
2	JF60-1224	落合遺跡	縄文	縄文土器	散布地	一戸町比良糠字落合
中山間地域総合整備事業才せいい地区						
No	遺跡コ-下	遺跡名	時代	事業者：水沢農村整備事務所 遺構・遺物	調査期日：平成12年5月22日・23日	所在地 種別 備考
1						脇沢町若柳・小山 衣川村上衣川
2						遺跡なし
!#場整備事業(担い手育成区画整理型)原体地区						
No	遺跡コ-下	遺跡名	時代	事業者：水沢農村整備事務所 遺構・遺物	調査期日：平成12年5月23日・24日	所在地 種別 備考
1	NE08-1194	稲荷遺跡	平安	須恵器	散布地	江刺市田原字稻荷
2	NE08-1132	山館遺跡	平安	縄文土器・土師器	散布地	江刺市田原字山館
3	NE08-1029		古代	土師器	散布地	江刺市田原
4	NE08-1094	虚空蔵遺跡	古代	土師器	散布地	江刺市田原字虚空蔵
!#場整備事業(担い手育成区画整理型)更木新田地区						
No	遺跡コ-下	遺跡名	時代	事業者：北上農村整備事務所 遺構・遺物	調査期日：平成12年5月23日・24日	所在地 種別 備考
1	ME46-1322		平安	土師器	散布地	北上市更木町
2	ME46-1320		平安	土師器	散布地	北上市更木町
3	ME46-1343		近世	陶磁器	散布地	北上市更木町
4	ME46-1364		平安	土師器	散布地	北上市更木町
5	ME46-1376		縄文・平安	縄文土器・土師器・須恵器	散布地	北上市更木町
6	ME46-1370		平安	土師器	散布地	北上市更木町
7						北上市更木町
8	ME46-1287		縄文・平安	土師器・石器	散布地	北上市更木町
9	ME46-2300		平安	土師器	散布地	北上市更木町
10	ME46-2302		平安	土師器	散布地	北上市更木町
11	ME46-2305		近世	土師器	散布地	北上市更木町
12	ME46-1335		平安	土師器	散布地	北上市更木町
13	ME46-2306		平安	土師器	散布地	北上市更木町
14	ME46-2351		平安	土師器	散布地	北上市更木町
15	ME46-0318	堀ノ内遺跡	平安	土師器	散布地	北上市更木町
県営畜産經營環境整備事業						
No	遺跡コ-下	遺跡名	時代	事業者：二戸地方振興局農政部 遺構・遺物	調査期日：平成12年5月29日	所在地 種別 備考
1						二戸市上半米字上川代
!#場整備事業(担い手育成区画整理型)江釣子地区						
No	遺跡コ-下	遺跡名	時代	事業者：北上農村整備事務所 遺構・遺物	調査期日：平成12年5月29日・30日	所在地 種別 備考
1	ME54-0309	南塙間遺跡	縄文・平安	縄文土器・土師器	散布地	北上市江釣子字新平3地割

2	ME55-0081	新平遺跡	縄文・平安	鉄滓・繩文土器・石器・堀	古代駢家擬定地	北上市江釣子字新平2地割
3	ME55-0082	新平屋敷遺跡	近世	環濠	環濠屋敷	北上市江釣子字新平2地割
4	ME45-2085	藤沢Ⅱ遺跡	平安	土師器・須恵器	散布地	北上市飯豊町藤沢
5	ME55-0088	芦萱遺跡	縄文・平安	繩文土器・土師器・須恵器	集落跡	北上市江釣子字新平4地割
6	ME55-1115	横樋Ⅰ遺跡	縄文・奈良・平安	繩文土器・土師器・須恵器	集落跡	北上市江釣子字滑田20地割
7	ME55-1155	横樋Ⅱ遺跡	平安	土器・石器	集落跡	北上市江釣子字滑田20地割
8	ME55-1160	下糠塚古館遺跡	近世	堀跡	環濠屋敷	北上市江釣子字滑田19地割
9	ME55-2021	折脇遺跡	縄文・平安	土師器・フレーク	散布地	北上市江釣子字滑田9地割
10	ME55-2046	和野遺跡	奈良	土師器・堅穴住居跡	集落跡	北上市江釣子字上江釣子8地割
11	ME55-2131	田代遺跡	中世	古銭・堀跡	集落跡	北上市江釣子字上江釣子10地割
12	ME55-2233	下谷地遺跡	平安	土師器・木製品	散布地	北上市江釣子字上江釣子13地割
13	ME55-1186	平安	平安	須恵器	散布地	北上市鳴鶴崎
14	ME55-1233	鳴鶴崎三館遺跡	平安・中世	土師器・須恵器・堀・郭	散布地・城館跡	北上市江釣子字鳴鶴崎2地割

特定交通安全施設等整備事業

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	事業者：北上地方振興局土木部	調査期日：平成12年5月30日
1					種別 所在地	備考 可能性あり

排水対策特別事業久保地区

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	事業者：水沢農村整備事務所	調査期日：平成12年6月1日
1					種別 所在地	備考 遺跡なし

港水防除事業羽田地区

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	事業者：水沢農村整備事務所	調査期日：平成12年6月1日
1	NIE33-0362		古代	土師器	種別 所在地	備考 新規発見

ため池等整備事業野中地区

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	事業者：水沢農村整備事務所	調査期日：平成12年6月1日
1					種別 所在地	備考 遺跡なし

中山間地域総合整備事業すせい地区

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	事業者：水沢農村整備事務所	調査期日：平成12年6月1日
1					種別 所在地	備考 遺跡なし

県単交通安全施設整備事業

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	事業者：盛岡地方振興局土木部	調査期日：平成12年6月2日
1					種別 所在地	備考 遺跡なし

中山間地域総合整備事業野石地区

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	事業者：水沢農村整備事務所	調査期日：平成12年6月2日
1	NE47-0357	丸森経塚	中・近世	塚跡	種別 経塚	備考 新規発見
2	JG60-2275	平清水Ⅲ遺跡	古代	土師器	散布地	

ふるさと農道緊急整備事業野田地区

No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	事業者：久慈農村整備事務所	調査期日：平成12年6月9日
1	JG60-0224	平清水Ⅱ遺跡	縄文・古代	繩文土器・土師器・石器	散布地	備考 野田村野田
2	JG60-2275	平清水Ⅲ遺跡	古代	土師器	散布地	備考 野田村野田

県営畜産環境整備事業東磐井地区				事業者：千原地方振興局農林部				調査期日：平成12年6月12日			
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者	遺構・遺物	種別	所在地	調査期日：平成12年6月13日、7月12日	備考	備考	備考
1				盛岡地方振興局土木部	遺構・遺物	散布地	大東町八日町		新規発見		遺跡なし
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者	繩文・土器	散布地	大東町八日町		新規発見		
1	NF51-1312	縄文	縄文	盛岡地方振興局土木部	繩文・土器	散布地	大東町八日町		新規発見		
2	NF51-0371	縄文	縄文	盛岡地方振興局土木部	繩文・土器	散布地	大東町八日町		新規発見		
3				盛岡地方振興局土木部	繩文・土器	散布地	大東町八日町		可能性あり		
4				盛岡地方振興局土木部	繩文・土器	散布地	大東町八日町		可能性あり		
5	NF51-0316	鳥海Ⅰ遺跡	縄文	盛岡地方振興局土木部	繩文・土器	散布地	大東町菖蒲沢		可能性あり		
6	NF51-0338	鳥海Ⅴ遺跡	縄文	盛岡地方振興局土木部	繩文・土器	散布地	大東町菖蒲沢		可能性あり		
7	NF51-0326	鳥海Ⅲ遺跡	縄文	盛岡地方振興局土木部	繩文・土器	散布地	大東町菖蒲沢		可能性あり		
8	NF51-0327	鳥海Ⅳ遺跡	縄文	盛岡地方振興局土木部	繩文・土器	散布地	大東町菖蒲沢		可能性あり		
9				盛岡地方振興局土木部	繩文・土器	散布地	大東町菖蒲沢		可能性あり		
河川災害関連事業				事業者：久慈地方振興局土木部				調査期日：平成12年6月14日			
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者	遺構・遺物	種別	所在地	調査期日：平成12年6月14日	備考	備考	備考
1				久慈地方振興局土木部	遺構・遺物	散布地	山形村鶴姫		遺跡なし		
一般456号開口地区地域活性化支援道路整備事業				事業者：巻地区振興局土木部				調査期日：平成12年6月23日			
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者	遺構・遺物	種別	所在地	調査期日：平成12年6月23日	備考	備考	備考
1	ME07-0167	貝の淵Ⅰ遺跡	縄文・古代	巻地区振興局土木部	繩文・土器	散布地	石鳥谷町鶴口		遺跡なし		
河川災害関連事業				事業者：久慈地方振興局土木部				調査期日：平成12年6月30日			
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者	遺構・遺物	種別	所在地	調査期日：平成12年6月30日	備考	備考	備考
1	JF07-2272	上水沢IV遺跡	縄文	久慈地方振興局土木部	繩文・土器	散布地	大野村大字水沢第7地割上水沢		遺跡なし		
市町村道代行整備事業（船作地区）				事業者：大船渡地方振興局土木部				調査期日：平成12年7月6日			
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者	遺構・遺物	種別	所在地	調査期日：平成12年7月6日	備考	備考	備考
1				大船渡地方振興局土木部	遺構・遺物	散布地	生田町上有住字船作		遺跡なし		
一般県道遠野東和線自転車道緊急地方道路整備事業				事業者：遠野地方振興局土木部				調査期日：平成12年7月14日			
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者	遺構・遺物	種別	所在地	調査期日：平成12年7月14日	備考	備考	備考
1				遠野地方振興局土木部	遺構・遺物	散布地	宮守村下鱒沢		遺跡なし		
ば場整備事業（担い手育成区画整理型）更木新田地区				事業者：北上農村整備事務所				調査期日：平成12年7月17日			
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者	遺構・遺物	種別	所在地	調査期日：平成12年7月17日	備考	備考	備考
1	ME36-2219	平安	平安	北上農村整備事務所	土師器	散布地	北上市更木町		新規発見		
2	ME36-2330	平安	平安	北上農村整備事務所	土師器	散布地	北上市更木町		新規発見		
3	ME36-2342	平安	平安	北上農村整備事務所	土師器	散布地	北上市更木町		新規発見		
4	ME36-2371	縄文	縄文	北上農村整備事務所	土師器・石鉢	散布地	北上市更木町		新規発見		
5	ME36-2394	平安	平安	北上農村整備事務所	土師器	散布地	北上市更木町		新規発見		
6	ME46-0322	平安	平安	北上農村整備事務所	須恵器	散布地	北上市更木町		新規発見		
7	ME46-0325	平安	平安	北上農村整備事務所	土師器	散布地	北上市更木町		新規発見		
8	ME46-0343	平安	平安	北上農村整備事務所	須恵器・土師器	散布地	北上市更木町		新規発見		
9	ME46-0353	平安・近世	平安・近世	北上農村整備事務所	土師器・陶磁器	散布地	北上市更木町		新規発見		
10	ME46-0381	平安	平安	北上農村整備事務所	土師器・陶磁器	散布地	北上市更木町		新規発見		

中山間地域総合整備事業藤沢東部地区				調査期日：平成12年7月19日			
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：千葉農村整備事務所		種別	備考
1	NIF53-2047	鳴沢館遺跡	中世	遺構・遺物		所在地	藤沢町藤沢
東北横断自動車道（鎌石・秋田線）建設事業				事業者：日本道路公团北上工事事務所		種別	備考
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物		所在地	宮守村上鷺沢
1	ME06-2358	荒屋遺跡	古代	土師器		散布地	
2	ME07-1058	岡口遺跡	古代	土師器		散布地	
2	ME07-1125	猪鼻丘遺跡	古代	須恵器		散布地	
一般県道羽黒堂二枚橋線県単緊急歩道整備事業				事業者：花巻地方振興局土木部		種別	備考
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物		所在地	石鳥谷町字八重畑
1	ME06-2358	荒屋遺跡	古代	土師器		散布地	
2	ME07-1058	岡口遺跡	古代	土師器		散布地	
2	ME07-1125	猪鼻丘遺跡	古代	須恵器		散布地	
工コハーラ半庭高原（仮称）整備計画				事業者：岩手県企画振興部		種別	備考
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物		所在地	山形村半庭高原
1							
砂鉄川床上浸水対策特別緊急事業関連事業				事業者：岩手県企画振興部		種別	備考
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物		所在地	川崎村門崎～東山町松川
1							
ほ場整備事業三日堀地区				事業者：県内水面技術センター		種別	備考
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物		所在地	石鳥谷町新堀
1	LE97-0072	明戸1遺跡	古代	縄文・土師器・須恵器		散布地	
2	LE97-0082		古代	土師器・須恵器		散布地	
一般県道平石東八幡洋線松川地区舗装溝工事				事業者：盛岡地方振興局土木部		種別	新規発見
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物		所在地	
1							
中山間地域総合整備事業黒石地区				事業者：水沢農村整備事務所		種別	備考
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物		所在地	松尾村柏台三丁目
1							
中山間地域総合整備事業すいせい地区				事業者：水沢農村整備事務所		種別	備考
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物		所在地	水沢市黒石町
1	NE64-2042	柿屋遺跡	平安	土師器・土人形		種別	可能性あり
2	NE64-2024	駒頭遺跡	平安	須恵器		散布地	
3	NE64-1181	要宮遺跡	平安	縄文		散布地	
4	NE64-1128	河内経塚	平安	縄文		散布地	
中山間地域総合整備事業すいせい地区				事業者：花巻農村整備事務所		種別	備考
No	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物		所在地	石鳥谷町八幡
1	LE96-2227		近世	土師器		散布地	
2	LE96-1287		平安	土人形		散布地	
3	LE96-1263		近世	須恵器		散布地	
4	LE96-1159		平安	縄文		散布地	
5	LE96-1146		平安	土師器		散布地	

6	LE96-1193	光林寺館遺跡	縄文・古代・中世			城館跡・散布地	石鳥谷町中寺林	
(ほ)場整備事業戸塚地区								
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：花巻農村整備事務所	調査期日：平成12年9月13日・22日	種別	所在地	備考
1	LE97-0312	大曲遺跡	縄文・平安	遺構・遺物 繩文土器・土師器	散布地	石鳥谷町戸塚		
2	LE07-0202	蒲沢遺跡	縄文・古代	繩文土器・土師器	散布地	石鳥谷町戸塚		
3	LE97-2254	戸塚遺跡	縄文	繩文土器	散布地	石鳥谷町戸塚		
4	LE97-2387	滝田庵原遺跡	縄文・平安	繩文土器・土師器・須恵器・石器	散布地	石鳥谷町滝田		
農地環境整備事業深谷地区								
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：千厩農村整備事務所	調査期日：平成12年9月18日・19日	種別	所在地	備考
1	OF07-2301	山ノ坊遺跡	縄文	遺構・遺物	散布地	藤沢町黄海字東深音		
2	OF07-2208		縄文	繩文土器	散布地	藤沢町黄海字東深音		新規発見
中山間地域総合整備事業								
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：遠野農村整備事務所	調査期日：平成12年9月21日	種別	所在地	備考
1	MF52-1318	輪長峰遺跡	縄文・平安	遺構・遺物 須恵器・土師器・繩文土器	散布地	宮守村上郷字幅長峰		
2	MF52-0386	和山遺跡	縄文・平安	繩文土器・石器・土師器	散布地々々	宮守村上郷字和山16地割		
(ほ)場整備事業大明神地区								
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：花巻農村整備事務所	調査期日：平成12年9月22日	種別	所在地	備考
1	LE97-2047	百日本遺跡	縄文・平安	遺構・遺物 繩文土器・土師器	散布地	石鳥谷町新堀		
2	LE07-0167	貝の瀬Ⅰ遺跡	縄文・古代	繩文土器・土師器	散布地	石鳥谷町閑口		
3	LE07-0250	貝の瀬Ⅱ遺跡	縄文・古代	繩文土器・土師器	散布地	石鳥谷町八重畑		
4	LE97-2160	上野々遺跡	縄文・平安	繩文土器・石錐・土師器・須恵器	散布地	石鳥谷町新堀		
5	LE07-0038	塚の森Ⅰ遺跡	縄文・古代	繩文土器・土師器・須恵器	散布地	石鳥谷町閑口		
6	LE07-0137	大明神遺跡	縄文・古代	繩文土器	散布地	石鳥谷町閑口		
7	LE07-0008		古代	土師器	散布地	石鳥谷町戸塚		
盛岡横手線(ほ)内村泉沢地区								
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：北上地方振興局土木部	調査期日：平成12年9月22日	種別	所在地	備考
1	LD99-0099	持田遺跡	縄文	遺構・遺物 繩文土器・石器剣片	集落跡	根内村大字川舟		
地域活性化支援道路整備事業								
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：北上地方振興局土木部	調査期日：平成12年9月22日	種別	所在地	備考
1				遺構・遺物		湯田町小繁沢		遺跡なし
土石流対策事業								
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：盛岡地方振興局土木部	調査期日：平成12年10月10日	種別	所在地	備考
1				遺構・遺物		葛巻町元木		
畑地帯総合整備事業藤崎地区								
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：千厩農村整備事務所	調査期日：平成12年10月23日・24日	種別	所在地	備考
1	OE19-0323	塚遺跡	縄文	遺構・遺物 繩文土器・塚	散布地	川崎村薄衣字泉沢		
2	OE19-0333	十二人塚遺跡	縄文	繩文土器・塚	塚	川崎村薄衣字泉沢		
3	OE19-0367	大久保遺跡	縄文	繩文土器	散布地	川崎村薄衣字下久保		

（任場整備事業（担い手育成区画整理型）六郷地区

調査期日：平成12年10月25日

事業者：水沢農村整備事務所	種別	所在地	備考
遺構・遺物		金ヶ崎町六郷	遺跡なし

No 遺跡コード 遺跡名 時代

遺構・遺物

調査期日：平成12年10月31日

事業者：久慈地方振興局林務部	種別	所在地	備考
遺構・遺物		101形村繁字木沢畑	遺跡なし

No 遺跡コード 遺跡名 時代

遺構・遺物

調査期日：平成12年10月6日

事業者：盛岡地方振興局土木部	種別	所在地	備考
遺構・遺物		盛岡市北山	遺跡なし

No 遺跡コード 遺跡名 時代

遺構・遺物

調査期日：平成12年11月8日

事業者：水沢農村整備事務所	種別	所在地	備考
遺構・遺物		水沢市黒石町	遺跡なし

No 遺跡コード 遺跡名 時代

遺構・遺物

調査期日：平成12年11月9日

事業者：千厩地方振興局土木部	種別	所在地	備考
遺構・遺物		城館跡	遺跡なし

No 遺跡コード 遺跡名 時代

空堀・腰郭・主郭・二の郭

調査期日：平成12年11月22日

事業者：遠野地方振興局土木部	種別	所在地	備考
遺構・遺物		東山町長坂字箭台	遺跡なし

No 遺跡コード 遺跡名 時代

遺構・遺物

調査期日：平成12年11月22日

事業者：大船渡地方振興局土木部	種別	所在地	備考
遺構・遺物		宮守村達曾部	遺跡なし

No 遺跡コード 遺跡名 時代

遺構・遺物

調査期日：平成13年1月12日

事業者：住田町上り住字糞山	種別	所在地	備考
		住田町上り住字糞山	遺跡なし

No 遺跡コード 遺跡名 時代

遺構・遺物

調査期日：平成13年1月20日

事業者：川崎村薄衣移子田	種別	所在地	備考
		川崎村薄衣移子田	遺跡なし

No 遺跡コード 遺跡名 時代

遺構・遺物

調査期日：平成13年2月21日

事業者：二戸地方振興局土木部	種別	所在地	備考
遺構・遺物		九戸村大字江刺家第20地割	遺跡なし

No 遺跡コード 遺跡名 時代

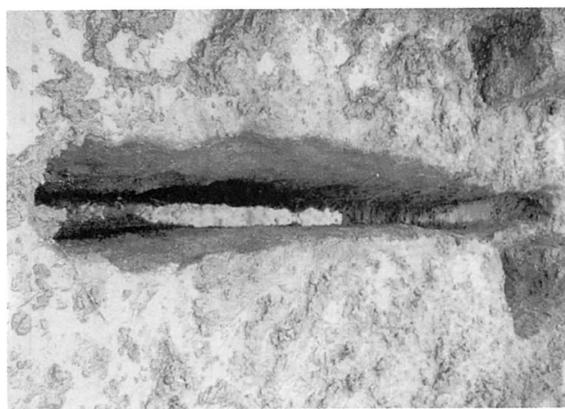
遺構・遺物

調査期日：平成13年3月16日

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事務所	種別	所在地	備考
遺構・遺物		花巻市山の神	備考
散布地		花巻市外合川原	
1 ME36-2011 山の神遺跡	縄文土器		
2 ME36-1147 外合川原遺跡	土師器		
3 ME36-0293 長根Ⅱ遺跡	土師器		
4 ME36-1213 長根Ⅰ遺跡	土師器		
5 ME36-0274 長根Ⅲ遺跡	土師器		
6 ME36-0218 高木中筋遺跡	縄文・古代		
7 ME26-2089 高木古館遺跡	古代		
	埴	花巻市高木第20地割	

8	ME26-2340	上台Ⅱ遺跡	縄文	散布地	縄文土器	花巻市高木第19地割
中山間地域総合整備事業藤沢東部地区						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：千厩農村整備事務所 遺構・遺物	調査期日：平成13年3月21日・22日 種別 散布地	備考
1	OF21-0364	縄文	石器	藤沢町徳田	新規発見	
業代八ヶ八久						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：久慈地方振興局土木部 遺構・遺物	調査期日：平成13年3月22日 種別 散布地	備考
1	KG22-0109	中村遺跡	縄文	縄文土器	普代村第12地割字中村	
2	JG22-2272	普代遺跡	縄文	縄文土器・石器	普代村第10地割字羅賀	
3					普代村第8地割字太田各部	
4	JG22-1252	宇留部Ⅱ遺跡	縄文	縄文土器	普代村第14地割字宇留部	可能性あり
5	JG22-1119	宇留部Ⅰ遺跡	縄文	縄文土器	普代村第14地割字宇留部	
地方特定道路整備事業						
No	遺跡コード	遺跡名	時代	事業者：遠野地方振興局土木部 遺構・遺物	調査期日：平成13年3月27日 種別 散布地	備考
1				官守村下宮守第23地割～第22地割	遺跡なし	

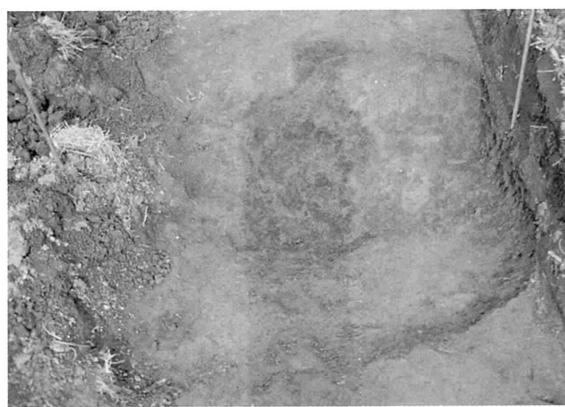
III 写真図版



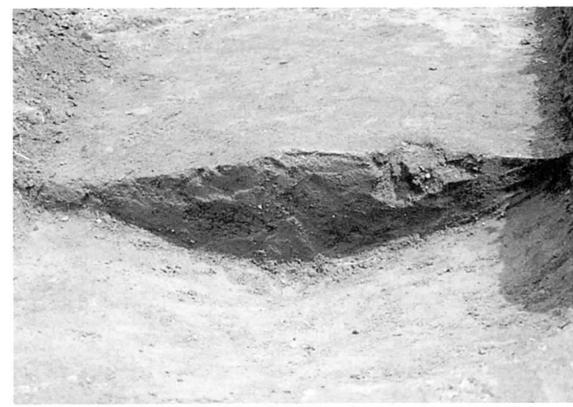
胆沢町 下中沢Ⅱ遺跡陥し穴状遺構 平面



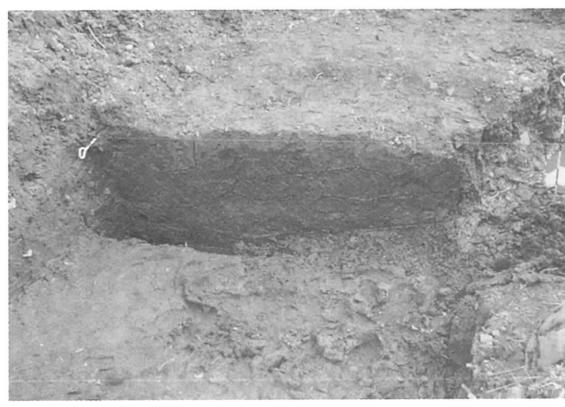
胆沢町 下中沢Ⅱ遺跡陥し穴状遺構 断面



石鳥谷町 大西遺跡土坑 平面



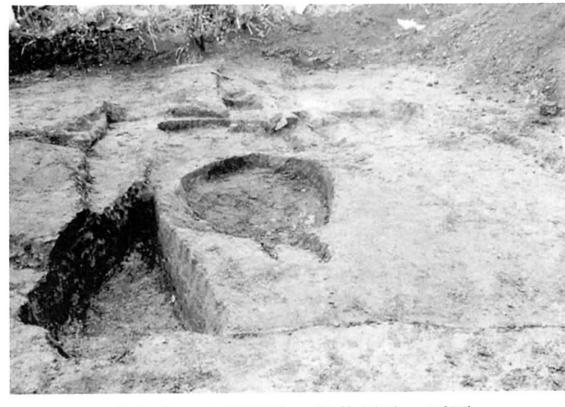
石鳥谷町 大西遺跡土坑 断面



江刺市 東館遺跡堀跡(A'-A) 断面



江刺市 東館遺跡堀跡(B'-B) 断面

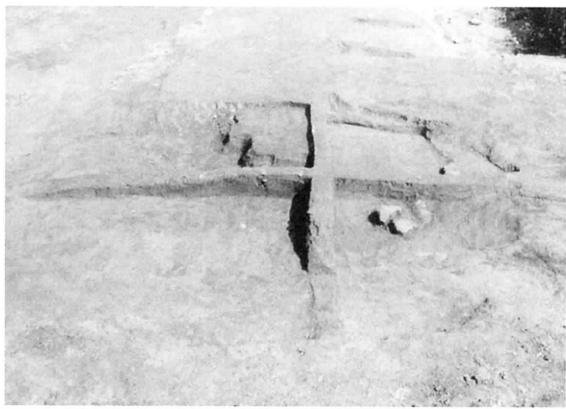


花巻市 上幅遺跡1号住居跡 平面

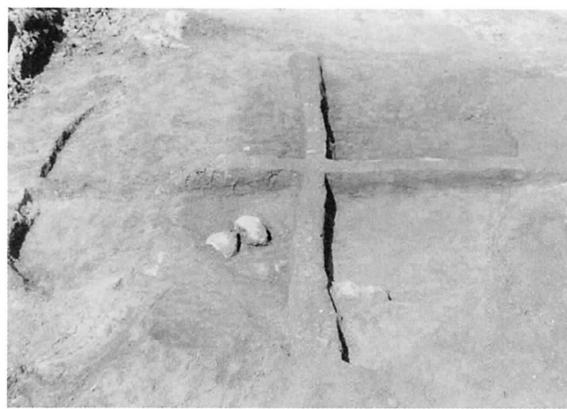


花巻市 上幅遺跡1・3号住居跡 平面

写真図版1 県内遺跡調査状況1



花巻市 上幅遺跡 1号住居跡 断面



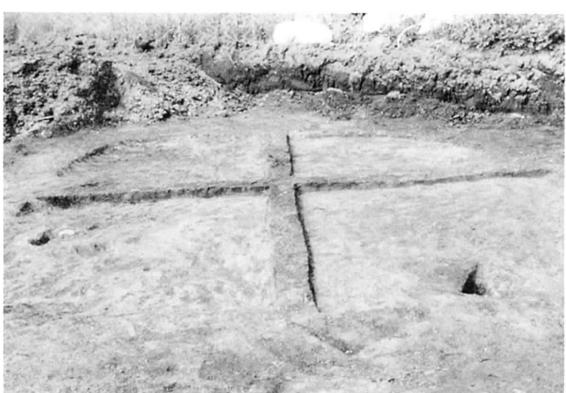
花巻市 上幅遺跡 1号住居跡 断面



花巻市 上幅遺跡土坑 断面



花巻市 上幅遺跡土坑 遺物出土状況



花巻市 上幅遺跡 2号住居跡 平面



花巻市 上幅遺跡 2号住居跡 断面



遠野市 深沢遺跡住居跡 平面



遠野市 深沢遺跡住居跡 断面

写真図版 2 県内遺跡調査状況 2



遠野市 深沢遺跡炉跡 断面



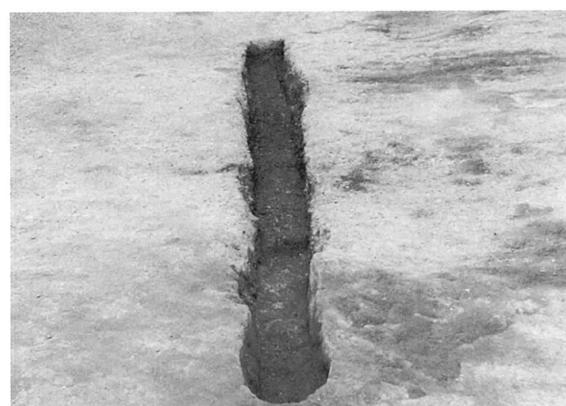
遠野市 深沢遺跡土坑 断面



千厩町 鳥喰Ⅲ遺跡焼土 平面



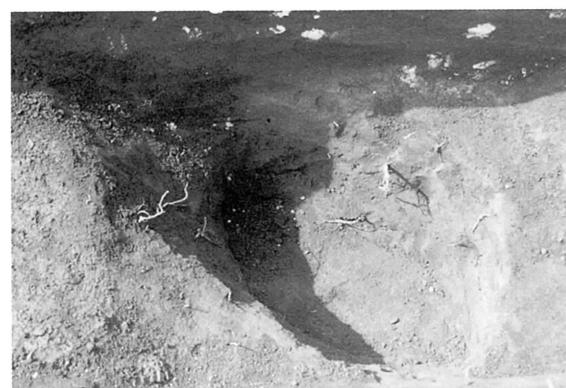
千厩町 鳥喰Ⅲ遺跡焼土 断面



滝沢村 砂込Ⅲ遺跡陥し穴状遺構 平面



宮古市 鍬ヶ崎館山貝塚 トレンチ



普代村 下村Ⅰ遺跡陥し穴状遺構 平面



普代村 下村遺跡土坑 平面

写真図版 3 県内遺跡調査状況 3



石鳥谷町 大西遺跡



江刺市 東館遺跡 1 (第13図9)



江刺市 東館遺跡 2 (第14図25)



江刺市 東館遺跡 3 (第13図15)



江刺市 東館遺跡 4 (第12図2)



江刺市 東館遺跡 5 (第12図4)

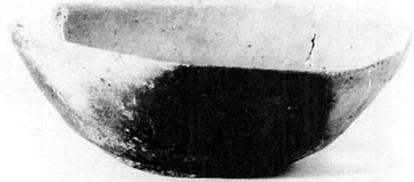


江刺市 東館遺跡 6



江刺市 東館遺跡 7 (第12図1)

写真図版4 県内遺跡調査出土遺物1



江刺市 東館遺跡 8(第13図15)



江刺市 東館遺跡 9(第13図14)



江刺市 東館遺跡 10(第14図37)



江刺市 東館遺跡 11(第14図26)



江刺市 東館遺跡 12(第14図38)



江刺市 東館遺跡 13(第12図6)



江刺市 東館遺跡 14(第14図29)



江刺市 東館遺跡 15(第14図33)

写真図版5 県内遺跡調査出土遺物2



江刺市 東館遺跡 16(第14図34)



江刺市 東館遺跡 17(第13図7)



花巻市 上幅遺跡 1



花巻市 上幅遺跡 2



花巻市 上幅遺跡 3



花巻市 上幅遺跡 4



千厩町 鳥喰Ⅲ遺跡 1



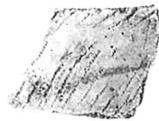
千厩町 鳥喰Ⅲ遺跡 2

写真図版 6 県内遺跡調査出土遺物 3



3

4



5

6



7

8

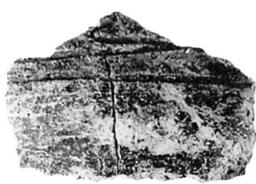


9

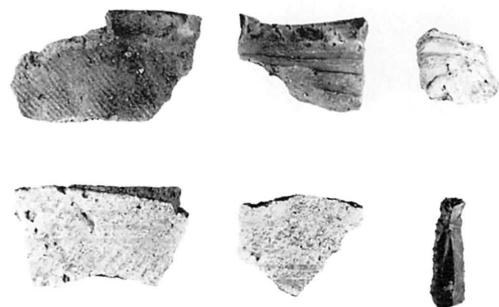
10

千厩町 鳥喰Ⅲ遺跡 (3~10)

写真図版7 県内遺跡調査出土遺物4



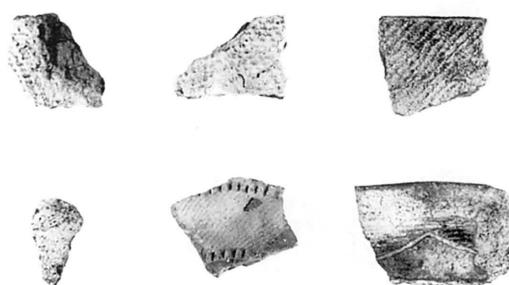
宮古市 鉢ヶ崎館山貝塚



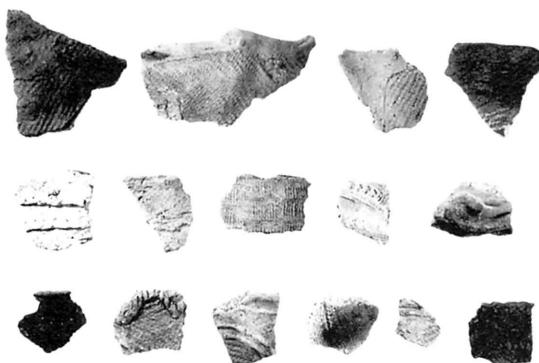
普代村 下村・下村I遺跡



胆沢町 五反町遺跡



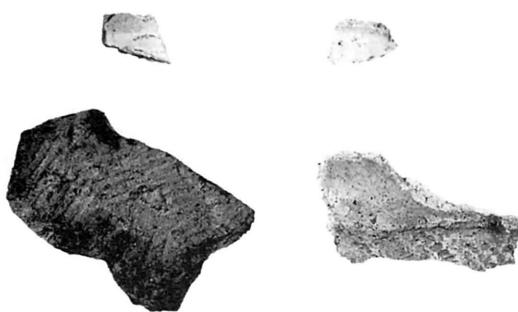
一戸町 仁昌寺遺跡



普代村 力持遺跡 1



普代村 力持遺跡 2

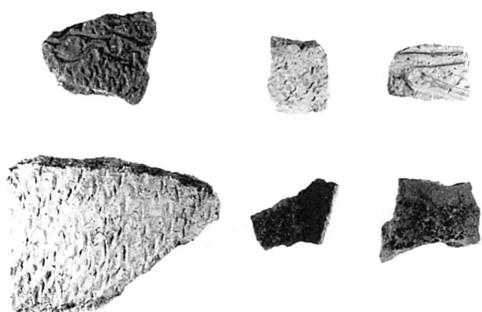


川崎村 河崎の柵擬定地 1



川崎村 河崎の柵擬定地 2

写真図版 8 県内遺跡調査出土遺物 5



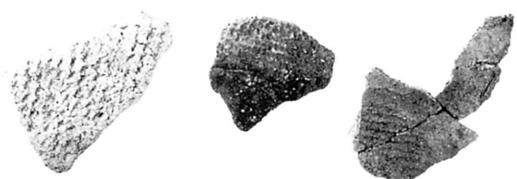
山形村 早坂平遺跡



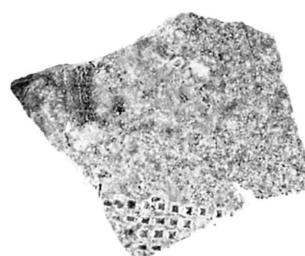
軽米町 尾田(2)遺跡 1



軽米町 尾田(2)遺跡 2

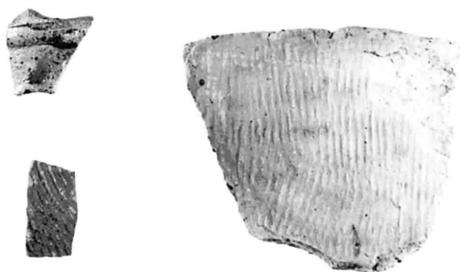


江刺市 MF 91-1028

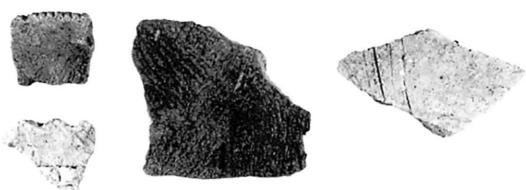


平泉町 竜ヶ坂遺跡

石鳥谷町 番屋遺跡



水沢市 寺ヶ前 I 遺跡



千厩町 宿下遺跡

写真図版 9 県内遺跡調査出土遺物 6



遠野市 MF 66-2158



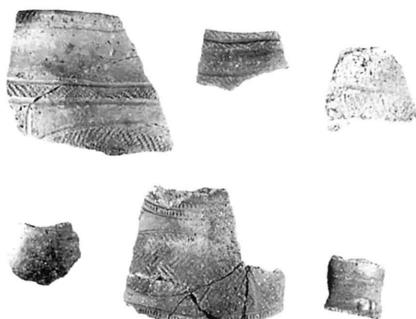
前沢町 明後沢遺跡群



江刺市 久田遺跡 1



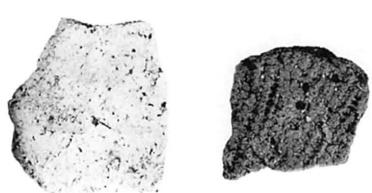
江刺市 久田遺跡 2



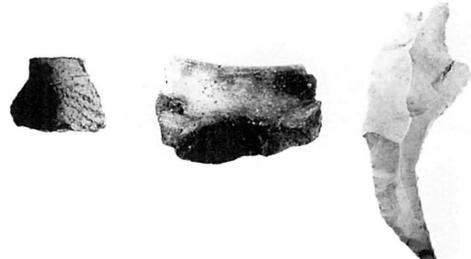
江刺市 久田遺跡 3



住田町 館遺跡



北上市 四十九里遺跡



浄法寺町 野黒沢Ⅷ遺跡隣接地

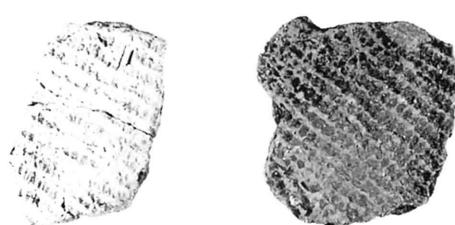
写真図版10 県内遺跡調査出土遺物 7



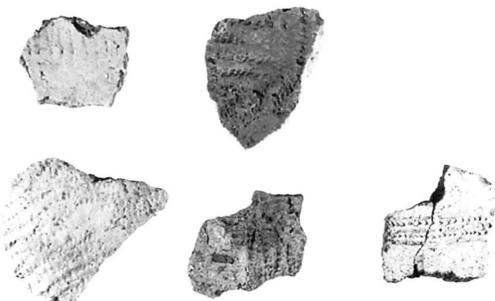
江刺市 宝性寺跡



玉山村 田の沢D遺跡



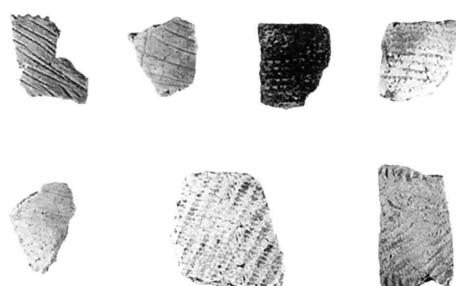
大東町 奈良崎II遺跡



遠野市 九重沢遺跡



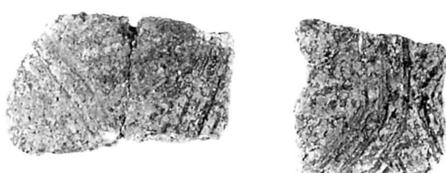
遠野市 栃洞II遺跡



盛岡市 沢田遺跡



田野畠村 和野I遺跡



江刺市 新田遺跡

写真図版11 県内遺跡調査出土遺物 8

岩手県文化財調査報告書第112集
岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成12年度）

発行日 平成13年3月

発 行 岩手県教育委員会

岩手県盛岡市内丸10-1

編 集 岩手県教育委員会事務局文化課

印 刷 (株)杜陵印刷

盛岡市みたけ二丁目22番50号

古紙配合率100%の再生紙を使用しています。